

西東京市市民意識調査 報告書

平成 27 年 10 月
西 東 京 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査仕様	1
4. 回収数・回収率	1
5. 調査結果の補足説明	2
6. 回答者の基本属性	5
II 調査結果の概要	10
1. 西東京市のまちづくり全般について	10
2. 西東京市の公共・公用施設の利用について	11
3. 市政に対して思うことについて	11
4. 地域活動と市政とのかかわりについて	11
5. 本庁舎の統合整備について	12
6. あなたの暮らしの希望について	13
III 調査結果	15
1. 西東京市のまちづくり全般について	15
2. 西東京市の公共・公用施設の利用について	33
3. 市政に対して思うことについて	37
4. 地域活動と市政とのかかわりについて	71
5. 本庁舎の統合整備について	95
6. あなたの暮らしの希望について	104
IV 調査票	128
V 単純集計表	144

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、平成 26 年度からの西東京市第 2 次基本構想・基本計画におけるまちづくりの推進にあたり、社会状況や市民ニーズの変化に柔軟に対応するため、統計的手法によって、市政に対する市民全体の考え方、各施策の推進状況等に対する評価（満足度・重要度）を把握し、その結果を今後のまちづくりを進める上で基礎資料として活用し、計画のより効果的な推進に役立てることを目的としています。

2. 調査項目

- (1) 西東京市のまちづくり全般について
- (2) 西東京市の公共・公用施設の利用について
- (3) 市政に対して思うことについて
- (4) 地域活動と市政とのかかわりについて
- (5) 本庁舎の統合整備について
- (6) あなたの暮らしの希望について
- (7) 基本属性

3. 調査仕様

- (1) 調査地域 西東京市全域
- (2) 調査対象 西東京市住民基本台帳に登録された 18 歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000
- (4) 抽出方法 住民基本台帳より、人口構成比に配慮し無作為抽出とした
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収
 - ①調査期間 調査票発送 平成 27 年 5 月 29 日(金)
 - ②調査票投函期限 平成 27 年 6 月 15 日(月)
 - ③集計対象 平成 27 年 7 月 10 日(金)到着分まで

4. 回収数・回収率

- (1) 回収数 2,007 票 (回収率 40.1%)
- (2) 有効回答数 2,004 票 (有効回収率 40.1%)

5. 調査結果の補足説明

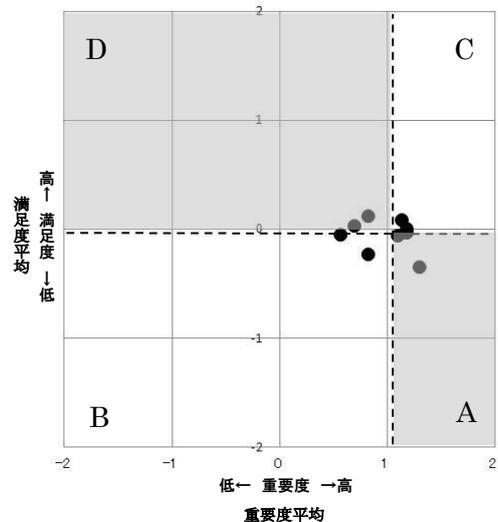
(1) 調査結果の見方

- ① 報告書中の問番号および設問は、調査票の問番号および設問をそのまま示している。また、本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、語句を簡略化している場合がある（詳細については、調査票参照）。
- ② 調査結果の数値は回答率（％）で示している。％の母数は、その質問に回答した数または分類別（男性等）の数で、「サンプル数」または「TOTAL」で表している。
- ③ 割合は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、「○は1つだけ」などの質問であっても、回答率の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ④ 調査結果表の属性別数値が「■」の網掛けで記載されているものは、比率の差の検定（有意水準5%）で、TOTALに対する割合が有意に高かったことを、「■」が付与されているものは、TOTALに対する割合が有意に低かったことを表している。
- ⑤ 属性のサンプル数では、傾向を分析する上で十分とは言えない50サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として掲載している。
- ⑥ 調査結果表の属性別数値のうち「無回答」は非表示としている。よって、TOTALと属性の合計値が一致しない場合がある。

⑦ 段階評価を行った設問では、各選択肢に設定した（+2点）から（-2点）までの得点の合計を回答者数で割って求めた平均ポイントを算出している。

⑧ 「満足度」と「重要度」の平均ポイントを用いて、CS（Customer Satisfaction＝顧客満足）分析を実施している。

CS分析では、全ての設問項目の平均ポイントから座標軸を設定し、各項目間の相対的な関係を次の4つの方向性（ゾーン）でグラフ上に整理している（図表参照）。



<p>D：維持分野</p> <p>現状においては、相対的な関係では満足度が高いものの、今後の重要度は低く評価されている。よって、現状維持で実施するか、取組の見直しなども考えられる分野である。</p>	<p>C：重点維持分野</p> <p>現状においては、相対的な関係では満足度を感じている市民が多く、重要度も高く位置づけられている。よって、今後もこの水準を保つことが望ましく、現状維持で取り組む方向で検討したい分野である。</p>
<p>B：改善分野</p> <p>現状においては、市民が評価できる段階に至っていないか、相対的にみて満足度も重要度も低く位置づけられている。よって、周知を徹底したり、実施方法や予算、内容等を見直し、改善等の検討が期待される分野である。</p>	<p>A：重点改善分野</p> <p>現状においては、市民が評価できる段階に至っていないか、相対的にみて満足度は低いという評価であるが、今後の重要度は高く評価されている。よって、当該項目への着手や推進により、満足度が改善していくことが期待される分野である。</p>

(2) 調査結果の経年比較分析

これまで、第1回調査を平成13年、第2回調査を平成19年、第3回調査を平成22年、第4回調査を平成24年に実施している。そのため、本調査においては下記の設問について、過去4回の調査結果との比較分析を実施し、本報告書に掲載している。なお、時代潮流を踏まえ、平成27年調査より設問形式や選択肢内容の変更が行われている項目もあるため、注意が必要である。

①調査年	平成13年	平成19年	平成22年	平成24年	平成27年
②調査地域	西東京市全域				
③調査対象	西東京市住民基本台帳に登録された18歳以上の男女個人				
④標本数	15,000	5,000	5,000	5,000	5,000
⑤抽出方法	住民基本台帳より、人口構成比に配慮して無作為抽出				
⑥調査方法	郵送配布・郵送回収				
⑦調査期間	平成13年11月22日 ～平成13年12月6日	平成19年7月26日 ～平成19年8月8日	平成22年5月15日 ～平成22年5月31日	平成24年5月16日 ～平成24年5月31日	平成27年5月29日 ～平成27年6月15日
⑧有効回答数・ 有効回収率	5,767票・38.4%	2,418票・48.4%	2,626票・52.5%	2,408票・48.2%	2,004票・40.1%

【継続経年比較分析項目】

	項目	調査票該当項目				
		平成13年	平成19年	平成22年	平成24年	平成27年
①	西東京市への愛着度	—	問1	問1	問1	問1
②	身近な生活環境の住み心地	問1	問4	問4	問4	問2
③	身近な生活環境の評価・重要度	—	問5	問5	問5	問3
④	継続居住意向	問3	問6	問6	問6	問4
⑤	転出希望事由	問3付問1	問7	問7	問7	問5
⑥	市政全般への評価	—	問9	問9	問9	問11
⑦	施策の評価・重要度	—	問10	問10	問10	問12
⑧	地域活動への参加状況と今後の参加意向	問4	問11	問11	問11	問13
⑨	地域活動内容別の参加状況と今後の参加意向	4付問1	問12	問12	問12	問14
⑩	地域活動に参加したくない(やめたい)事由	問4付問2	問13	問13	問13	問15
⑪	市政への関心	問5	問14	問14	問14	問16
⑫	市政の情報源	問6	問15	問15	問15	問17
⑬	市から得たい情報の内容	問7	問16	問16	問16	問18
⑭	市民活動への興味	—	問17	問17	問17	問19
⑮	市民活動参加状況	—	問18	問18	問18	問20
⑯	市政への参加方法	—	問19	問19	問19	問21

(3)集計分析項目

本調査では、設問毎の単純集計のほか、属性項目及び設問選択肢と各設問とのクロス集計分析を行った。その結果、特に有用であると考えられる下記の集計結果を報告書に掲載している。

【集計分析項目】

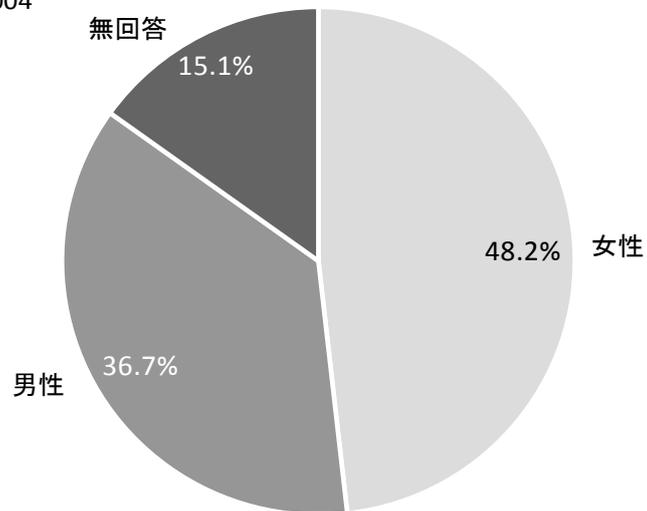
● = 報告書掲載

分析項目 設問	単純集計	経年比較分析	C S 分析	クロス分析										
				性・年代	居住年数	職業	居住形態	世帯構成	愛着度	居住満足度	継続居住意向	市政満足度	市政関心度	
属性項目	●													
自由記述	●													
西東京市のまちづくり全般について														
問1 西東京市への愛着度		●		●	●									
問2 身近な生活環境の住み心地		●		●	●				●					
問3 身近な生活環境の評価・重要度	●	●	●											
問4 継続居住意向		●		●	●			●	●	●				
問5 転出希望事由		●		●	●									
問6 具体的な転出希望事由(自由記述)	●													
問7 身近な生活環境における困りごと				●	●		●	●						
西東京市の公共・公用施設の利用について														
問8 公共施設の利用の有無				●	●	●	●	●						
問9 公共施設を利用しない理由				●	●	●								
問10 公共施設別の利用頻度	●													
市政に対して思うことについて														
問11 市政全般への評価		●		●	●	●						●		
問12 施策の評価・重要度	●	●	●											
地域活動と市政とのかかわりについて														
問13 地域活動への参加状況と今後の参加意向		●		●	●	●								
問14 地域活動内容別の参加状況と今後の参加意向		●		●	●	●								
問15 地域活動に参加したくない(やめたい)事由		●		●	●									
問16 市政への関心		●		●	●	●								
問17 市政の情報源		●		●	●	●		●						
問18 市から得たい情報の内容		●		●	●	●		●						
問19 市民活動への興味		●		●	●	●			●			●		
問20 市民活動参加状況		●		●	●	●								●
問21 市政への参加方法		●		●	●	●								
本庁者の統合整備について														
問22 本庁舎整備統合の認知				●	●	●								
問23 本庁舎整備統合への関心				●	●	●								
問24 本庁舎整備統合への関心がない理由				●		●								
問25 本庁舎訪問の有無				●										
問26 本庁舎訪問頻度				●		●								
問27 本庁舎訪問理由				●										
問28 本庁舎整備統合の取組で重視すること				●										
あなたの暮らしの希望について														
問29 未既婚状況【18～39歳のみ】				●	●									
問30 結婚の希望【18～39歳のみ】				●	●									
問31 現在の子どもの人数【18～39歳のみ】				●	●	●								
問32 今後の子どもの希望人数【18～39歳のみ】				●	●	●								
問33 子どもを持つために必要なこと【18～39歳のみ】				●	●	●		●						
問34 現在の勤め先				●	●									
問35 市内での就労希望【18～64歳のみ】				●	●	●								
問36 市内での就労希望の理由(自由記述)【18～64歳のみ】				●										
問37 市内での就労者および就労希望者が興味ある仕事内容【18～64歳のみ】				●	●	●								
問38 起業への関心				●	●	●								
問39 起業するために必要な支援				●	●	●								
問40 西東京市のイメージと暮らしたいまちのイメージ				●	●			●						
問41 ライフステージ別に住みたいまち【18～39歳のみ】				●	●									

6. 回答者の基本属性

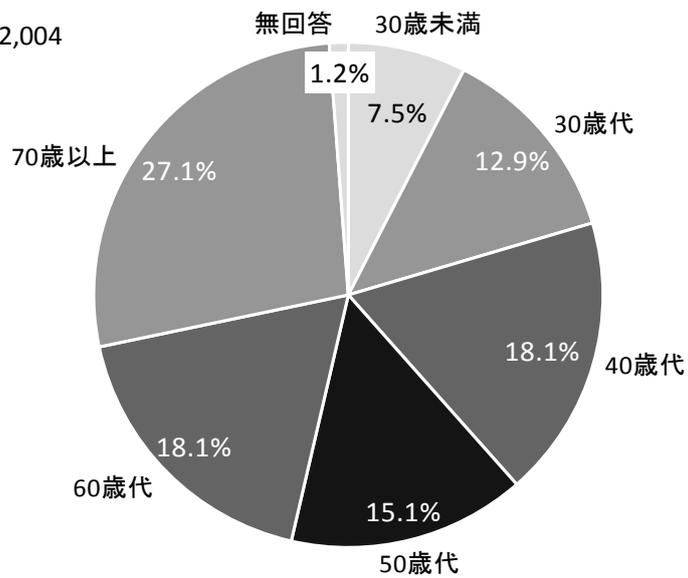
(1)性別

サンプル数=2,004



(2)年齢

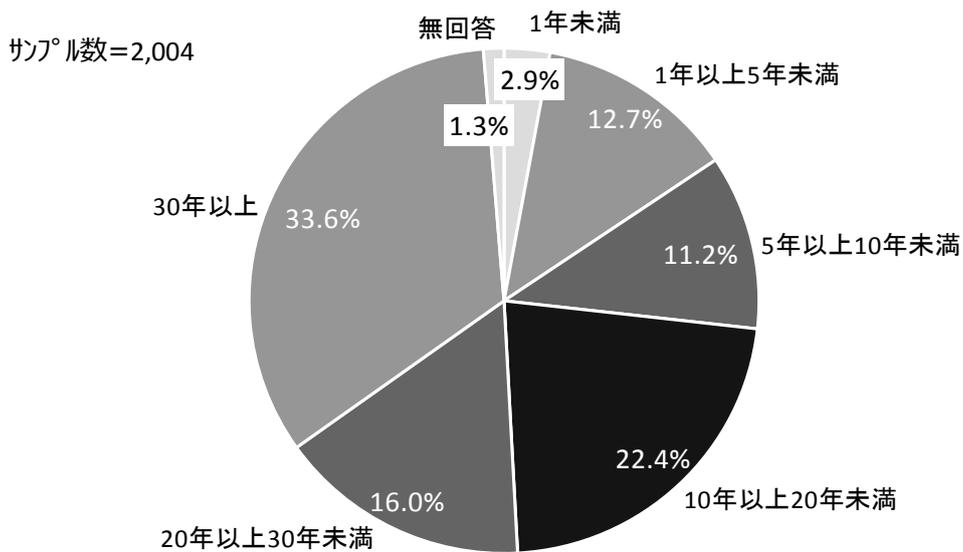
サンプル数=2,004



(3) 居住地域

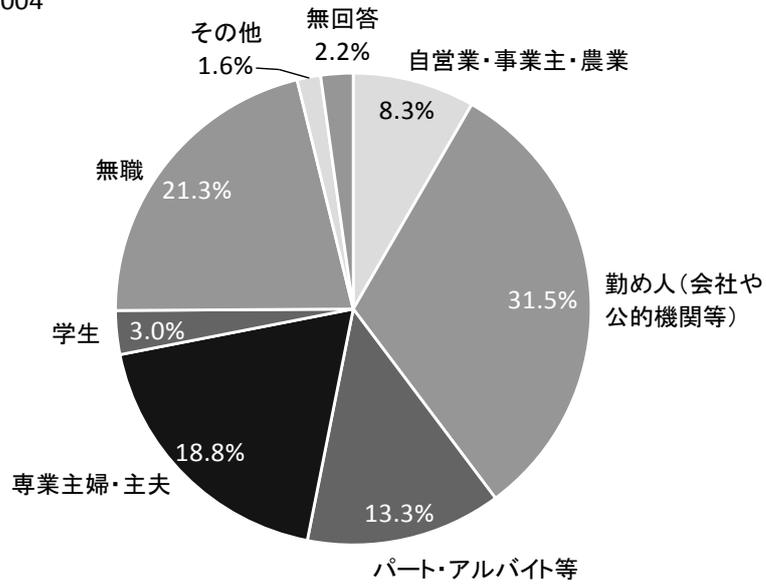
町名/丁目	一丁目	二丁目	三丁目	四丁目	五丁目	六丁目	七丁目	無回答	TOTAL
田無町	9	8	11	14	12	23	26	26	129
南町	9	14	16	18	15	15		28	115
西原町	14	2	11	23	6			13	69
緑町	13	11	11					7	42
谷戸町	24	46	32					21	123
北原町	21	14	5					4	44
向台町	20	20	33	29	4	23		24	153
芝久保町	47	30	39	36	17			30	199
新町	20	4	6	7	24	9		9	79
柳沢	19	21	21	3	28	8		19	119
東伏見	3	7	10	6	12	7		8	53
保谷町	12	10	20	15	35	19		8	119
富士町	30	12	3	16	9	6		19	95
中町	8	4	11	11	15	13		13	75
東町	8	11	13	11	8	14		16	81
泉町	16	23	8	9	12	13		13	94
住吉町	17	5	13	9	6	14		10	74
ひばりが丘	20	32	20	21				4	97
ひばりが丘北	9	7	9	5				6	36
栄町	17	12	7					10	46
北町	3	9	7	7	11	1		12	50
下保谷	10	17	20	7	17			11	82
無回答			1	1				28	30
									2004

(4) 市域居住年数



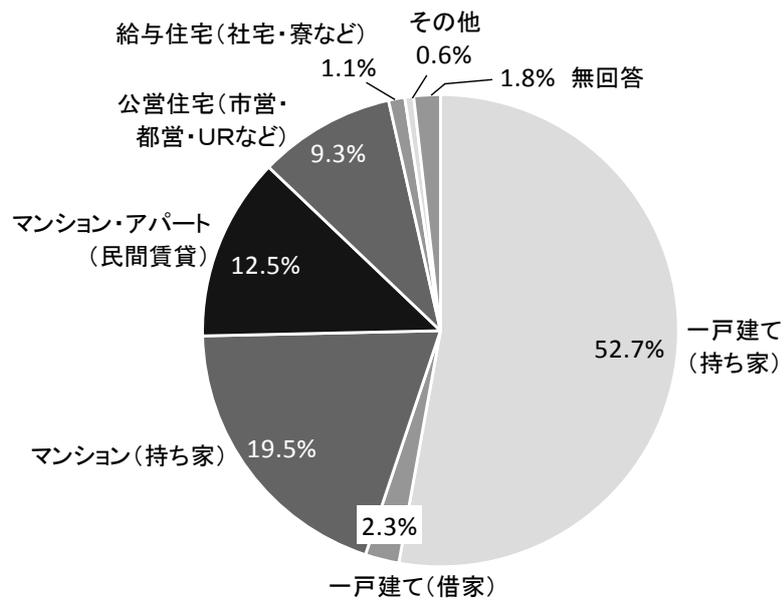
(5) 職業

サンプル数=2,004



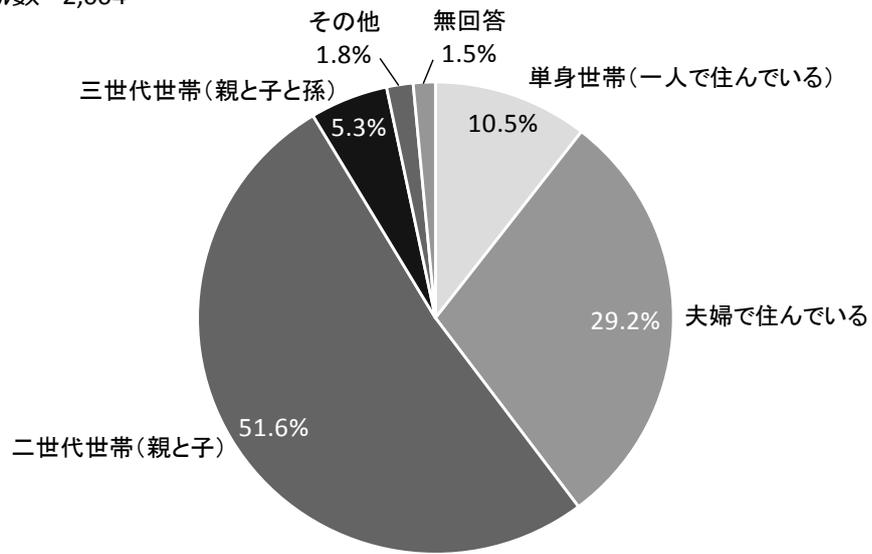
(6) 居住形態

サンプル数=2,004



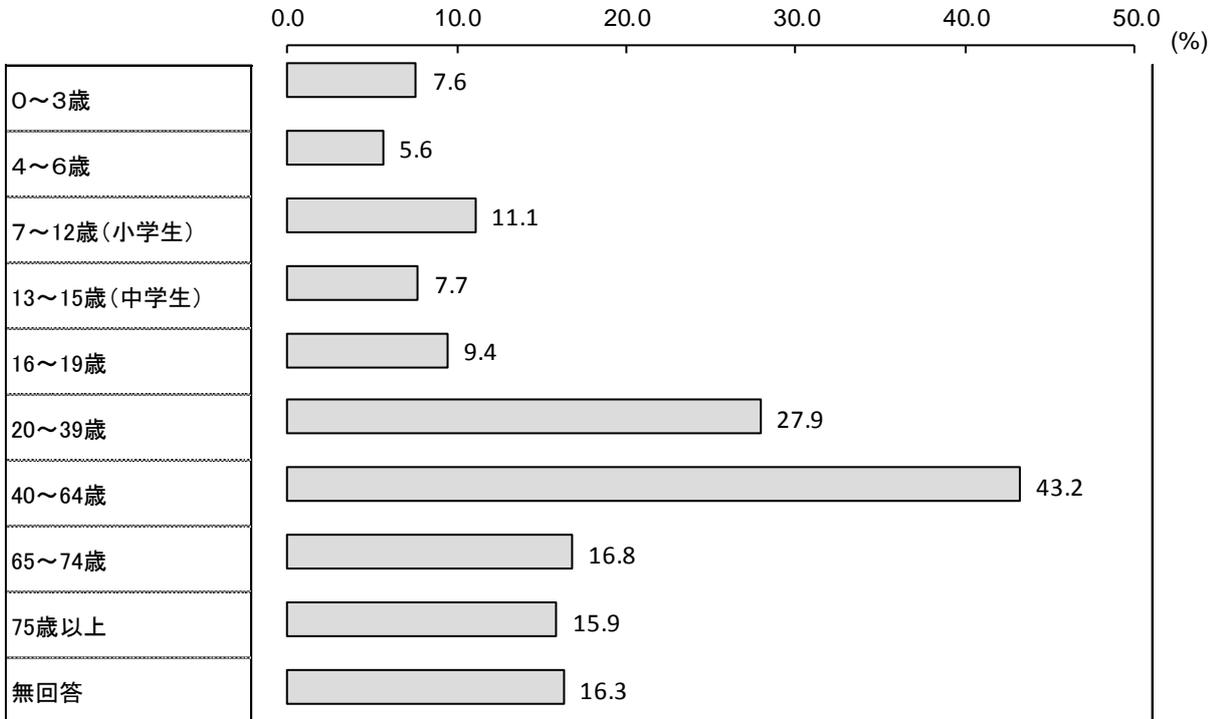
(7)世帯構成

サンプル数=2,004



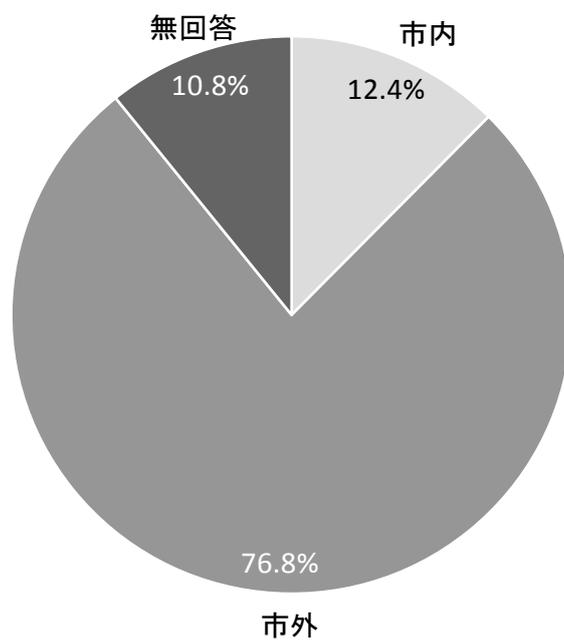
(8)同居家族年齢

サンプル数=2,004



(9) 出身地

サンプル数=2,004



II 調査結果の概要

1. 西東京市のまちづくり全般について

(1) 西東京市への愛着度

愛着を「感じている」は37.4%、「どちらかというと感じている」は31.3%で、合わせて68.7%となっている。一方、「どちらかというと感じていない」は5.9%、「感じていない」は2.4%で、合わせて8.3%となっている。

(2) 身近な生活環境の住み心地

「満足している」は20.2%、「やや満足している」は39.7%で、合わせて59.9%となっている。一方、「やや不満である」は16.6%、「不満である」は3.2%で、合わせて19.8%となっている。

(3) 身近な生活環境の評価・重要度

現在の身近な生活環境の状況「改善度」平均ポイントでは、「電話・インターネットなどの通信環境」が0.46ポイントで最も高くなっている。

今後の身近な生活環境の「重要度」平均ポイントでは、「保健・医療サービスの受けやすさ」が1.64ポイントで最も高くなっている。

(4) 継続居留意向

「これからも住み続けたい」は44.7%、「当分は住み続けたい」は31.3%で、合わせて76.0%となっている。一方、「できれば市外に転出したい」は5.8%、「市外に転出したい」は1.2%、「市外に転出する予定がある」は1.2%で、合わせて8.2%となっている。

(5) 転出希望事由

継続居留意向で「できれば市外に転出したい」「市外に転出したい」「市外に転出する予定がある」と回答した165人の転出希望事由として「交通が不便」が31.5%で最も多く、次いで「住宅の事情から」が30.9%となっている。

(6) 具体的な転出希望事由(自由記述)

転出したい(転出する)理由として多かったのは、「住宅や生活環境」(13件)、「行政運営・税金等」(8件)、「子育て・教育の環境」(7件)等となっている。

(7) 身近な生活環境における困りごと

「健康・病気に関すること」が32.2%で最も多く、次いで「国民健康保険・年金等に関すること」が27.0%、「介護に関すること」が23.3%、「防犯・防災に関すること」が21.2%、「収入・財産の管理、税金等に関すること」が20.2%となっている。

2. 西東京市の公共・公用施設の利用について

(8) 公共施設の利用の有無

この1年間に「利用した」は59.1%、「利用していない」は38.9%となっている。

(9) 公共施設を利用しない理由

「利用していない」と回答した779人の公共・公用施設等を利用していない理由として、「利用する機会がないから」が63.3%で最も多く、次いで「利用する必要があるから」が22.2%となっている。

(10) 公共施設別の利用頻度

年に1回以上利用されている公共・公用施設として多くあがっているのは、『図書館』『市民会館、コール田無（ピッコロひろば除く）、保谷こもれびホール、アスタ市民ホール』『スポーツセンター、総合体育館、武道場、きらっと（南町スポーツ・文化交流センター）』『公民館』となっている。

3. 市政に対して思うことについて

(11) 市政全般への評価

「満足している」は4.5%、「やや満足している」は16.5%で、合わせて21.0%となっている。一方、「やや不満である」は20.7%、「不満である」は5.9%で、合わせて26.6%となっている。

(12) 施策の評価・重要度

現在の分野別の『満足度』平均ポイントでは、「行政運営」が0.24ポイントで最も高く、次いで「芸術文化」が0.16ポイントとなっている。また、施策毎の『満足度』平均ポイントでは、「市報の内容」が0.52ポイントで最も高く、「自転車を利用しやすいまちづくり」が-0.80ポイントで最も低くなっている。

今後の分野別の『重要度』平均ポイントでは、「まちづくり」が1.30ポイントで最も高く、次いで「子ども」が1.25ポイントとなっている。施策毎の『重要度』平均ポイントでは、「大規模地震などへの災害対策」が1.57ポイントで最も高く、「NPO活動に対する支援」が0.30ポイントで最も低くなっている。

4. 地域活動と市政とのかかわりについて

(13) 地域活動への参加状況と今後の参加意向

「現在参加しており、今後も続けたい」は25.0%、「現在参加しているが、今後はやめたい」は3.0%で、現在参加しているのは28.0%となっている。一方、「現在参加していないが、今後は参加したい」は24.8%であり、「現在参加しており、今後も続けたい」と合わせて、今後の参加意向があるのは49.8%となっている。なお、「現在参加しておらず、今後も参加しない」は39.8%であり、「現在参加しているが、今後はやめたい」と合わせて、今後参加意向がないのは42.8%となっている。

(14) 地域活動内容別の参加状況と今後の参加意向

現在、活動参加者562人の参加している地域活動の内容は、「スポーツ・レクリエーション活動」が37.0%で最も多く、次いで「自治会・町内会など」が33.6%となっている。

今後、活動参加意向がある 999 人の、参加したい地域活動の内容は、「スポーツ・レクリエーション活動」が 49.4%で最も多く、次いで「芸術・文化活動」が 35.0%となっている。

(15) 地域活動に参加したくない(やめたい)事由

今後、地域活動へ参加したくない 858 人の「時間がないから」が 33.1%で最も多く、次いで「関心がないから」が 24.1%となっている。

(16) 市政への関心

「関心がある」は 18.1%、「ある程度関心がある」は 42.2%で、合わせて 60.3%となっている。一方、「あまり関心がない」は 15.6%、「関心がない」は 3.2%で、合わせて 18.8%となっている。

(17) 市政の情報源

「市報（広報西東京）」が 86.5%で最も多く、次いで「市のホームページ」が 24.7%、「市議会報」が 21.2%、「家族や知人・近所の人のお話」が 20.8%となっている。

(18) 市から得たい情報の内容

「医療・保健などの健康に関する情報」が 69.7%で最も多く、次いで「ごみ収集などの生活情報」が 54.5%、「防犯・防災に関する情報」が 49.4%となっている。

(19) 市政への参加への興味

「興味がある」は 29.0%、「興味はない」は 65.8%となっている。

(20) 市政への参加状況

「参加したことがある」は 4.0%、「参加したことはない」は 92.6%となっている。

(21) 市政への参加方法

「アンケート調査や投票を通じて意見を表明する」が 54.4%で最も多く、次いで「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」が 27.5%となっている。

5. 本庁舎の統合整備について

(22) 本庁舎整備統合の認知

「知っている」は 54.8%、「知らない」は 43.2%となっている。

(23) 本庁舎整備統合への関心

「関心がある」は 72.4%、「関心がない」は 23.8%となっている。

(24) 本庁舎整備統合への関心がない理由

「関心がない」と回答した 477 人の関心がない理由としては、「庁舎をあまり利用しないから」が 43.4%で最も多く、次いで「特に理由はない」が 22.1%となっている。

(25)本庁舎訪問の有無

「訪れたことがある」は93.0%、「訪れたことがない」は4.8%となっている。

(26)本庁舎訪問頻度

本庁舎に「訪れたことがある」と回答した1,863人が、この1年間で本庁舎を訪問した回数は、「1～2回」が40.2%で最も多く、次いで「3～5回」が32.6%となっている。この1年間の5回以下の訪問頻度は84.9%となっている。

(27)本庁舎訪問理由

この1年間に本庁舎に訪れたことがある1,624人の訪問理由としては、「戸籍や住民票、印鑑登録に関すること」が38.0%で最も多く、次いで「税金に関すること」が16.5%、「国民健康保健・国民年金に関すること」が16.0%、「福祉に関すること（介護、保育園、学童クラブ等）」が12.6%となっている。

(28)本庁舎整備統合の取組で重視すること

「交通利便性がよい場所であること」が32.9%で最も多く、次いで「基礎的窓口サービスが身近な場所で受けられること」が18.4%、「建設費・維持管理費が安いこと」が17.5%、「1つの窓口ですべての用事を済ますことができること」が16.6%となっている。

6. あなたの暮らしの希望について

(29)未既婚状況【18～39歳のみ】

18歳から39歳までの409人のうち、「結婚している」は51.6%、「結婚していない」は46.9%となっている。

(30)結婚の希望【18～39歳のみ】

18～39歳の結婚していない192人のうち、「結婚はしない」人は7.8%、「いずれは結婚したいと思っている」人は46.9%、「きっかけがあれば結婚したいと思っている」人は26.6%、「結婚を強く望んでいる」人は14.1%、「結婚の予定がある」人は4.2%となっている。結婚意向・結婚予定のある人を合わせると、91.8%となっている。

(31)現在の子どもの人数【18～39歳のみ】

「0人」が55.3%で最も多く、次いで「2人」が19.6%となっている。1人以上子どもがいる人は合わせて41.3%となっている。

(32)今後の子どもの希望人数【18～39歳のみ】

「(あと)2人持ちたい」が30.6%で最も多く、次いで「持ちたいとは思わない」が30.3%となっている。あと1人以上子どもを希望する人は、合わせて67.3%となっている。

(33)子どもを持つために必要なこと【18～39歳のみ】

子どもを1人以上ほしいと回答した275人の子どもを1人以上持つために必要なこととしては、「保育サービス（保育所、幼稚園等）の充実」が69.8%で最も多く、次いで「妊娠・出産に対する支援」が56.4%、「収入の安定」が45.1%となっている。

(34)現在の勤め先

「現在は働いていない」が43.8%で最も多く、次いで「23区内（練馬区除く）」が24.3%となっている。いずれかの場所で働いている人を合わせると、55.6%となっている。

(35)市内での就労希望【18～64歳のみ】

18～64歳の1,238人のうち、市内での就労希望では、「市内で働きたい」が33.4%で最も多く、次いで「現在市内で働いている」が16.1%となっている。なお、「わからない」は31.8%となっている。

(36)市内での就労希望の理由(自由記述)【18～64歳のみ】

市内で働きたい人があげる理由としては、「通勤時間の軽減」（253件）が最も多く、次いで「子育てのため」（51件）、「家庭・家事の両立のため」（26件）となっている。

(37)市内での就労者および就労希望者が興味ある仕事内容【18～64歳のみ】

「現在市内で働いている」「市内で働きたい」と答えた612人の興味のある仕事の内容としては、「自分の能力を活かせる仕事」が59.0%で最も多く、次いで「無理せずに働ける仕事」が58.3%、「安定している仕事」が50.2%となっている。

(38)起業への関心

「関心がある」は29.7%、「関心がない」は61.5%となっている。

(39)起業するために必要な支援

起業への関心がある595人が起業するために必要な支援としては、「地域の課題・ニーズに関する情報提供」が47.1%で最も多く、次いで「資金調達（融資制度）に関する情報提供」が46.1%、「補助金に関する情報提供」が44.9%となっている。

(40)西東京市のイメージと暮らしたいまちのイメージ

西東京市のイメージは、「都心部に近く、交通・生活が便利である」が54.4%で最も多く、次いで「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」が51.7%となっている。

将来暮らしたいまちのイメージは、「安全・安心に暮らせる」が63.2%で最も多く、次いで「医療・福祉の環境が整っている」が50.4%、「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」が50.2%となっている。

(41)ライフステージ別に住みたいまち【18～39歳のみ】

未就業の129人が就職したら住みたいまちは、「市内」が37.2%で最も多く、次いで「23区内（練馬区除く）」が21.7%となっている。

未婚の192人が結婚したら住みたいまちは、「23区内（練馬区除く）」が36.5%で最も多く、次いで「市内」が27.6%となっている。

子どもを持ちたい275人が（次の）子どもができたなら住みたいまちでは、「市内」が41.8%で最も多く、次いで「23区内（練馬区除く）」が23.3%となっている。

18～39歳の409人が高齢になったら住みたいまちでは、「市内」が40.6%で最も多く、次いで「他道府県（新座市除く）」が20.5%となっている。

Ⅲ 調査結果

1. 西東京市のまちづくり全般について

【問1】あなたは、西東京市に愛着を感じていますか。(〇は1つだけ)

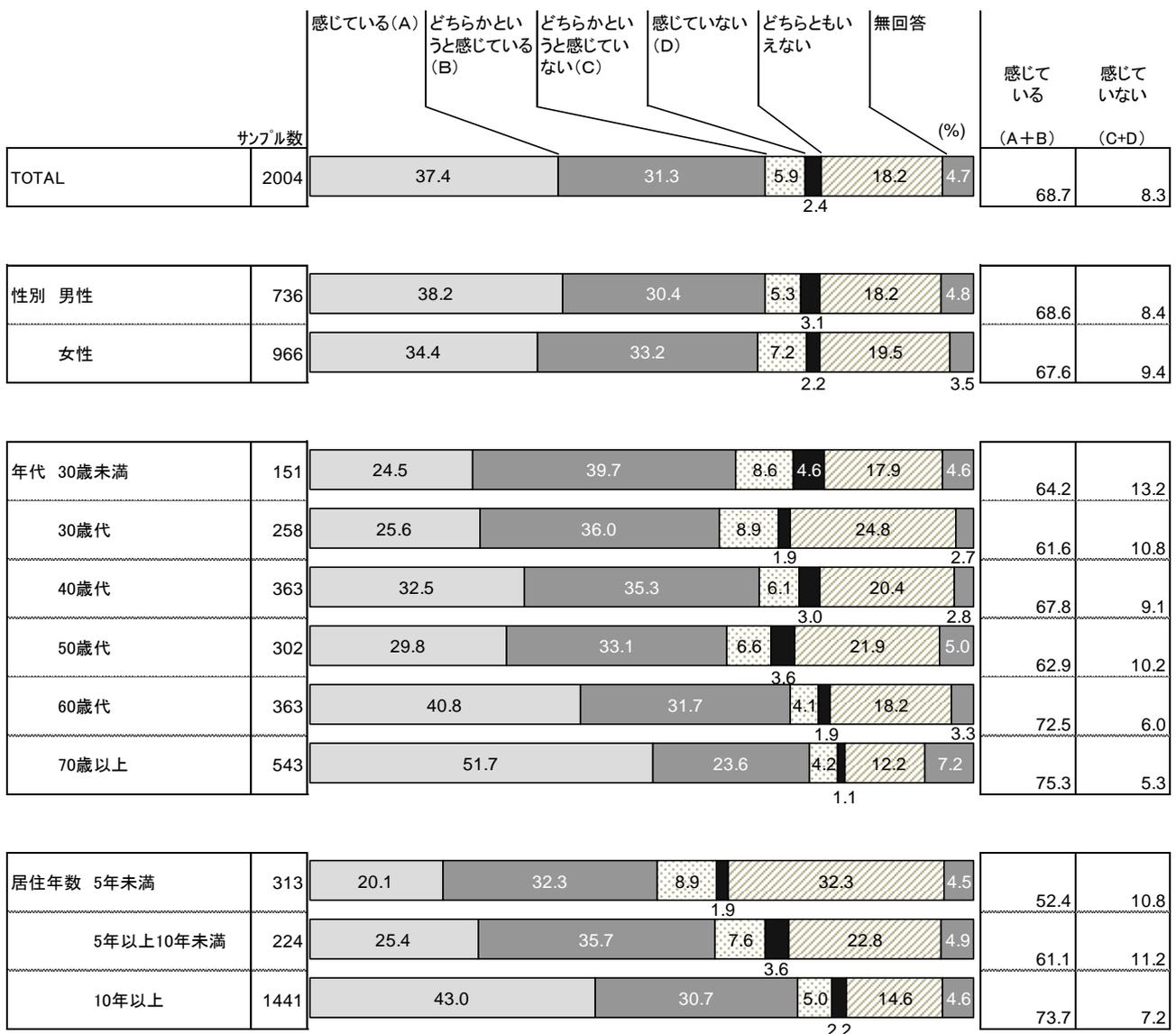
西東京市に愛着を感じているかについては、「感じている」が37.4%で最も多く、次いで「どちらかというと感じている」が31.3%となっている。「感じている」「どちらかというと感じている」を合わせて、半数以上の68.7%が愛着を感じている。

性別に見ると、『女性』に比べて、『男性』は愛着を「感じている」がやや多くなっている（男性38.2%、女性34.4%）。

年代別に見ると、年齢が高くなるにつれて、愛着を「感じている」が多い傾向となっている。

居住年数別に見ると、居住年数が長くなるにつれて、愛着を「感じている」が多い傾向となっている。

<性別・年代別・居住年数別>

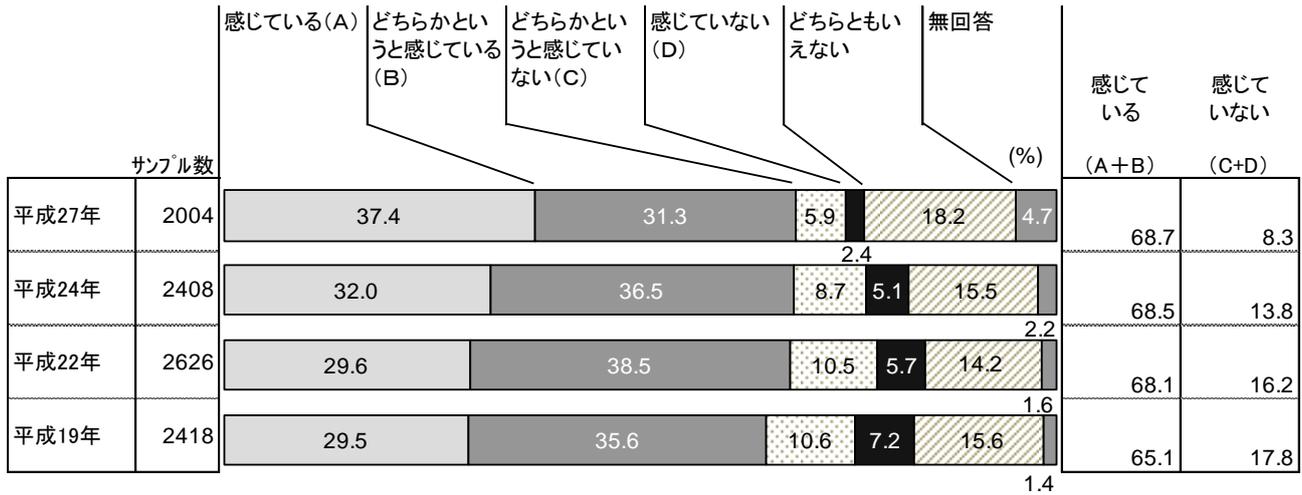


<経年比較>

平成27年は「感じている」「どちらかというと感じている」を合わせると68.7%であり、平成24年（「感じている」「どちらかというと感じている」の合計68.5%）より0.2ポイント多くなっている。

また、平成27年は「感じていない」「どちらかというと感じていない」を合わせると8.3%であり、平成24年と比べて5.5ポイント少なくなっている。

なお、平成24年と比較して、平成27年は「感じている」が5.4ポイント、「どちらともいえない」が2.7ポイント多くなっている。



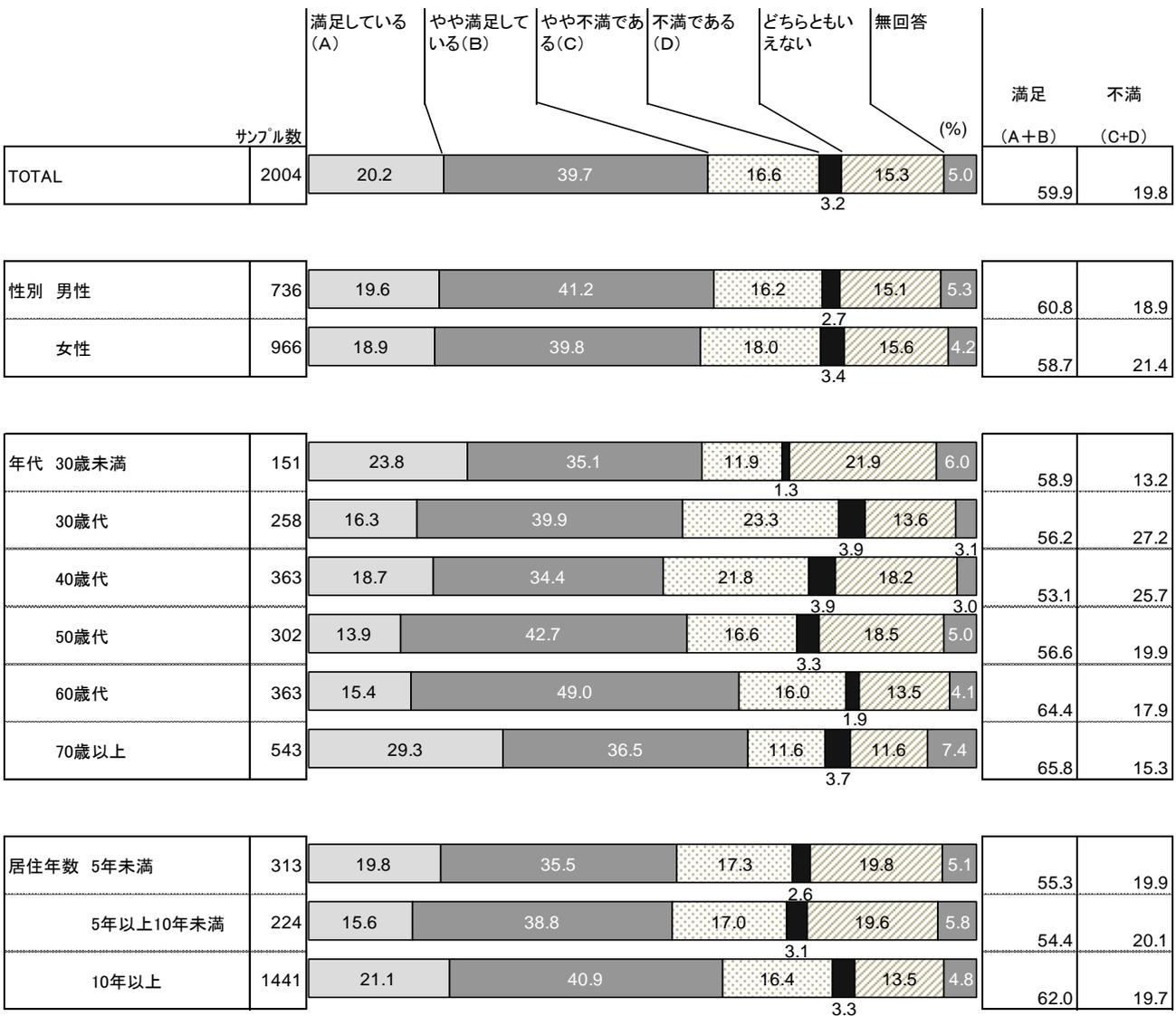
【問2】 あなたは、日ごろの住み心地についてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

日ごろの住み心地では、「やや満足している」が39.7%で最も多く、次いで「満足している」が20.2%であり、合わせて半数以上の59.9%が満足していると感じている。

年代別に見ると、「満足している」「やや満足している」の満足している合計は、『60歳代』と『70歳以上』で60%を超えて高い一方で、「やや不満である」「不満である」の満足していない合計は『30歳代』と『40歳代』で20%を超えている。

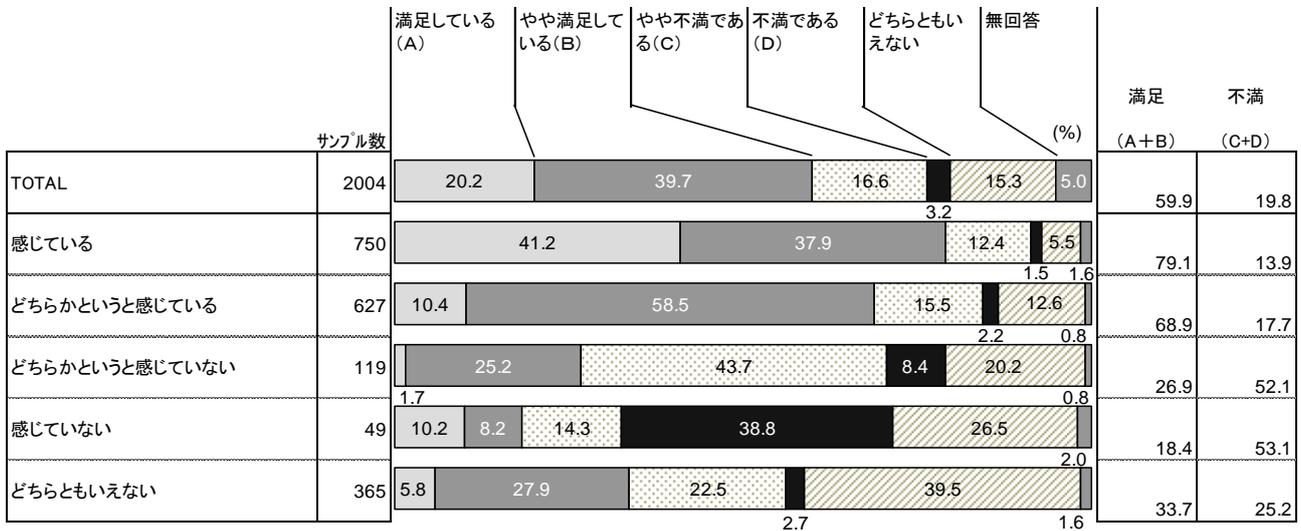
居住年数別に見ると、居住年数が『10年以上』では、「満足している」「やや満足している」の満足している合計が62.0%と高くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



<愛着度別>

西東京市への愛着度別に見ると、愛着度が高いほど、「満足している」「やや満足している」が多くなっており、愛着を『感じている』では、「満足している」が41.2%、「やや満足している」が37.9%で、合わせて79.1%となっている。

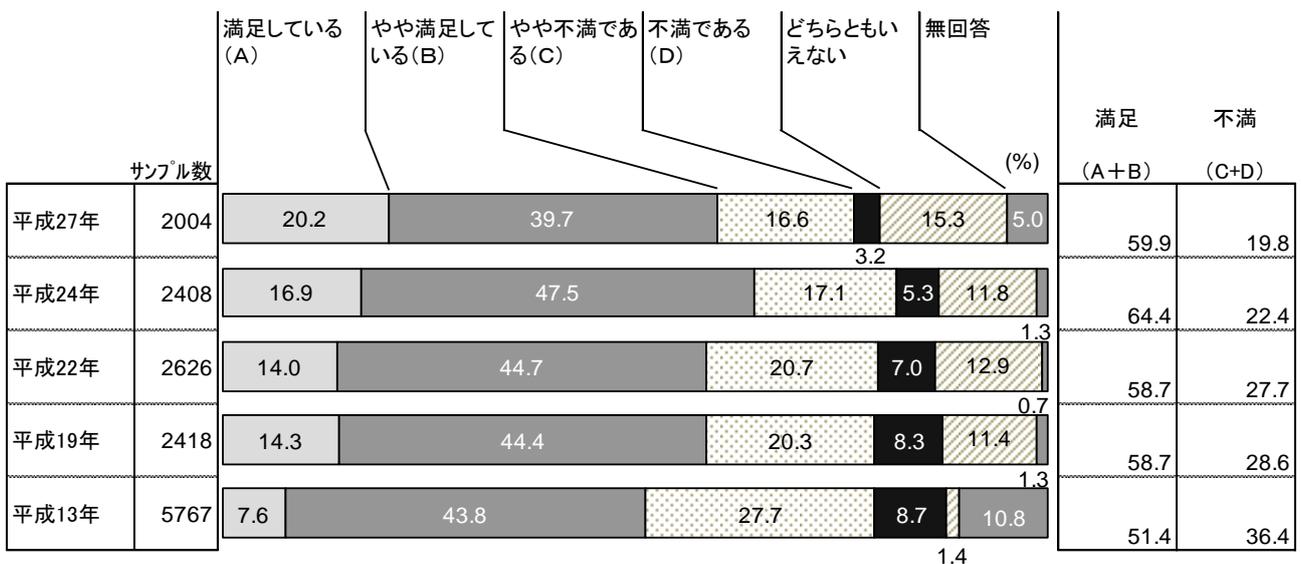


<経年比較>

平成27年は、「満足している」が20.2%、「やや満足している」が39.7%で合わせて59.9%となっており、平成24年と比べて4.5ポイント少なくなっている（平成24年「満足している」「やや満足している」の合計64.4%）。一方で、調査毎に「満足している」割合は増加する傾向を示している。

平成27年は「やや不満である」が16.6%、「不満である」が3.2%で、合わせて19.8%となっており、平成24年と比べて、2.6ポイント少なくなっている。（平成24年「やや不満である」「不満である」の合計22.4%）。

また、平成27年は「どちらともいえない」が15.3%であり、平成24年と比べて、3.5ポイント多くなっているのが特徴である。



【問3】 以下に示す身近な生活環境について、あなたはどのように感じていらっしゃいますか。また、それはあなたの今後の生活にとって、重要なことですか。(項目ごとに○は1つずつ)

現在の身近な生活環境の状況「改善度」平均ポイントでは、「電話・インターネットなどの通信環境」が0.46ポイントで最も高く、次いで「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」(0.45ポイント)、「買い物の利便性」(0.45ポイント)となっている。一方、「地元の商店街」は-0.75ポイントとなっており、他の項目に比べてポイントが最も低く、第1位とは1.21ポイントの差となっている。

今後の身近な生活環境の「重要度」平均ポイントでは、「保健・医療サービスの受けやすさ」が1.64ポイントで最も高く、次いで「防犯防災などの生活安全対策」(1.61ポイント)、「安全で歩きやすい道路環境」(1.58ポイント)となっている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の状況（改善度）	平均
1	9.電話・インターネットなどの通信環境	0.46
2	6.鉄道・バスなどの公共交通の利便性	0.45
2	7.買い物の利便性	0.45
4	2.保健・医療サービスの受けやすさ	0.36
5	4.街並み・景観	0.25
6	1.防犯防災などの生活安全対策	0.16
7	10.芸術や文化にふれる機会、学習する環境	0.15
7	15.誰もが安心して暮らすための福祉環境	0.15
9	3.緑や水辺などの自然環境	0.14
9	11.スポーツに参加する機会、楽しむ環境	0.14
11	12.育児相談・保育園などの育児サポート環境	0.10
12	5.安全で歩きやすい道路環境	0.03
13	13.子どもの教育環境	0.00
14	17.夏祭りなどの地域の行事・イベント	-0.01
15	14.就労時間、就労内容などの働く環境	-0.14
16	16.町内会などの自治組織の活動	-0.15
17	8.地元の商店街	-0.75

順位	今後の生活における重要度	平均
1	2.保健・医療サービスの受けやすさ	1.64
2	1.防犯防災などの生活安全対策	1.61
3	5.安全で歩きやすい道路環境	1.58
4	6.鉄道・バスなどの公共交通の利便性	1.42
5	15.誰もが安心して暮らすための福祉環境	1.41
6	7.買い物の利便性	1.34
7	3.緑や水辺などの自然環境	1.18
8	13.子どもの教育環境	1.15
9	4.街並み・景観	0.97
10	12.育児相談・保育園などの育児サポート環境	0.87
10	14.就労時間、就労内容などの働く環境	0.87
12	9.電話・インターネットなどの通信環境	0.73
13	8.地元の商店街	0.65
14	10.芸術や文化にふれる機会、学習する環境	0.55
15	11.スポーツに参加する機会、楽しむ環境	0.39
16	16.町内会などの自治組織の活動	0.32
17	17.夏祭りなどの地域の行事・イベント	0.27

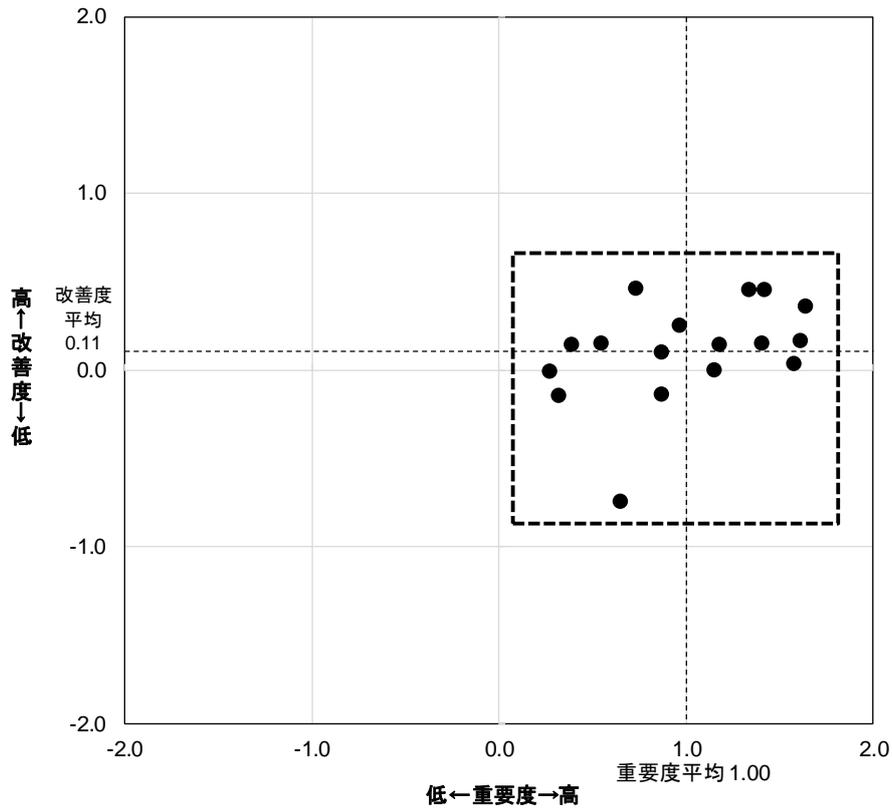
「改善度」をY軸に、「重要度」をX軸にとり、各項目の平均ポイントをプロットすると、改善度は中間に、重要度は高い方に集中している。

また、「改善度」と「重要度」の別に、全ての項目の平均ポイントを元にC S分析の座標軸を求めると、改善度=0.11、重要度=1.00となる。

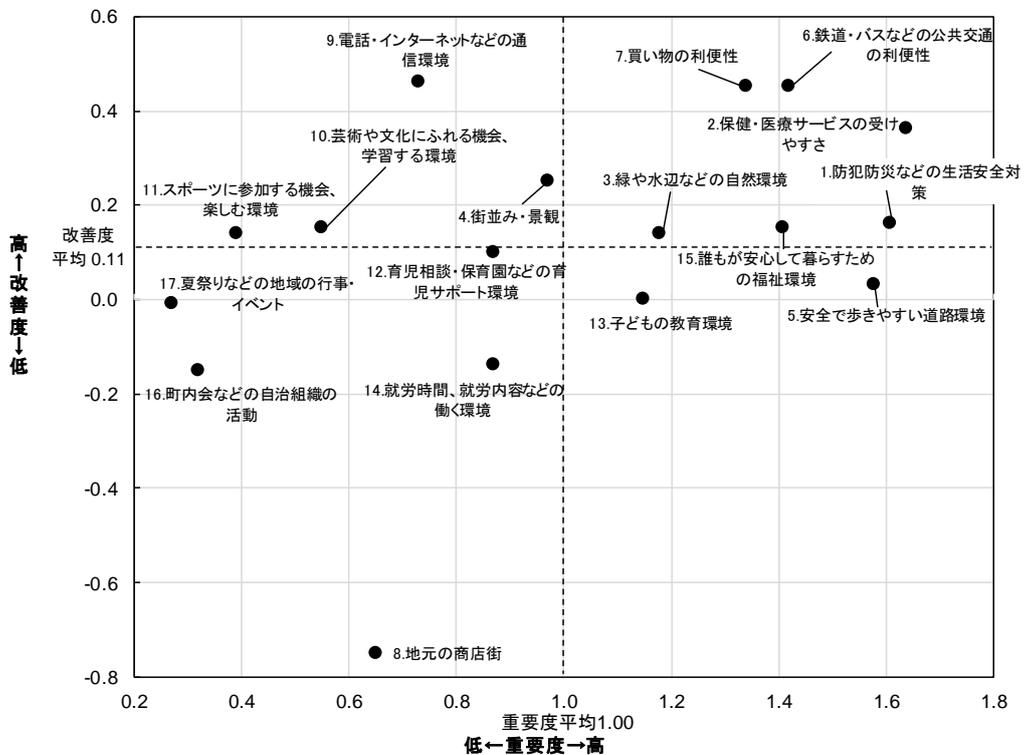
座標軸を元に、各項目間の相対的な関係を4つの方向性（ゾーン）で見ると、「重点改善分野」には、「安全で歩きやすい道路環境」「子どもの教育環境」が分類され、「重点維持分野」には、「保健・医療サービスの受けやすさ」「防犯・防災などの生活安全対策」「鉄道・バスなどの公共交通の利便性」「誰もが安心して暮らすための福祉環境」「買い物の利便性」「緑や水辺などの自然環境」が分類される。

なお、「改善度」の評価については、項目によって、ライフスタイルや家族構成から関わりが少なく、評価をするために十分な情報を得ていないなどの理由から、「わからない」の選択割合が非常に高いものもある点にも注意が必要である。「わからない」が50.0%を超える項目は、「芸術や文化にふれる機会、学習する環境」「スポーツに参加する機会、楽しむ環境」「育児相談・保育園などの育児サポート環境」「子どもの教育環境」「就労時間、就労内容などの働く環境」「町内会などの自治組織の活動」「夏祭りなどの地域の行事・イベント」であり、改善分野に位置づくものが多い傾向にある。

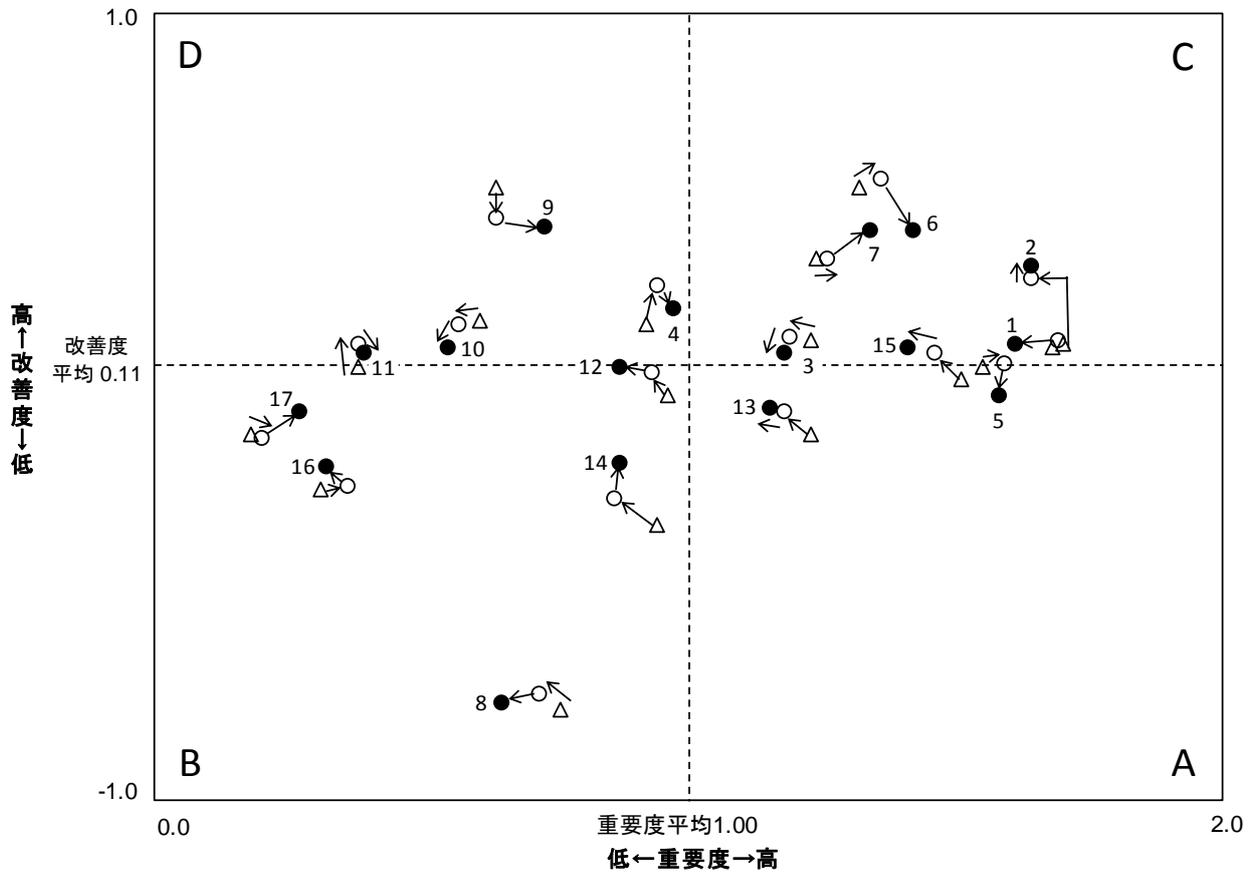
<CS分析1>



<CS分析2 点線部拡大図>



<CS分析2 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。



<p>D:維持分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 4.街並み・景観 9.電話・インターネットなどの通信環境 10.芸術や文化にふれる機会、学習する環境 11.スポーツに参加する機会、楽しむ環境 	<p>C:重点維持分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.防犯防災などの生活安全対策 2.保健・医療サービスの受けやすさ 3.緑や水辺などの自然環境 6.鉄道・バスなどの公共交通の利便性 7.買い物の利便性 15.誰もが安心して暮らすための福祉環境
<p>B:改善分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 8.地元の商店街 12.育児相談・保育園などの育児サポート環境 14.就労時間、就労内容などの働く環境 16.町内会などの自治組織の活動 17.夏祭りなどの地域の行事・イベント 	<p>A:重点改善分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 5.安全で歩きやすい道路環境 13.子どもの教育環境

<改善度>

項目	サンプル数	改善度 (%)						平均 ポイント	良くなって いる% (A+B)
		良くなっている (+2)(A)	やや良くなっ ている(+1) (B)	やや悪くなっ ている(-1)	悪くなってい る(-2)	わからない (0)	無回答 (%)		
1.防犯防災などの生活安全対策	2004	5.2	27.7	15.6	3.4	43.1	4.9	0.16	32.9
2.保健・医療サービスの受けやすさ	2004	9.1	35.4	11.1	4.1	35.5	4.8	0.36	44.5
3.緑や水辺などの自然環境	2004	8.9	32.6	20.6	8.5	25.0	4.3	0.14	41.5
4.街並み・景観	2004	7.7	41.6	19.0	7.0	20.2	4.6	0.25	49.3
5.安全で歩きやすい道路環境	2004	6.8	38.5	21.0	14.0	15.6	4.1	0.03	45.3
6.鉄道・バスなどの公共交通の利便性	2004	13.8	42.8	13.1	7.0	19.5	3.7	0.45	56.6
7.買い物利便性	2004	16.2	43.3	15.3	8.5	13.4	3.4	0.45	59.5
8.地元の商店街	2004	10.5	29.5	29.3	24.0	3.9	-0.75	13.3	
9.電話・インターネットなどの通信環境	2004	2.8	12.1	31.9	6.2	43.1	3.8	0.46	44.0
10.芸術や文化にふれる機会、学習する環境	2004	2.9	25.5	11.0	4.1	51.5	3.8	0.15	29.5
11.スポーツに参加する機会、楽しむ環境	2004	4.0	24.6	10.3	4.4	52.2	4.2	0.14	28.8
12.育児相談・保育園などの育児サポート環境	2004	4.2	16.9	7.0	65.3	4.9	0.10	19.6	
13.子どもの教育環境	2004	2.7	17.4	12.3	5.1	57.6	5.0	0.00	19.9
14.就労時間、就労内容などの働く環境	2004	2.5	11.1	12.1	7.3	62.9	5.4	-0.14	12.3
15.誰もが安心して暮らすための福祉環境	2004	1.2	27.5	11.7	4.6	47.9	4.4	0.15	31.4
16.町内会などの自治組織の活動	2004	3.9	12.1	12.7	9.7	59.0	3.7	-0.15	14.8
17.夏祭りなどの地域の行事・イベント	2004	2.7	18.4	13.2	7.2	53.3	3.7	-0.01	22.6
		4.2					3.7		

<重要度>

項目	サンプル数	重要度 (%)						平均 ポイント	重要% (A+B)
		重要(+2)(A)	やや重要(+1)(B)	あまり重要でない(-1)	重要でない(-2)	わからない(0)	無回答		
1.防犯防災などの生活安全対策	2004	63.2	24.9	4.1	6.6	1.1	0.1	1.61	88.1
2.保健・医療サービスの受けやすさ	2004	65.7	23.6	1.0	6.3	0.2	3.1	1.64	89.3
3.緑や水辺などの自然環境	2004	35.1	47.0	6.3	4.6	6.5	0.4	1.18	82.1
4.街並み・景観	2004	28.0	47.6	11.9	4.1	7.2	1.1	0.97	75.6
5.安全で歩きやすい道路環境	2004	60.6	29.0	2.0	6.4	0.2	1.7	1.58	89.6
6.鉄道・バスなどの公共交通の利便性	2004	51.8	34.1	4.4	6.6	0.4	2.5	1.42	85.9
7.買い物の利便性	2004	47.3	37.7	5.8	6.6	0.5	2.1	1.34	85.0
8.地元の商店街	2004	24.4	37.8	18.9	8.4	7.1	3.4	0.65	62.2
9.電話・インターネットなどの通信環境	2004	24.5	38.8	14.9	12.5	6.8	2.4	0.73	63.3
10.芸術や文化にふれる機会、学習する環境	2004	17.3	41.1	17.4	13.9	6.8	3.5	0.55	58.4
11.スポーツに参加する機会、楽しむ環境	2004	15.9	36.4	22.3	4.6	13.8	6.9	0.39	52.3
12.育児相談・保育園などの育児サポート環境	2004	35.7	24.0	8.4	21.2	7.5	3.2	0.87	59.7
13.子どもの教育環境	2004	47.5	20.3	4.8	17.8	7.5	2.2	1.15	67.8
14.就労時間、就労内容などの働く環境	2004	32.3	27.9	8.0	21.7	8.0	2.2	0.87	60.2
15.誰もが安心して暮らすための福祉環境	2004	54.7	27.4	7.3	6.3	3.4	0.8	1.41	82.1
16.町内会などの自治組織の活動	2004	14.4	33.3	19.4	6.4	19.7	6.7	0.32	47.7
17.夏祭りなどの地域の行事・イベント	2004	12.5	34.1	22.5	5.7	18.6	6.6	0.27	46.6

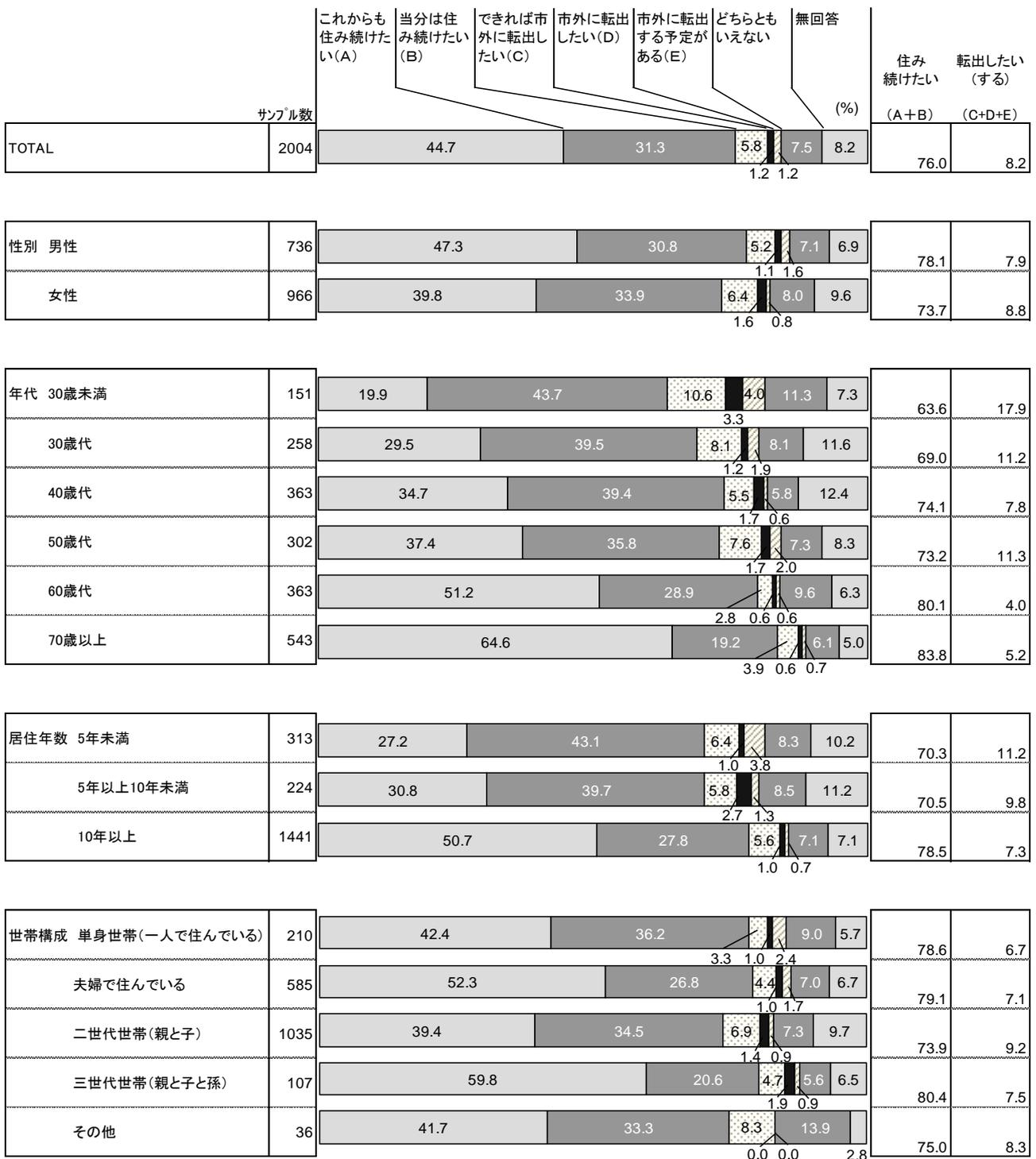
【問4】 あなたは、今後も西東京市に住み続けたいですか。(〇は1つだけ)

西東京市での継続居住意向では、「これからも住み続けたい」が44.7%で最も多く、次いで「当分は住み続けたい」が31.3%となっており、合わせて76.0%が住み続けたいとしている。

年代別に見ると、年齢が高くなるにつれて「これからも住み続けたい」が多くなり、60歳以上では50%を超えている。

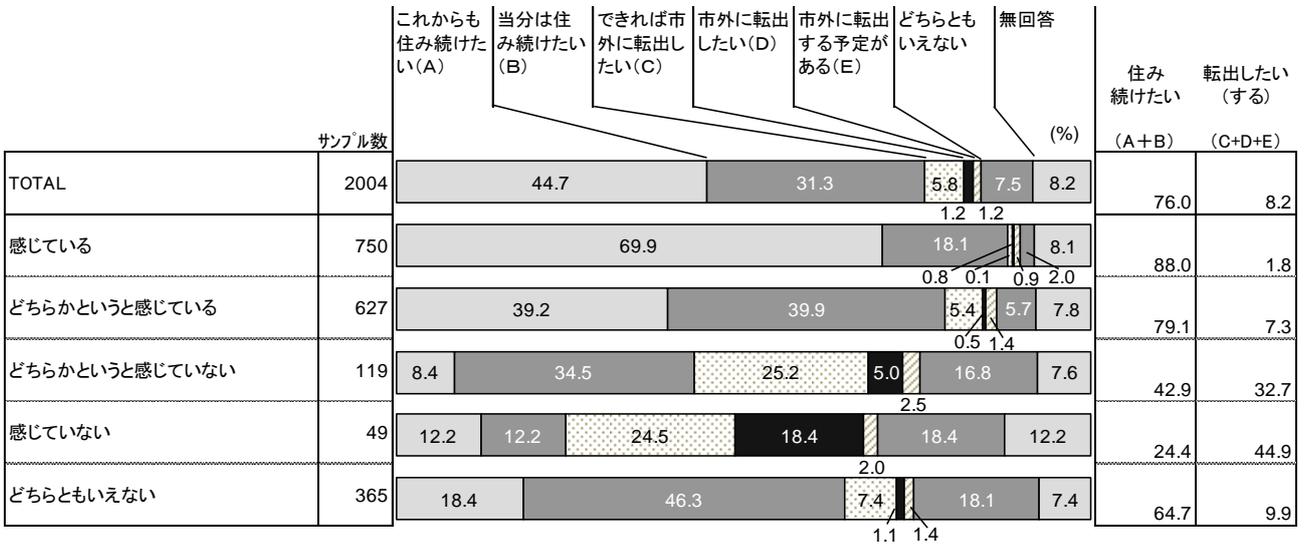
世帯構成別に見ると、「これからも住み続けたい」は『三世帯世帯(親と子と孫)』で最も多く、59.8%と60%近くとなっている。

<性別・年代別・居住年数別・世帯構成別>



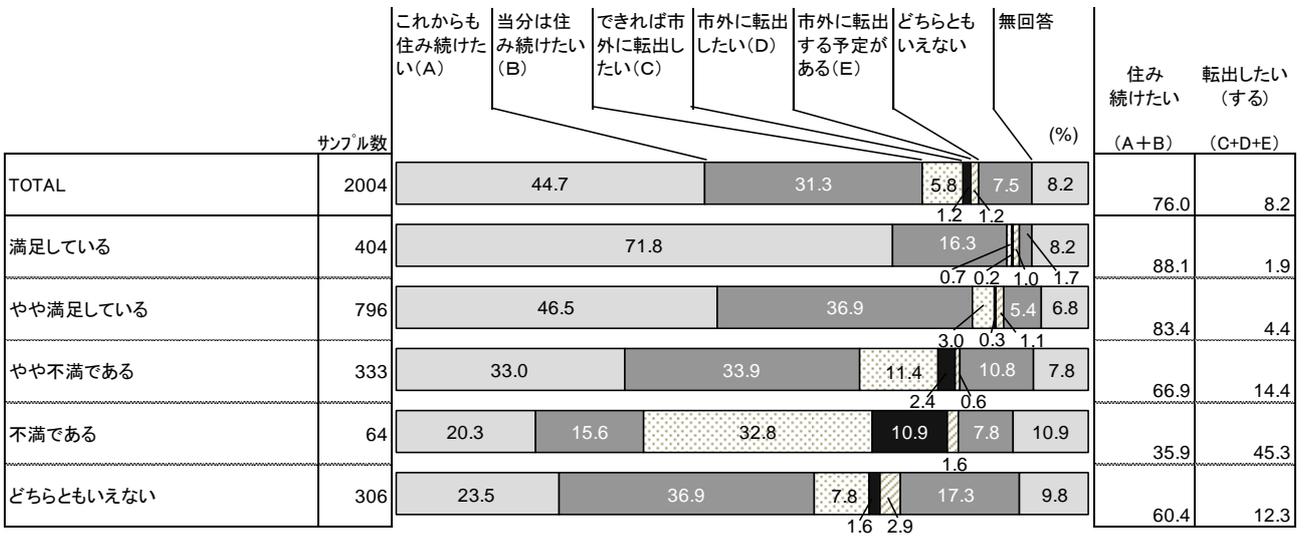
<愛着度別>

西東京市への愛着度別に見ると、『感じている』で「これからも住み続けたい」が69.9%と最も多く、「当分は住み続けたい」と合わせて、住み続けたい合計が88.0%と90%近くになっている。



<居住満足度別>

居住満足度別に見ると、『満足している』で「これからも住み続けたい」が71.8%と最も多く、「当分は住み続けたい」と合わせて、住み続けたい合計が88.1%と90%近くになっている。

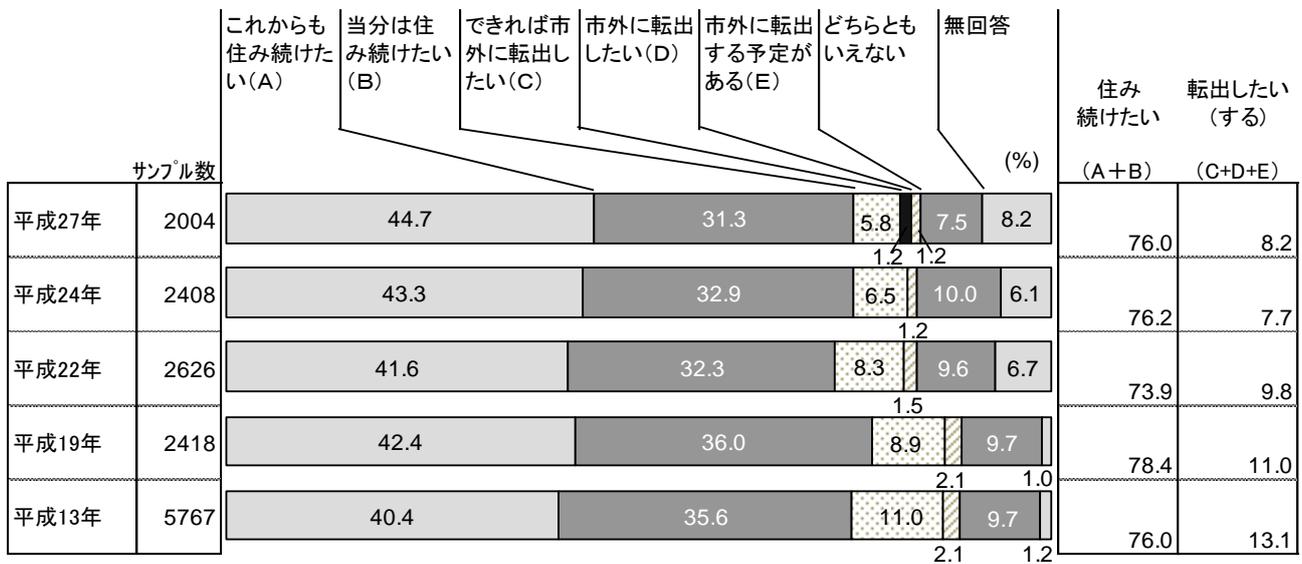


<経年比較>

「これからも住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせた、住み続けたい合計が、平成13年以降、70%以上を維持している。

平成27年は、「これからも住み続けたい」が44.7%となっており、平成24年と比べて1.4ポイント多くなっている。「これからも住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせた、住み続けたい合計は76.0%となっている。

一方、平成27年は「できれば市外に転出したい」が5.8%、「市外に転出したい」が1.2%、「市外に転出する予定がある」が1.2%で、合わせて8.2%となっており、平成24年と比べて0.5ポイント多くなっている。



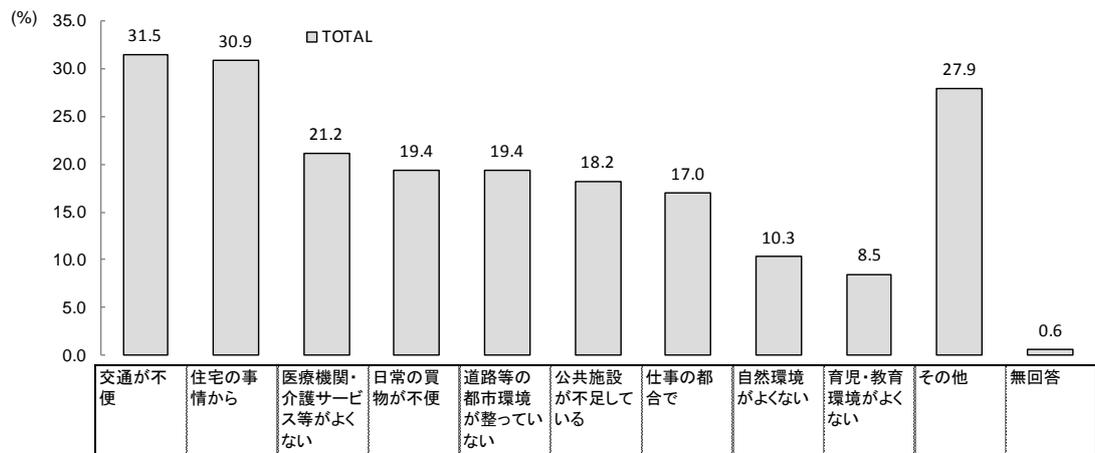
※ 「市外に転出したい」は平成27年調査で新設。

【問5】 問4で「3. できれば市外に転出したい」「4. 市外に転出したい」「5. 市外に転出する予定がある」とお答えの方にお聞きます。転出したい（転出する）理由は何ですか。（〇はいくつでも）

問4で「できれば市外に転出したい」「市外に転出したい」「市外に転出する予定がある」と回答した方は、165人となっている。転出したい理由としては、「交通が不便」が31.5%で最も多く、次いで「住宅の事情から」が30.9%となっている。

性別に見ると、『女性』は「医療機関・介護サービス等が良くない」(25.9%)、「日常の買い物が不便」(25.9%)、「育児・教育環境が良くない」(14.1%)が、『男性』と比べて10ポイント以上多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



サンプル数	交通が不便	住宅の事情から	医療機関・介護サービス等が良くない	日常の買い物が不便	道路等の都市環境が整っていない	公共施設が不足している	仕事の都合で	自然環境が良くない	育児・教育環境が良くない	その他	無回答	
TOTAL	165	31.5	30.9	21.2	19.4	19.4	18.2	17.0	10.3	8.5	27.9	0.6

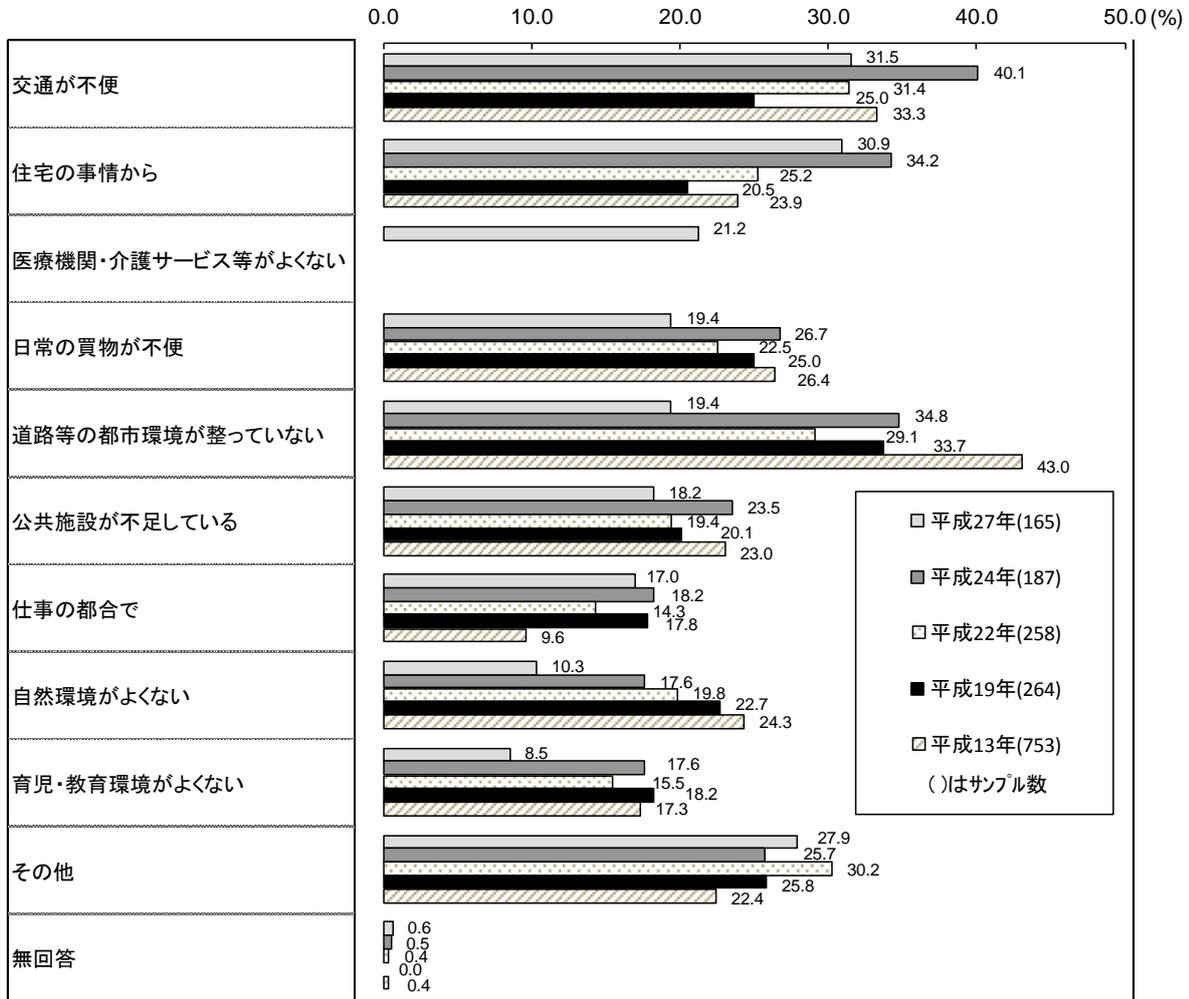
性別	サンプル数	交通が不便	住宅の事情から	医療機関・介護サービス等が良くない	日常の買い物が不便	道路等の都市環境が整っていない	公共施設が不足している	仕事の都合で	自然環境が良くない	育児・教育環境が良くない	その他	無回答
男性	58	32.8	32.8	13.8	10.3	22.4	15.5	22.4	8.6	3.4	22.4	1.7
女性	85	31.8	25.9	25.9	25.9	21.2	20.0	15.3	10.6	14.1	30.6	0.0

年代	サンプル数	交通が不便	住宅の事情から	医療機関・介護サービス等が良くない	日常の買い物が不便	道路等の都市環境が整っていない	公共施設が不足している	仕事の都合で	自然環境が良くない	育児・教育環境が良くない	その他	無回答
30歳未満	27	44.4	25.9	7.4	7.4	11.1	11.1	33.3	7.4	3.7	22.2	0.0
30歳代	29	24.1	27.6	13.8	17.2	13.8	3.4	27.6	6.9	20.7	31.0	0.0
40歳代	28	28.6	25.0	28.6	28.6	32.1	17.9	10.7	10.7	14.3	32.1	0.0
50歳代	34	38.2	35.3	29.4	17.6	26.5	26.5	14.7	11.8	5.9	26.5	0.0
60歳代	14	28.6	14.3	21.4	7.1	14.3	14.3	21.4	21.4	0.0	14.3	7.1
70歳以上	28	21.4	35.7	21.4	32.1	14.3	32.1	0.0	7.1	0.0	32.1	0.0

居住年数	サンプル数	交通が不便	住宅の事情から	医療機関・介護サービス等が良くない	日常の買い物が不便	道路等の都市環境が整っていない	公共施設が不足している	仕事の都合で	自然環境が良くない	育児・教育環境が良くない	その他	無回答
5年未満	35	17.1	37.1	8.6	17.1	11.4	8.6	25.7	2.9	14.3	34.3	2.9
5年以上10年未満	22	63.6	18.2	27.3	22.7	27.3	18.2	22.7	18.2	9.1	22.7	0.0
10年以上	105	29.5	29.5	22.9	20.0	20.0	21.0	13.3	10.5	6.7	26.7	0.0

<経年比較>

平成27年は「交通が不便」が31.5%で最も多くなっているが、平成24年と比べて8.6ポイント少なくなっている。次いで、平成27年で多い「住宅の事情から」(30.9%)は、平成24年と比べて3.3ポイント少なくなっている。



※ 「医療機関・介護サービス等がよくない」は平成27年調査で新設。

【問6】 問5で「10. その他」とお答えの方にお聞きします。転出したい（転出する）理由として、「その他」の内容を具体的にお答えください。

転出したい（転出する）理由として出されたご意見のうち、多かったのは「住宅や生活環境」（13件）、「行政運営・税金等」（8件）、「子育て・教育の環境」（7件）等となっている。

「住宅や生活環境」については、騒音や歩道にはみ出した垣根による通行への影響、住宅地における交通安全対策等の意見があがっている。

「行政運営・税金等」について、行政サービスに対する不満や税負担の重さなどのへの意見があがっている。

「子育て・教育の環境」については、保育施設の不足や区に比べた補助金の少なさ、子育てサービス全体への不満等があがっている。

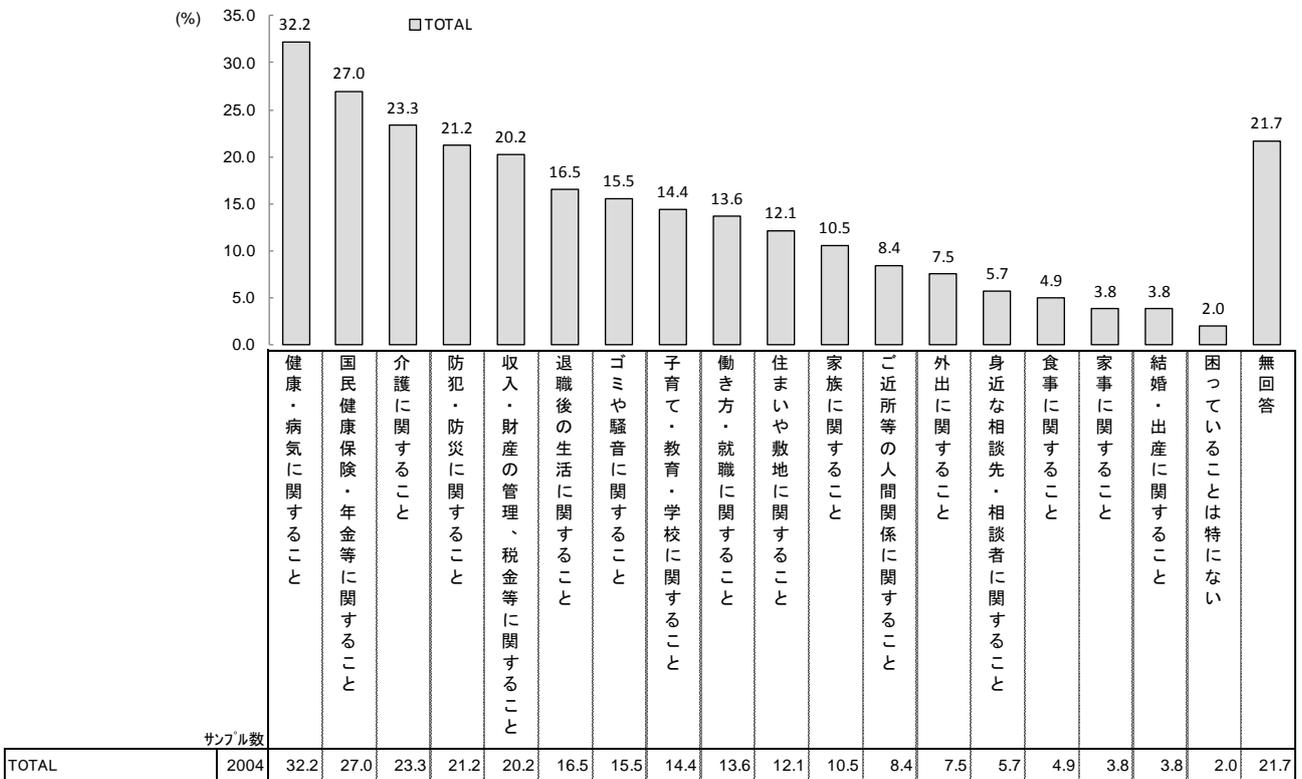
順位	内容	件数
1	住宅や生活環境	13
2	行政運営・税金等	8
3	子育て・教育の環境	7
4	地元へのUターン等	6
4	人間関係・人づき合い	6
6	まちの魅力	5
7	道路・交通	4
8	ゴミの処理	3
-	その他	6

【問7】 すべての方にお聞きします。あなたの生活や身近な生活環境について、現在何か困っていること・心配なことはありますか。(〇はいくつでも)

身近な生活環境における困りごととしては、「健康・病気に関すること」が32.2%で最も多く、次いで「国民健康保険・年金等に関すること」(27.0%)、「介護に関すること」(23.3%)、「防犯・防災に関すること」(21.2%)、「収入・財産の管理、税金等に関すること」(20.2%)となっている。

年代別に見ると、全体で最も多い「健康・病気に関すること」は、『60歳代』、『70歳以上』で特に多くなっている(37.5%、45.7%)。「国民健康保険・年金等に関すること」は『60歳代』(34.2%)、「介護に関すること」は『70歳代』(33.3%)で多くなっている。一方、『30歳代』では、「子育て・教育・学校に関すること」が44.2%と他の年代と比べて多く、子育て世代の特徴としてあげられる。また『50歳代』、『60歳代』では、「退職後の生活に関すること」(50歳代39.4%、60歳代25.9%)が多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



性別	サンプル数	健康・病気	国民健康保険	介護	防犯・防災	収入・財産	退職後の生活	ゴミや騒音	子育て・教育	働き方・就職	住まいや敷地	家族	ご近所等	外出	身近な相談先	食事	家事	結婚・出産	困っていること	無回答
男性	736	32.3	31.1	22.7	22.0	25.1	19.7	16.2	14.0	12.1	11.1	9.5	10.1	5.8	6.5	4.6	2.4	3.1	1.8	23.6
女性	966	29.5	24.2	22.3	21.5	18.4	15.8	15.1	17.8	16.1	13.0	11.0	7.1	9.0	5.0	4.9	3.9	4.7	2.0	19.5

年代	サンプル数	健康・病気	国民健康保険	介護	防犯・防災	収入・財産	退職後の生活	ゴミや騒音	子育て・教育	働き方・就職	住まいや敷地	家族	ご近所等	外出	身近な相談先	食事	家事	結婚・出産	困っていること	無回答
30歳未満	151	16.6	25.8	7.9	18.5	21.9	6.6	21.9	19.9	29.8	11.9	10.6	8.6	7.9	5.3	4.6	4.6	14.6	2.0	18.5
30歳代	258	21.7	19.0	14.3	21.7	22.9	9.3	19.8	44.2	24.8	13.6	11.6	8.1	10.1	3.1	6.6	4.7	13.2	1.6	15.5
40歳代	363	24.0	20.1	18.7	27.0	21.2	17.4	18.7	29.8	19.6	10.7	13.8	12.1	4.7	4.1	4.4	2.5	1.7	2.8	20.9
50歳代	302	29.1	30.1	25.8	18.2	24.5	39.4	16.9	7.3	16.6	14.9	11.6	6.3	3.3	5.6	1.3	0.3	2.0	2.3	17.5
60歳代	363	37.5	34.2	22.9	18.2	20.1	25.9	13.5	1.9	8.8	11.0	8.3	7.4	5.0	6.1	3.3	1.9	0.6	1.9	24.2
70歳以上	543	45.7	29.5	33.3	21.5	15.7	3.1	9.8	0.9	1.8	11.0	8.3	7.6	12.0	7.7	7.6	7.0	0.7	1.7	26.5

居住年数	サンプル数	健康・病気	国民健康保険	介護	防犯・防災	収入・財産	退職後の生活	ゴミや騒音	子育て・教育	働き方・就職	住まいや敷地	家族	ご近所等	外出	身近な相談先	食事	家事	結婚・出産	困っていること	無回答
5年未満	313	23.0	17.3	12.1	18.5	15.3	10.9	18.2	28.8	17.3	10.2	8.3	8.9	7.0	5.8	5.8	4.2	8.9	3.2	21.7
5年以上10年未満	224	25.9	23.2	17.0	20.5	17.4	23.2	14.3	29.0	17.4	10.3	10.7	8.5	7.1	5.4	4.5	3.1	3.1	2.2	18.8
10年以上	1441	35.3	29.9	26.6	22.0	21.8	16.7	15.1	9.2	12.3	12.8	10.9	8.3	7.6	5.8	4.9	3.8	2.7	1.7	22.0

<居住形態別・世帯構成別>

居住形態別に見ると、『公営住宅（市営・都営・URなど）』で「健康・病気に関すること」（47.3%）、「国民健康保険・年金等に関すること」（38.7%）、「介護に関すること」（31.2%）の上位3項目が多くなっている。

世帯構成別に見ると、『夫婦で住んでいる』で「健康・病気に関すること」（37.8%）、「国民健康保険・年金等に関すること」（31.1%）、「介護に関すること」（28.2%）の上位3項目が多くなっている。『二世帯世帯（親と子）』では「子育て・教育・学校に関すること」が22.1%、『三世帯世帯（親と子と孫）』では「収入・財産の管理、税金等に関すること」が28.0%と多くなっている。

	サンプル数	健康・病気に関すること	国民健康保険・年金等に関すること	介護に関すること	防犯・防災に関すること	収入・財産の管理、税金等に関すること	退職後の生活に関すること	ゴミや騒音に関すること	子育て・教育・学校に関すること	働き方・就職に関すること	住まいや敷地に関すること	家族に関すること	ご近所等の人間関係に関すること	外出に関すること	身近な相談先・相談者に関すること	食事に関すること	家事に関すること	結婚・出産に関すること	困っていることは特にない	無回答
TOTAL	2004	32.2	27.0	23.3	21.2	20.2	16.5	15.5	14.4	13.6	12.1	10.5	8.4	7.5	5.7	4.9	3.8	3.8	2.0	21.7
居住形態 一戸建て(持ち家)	1057	33.5	25.4	26.2	23.5	20.4	15.4	13.5	13.4	11.5	14.1	11.3	9.5	7.7	5.5	4.5	3.8	2.8	2.6	21.2
一戸建て(借家)	47	17.0	17.0	12.8	10.6	21.3	10.6	21.3	23.4	21.3	12.8	6.4	6.4	4.3	2.1	8.5	4.3	2.1	0.0	23.4
マンション(持ち家)	391	28.4	28.1	22.3	19.7	19.9	21.0	15.3	16.4	12.5	5.9	9.0	5.4	6.1	7.4	4.3	2.8	2.6	1.8	23.3
マンション・アパート(民間賃貸)	251	23.9	26.3	9.2	15.1	22.3	14.7	21.1	17.9	25.1	15.9	9.6	8.8	8.0	4.0	4.8	2.4	9.6	2.0	21.1
公営住宅(市営・都営・URなど)	186	47.3	38.7	31.2	22.0	15.1	16.7	16.7	10.2	10.8	9.1	10.8	8.6	10.2	7.5	6.5	5.4	3.2	0.0	18.3
給与住宅(社宅・寮など)	23	21.7	30.4	17.4	26.1	26.1	21.7	21.7	26.1	17.4	8.7	8.7	4.3	0.0	8.7	13.0	8.7	0.0	30.4	
その他	13	46.2	30.8	30.8	23.1	38.5	30.8	15.4	7.7	0.0	0.0	15.4	15.4	7.7	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	23.1
世帯構成 単身世帯(一人で住んでいる)	210	37.1	30.5	18.1	21.9	20.0	17.6	18.6	0.5	16.2	10.0	7.1	9.0	7.6	8.1	11.0	7.6	4.8	1.0	24.8
夫婦で住んでいる	585	37.8	31.1	28.2	22.2	20.7	16.1	15.0	6.2	8.2	12.3	7.9	7.7	8.0	6.8	5.0	3.2	3.2	2.4	23.4
二世帯世帯(親と子)	1035	28.3	23.7	21.2	21.3	19.4	16.2	15.0	22.1	15.9	12.2	12.5	9.0	7.1	4.8	4.3	3.5	3.5	1.7	20.0
三世帯世帯(親と子と孫)	107	36.4	33.6	29.9	15.9	28.0	21.5	15.9	19.6	19.6	12.1	12.1	8.4	7.5	3.7	0.9	0.9	5.6	3.7	17.8
その他	36	25.0	27.8	19.4	22.2	13.9	11.1	16.7	0.0	8.3	16.7	11.1	0.0	8.3	5.6	2.8	8.3	5.6	5.6	22.2

2. 西東京市の公共・公用施設の利用について

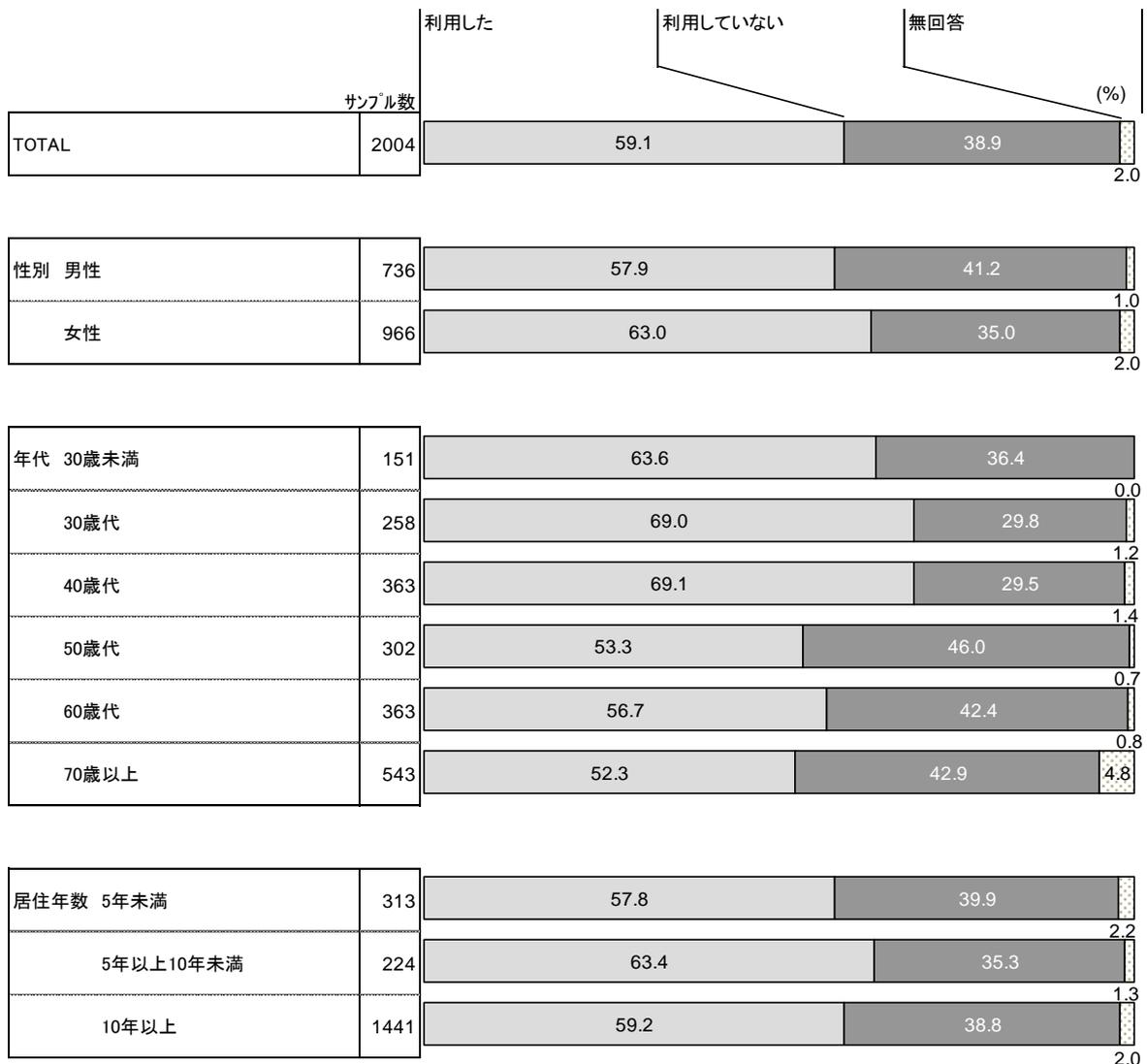
【問8】 あなたはこの1年の間に、西東京市の公共・公用施設等を利用しましたか。(〇は1つだけ)

公共・公用施設等の利用有無では、「利用した」が59.1%と半数を超えており、「利用していない」が38.9%となっている。

性別に見ると、『男性』に比べて、『女性』の「利用した」が多くなっている(男性57.9%、女性63.0%)。

年代別に見ると、『40歳代』(69.1%) および『30歳代』(69.0%) の「利用した」が多くなっている。

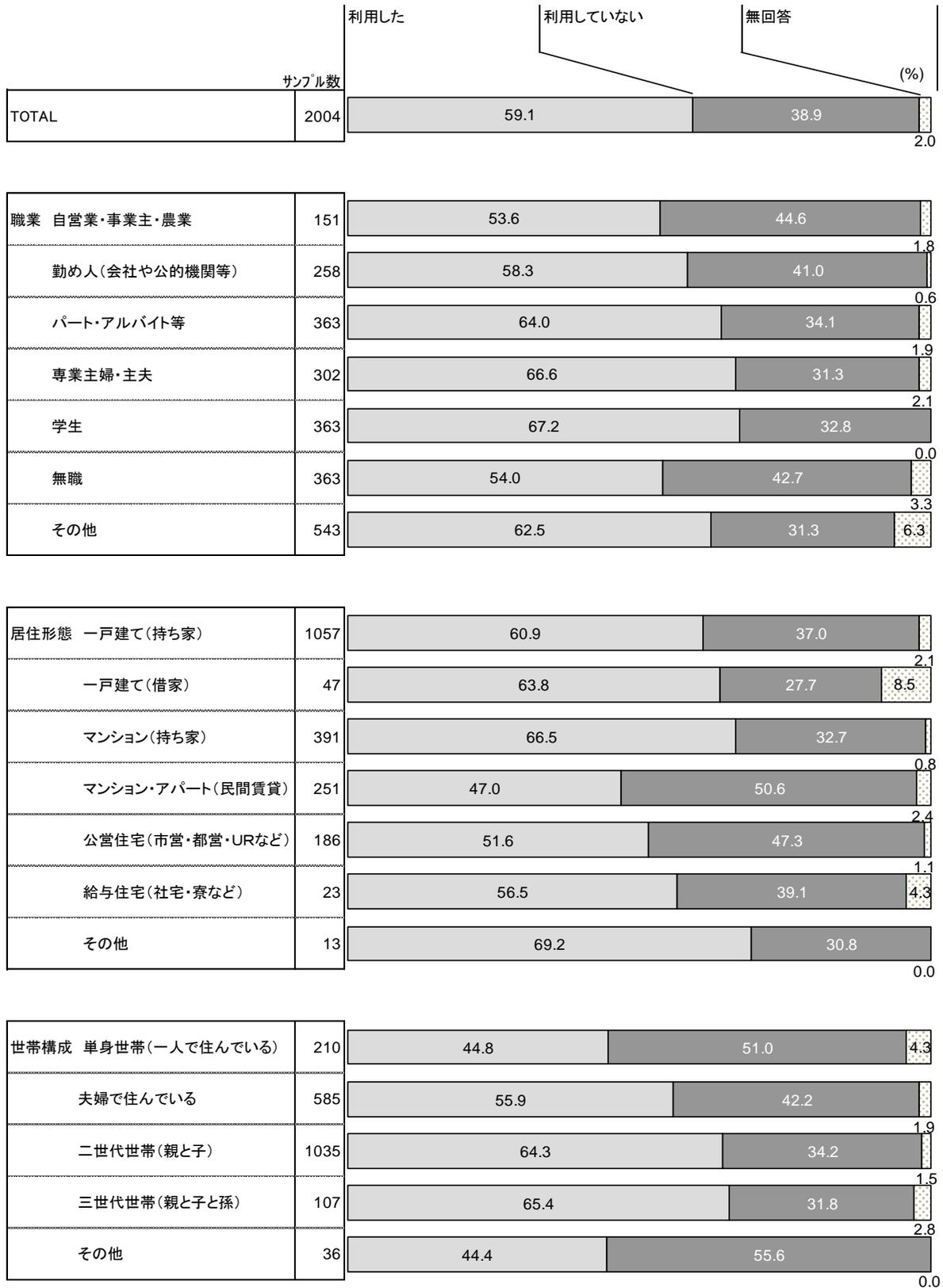
<性別・年代別・居住年数別>



＜職業別・居住形態別・世帯構成別＞

職業別に見ると、『学生』(67.2%)、『専業主婦・主婦』(66.6%)、『パート・アルバイト等』(64.0%)の「利用した」が多くなっており、それぞれ60%を超えている。

世帯構成別に見ると、『三世帯世帯(親と子と孫)』(65.4%)、『二世帯世帯(親と子)』(64.3%)の「利用した」がそれぞれ60%を超えている。



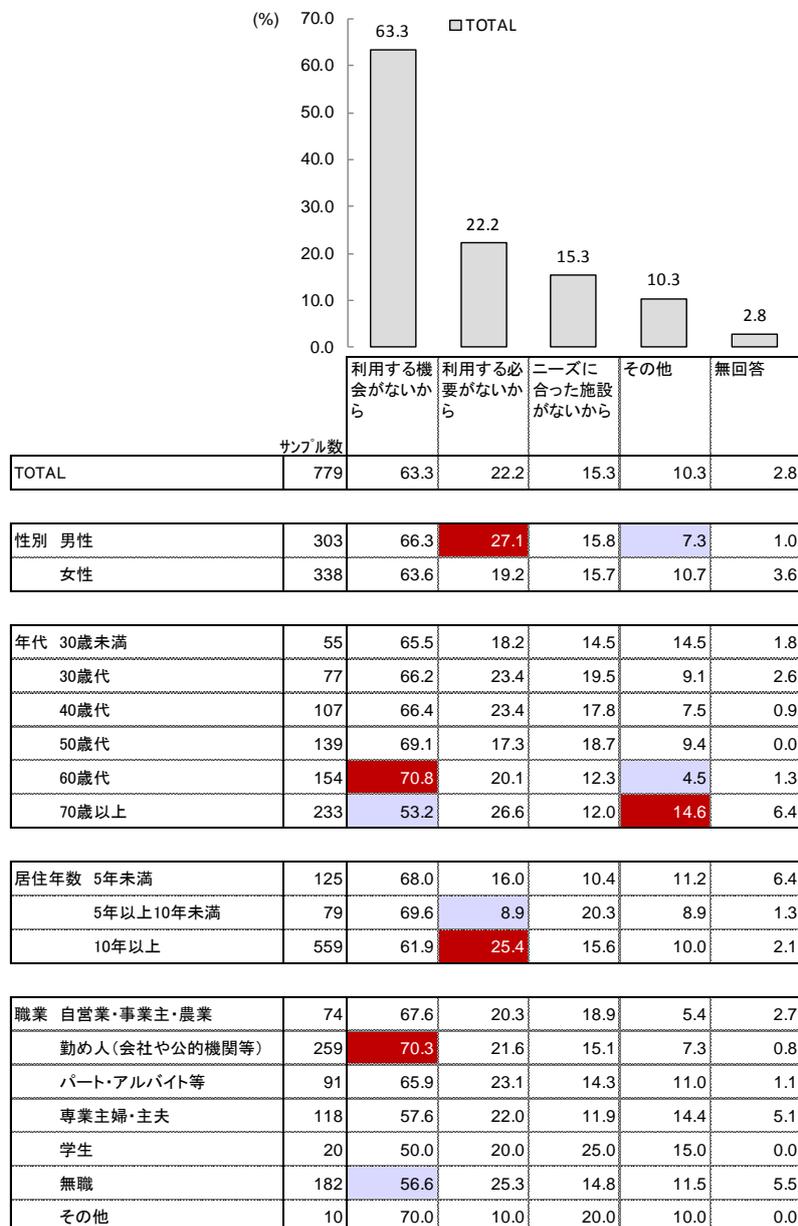
【問9】 問8で「2. 利用していない」とお答えの方にお聞きします。西東京市の公共・公用施設等を利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

問8で「利用していない」と回答した方は、779人となっている。公共・公用施設等を利用していない理由は、「利用する機会がないから」が63.3%で最も多くなっている。次いで「利用する必要があるから」が22.2%、「ニーズに合った施設がないから」が15.3%となっている。

年代別に見ると、「利用する機会がないから」は『60歳代』が最も多く、70.8%となっている。また、「利用する機会がないから」は、70歳以上を除いた全ての年代で60%以上となっている。

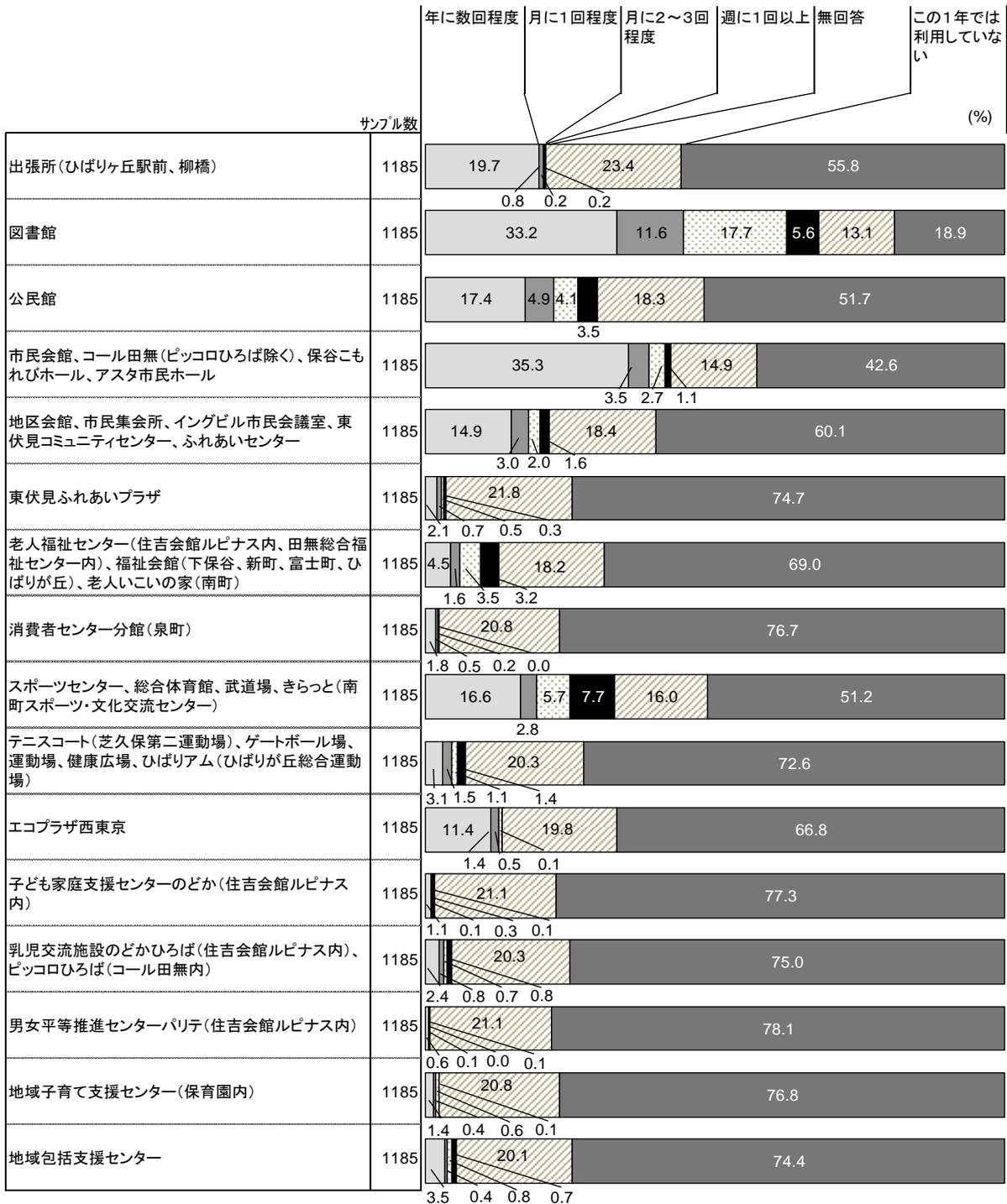
職業別に見ると、「利用する機会がないから」は『勤め人(会社や公的機関等)』が70.3%と最も多くなっている。一方で、「利用する機会がないから」が最も少ないのは、『無職』(56.6%)となっている(『学生』はサンプル数20で参考値)。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



【問10】問8で「1. 利用した」とお答えの方にお聞きします。西東京市の次の公共・公用施設それぞれについて、この1年の間に何回程度利用していますか。施設ごとに最も近い回数をお答えください。(〇は1つずつ)

問8で「利用した」と回答した方は、1,185人となっている。「年に数回程度」「月に1回程度」「月に2～3回程度」「週に1回以上」を合わせて、年に1回以上利用していると回答された公共・公用施設は、『図書館』が68.1%で最も多く、次いで『市民会館、コール田無（ピッコロひろば除く）、保谷こもれびホール、アスタ市民ホール』が42.6%、『スポーツセンター、総合体育館、武道場、きらっと（南町スポーツ・文化交流センター）』が32.8%、『公民館』が29.9%となっている。



3. 市政に対して思うことについて

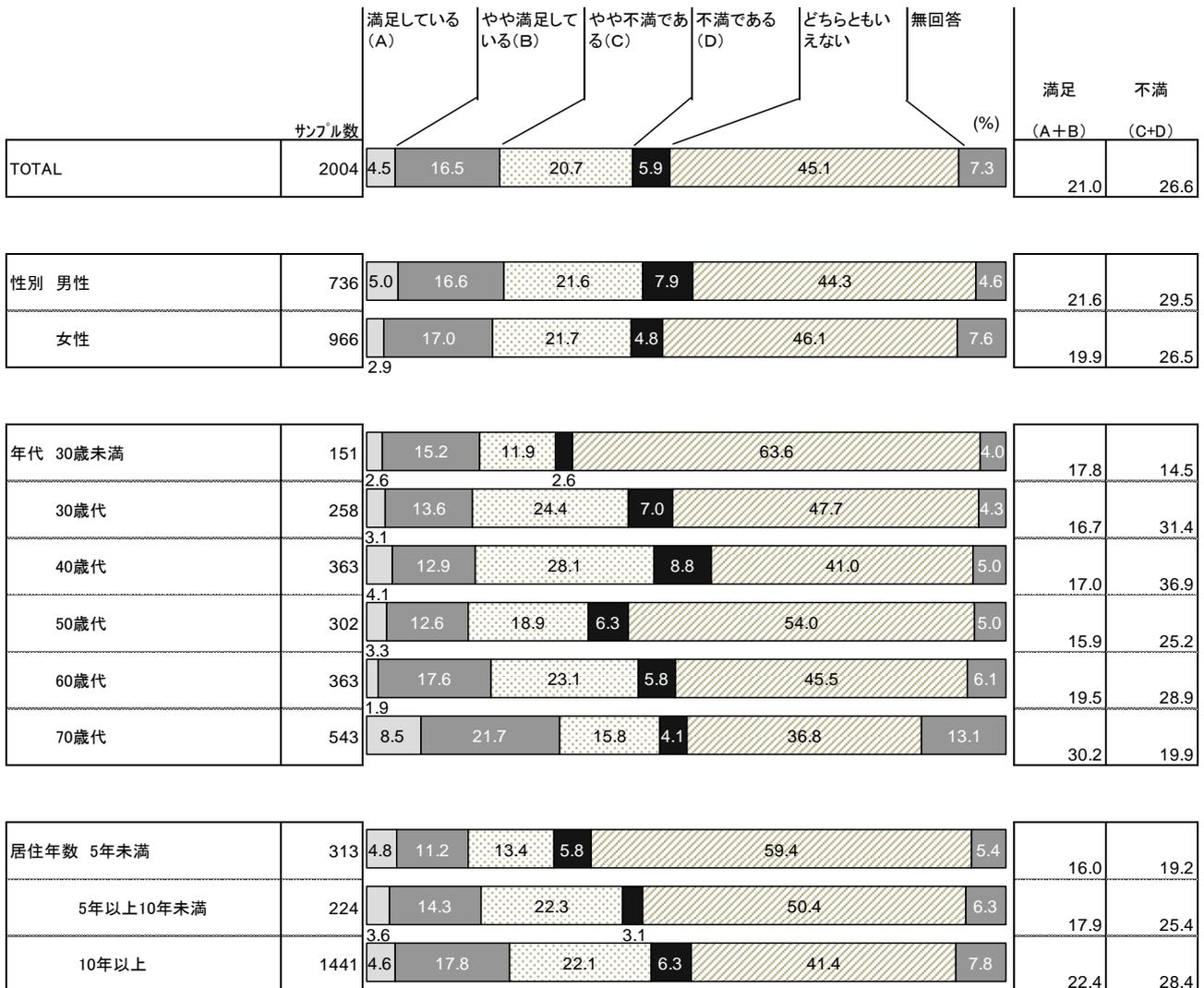
【問 11】 すべての方にお聞きします。あなたは、市政全般について、どのようにお考えですか。（○は1つだけ）

市政全般への評価では、「どちらともいえない」が45.1%で最も多く、次いで「やや不満である」が20.7%となっている。「満足している」「やや満足している」を合わせた満足している合計は21.0%、「やや不満である」「不満である」を合わせた不満である合計26.6%となっており、満足していない合計が満足している合計より、5.6ポイント多くなっている。

性別で見ると、『男性』のほうが『女性』に比べて、満足している合計が多い（21.6%、19.9%）。

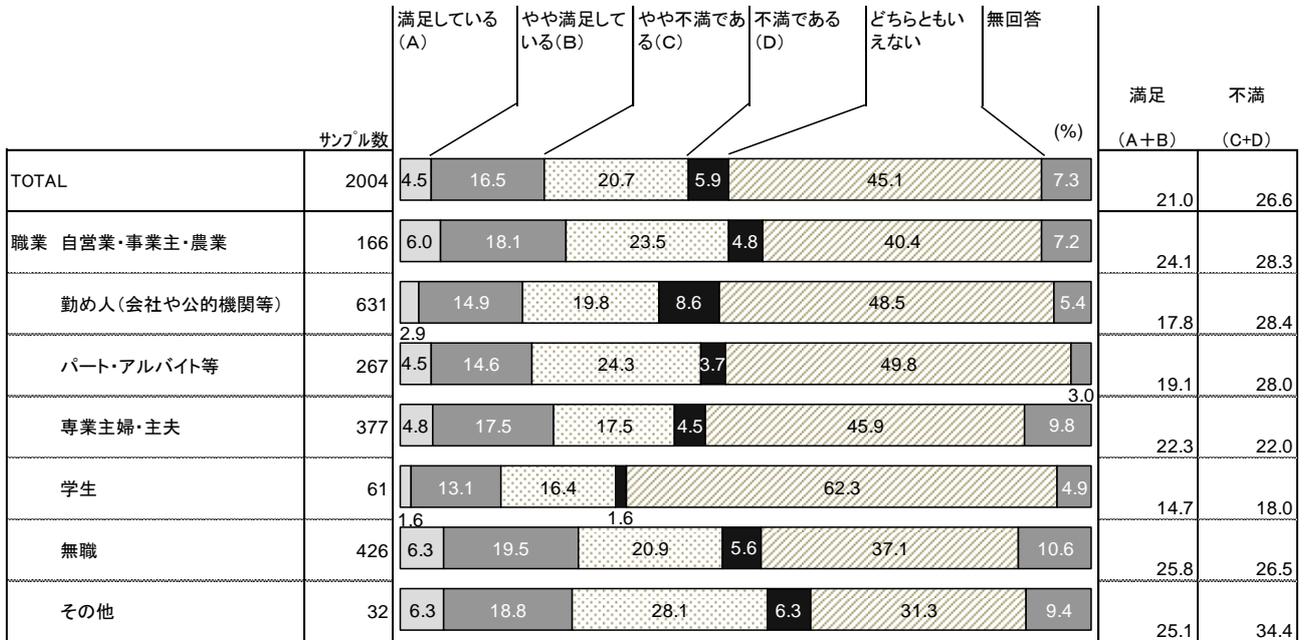
年代別に見ると、『70歳以上』で満足している合計が多くなっており、30.2%となる。一方、30歳代から60歳代までは不満である合計が満足している合計より多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



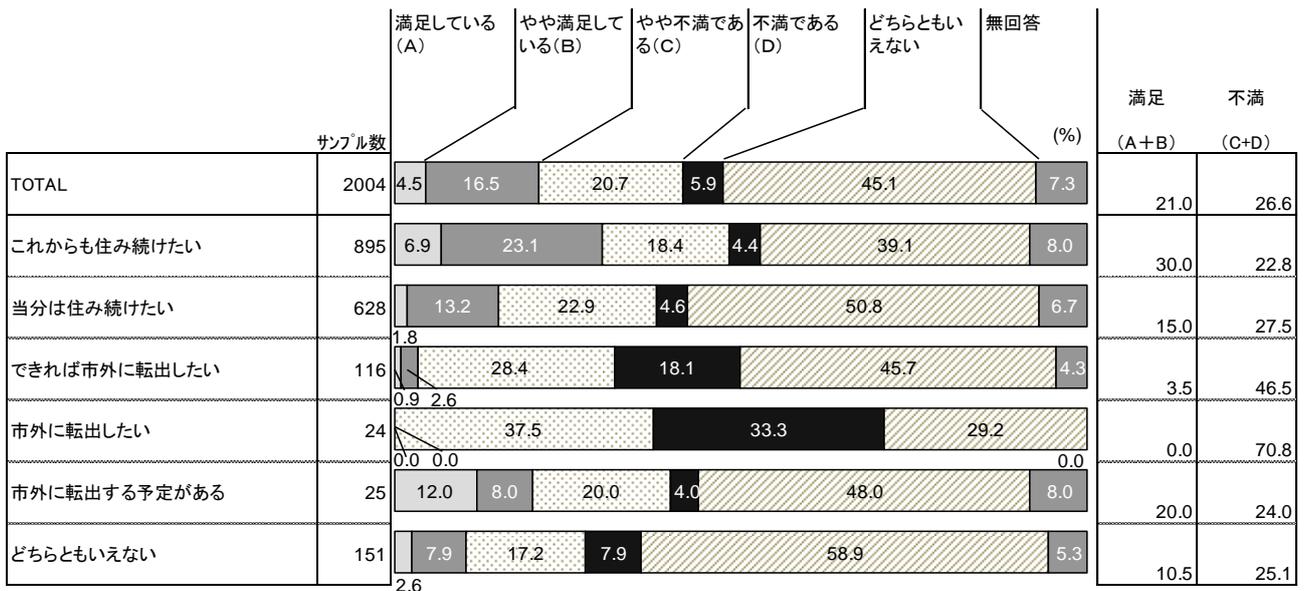
<職業別>

職業別で見ると、『無職』で「満足している」(6.3%)、「やや満足している」(19.5%) がそれぞれ多く、「満足している」「やや満足している」を合わせた満足している合計は25.8%と最も多くなっている。『自営業・事業主・農業』も同様に満足している合計が24.1%と多い。一方で、「不満である」「やや不満である」を合わせた不満である合計は、『勤め人(会社や公的機関等)』、『自営業・事業主・農業』、『パート・アルバイト等』が多くなっている(28.4%、28.3%、28.0%)。



<継続居住意向別>

継続居住意向別で見ると、『これからも住み続けたい』と答えた方で、「満足している」「やや満足している」を合わせた満足している合計が30.0%と多くなっている。

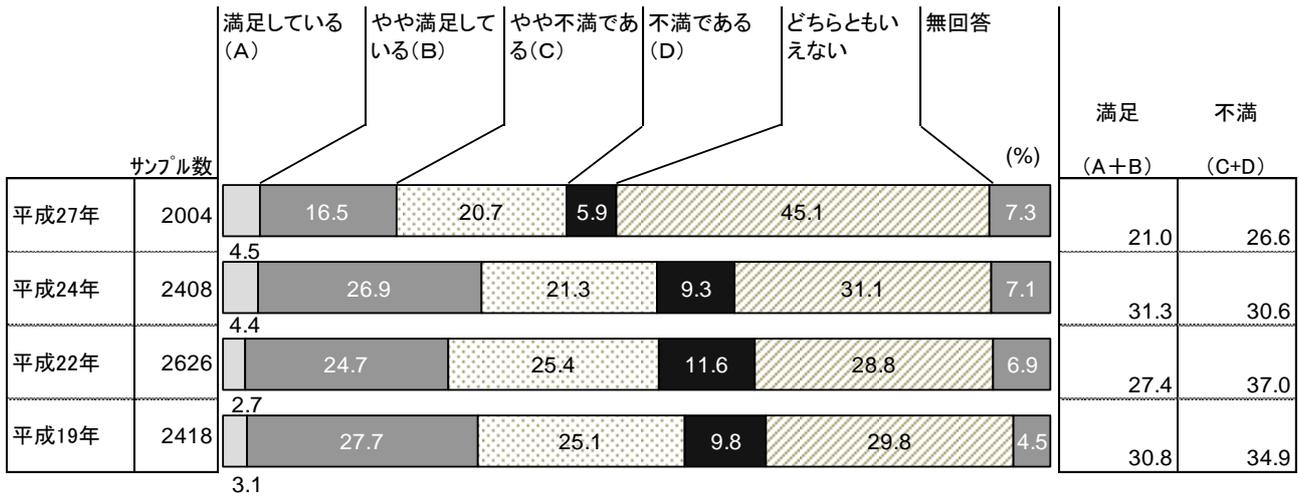


<経年比較>

平成27年は、「満足している」「やや満足している」を合わせた満足している合計が21.0%となっており、平成24年（「満足している」「やや満足している」合わせて31.3%）と比べて10.3ポイント低くなっている。

また、平成27年は「不満である」「やや不満である」を合わせた不満である合計が26.6%となっており、平成24年（「不満である」「やや不満である」合わせて30.6%）と比べて4.0ポイント少なくなっている。

一方で、平成27年では「どちらともいえない」が45.1%と、平成24年（31.1%）と比べて14.0ポイント高くなっている。



【問 12】 あなたは、以下に示した西東京市の市政について、「現在の満足度」と「今後の重要度」をどのようにお考えですか。各項目の満足度と重要度をそれぞれお答えください。(〇は1つずつ)

■分野別

西東京市の市政に対する分野別の『現在の満足度』平均ポイントでは、「行政運営」が0.24ポイントで最も高く、次いで「芸術文化」が0.16ポイントとなっている。最もポイントが低いのは「まちづくり」の-0.30ポイントで、第1位の「行政運営」との差は0.54ポイントとなっている。

西東京市の市政に対する分野別の『今後の重要度』平均ポイントでは、「まちづくり」が1.30ポイントで最も高く、次いで「子ども」が1.25ポイントとなっている。最もポイントが低いのは「市民参加」の0.52ポイントで、第1位の「まちづくり」との差は0.78ポイントとなっている。

『満足度』をY軸に、『重要度』をX軸にとり、各項目の平均ポイントをプロットすると、『満足度』は中間下よりに、『重要度』は高い方に集中している。また、『満足度』と『重要度』の別に、全ての項目の平均ポイントを元にCS分析の座標軸を求めると、『満足度』=-0.05、『重要度』=1.05となる。

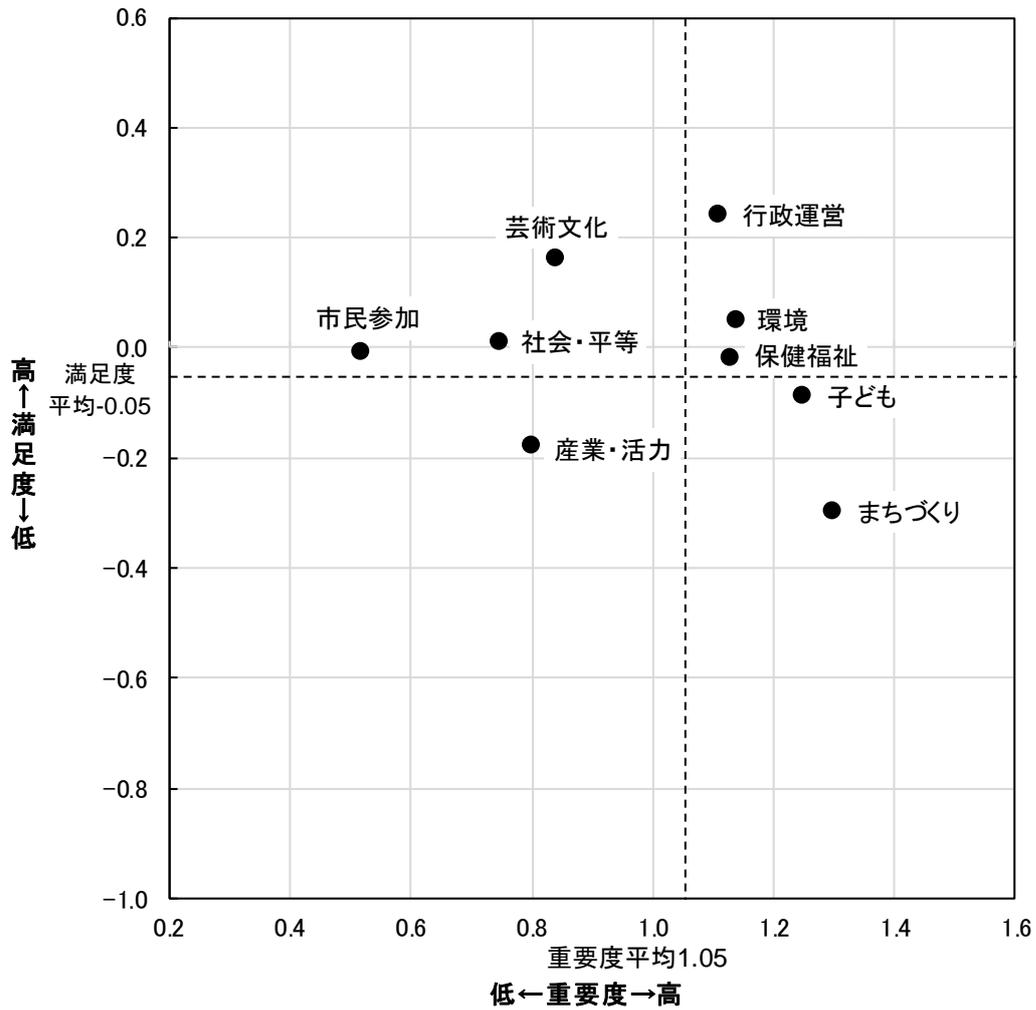
座標軸を元に、各項目間の相対的な関係を4つの方向性(ゾーン)で見ると、重点維持分野には、「行政運営」「環境」「保健福祉」が分類され、重点改善分野には、「子ども」「まちづくり」が分類される。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	行政運営	0.24
2	芸術文化	0.16
3	環境	0.05
4	社会・平等	0.01
5	市民参加	-0.01
6	保健福祉	-0.02
7	子ども	-0.09
8	産業・活力	-0.18
9	まちづくり	-0.30

順位	今後の重要度	平均
1	まちづくり	1.30
2	子ども	1.25
3	環境	1.14
4	保健福祉	1.13
5	行政運営	1.11
6	芸術文化	0.84
7	産業・活力	0.80
8	社会・平等	0.75
9	市民参加	0.52

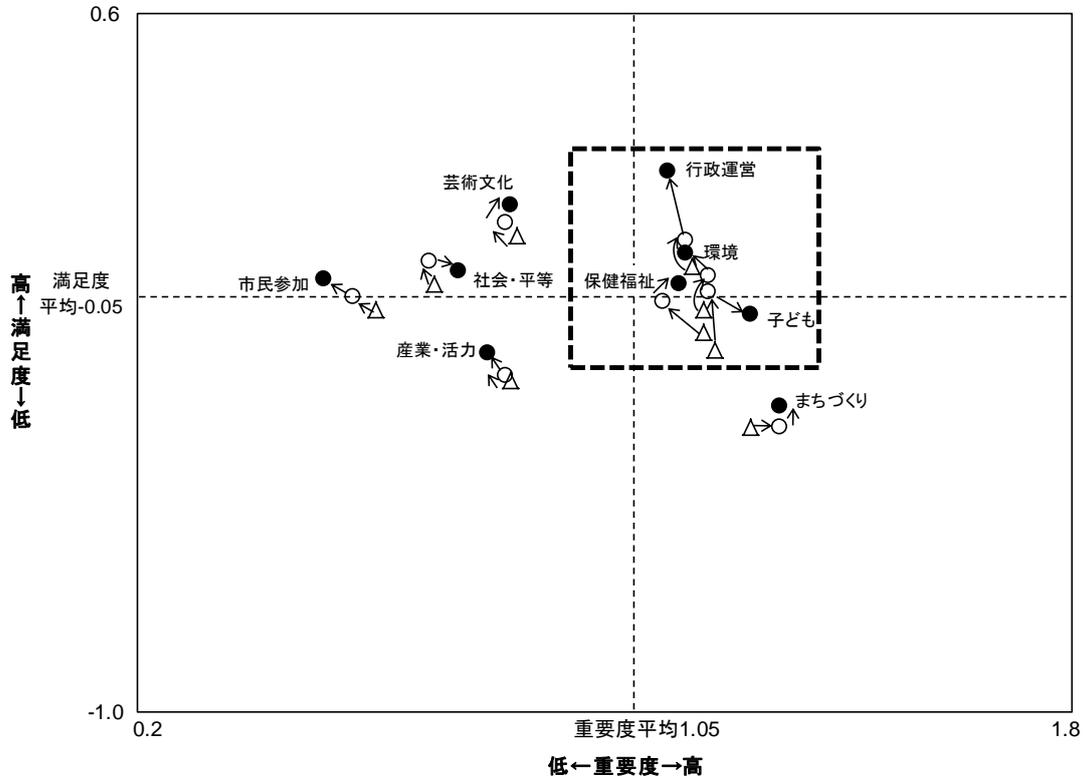
<CS分析>



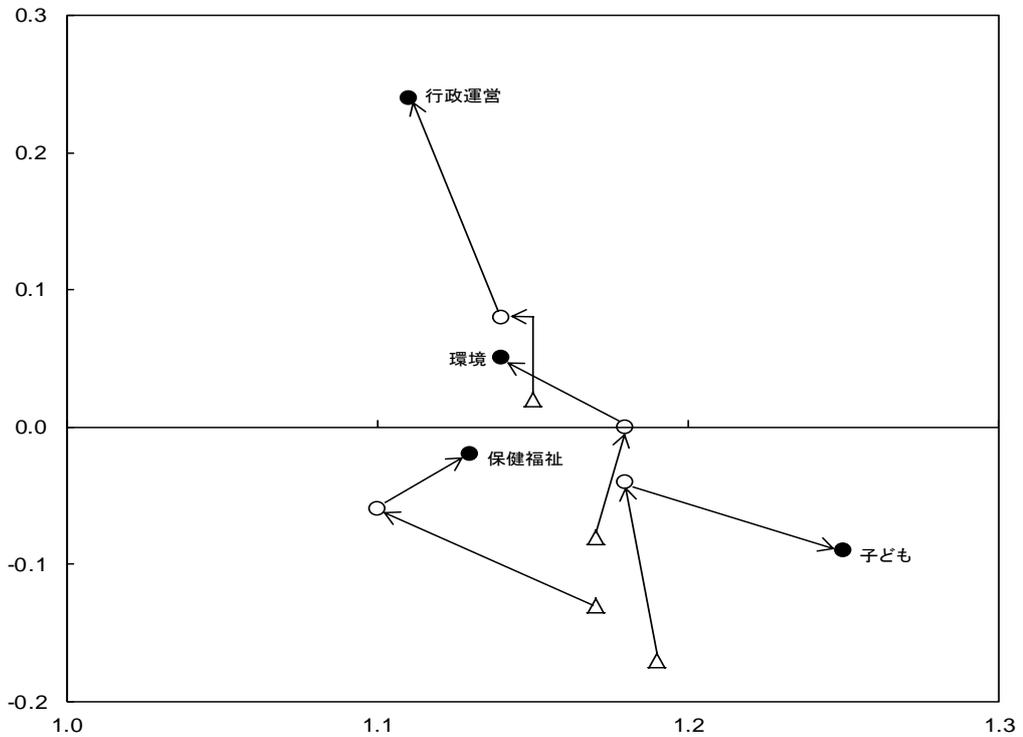
<p>D: 維持分野</p> <p>芸術文化 社会・平等 市民参加</p>	<p>C: 重点維持分野</p> <p>行政運営 環境 保健福祉</p>
<p>B: 改善分野</p> <p>産業・活力</p>	<p>A: 重点改善分野</p> <p>子ども まちづくり</p>

<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

平成27年と平成24年を比較すると、「社会・平等」「子ども」を除いて、満足度については上昇している。また、重要度については、「社会・平等」「子ども」「芸術文化」「保健福祉」で上昇している。



<CS分析2 3カ年比較 点線部拡大図>



■ 市民参加

【市民参加】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「市民が主体のコミュニティ活動への支援」が0.03ポイントで最も高くなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは、「まちづくりや市政への市民参画の推進」が0.72ポイントで最も高くなっているが、全体の平均を下回っている。

CS分析では、維持分野に「市民が主体のコミュニティ活動への支援」「ボランティアや市民活動団体の育成・支援活動への参加促進」「NPO活動に対する支援」が分類され、改善分野に「まちづくりや市政への市民参画の推進」が分類される。

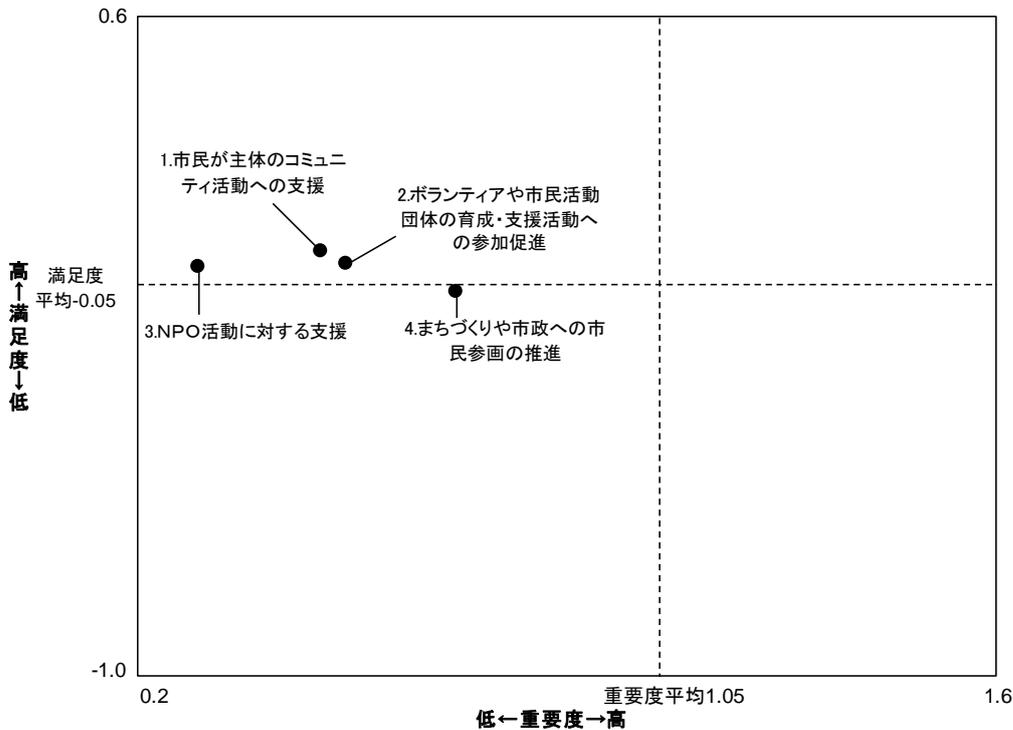
『満足度』の評価については、全ての項目において「わからない」が60%を越えている。

<平均ポイント順位>

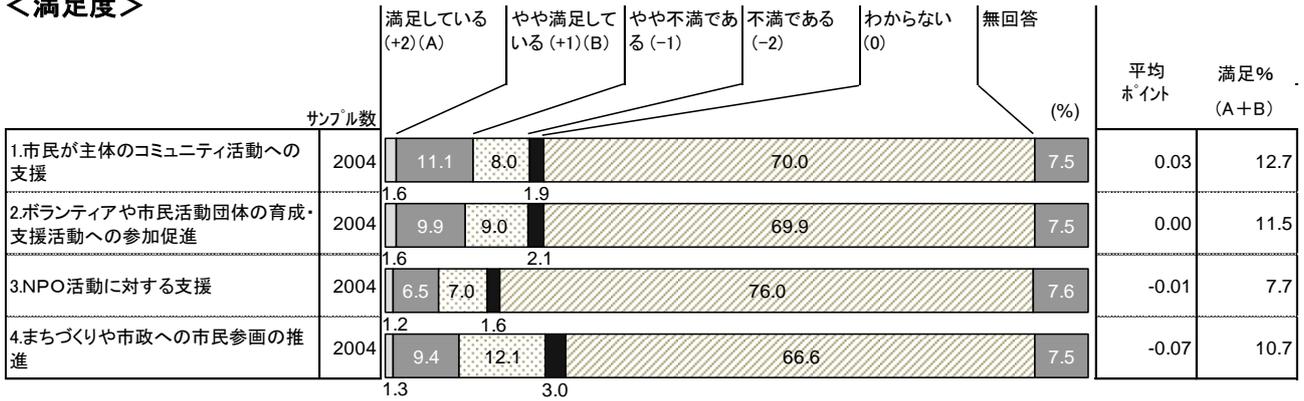
順位	現在の満足度	平均
1	1. 市民が主体のコミュニティ活動への支援	0.03
2	2. ボランティアや市民活動団体の育成・支援活動への参加促進	0.00
3	3. NPO活動に対する支援	-0.01
4	4. まちづくりや市政への市民参画の推進	-0.07

順位	今後の重要度	平均
1	4. まちづくりや市政への市民参画の推進	0.72
2	2. ボランティアや市民活動団体の育成・支援活動への参加促進	0.54
3	1. 市民が主体のコミュニティ活動への支援	0.50
4	3. NPO活動に対する支援	0.30

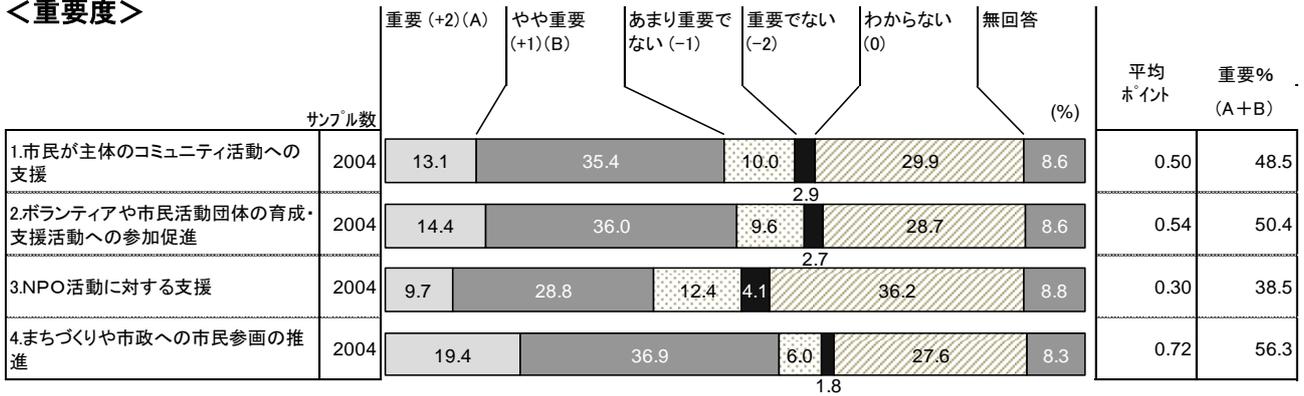
<CS分析>



<満足度>



<重要度>

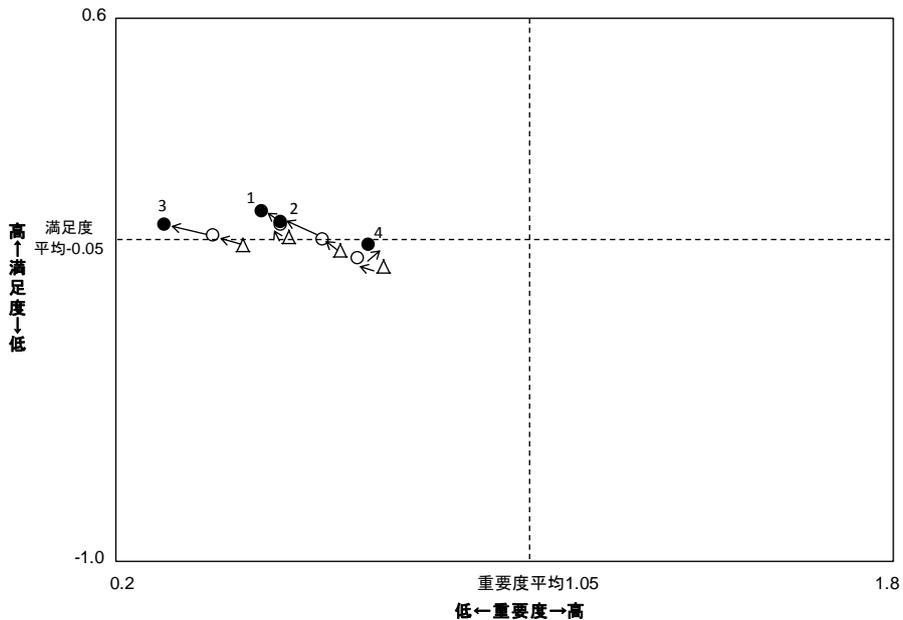


<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

全体的に満足度は上昇傾向となっている。

※平成24年調査からの設問の変更

「ボランティア活動への参加促進」→「ボランティアや市民活動団体の育成・支援活動へ参加促進」へ変更。



- 1: 市民が主体のコミュニティ活動への支援
- 2: ボランティアや市民活動団体の育成・支援活動への参加促進
- 3: NPO活動に対する支援
- 4: まちづくりや市政への市民参画の推進

■ 社会・平等

【社会・平等】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「平和に関する啓発活動や学習活動の推進」「人権尊重・人権教育の推進」「外国籍市民へのサポートや国際交流の推進」が0.02ポイントで並んでいる。

『今後の重要度』平均ポイントでは、「人権尊重・人権教育の推進」が0.88ポイントで最も高くなっているが、平均を下回っている。

CS分析では、維持分野に4つの施策全てが分類される。

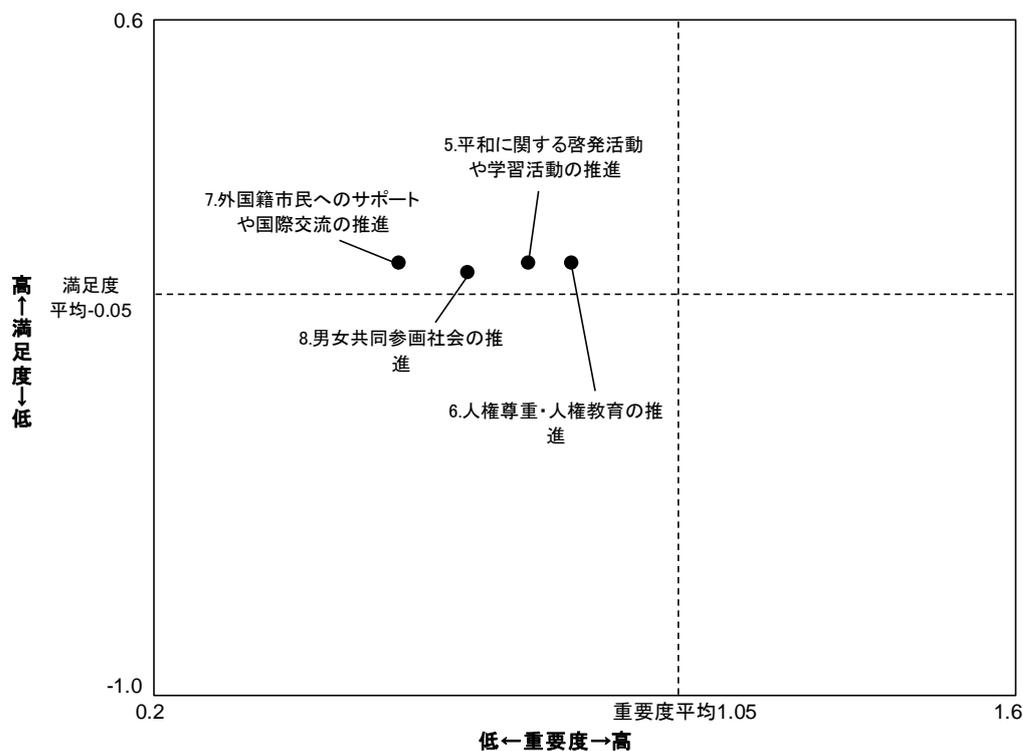
『満足度』の評価については、全ての項目において「わからない」が60.0%を超えており、「外国籍市民へのサポートや国際交流の推進」、「男女共同参画社会の推進」で多くなっている（外国籍市民へのサポートや国際交流の推進71.6%、男女共同参画社会の推進68.9%）。

<平均ポイント順位>

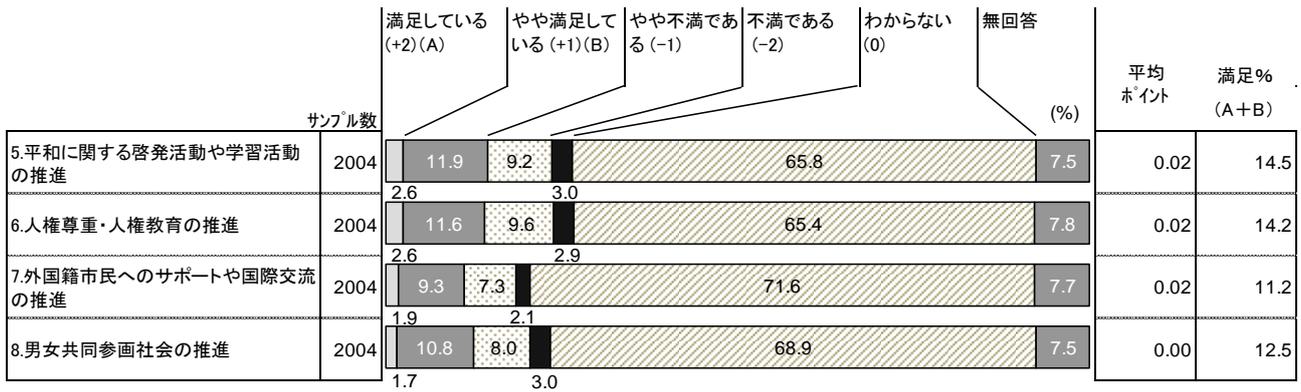
順位	現在の満足度	平均
1	5. 平和に関する啓発活動や学習活動の推進	0.02
1	6. 人権尊重・人権教育の推進	0.02
1	7. 外国籍市民へのサポートや国際交流の推進	0.02
4	8. 男女共同参画社会の推進	0.00

順位	今後の重要度	平均
1	6. 人権尊重・人権教育の推進	0.88
2	5. 平和に関する啓発活動や学習活動の推進	0.81
3	8. 男女共同参画社会の推進	0.71
4	7. 外国籍市民へのサポートや国際交流の推進	0.60

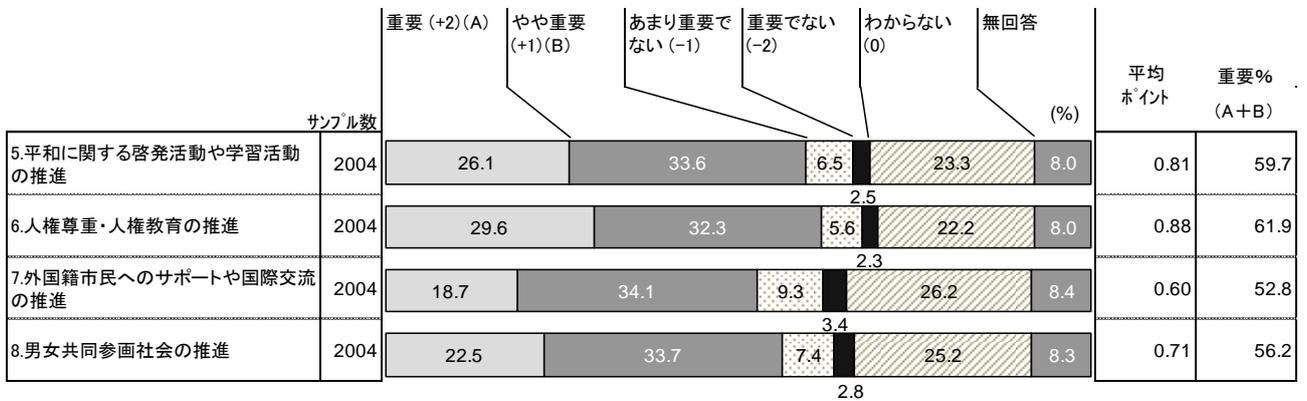
<CS分析>



<満足度>



<重要度>



<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

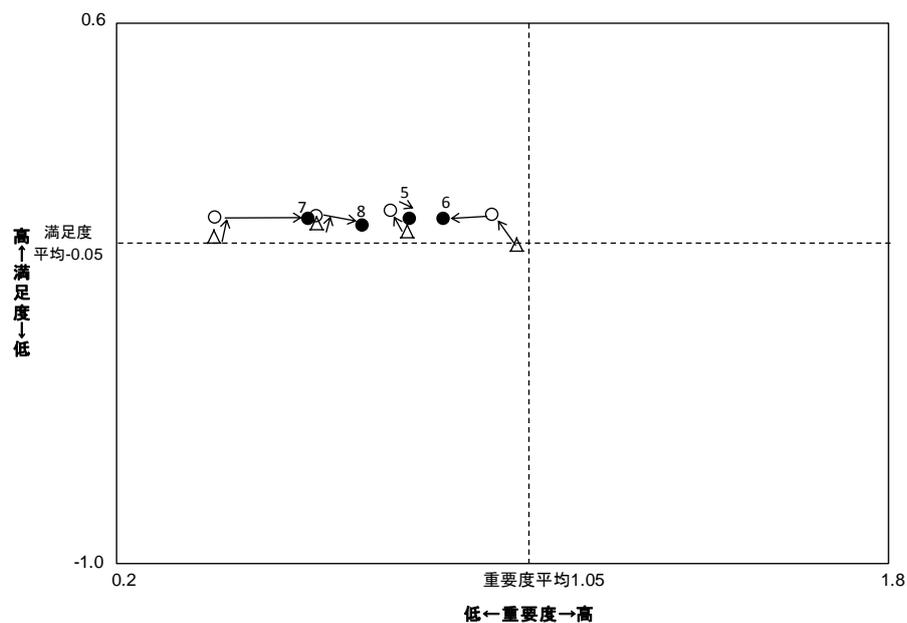
『満足度』については、「外国籍市民へのサポートや国際交流の推進」を除き、全て下降している。

「平和に関する啓発活動や学習活動の推進」は、『満足度』が0.04ポイントから0.02ポイントに下降しているが、『重要度』は0.77から0.81に上昇している。また、「人権尊重・人権教育の推進」は、『満足度』が0.03ポイントから0.02ポイントに、『重要度』は0.98ポイントから0.88ポイントに下降している。

※平成24年調査からの設問の変更

「人権擁護・教育の推進」 → 「人権尊重・人権教育の推進」へ変更。

「在日外国人への生活支援など国際交流の推進」 → 「外国籍市民へのサポートや国際交流の推進」へ変更。



- 5: 平和に関する啓発活動や学習活動の推進
- 6: 人権尊重・人権教育の推進
- 7: 外国籍市民へのサポートや国際交流の推進
- 8: 男女共同参画社会の推進

■ 行政運営

【行政運営】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「市報の内容」が0.52ポイントで最も高くなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは、「市の窓口・電話での職員の対応」が1.28ポイントで最も高く、次いで「健全な自治体経営と財政基盤の強化」(1.25ポイント)、「市の情報開示・情報公開」(1.21ポイント)となっている。

CS分析では、重点維持分野に「市の情報開示・情報公開」「市報の内容」「市の窓口・電話での職員の対応」が分類され、重点改善分野に「健全な自治体経営と財政基盤の強化」が分類される。

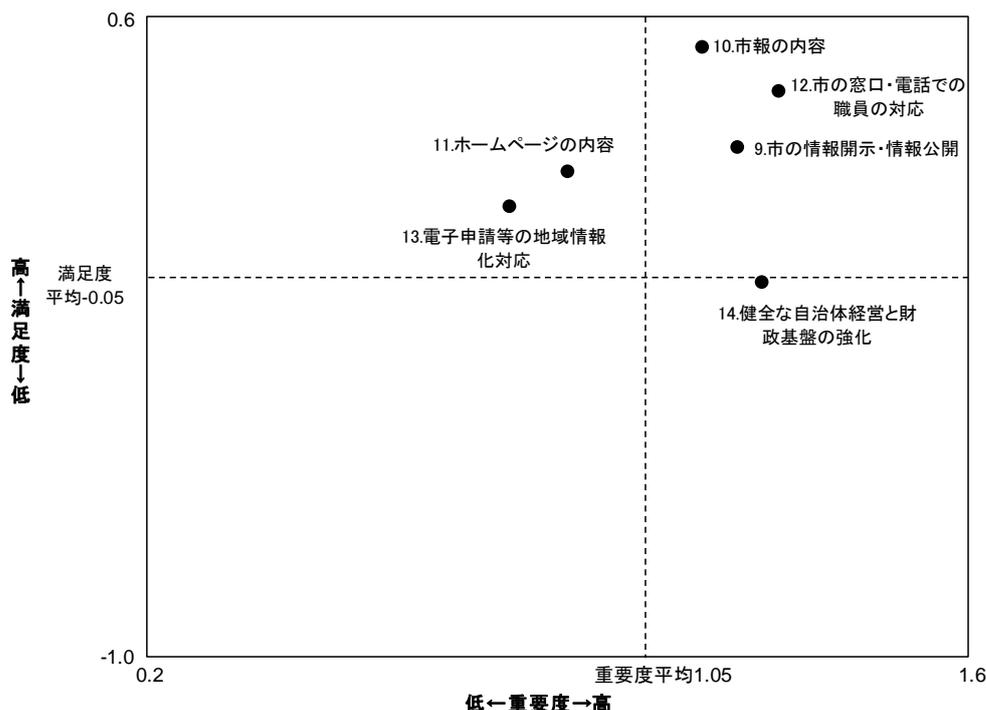
『満足度』の評価については、「わからない」が「電子申請等の地域情報化対応」(58.2%)と「健全な自治体経営と財政基盤の強化」(55.5%)で多くなっている。

<平均ポイント順位>

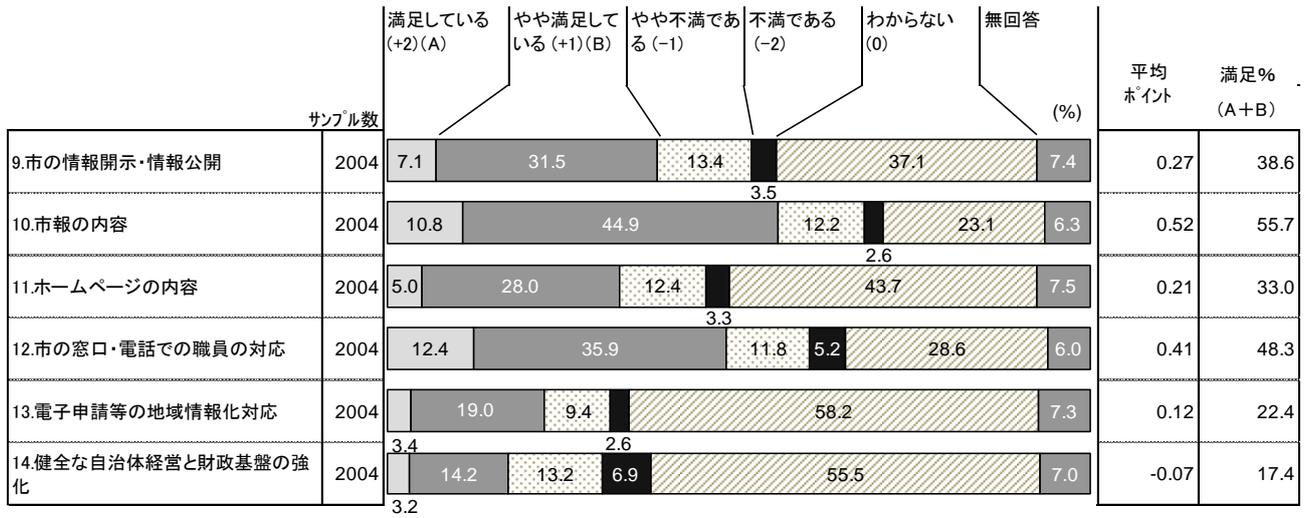
順位	現在の満足度	平均
1	10. 市報の内容	0.52
2	12. 市の窓口・電話での職員の対応	0.41
3	9. 市の情報開示・情報公開	0.27
4	11. ホームページの内容	0.21
5	13. 電子申請等の地域情報化対応	0.12
6	14. 健全な自治体経営と財政基盤の強化	-0.07

順位	今後の重要度	平均
1	12. 市の窓口・電話での職員の対応	1.28
2	14. 健全な自治体経営と財政基盤の強化	1.25
3	9. 市の情報開示・情報公開	1.21
4	10. 市報の内容	1.15
5	11. ホームページの内容	0.92
6	13. 電子申請等の地域情報化対応	0.82

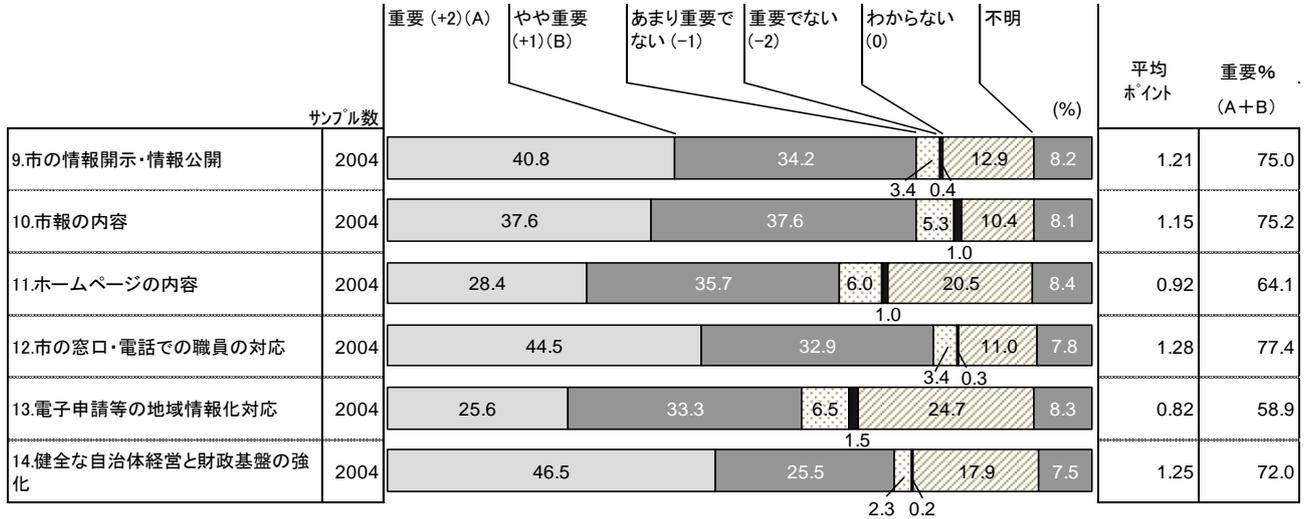
<CS分析>



<満足度>



<重要度>



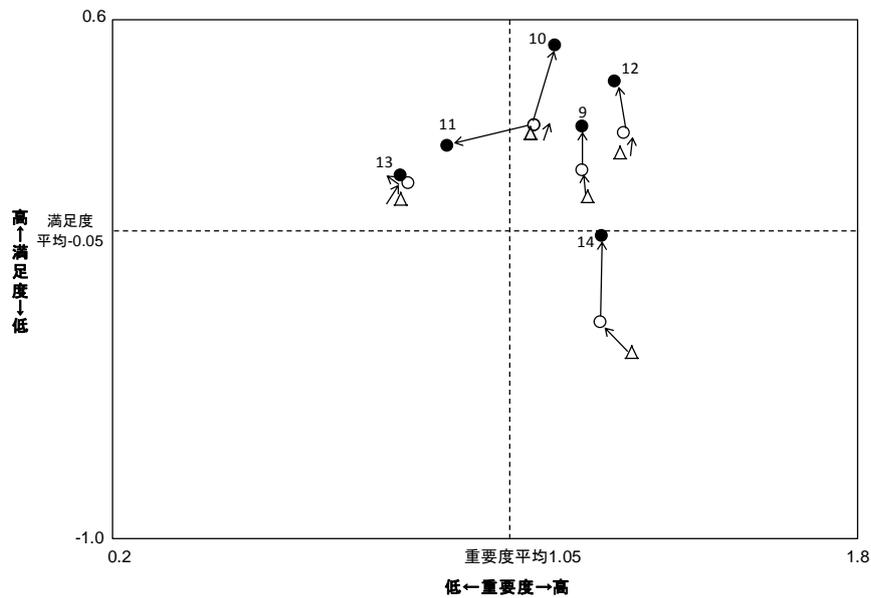
<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

「ホームページの内容」を除き、全体的に『満足度』は上昇傾向となっている。

※平成24年調査からの設問の変更

「市報・ホームページの内容」 → 「市報の内容」「ホームページの内容」に分割。

「市政のスリム化と財政基盤の強化」 → 「健全な自治体経営と財政基盤の強化」へ変更。



- 9:市の情報開示・情報公開
- 10:市報の内容
- 11:ホームページの内容
- 12:市の窓口・電話での職員の対応
- 13:電子申請等の地域情報化対応
- 14:健全な自治体経営と財政基盤の強化

■ 子ども

【子ども】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「地域社会における子どもの参画の推進」が0.00ポイントで最も高くなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは、「市立小・中学校における教育環境の充実」が1.37ポイントで最も高く、次いで「出産・育児などの子育て支援環境の充実」（1.31ポイント）となっている。

CS分析では、重点改善分野に「地域における子どもの居場所づくり」「出産・育児などの子育て支援環境の充実」「市立小・中学校における教育環境の充実」「教育相談機能・支援体制の充実」が分類される。

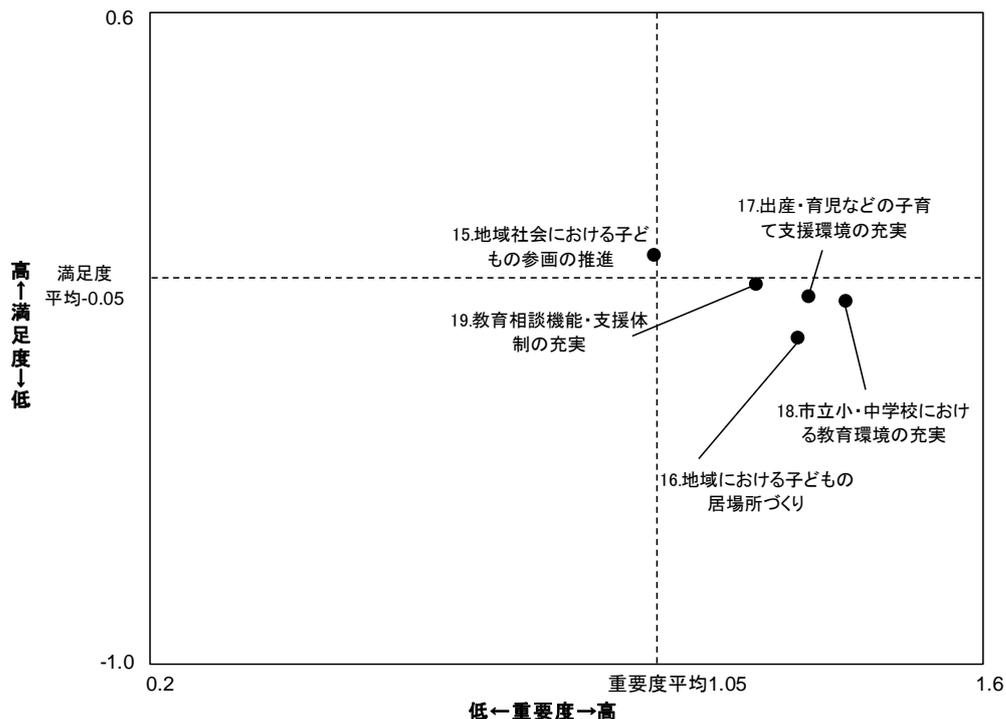
『満足度』の評価については、全ての項目において「わからない」が50.0%を超えている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	15. 地域社会における子どもの参画の推進	0.00
2	19. 教育相談機能・支援体制の充実	-0.07
3	17. 出産・育児などの子育て支援環境の充実	-0.10
4	18. 市立小・中学校における教育環境の充実	-0.11
5	16. 地域における子どもの居場所づくり	-0.20

順位	今後の重要度	平均
1	18. 市立小・中学校における教育環境の充実	1.37
2	17. 出産・育児などの子育て支援環境の充実	1.31
3	16. 地域における子どもの居場所づくり	1.29
4	19. 教育相談機能・支援体制の充実	1.22
5	15. 地域社会における子どもの参画の推進	1.05

<CS分析>



<満足度>

項目	サンプル数	満足度						平均 ポイント	満足% (A+B)
		満足している (+2)(A)	やや満足して いる(+1)(B)	やや不満であ る(-1)	不満である (-2)	わからない (0)	無回答		
15.地域社会における子どもの参画の 推進	2004	13.5	11.5	62.6	7.9	1.8	2.7	0.00	15.3
16.地域における子どもの居場所づくり	2004	11.5	15.9	9.2	53.6	2.0	7.7	-0.20	13.5
17.出産・育児などの子育て支援環境 の充実	2004	12.9	13.1	6.0	58.0	1.6	8.3	-0.10	14.5
18.市立小・中学校における教育環境の 充実	2004	13.3	14.3	6.8	55.2	2.3	8.0	-0.11	15.6
19.教育相談機能・支援体制の充実	2004	11.4	10.8	4.8	63.3	1.4	8.2	-0.07	12.8

<重要度>

項目	サンプル数	重要度						平均 ポイント	重要% (A+B)
		重要(+2)(A)	やや重要 (+1)(B)	あまり重要で ない(-1)	重要でない (-2)	わからない (0)	無回答		
15.地域社会における子どもの参画の 推進	2004	35.6	32.4	5.3	17.4	8.1	1.1	1.05	68.0
16.地域における子どもの居場所づくり	2004	48.0	26.7	14.0	7.9	2.5	0.8	1.29	74.7
17.出産・育児などの子育て支援環境 の充実	2004	50.2	23.4	15.1	8.2	2.2	0.9	1.31	73.6
18.市立小・中学校における教育環境の 充実	2004	53.6	21.8	13.9	8.1	2.0	0.6	1.37	75.4
19.教育相談機能・支援体制の充実	2004	45.3	26.7	15.8	8.2	3.1	0.8	1.22	72.0

<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

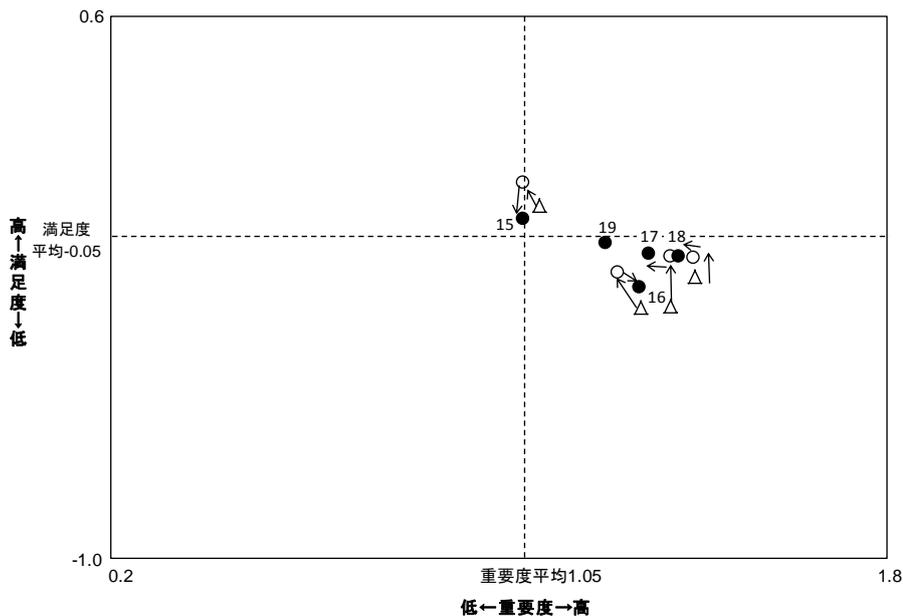
「地域における子どもの居場所づくり」は、『満足度』が-0.16ポイントから-0.20ポイントに下降し、『重要度』は1.25から1.29に上昇している。

※平成24年調査からの設問の変更

「家庭・地域社会における子どもの権利の尊重」→「地域社会における子どもの参画の推進」へ変更。

「市立小・中学校の教育の充実」→「市立小・中学校における教育環境の充実」へ変更。

「教育相談機能・支援体制の充実」は新設。



- 15:地域社会における子どもの参画の推進
- 16:地域における子どもの居場所づくり
- 17:出産・育児などの子育て支援環境の充実
- 18:市立小・中学校における教育環境の充実
- 19:教育相談機能・支援体制の充実

■ 芸術文化

【芸術文化】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「図書館サービスの充実」が0.31ポイントで最も高くなっている。『今後の重要度』平均ポイントにおいても、「図書館サービスの充実」が1.15ポイントと最も高くなっているが、他の項目は平均を下回っている。

CS分析では、重点維持分野に「図書館サービスの充実」が分類され、維持分野に「生涯学習活動の推進」「公民館事業の充実」「スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実」「市民文化祭などの文化芸術活動の充実」が分類される。

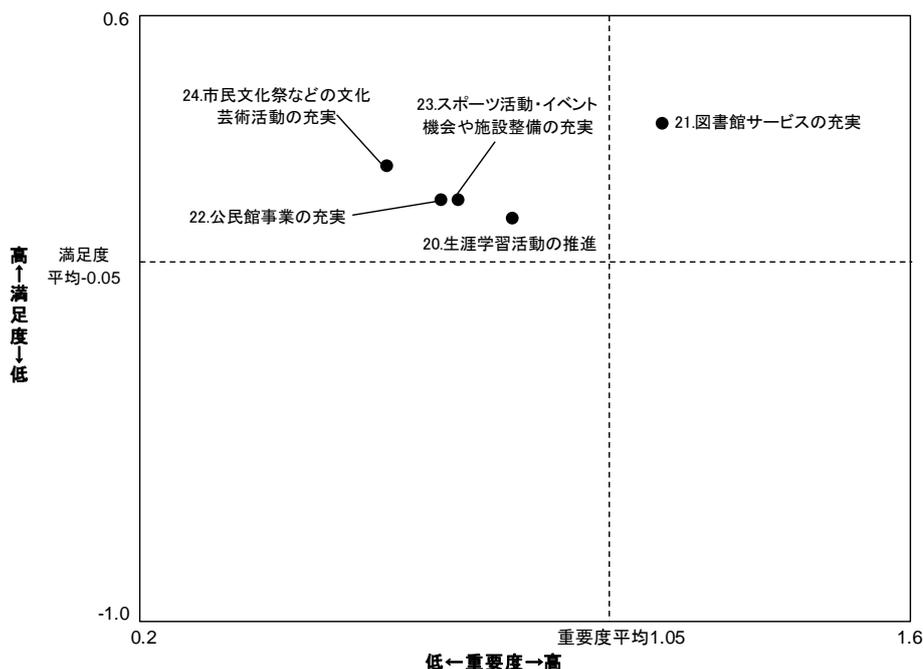
『満足度』の評価については、「満足している」「やや満足している」を合わせた満足している合計が最も多いのは「図書館サービスの充実」で43.6%となっている。一方、満足している合計が最も少ないのは「生涯学習活動の推進」で「満足している」「やや満足している」の合計は20.6%にとどまっている。なお、「生涯学習活動の推進」や「公民館事業の充実」は、「わからない」が50.0%を超えている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	21. 図書館サービスの充実	0.31
2	24. 市民文化祭などの文化芸術活動の充実	0.20
3	22. 公民館事業の充実	0.11
3	23. スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実	0.11
5	20. 生涯学習活動の推進	0.06

順位	今後の重要度	平均
1	21. 図書館サービスの充実	1.15
2	20. 生涯学習活動の推進	0.88
3	23. スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実	0.78
4	22. 公民館事業の充実	0.75
5	24. 市民文化祭などの文化芸術活動の充実	0.65

<CS分析>



<満足度>

項目	年	サンプル数	満足度 (%)						平均 ポイント	満足% (A+B)
			満足している (+2)(A)	やや満足して いる(+1)(B)	やや不満であ る(-1)	不満である (-2)	わからない (0)	無回答		
20.生涯学習活動の推進	2004		17.7	12.6		56.2	7.8	0.06	20.6	
			2.9	2.8						
21.図書館サービスの充実	2004		9.5	34.1	13.2	5.5	30.9	6.6	0.31	43.6
22.公民館事業の充実	2004		21.3	11.8		51.7	7.4	0.11	25.4	
			4.1	3.7						
23.スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実	2004		24.8	13.4	4.3	46.2	7.3	0.11	28.7	
			3.9							
24.市民文化祭などの文化芸術活動の充実	2004		5.3	24.5	10.0	49.9	7.3	0.20	29.8	
					3.1					

<重要度>

項目	年	サンプル数	重要度 (%)						平均 ポイント	重要% (A+B)
			重要(+2)(A)	やや重要 (+1)(B)	あまり重要で ない(-1)	重要でない (-2)	わからない (0)	無回答		
20.生涯学習活動の推進	2004		25.5	41.0		7.6	15.5	8.5	0.88	66.5
						1.8				
21.図書館サービスの充実	2004		36.8	39.4		5.1	10.3	7.7	1.15	76.2
						0.7				
22.公民館事業の充実	2004		23.1	38.3	11.0		17.1	8.1	0.75	61.4
						2.3				
23.スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実	2004		24.0	39.7	11.0		15.2	7.7	0.78	63.7
						2.4				
24.市民文化祭などの文化芸術活動の充実	2004		20.6	38.5	13.1		16.5	8.0	0.65	59.1
						3.4				

<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

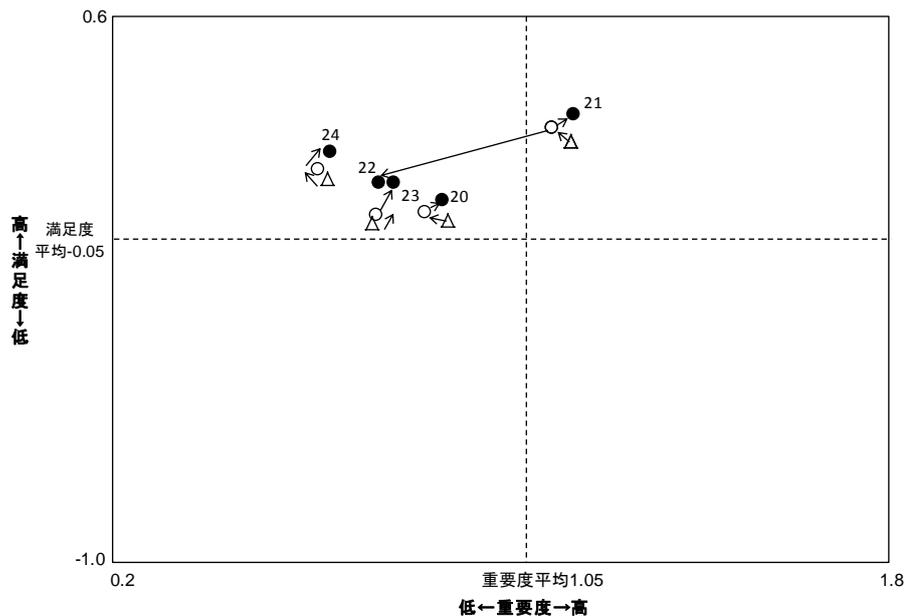
『満足度』は、「公民館事業の充実」を除き、全体的に上昇している。「生涯学習活動の推進」は、『満足度』が0.03ポイントから0.06ポイントに上昇し、『重要度』は0.84ポイントから0.88ポイントに上昇している。

※平成24年調査からの設問の変更

「生涯学習活動の充実」→「生涯学習活動の推進」へ変更。

「図書館・公民館利用の充実」→「図書館サービスの充実」「公民館事業の充実」に分割。

「市民文化祭などの芸術・文化活動の充実」→「市民文化祭などの文化芸術活動の充実」へ変更。



- 20: 生涯学習活動の推進
- 21: 図書館サービスの充実
- 22: 公民館事業の充実
- 23: スポーツ活動・イベント機会や施設整備の充実
- 24: 市民文化祭などの文化芸術活動の充実

■ 保健福祉

【保健福祉】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「健康づくりの支援など健康事業の充実」が0.10ポイントで最も高く、「暮らしの相談窓口の充実」を除くその他の項目はいずれもマイナスポイントとなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは、「地域医療体制の整備」が1.40ポイントで最も高く、最も低い「団塊の世代や高齢者の生きがいがづくりの充実」との差は0.48ポイントとなっている。

CS分析では、重点維持分野に「地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進」「介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実」「地域生活支援などの障害者福祉の充実」「社会保障（生活保護・各種保険）制度の運営」「健康づくりの支援など健康事業の充実」「地域医療体制の整備」が分類される。

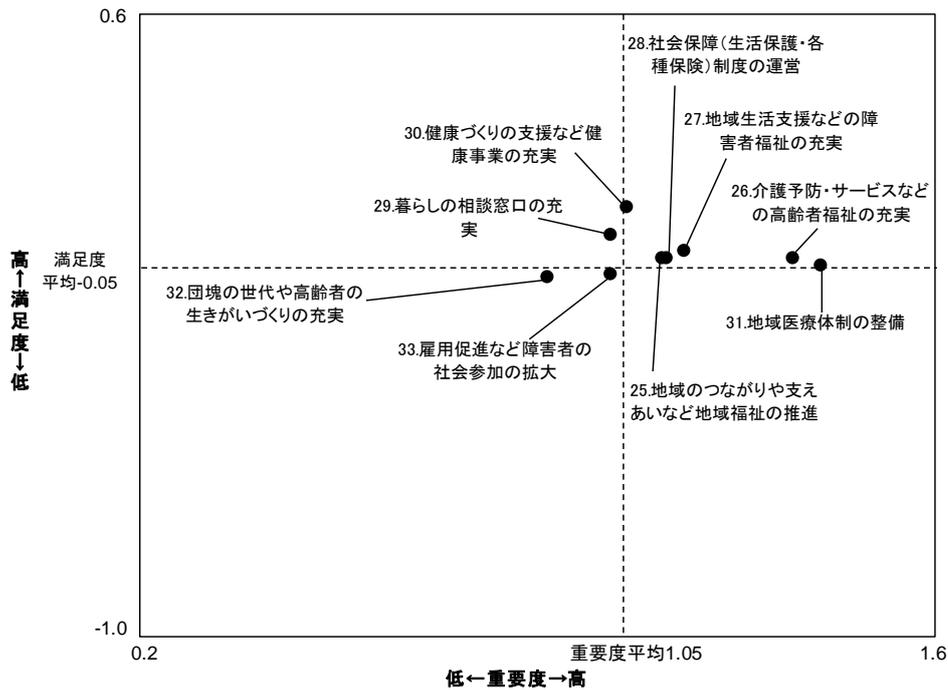
『満足度』の評価については、「地域医療体制の整備」を除き、全体的に「わからない」が50.0%を超えている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	30. 健康づくりの支援など健康事業の充実	0.10
2	29. 暮らしの相談窓口の充実	0.03
3	27. 地域生活支援などの障害者福祉の充実	-0.01
4	25. 地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進	-0.03
4	26. 介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実	-0.03
4	28. 社会保障（生活保護・各種保険）制度の運営	-0.03
7	31. 地域医療体制の整備	-0.05
8	33. 雇用促進など障害者の社会参加の拡大	-0.07
9	32. 団塊の世代や高齢者の生きがいがづくりの充実	-0.08

順位	今後の重要度	平均
1	31. 地域医療体制の整備	1.40
2	26. 介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実	1.35
3	27. 地域生活支援などの障害者福祉の充実	1.16
4	28. 社会保障（生活保護・各種保険）制度の運営	1.13
5	25. 地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進	1.12
6	30. 健康づくりの支援など健康事業の充実	1.06
7	29. 暮らしの相談窓口の充実	1.03
7	33. 雇用促進など障害者の社会参加の拡大	1.03
9	32. 団塊の世代や高齢者の生きがいがづくりの充実	0.92

<CS分析>



<満足度>

項目	サンプル数	満足度 (%)					平均ポイント	満足% (A+B)
		満足している (+2) (A)	やや満足している (+1) (B)	やや不満である (-1)	不満である (-2)	わからない (0)		
25.地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進	2004	16.4	15.5	4.0	54.6	7.3	-0.03	18.6
26.介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実	2004	16.5	14.1	5.9	53.8	6.6	-0.03	19.7
27.地域生活支援などの障害者福祉の充実	2004	12.3	11.0	3.4	63.2	7.7	-0.01	14.7
28.社会保障(生活保護・各種保険)制度の運営	2004	12.7	11.8	4.9	60.1	7.4	-0.03	15.7
29.暮らしの相談窓口の充実	2004	14.2	10.5	3.0	61.7	7.7	0.03	17.0
30.健康づくりの支援など健康事業の充実	2004	20.7	12.3	3.5	51.9	7.7	0.10	24.6
31.地域医療体制の整備	2004	19.4	15.8	7.6	46.5	7.5	-0.05	22.6
32.団塊の世代や高齢者の生きがいづくりの充実	2004	12.0	13.8	4.5	60.7	7.0	-0.08	13.9
33.雇用促進など障害者の社会参加の拡大	2004	9.6	9.4	4.6	67.5	7.6	-0.07	11.0

<重要度>

サンプル数	重要(+2)(A)	やや重要(+1)(B)	あまり重要でない(-1)	重要でない(-2)	わからない(0)	無回答	平均ポイント	重要%(A+B)
25.地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進	34.7	39.6	3.8	12.3	8.3	1.12	74.3	
26.介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実	49.5	30.9	2.5	1.0	8.9	1.35	80.4	
27.地域生活支援などの障害者福祉の充実	39.1	34.7	3.7	13.3	8.2	1.16	73.8	
28.社会保障(生活保護・各種保険)制度の運営	39.4	34.0	4.2	12.2	8.0	1.13	73.4	
29.暮らしの相談窓口の充実	32.1	39.4	6.1	12.8	8.1	1.03	71.5	
30.健康づくりの支援などの健康事業の充実	33.7	39.9	6.5	10.2	8.0	1.06	73.6	
31.地域医療体制の整備	51.6	28.8	1.7	9.2	7.8	1.40	80.4	
32.団塊の世代や高齢者の生きがいづくりの充実	31.3	37.1	8.0	12.2	7.8	0.92	68.4	
33.雇用促進など障害者の社会参加の拡大	32.8	36.5	5.2	15.7	8.4	1.03	69.3	

<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

「地域のつながりや支えあいなどの地域福祉の推進」および「介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実」を除き、『満足度』は上昇している。

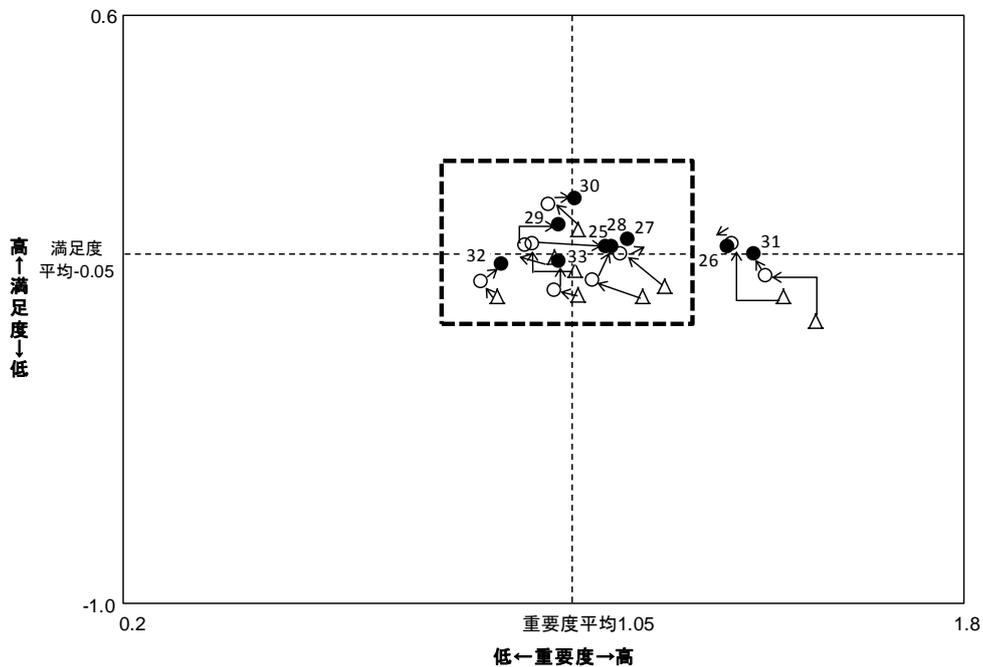
「介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実」は『満足度』が-0.02ポイントから-0.03ポイントに下降し、『重要度』が1.36ポイントから1.35ポイントに下降している。「地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進」は『満足度』は-0.02ポイントから-0.03ポイントに下降しているが、『重要度』は0.98ポイントから1.12ポイントに上昇している。

※平成24年調査からの設問の変更

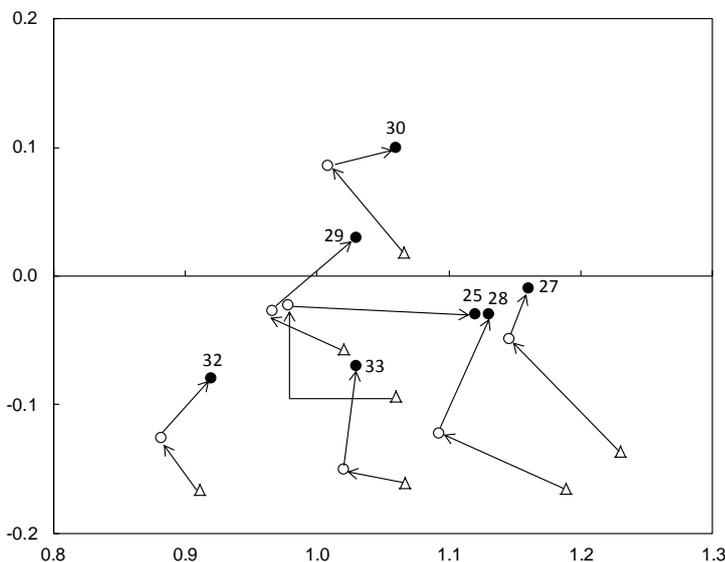
「ボランティア育成など地域福祉の推進」→「地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進」へ変更。

「健康づくりの支援などの保健事業の充実」→「健康づくりの支援などの健康事業の充実」へ変更。

「雇用促進など障害者の社会参加の促進」→「雇用促進など障害者の社会参加の拡大」へ変更。



<CS分析2 3カ年比較 点線部拡大図>



- 25:地域のつながりや支えあいなど地域福祉の推進
- 26:介護予防・サービスなどの高齢者福祉の充実
- 27:地域生活支援などの障害者福祉の充実
- 28:社会保障（生活保護・各種保険）制度の運営
- 29:暮らしの相談窓口の充実
- 30:健康づくりの支援などの健康事業の充実
- 31:地域医療体制の整備
- 32:団塊の世代や高齢者の生きがいづくりの充実
- 33:雇用促進など障害者の社会参加の拡大

■ 環境

【環境】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「ごみの減量化やリサイクルの推進」が0.35ポイントで最も高くなっている。『今後の重要度』平均ポイントにおいても、「ごみの減量化やリサイクルの推進」が1.39ポイントで最も高くなっている。

CS分析では、重点維持分野に「公園・緑地などのみどりの保全・活用」「公園の整備や道路・公共施設の緑化推進」「ごみの減量化やリサイクルの推進」「環境汚染の防止など公害対策の推進」が分類される。

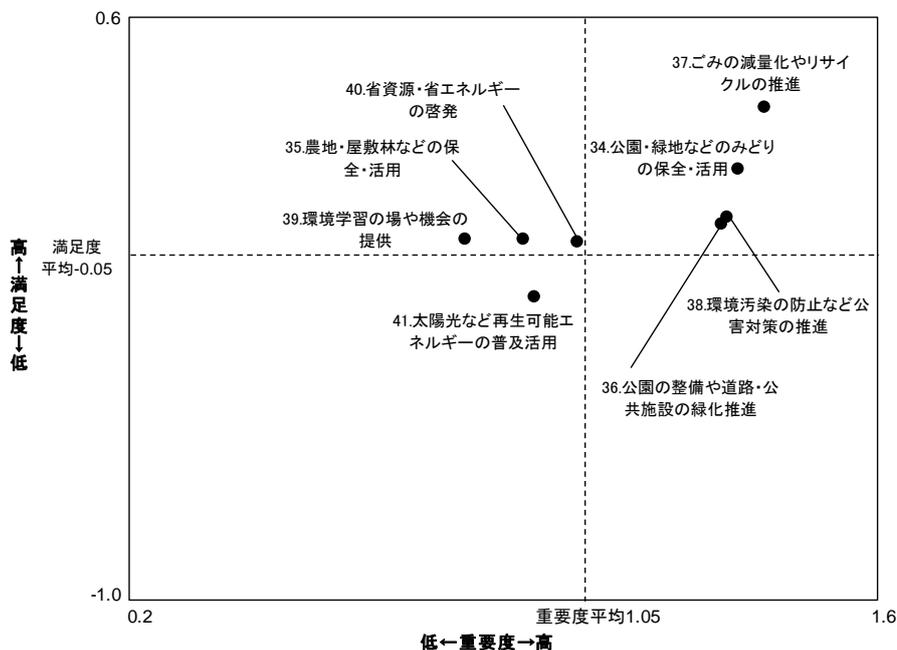
『満足度』の評価については、「環境学習の場や機会の提供」「省資源・省エネルギーの啓発」「太陽光など再生可能エネルギーの普及活用」で、「わからない」が50.0%を超えている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	37. ごみの減量化やリサイクルの推進	0.35
2	34. 公園・緑地などのみどりの保全・活用	0.18
3	38. 環境汚染の防止など公害対策の推進	0.05
4	36. 公園の整備や道路・公共施設の緑化推進	0.03
5	35. 農地・屋敷林などの保全・活用	-0.01
5	39. 環境学習の場や機会の提供	-0.01
7	40. 省資源・省エネルギーの啓発	-0.02
8	41. 太陽光など再生可能エネルギーの普及活用	-0.17

順位	今後の重要度	平均
1	37. ごみの減量化やリサイクルの推進	1.39
2	34. 公園・緑地などのみどりの保全・活用	1.34
3	38. 環境汚染の防止など公害対策の推進	1.32
4	36. 公園の整備や道路・公共施設の緑化推進	1.31
5	40. 省資源・省エネルギーの啓発	1.04
6	41. 太陽光など再生可能エネルギーの普及活用	0.96
7	35. 農地・屋敷林などの保全・活用	0.94
8	39. 環境学習の場や機会の提供	0.83

<CS分析>



<満足度>

項目	サンプル数	満足度 (%)						平均 ポイント	満足% (A+B)	
		満足している (+2)(A)	やや満足して いる (+1)(B)	やや不満であ る (-1)	不満である (-2)	わからない (0)	無回答			
34.公園・緑地などのみどりの保全・活用	2004	8.6	37.1		20.5	8.6	19.6	5.6	0.18	45.7
35.農地・屋敷林などの保全・活用	2004	4.0	21.2	17.2	6.5		44.6	6.5	-0.01	25.2
36.公園の整備や道路・公共施設の緑化推進	2004	6.8	34.1		22.4	11.2	19.8	5.8	0.03	40.9
37.ごみの減量化やリサイクルの推進	2004	11.3	40.3		15.6	7.0	19.9	5.9	0.35	51.6
38.環境汚染の防止など公害対策の推進	2004		21.2	15.0	4.8		48.4	6.7	0.05	25.1
39.環境学習の場や機会の提供	2004	3.9	15.1	13.1			59.3	7.1	-0.01	17.1
40.省資源・省エネルギーの啓発	2004	2.0	16.3	13.4	5.3		55.1	7.0	-0.02	19.1
41.太陽光など再生可能エネルギーの普及活用	2004	2.8	9.7	14.5	7.7		59.4	6.5	-0.17	11.8

2.1

<重要度>

項目	サンプル数	重要度 (%)						平均 ポイント	重要% (A+B)	
		重要 (+2)(A)	やや重要 (+1)(B)	あまり重要で ない (-1)	重要でない (-2)	わからない (0)	無回答			
34.公園・緑地などのみどりの保全・活用	2004		44.8		39.5		6.1	6.3	1.34	84.3
35.農地・屋敷林などの保全・活用	2004		30.5		37.7		8.9	13.7	0.94	68.2
36.公園の整備や道路・公共施設の緑化推進	2004		43.7		39.8		1.5	5.5	1.31	83.5
37.ごみの減量化やリサイクルの推進	2004		48.8		35.8		3.6	5.5	1.39	84.6
38.環境汚染の防止など公害対策の推進	2004		45.6		35.3		2.5	8.6	1.32	80.9
39.環境学習の場や機会の提供	2004		24.7		40.2		10.9	15.4	0.83	64.9
40.省資源・省エネルギーの啓発	2004		34.6		36.8		7.0	13.2	1.04	71.4
41.太陽光などの再生可能エネルギーの普及活用	2004		34.4		33.8		8.0	14.0	0.96	68.2

2.5

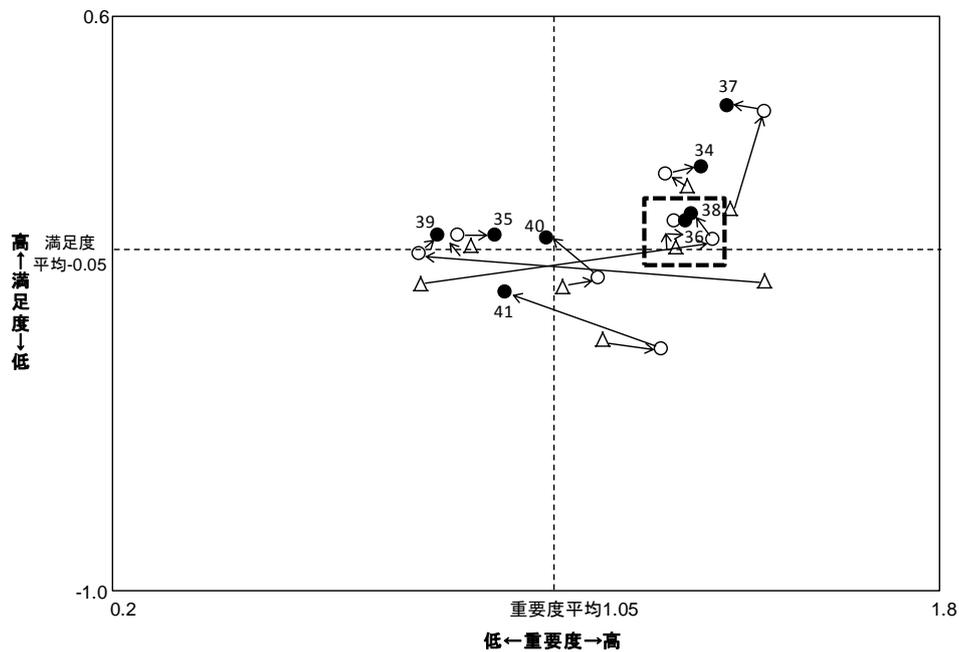
<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

「農地・屋敷林などの保全・活用」「公園の整備や道路・公共施設の緑化推進」を除き、『満足度』は上昇している。

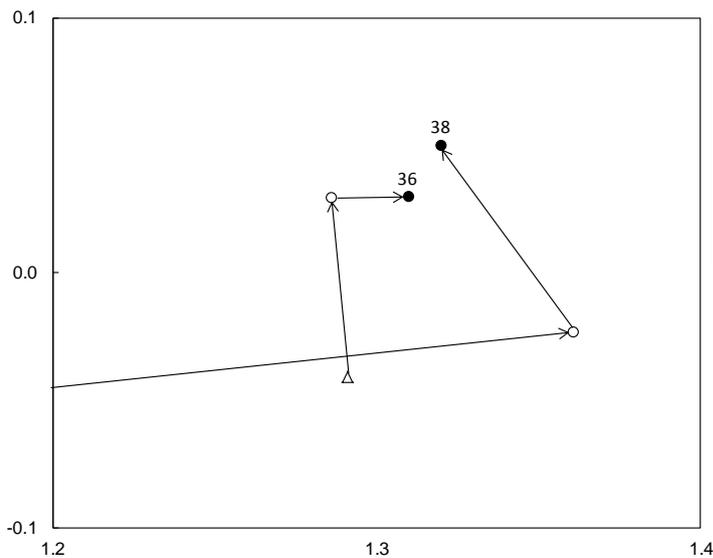
「ごみの減量化やリサイクルの推進」は『満足度』が0.33ポイントから0.35ポイントに上昇し、『重要度』は1.46ポイントから1.39ポイントに下降している。同様に『満足度』が上昇し、『重要度』が下降したのは、「環境汚染の防止など公害対策の推進」「省資源・省エネルギーの啓発」「太陽光など再生可能エネルギーの普及活用」であり、特に「太陽光など再生可能エネルギーの普及活用」の『重要度』は、1.26ポイントから0.96ポイントへ大きく下降している。

※平成24年調査からの設問の変更

「太陽光などの自然エネルギー活用策の充実」→「太陽光などの再生可能エネルギーの普及活用」へ変更。



<CS分析2 3カ年比較 点線部拡大図>



- 34: 公園・緑地などのみどりの保全・活用
- 35: 農地・屋敷林などの保全・活用
- 36: 公園の整備や道路・公共施設の緑化推進
- 37: ごみの減量化やリサイクルの推進
- 38: 環境汚染の防止など公害対策の推進
- 39: 環境学習の場や機会の提供
- 40: 省資源・省エネルギーの啓発
- 41: 太陽光などの再生可能エネルギーの普及活用

■ まちづくり

【まちづくり】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「下水道事業の円滑な推進」が0.17ポイントで最も高くなっており、唯一のプラスポイントとなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは、「大規模地震などへの災害対策」が1.57ポイントで最も高くなっており、最も低い「公共住宅の維持整備」(0.53ポイント)との差は1.04ポイントとなっている。

CS分析では、重点改善分野に「快適で安全な駅周辺の整備」「電線地中化などによる街並み・景観整備」「円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備」「段差解消などの歩きやすい道の整備」「バス路線網などの公共交通の充実」「自転車を利用しやすいまちづくり」「大規模地震などへの災害対策」「集中豪雨等のいつ水対策」「地域パトロール強化などの防犯対策」「緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化」が分類される。

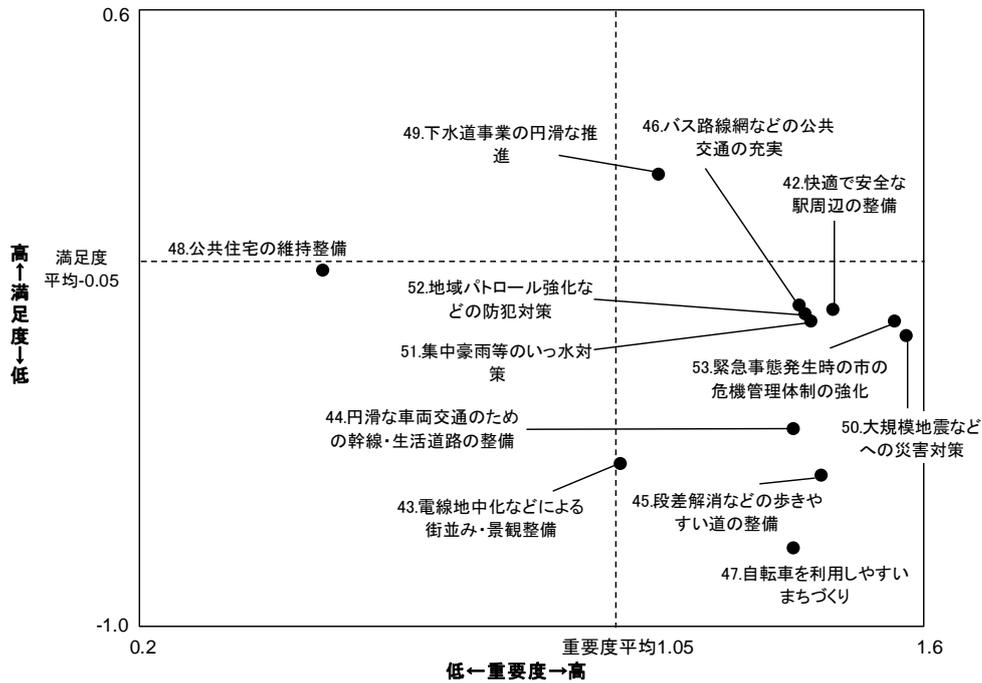
『満足度』の評価については、「わからない」が「公共住宅の維持整備」と「緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化」で50%を越えている。また、『重要度』の評価については、「公共住宅の維持整備」の平均ポイントが0.53であり、唯一平均(1.05ポイント)を下回っている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	49. 下水道事業の円滑な推進	0.17
2	48. 公共住宅の維持整備	-0.08
3	46. バス路線網などの公共交通の充実	-0.17
4	42. 快適で安全な駅周辺の整備	-0.18
5	52. 地域パトロール強化などの防犯対策	-0.19
6	51. 集中豪雨等のいつ水対策	-0.21
6	53. 緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化	-0.21
8	50. 大規模地震などへの災害対策	-0.25
9	44. 円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備	-0.49
10	43. 電線地中化などによる街並み・景観整備	-0.58
11	45. 段差解消などの歩きやすい道の整備	-0.61
12	47. 自転車を利用しやすいまちづくり	-0.80

順位	今後の重要度	平均
1	50. 大規模地震などへの災害対策	1.57
2	53. 緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化	1.55
3	42. 快適で安全な駅周辺の整備	1.44
4	45. 段差解消などの歩きやすい道の整備	1.42
5	51. 集中豪雨等のいつ水対策	1.40
6	52. 地域パトロール強化などの防犯対策	1.39
7	46. バス路線網などの公共交通の充実	1.38
8	44. 円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備	1.37
8	47. 自転車を利用しやすいまちづくり	1.37
10	49. 下水道事業の円滑な推進	1.13
11	43. 電線地中化などによる街並み・景観整備	1.06
12	48. 公共住宅の維持整備	0.53

<CS分析>



<満足度>

項目	サンプル数	満足度 (%)						平均ポイント	満足% (A+B)	
		満足している (+2) (A)	やや満足している (+1) (B)	やや不満である (-1)	不満である (-2)	わからない (0)	無回答 (%)			
42.快適で安全な駅周辺の整備	2004	7.4	32.2		26.5	18.8	9.2	5.9	-0.18	39.6
43.電線地中化などによる街並み・景観整備	2004	2.9	16.6	25.3	25.8	23.0	6.3		-0.58	19.5
44.円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備	2004	3.7	22.9	29.7	23.1	13.7	6.8		-0.49	26.6
45.段差解消などの歩きやすい道の整備	2004	2.8	18.2	34.0	23.4	15.8	5.8		-0.61	21.0
46.バス路線網などの公共交通の充実	2004	7.1	31.1	26.4	17.6	11.7	6.0		-0.17	38.2
47.自転車を利用しやすいまちづくり	2004	2.9	14.1	33.3	30.7	13.0	5.9		-0.80	17.0
48.公共住宅の維持整備	2004	2.7	12.6	12.7	6.1	58.5	7.3		-0.08	15.3
49.下水道事業の円滑な推進	2004	6.0	24.1	11.6	4.2	47.5	6.6		0.17	30.1
50.大規模地震などへの災害対策	2004	2.1	14.7	21.0	10.7	44.9	6.6		-0.25	16.8
51.集中豪雨等のいつ水対策	2004	3.0	15.6	18.8	11.3	44.9	6.4		-0.21	18.6
52.地域パトロール強化などの防犯対策	2004	3.6	20.0	22.2	11.7	36.6	5.9		-0.19	23.6
53.緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化	2004	1.9	12.0	16.6	9.5	54.0	6.0		-0.21	13.9

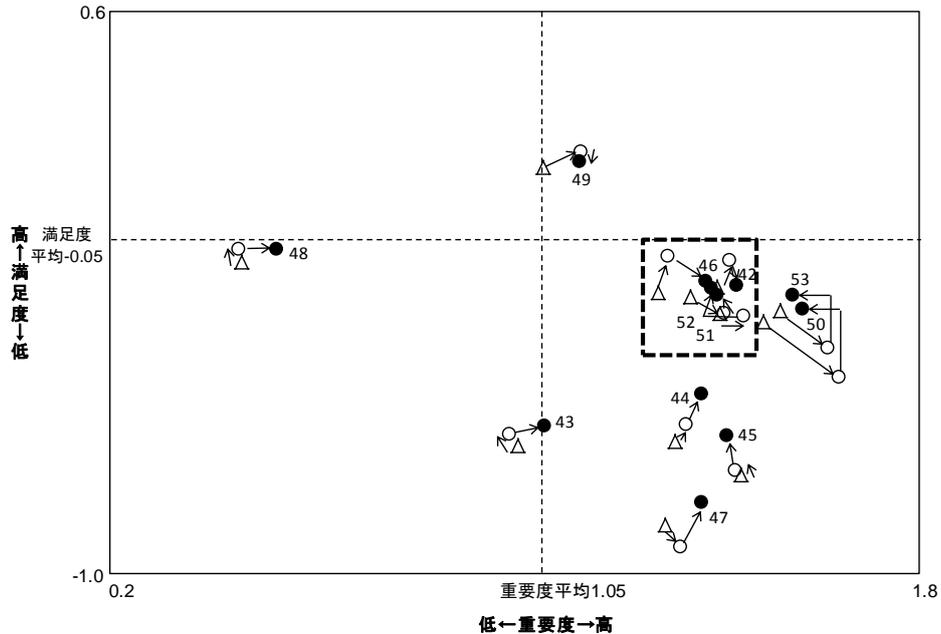
<重要度>

項目	サンプル数	重要度 (%)						平均 ポイント	重要% (A+B)	
		重要 (+2)(A)	やや重要 (+1)(B)	あまり重要で ない (-1)	重要でない (-2)	わからない (0)	無回答			
42. 快適で安全な駅周辺の整備	2004	53.6	32.2			3.1	0.7	3.6	1.44	85.8
43. 電線地中化などによる街並み・景観整備	2004	39.9	34.8	10.2	2.5	3.1	0.7	3.6	1.06	74.7
44. 円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備	2004	51.1	31.6	4.8	2.5	4.8	4.7	7.0	1.37	82.7
45. 段差解消などの歩きやすい道の整備	2004	52.9	32.0	4.0	0.7	4.0	4.0	6.4	1.42	84.9
46. バス路線網などの公共交通の充実	2004	49.8	34.6	3.9	0.6	3.9	3.9	6.8	1.38	84.4
47. 自転車を利用しやすいまちづくり	2004	51.1	32.7	4.0	0.9	4.0	4.7	6.3	1.37	83.8
48. 公共住宅の維持整備	2004	22.6	29.7	14.9	5.2	20.3	1.1	7.3	0.53	52.3
49. 下水道事業の円滑な推進	2004	37.8	36.5	5.4	0.9	12.5	6.9		1.13	74.3
50. 大規模地震などへの災害対策	2004	63.8	21.4	1.8	0.2	6.1	6.7		1.57	85.2
51. 集中豪雨等のいっ水対策	2004	53.7	27.5	3.3	0.6	8.0	6.8		1.40	81.2
52. 地域パトロール強化などの防犯対策	2004	51.2	32.6	3.3	0.6	5.8	6.3		1.39	83.8
53. 緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化	2004	63.5	21.3	1.8	0.5	6.8	6.1		1.55	84.8

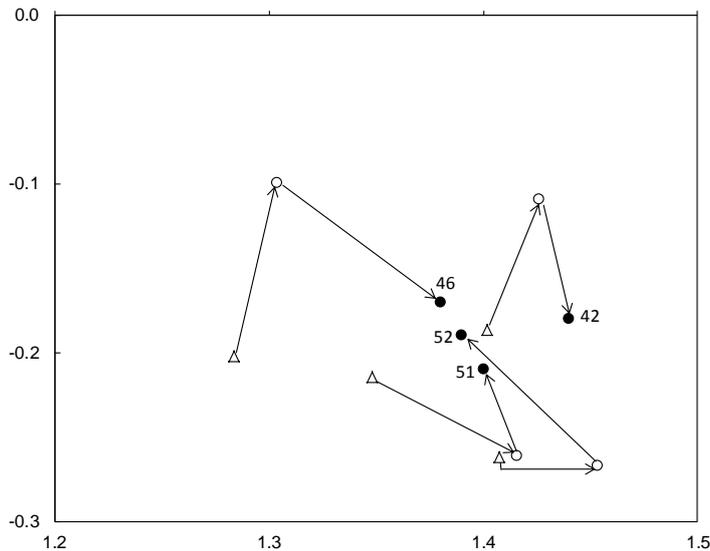
<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

「大規模地震などへの災害対策」は『満足度』が-0.44から-0.25ポイントに上昇し、『重要度』は1.64ポイントから1.57ポイントに下降している。同様に、「緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化」も満足度が-0.36ポイントから-0.21ポイントに上昇し、重要度は1.62ポイントから1.55ポイントに下降している。
 ※平成24年調査からの設問の変更

「大規模地震の防災対策」→「大規模地震などへの災害対策」へ変更。



<CS分析2 3カ年比較 点線部拡大図>



- 42: 快適で安全な駅周辺の整備
- 43: 電線地中化などによる街並み・景観整備
- 44: 円滑な車両交通のための幹線・生活道路の整備
- 45: 段差解消などの歩きやすい道の整備
- 46: バス路線網などの公共交通の充実
- 47: 自転車を利用しやすいまちづくり
- 48: 公共住宅の維持整備
- 49: 下水道事業の円滑な推進
- 50: 大規模地震などへの災害対策
- 51: 集中豪雨等のいっ水対策
- 52: 地域パトロール強化などの防犯対策
- 53: 緊急事態発生時の市の危機管理体制の強化

■ 産業・活力

【産業・活力】分野内の『現在の満足度』平均ポイントでは、「地産地消の促進などによる農業の振興」が0.03ポイントで最も高く、唯一プラスポイントとなっている。『今後の重要度』平均ポイントでは「地元商業・サービス業の育成・支援」が0.93ポイントで最も高いものの、平均を下回っている。

CS分析では、維持分野に「地産地消の促進などによる農業の振興」が分類され、その他の項目は「改善分野」に分類される。

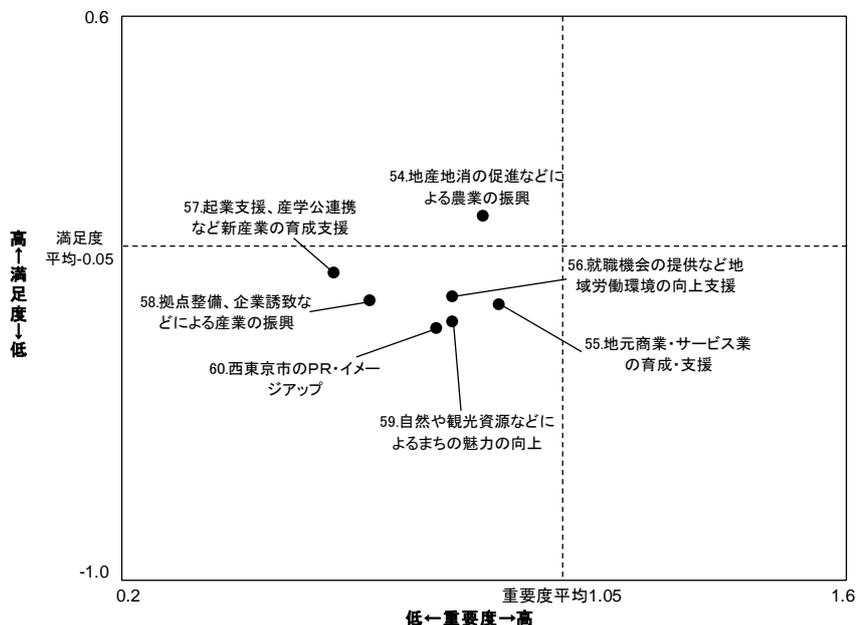
『満足度』の評価については、「地元商業・サービス業の育成・支援」「就職機会の提供など地域労働環境の向上支援」「起業支援、産学公連携など新産業の育成支援」「拠点整備、企業誘致などによる産業の振興」の項目で「わからない」が50.0%を超えており、「起業支援、産学公連携など新産業の育成支援」では71.1%と多くなっている。『重要度』の評価については、全ての項目で「重要」「やや重要」の合計が50.0%を超えている。

<平均ポイント順位>

順位	現在の満足度	平均
1	54. 地産地消の促進などによる農業の振興	0.03
2	57. 起業支援、産学公連携など新産業の育成支援	-0.13
3	56. 就職機会の提供など地域労働環境の向上支援	-0.20
4	58. 拠点整備、企業誘致などによる産業の振興	-0.21
5	55. 地元商業・サービス業の育成・支援	-0.22
6	59. 自然や観光資源などによるまちの魅力の向上	-0.27
7	60. 西東京市のPR・イメージアップ	-0.29

順位	今後の重要度	平均
1	55. 地元商業・サービス業の育成・支援	0.93
2	54. 地産地消の促進などによる農業の振興	0.90
3	56. 就職機会の提供など地域労働環境の向上支援	0.84
3	59. 自然や観光資源などによるまちの魅力の向上	0.84
5	60. 西東京市のPR・イメージアップ	0.81
6	58. 拠点整備、企業誘致などによる産業の振興	0.68
7	57. 起業支援、産学公連携など新産業の育成支援	0.61

<CS分析>



<満足度>

項目	サンプル数	満足度						平均 ポイント	満足% (A+B)
		満足している (+2)(A)	やや満足して いる (+1)(B)	やや不満であ る (-1)	不満である (-2)	わからない (0)	無回答 (%)		
54.地産地消の促進などによる農業の振興	2004	20.7	15.8	4.3		48.7	7.1	0.03	24.1
		3.4							
55.地元商業・サービス業の育成・支援	2004	12.4	20.5	7.7		50.6	7.2	-0.22	13.9
		1.5							
56.就職機会の提供など地域労働環境の向上支援	2004	6.9	15.2	5.9		63.6	7.6	-0.20	7.7
		0.8							
57.起業支援、産学公連携など新産業の育成支援	2004	5.7	11.0	4.1		71.1	7.3	-0.13	6.5
		0.8							
58.拠点整備、企業誘致などによる産業の振興	2004	6.0	13.6	6.9		64.9	7.7	-0.21	6.9
		0.9							
59.自然や観光資源などによるまちの魅力の向上	2004	11.9	20.3	9.8		48.9	7.5	-0.27	13.6
		1.7							
60.西東京市のPR・イメージアップ	2004	13.8	22.0	12.3		42.0	7.1	-0.29	16.6
		2.8							

<重要度>

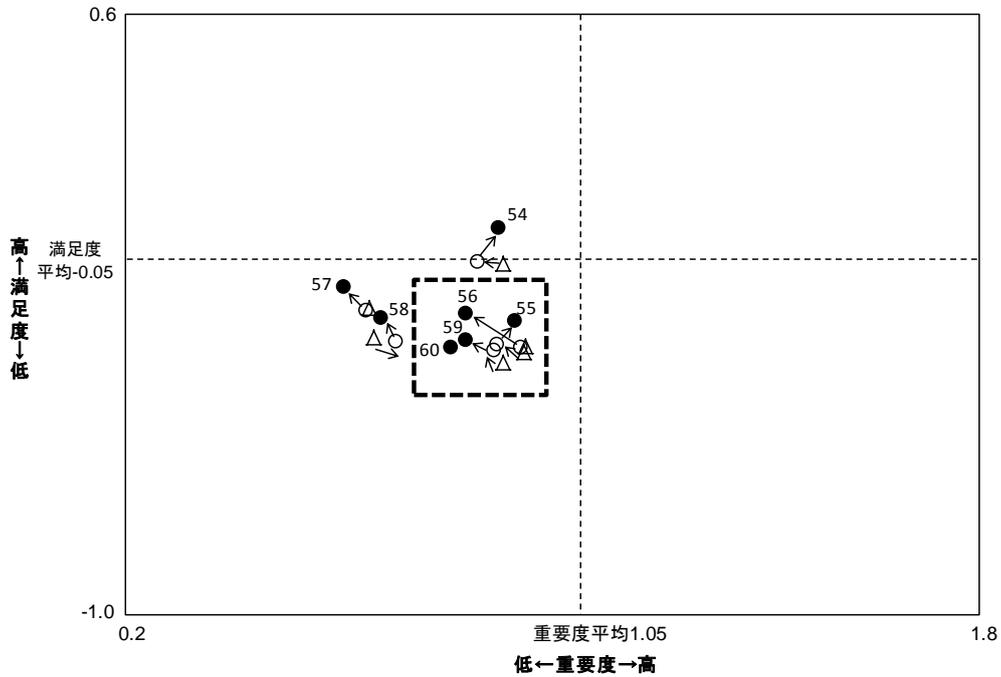
項目	サンプル数	重要度						平均 ポイント	重要% (A+B)
		重要 (+2)(A)	やや重要 (+1)(B)	あまり重要で ない (-1)	重要でない (-2)	わからない (0)	無回答 (%)		
54.地産地消の促進などによる農業の振興	2004	28.2	38.1	8.3		15.4	8.0	0.90	66.3
		1.9							
55.地元商業・サービス業の育成・支援	2004	27.6	40.4	7.0		15.5	8.0	0.93	68.0
		1.5							
56.就職機会の提供など地域労働環境の向上支援	2004	26.5	35.7	8.5		19.4	8.4	0.84	62.2
		1.5							
57.起業支援、産学公連携など新産業の育成支援	2004	19.9	33.1	12.2		23.9	8.5	0.61	53.0
		2.4							
58.拠点整備、企業誘致などによる産業の振興	2004	22.7	33.0	11.2		22.3	8.4	0.68	55.7
		2.3							
59.自然や観光資源などによるまちの魅力の向上	2004	29.0	34.1	11.1		15.8	8.1	0.84	63.1
		1.8							
60.西東京市のPR・イメージアップ	2004	30.8	32.4	12.7		12.7	7.9	0.81	63.2
		3.5							

<CS分析 3カ年比較> ※●は平成27年、○は平成24年、△は平成22年を示す。

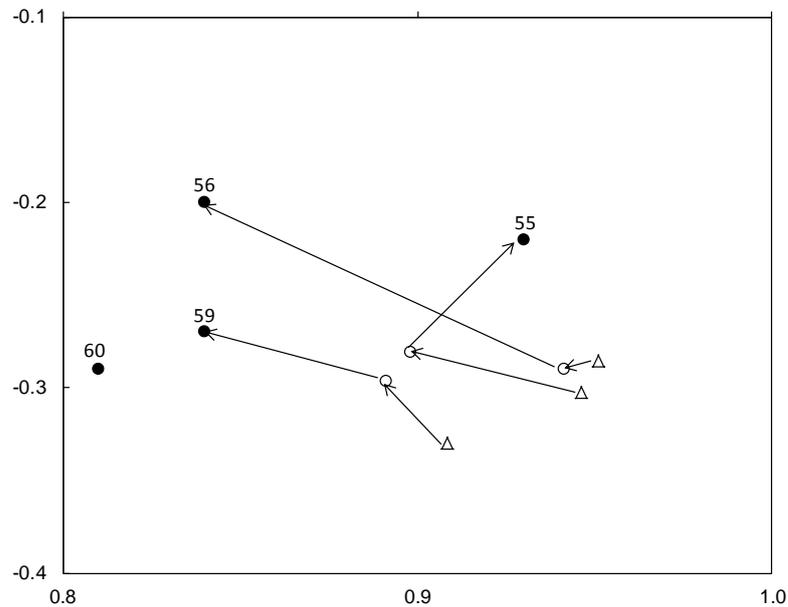
平成27年と平成24年を比較すると、「地産地消の促進などによる農業の振興」「地元商業・サービス業の育成・支援」を除き、重要度が下降している。

※平成24年調査からの設問の変更

「西東京市のPR・イメージアップ」は新設。



<CS分析2 3カ年比較 点線部拡大図>



- 54: 地産地消の促進などによる農業の振興
- 55: 地元商業・サービス業の育成・支援
- 56: 就職機会の提供など地域労働環境の向上支援
- 57: 起業支援、産学公連携など新産業の育成支援
- 58: 拠点整備、企業誘致などによる産業の振興
- 59: 自然や観光資源などによるまちの魅力の向上
- 60: 西東京市のPR・イメージアップ

4. 地域活動と市政とのかかわりについて

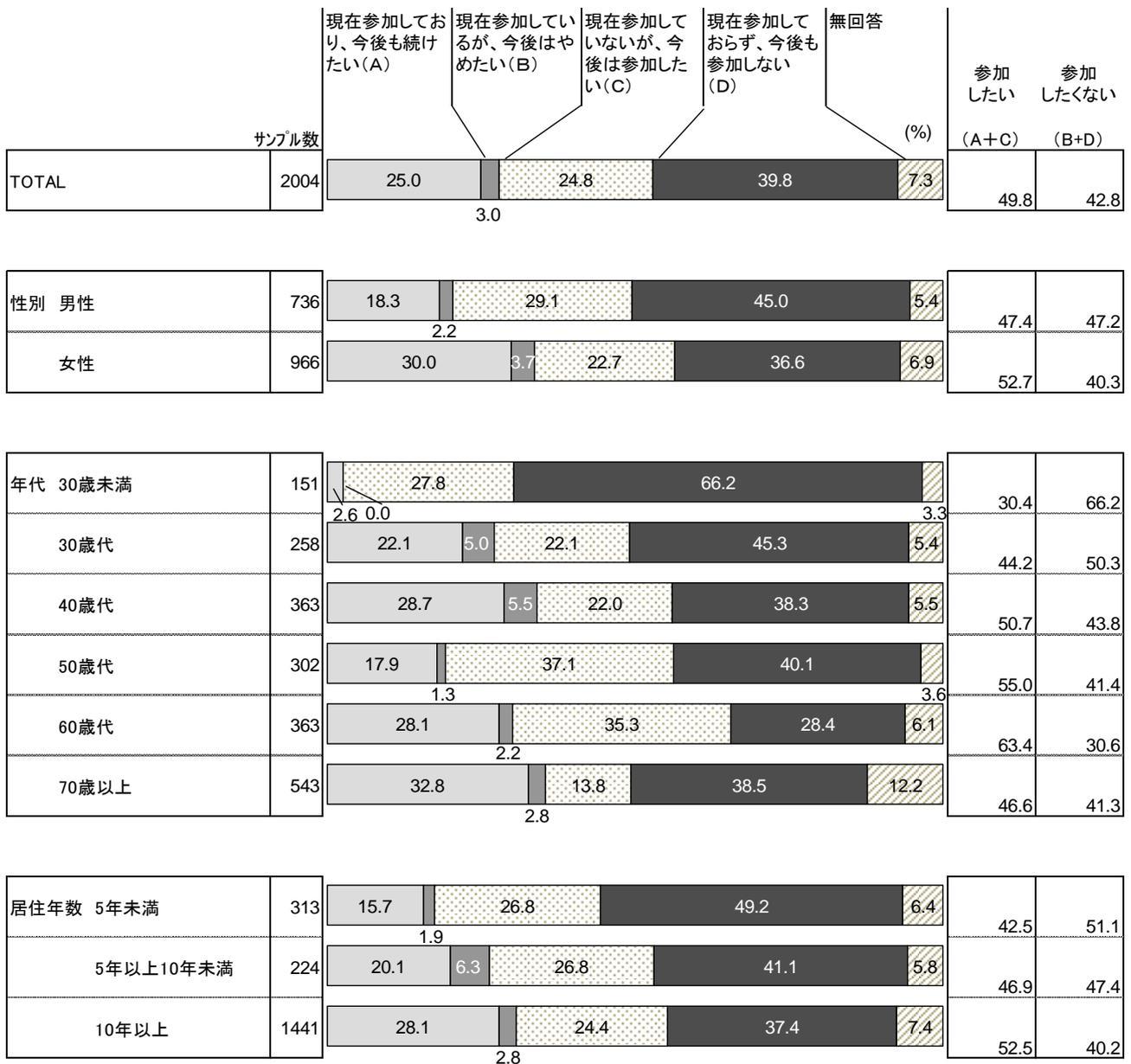
【問 13】 あなたの地域活動（自治会、PTA、趣味やスポーツのサークル、グループなど）への現在の参加状況や今後の意向についてお答えください。（○は1つだけ）

地域活動への参加状況では、「現在参加しておらず、今後も参加しない」が39.8%で最も多く、次いで「現在参加しており、今後も続けたい」が25.0%となっている。「現在参加しており、今後も続けたい」「現在参加していないが、今後は参加したい」を合わせた今後の参加意向は、49.8%となっている。

性別で見ると、参加意向は『男性』に比べて『女性』の割合が多くなっている（男性47.4%、女性52.7%）。

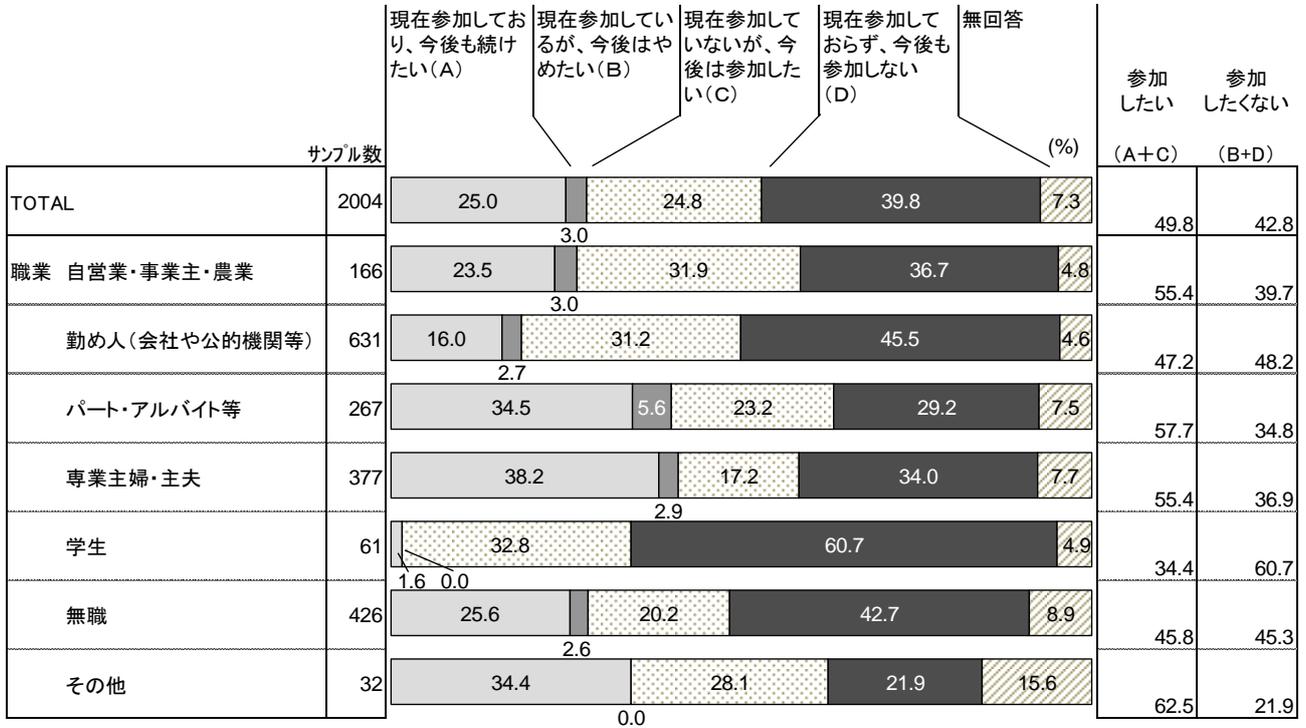
年代別で見ると、『30歳未満』では、参加意向は30.4%と、他の年代と比べて少なくなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



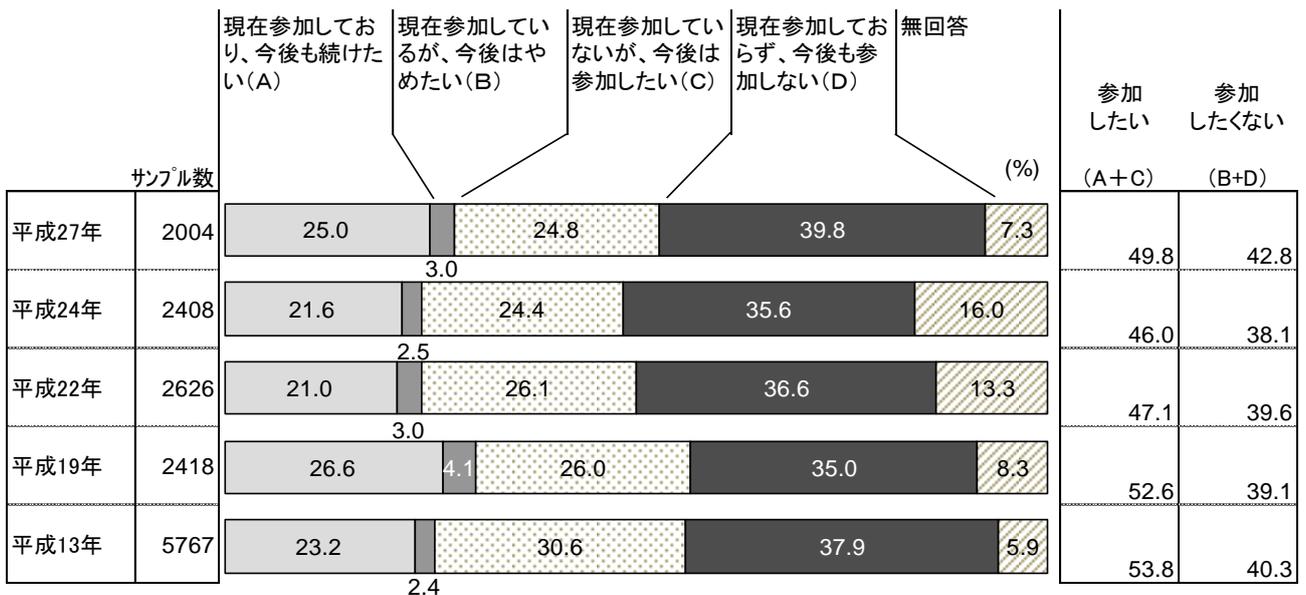
<職業別>

職業別に見ると、「現在参加しており、今後も続けたい」「現在参加していないが、今後は参加したい」を合わせた今後の参加意向は、『パート・アルバイト等』が57.7%で最も多くなっており、次いで『自営業・事業主・「農業」と『専業主婦・主夫』が55.4%となっている。一方、『学生』は参加意向が34.4%と少なくなっている。



<経年比較>

平成27年は参加意向が49.8%となっており、平成24年と比べて3.8ポイント多くなっている。



【問 14】 問 13 で「1. 現在参加しており、今後も続けたい」「2. 現在参加しているが、今後はやめたい」「3. 現在参加していないが、今後は参加したい」とお答えした方にお聞きします。「現在、参加している地域活動（〇はいくつでも）」と、「今後、参加したい地域活動（〇は3つまで）」はどれですか。

問 13 で「現在参加しており、今後も続けたい」「現在参加しているが、今後はやめたい」「現在参加していないが、今後は参加したい」と答えた方は、1,059 人となっている。

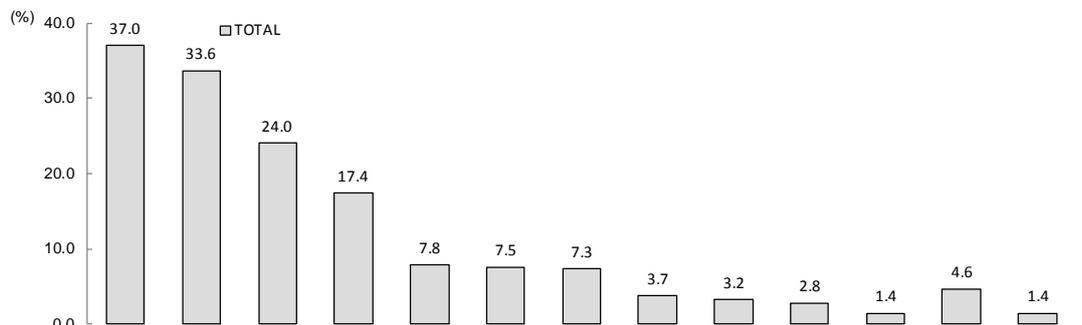
■現在参加している地域活動

「現在参加しており、今後も続けたい」「現在参加しているが、今後はやめたい」と答えた方（562 人）のうち、現在、参加している地域活動の内容は、「スポーツ・レクリエーション活動」が 37.0%で最も多く、次いで「自治会・町内会など」が 33.6%となっている。

性別で見ると、『女性』では「PTA・父母会など」が 32.8%となっており、『男性』の 17.2%に比べて 15.6 ポイント多くなっている。

年代別に見ると、『30 歳代』『40 歳代』で、「PTA・父母会など」が他の年代と比べて多くなっている（30 歳代 50.0%、40 歳代 69.4%）。『70 歳以上』は「スポーツ・レクリエーション活動」が 43.5%で、他の年代と比べて多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



サンプル数	スポーツ・レクリエーション活動	自治会・町内会など	PTA・父母会など	芸術・文化活動	老人クラブ	高齢者や障害者のためのボランティア活動	防犯・防災・交通安全・消防団など	子育てサークル	環境保護・清掃美化運動など	青少年育成活動	国際交流活動	その他	無回答	
TOTAL	562	37.0	33.6	24.0	17.4	7.8	7.5	7.3	3.7	3.2	2.8	1.4	4.6	1.4

性別	男性	女性												
男性	151	36.4	37.1	17.2	15.9	5.3	4.0	9.9	0.7	3.3	4.0	2.0	7.3	0.7
女性	326	37.1	31.9	32.8	15.0	5.8	8.3	5.2	6.1	3.1	2.5	1.5	3.7	0.6

年代	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上								
30歳未満	4	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	70	32.9	20.0	50.0	8.6	1.4	1.4	7.1	18.6	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
40歳代	124	27.4	24.2	69.4	5.6	0.8	1.6	8.1	2.4	0.8	3.2	0.8	4.0	0.0
50歳代	58	36.2	39.7	19.0	20.7	0.0	13.8	3.4	3.4	5.2	5.2	1.7	0.0	0.0
60歳代	110	39.1	41.8	0.9	21.8	7.3	10.0	7.3	0.9	3.6	3.6	4.5	10.0	0.9
70歳以上	193	43.5	38.9	1.0	23.8	17.1	10.4	7.8	0.5	4.7	2.1	0.5	4.7	3.6

居住年数	5年未満	5年以上10年未満	10年以上											
5年未満	55	27.3	40.0	27.3	16.4	5.5	1.8	5.5	14.5	3.6	0.0	1.8	1.8	0.0
5年以上10年未満	59	25.4	23.7	61.0	5.1	3.4	1.7	3.4	1.7	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0
10年以上	445	39.8	34.2	18.9	19.1	8.8	9.0	8.1	2.7	3.4	3.6	1.3	5.4	1.8

<職業別>

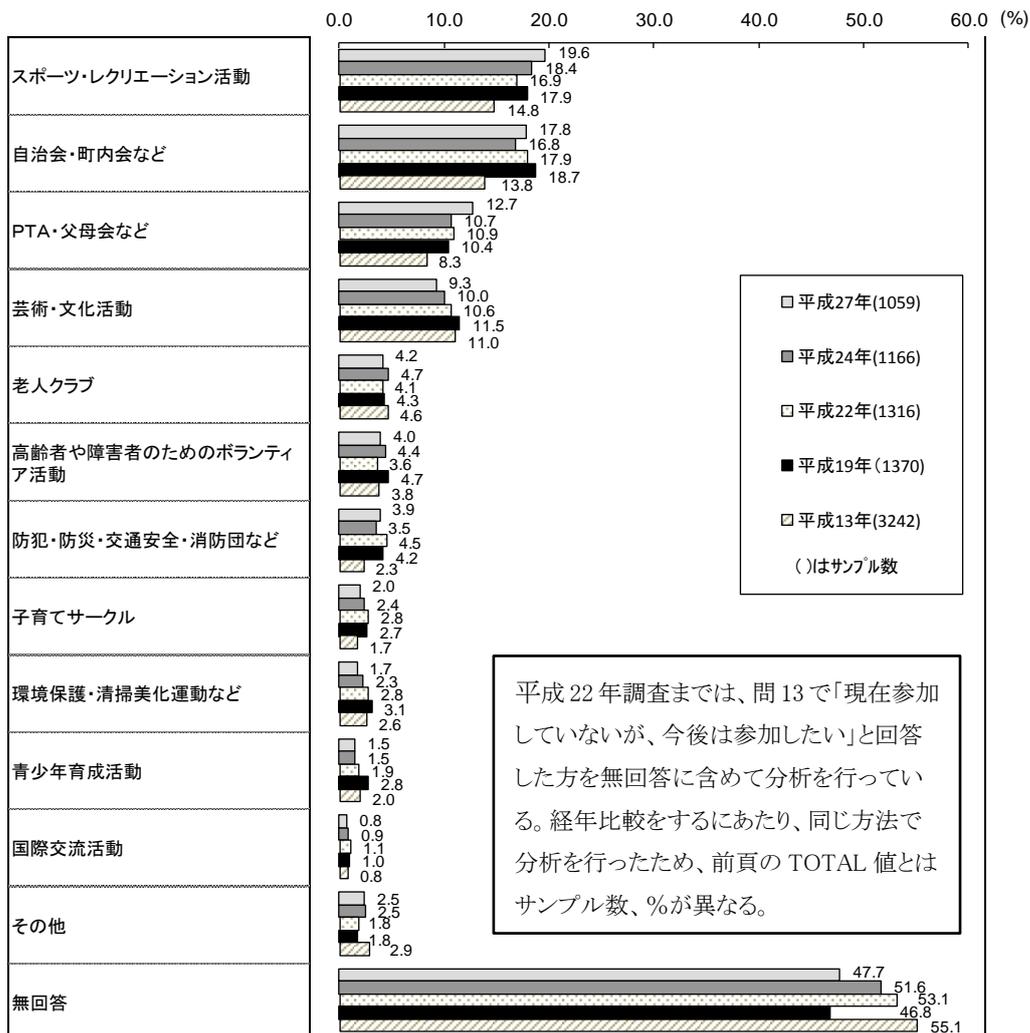
職業別に見ると、『勤め人（会社や公的機関等）』と『パート・アルバイト等』で「PTA・父母会など」が多くなっている（勤め人 45.8%、パート・アルバイト等 39.3%）。

	サンプル数	スポーツ・レクリエーション活動	自治会・町内会など	PTA・父母会など	芸術・文化活動	老人クラブ	高齢者や障害者のためのボランティア活動	防犯・防災・交通安全・消防団など	子育てサークル	環境保護・清掃美化運動など	青少年育成活動	国際交流活動	その他	無回答
TOTAL	562	37.0	33.6	24.0	17.4	7.8	7.5	7.3	3.7	3.2	2.8	1.4	4.6	1.4
職業 自営業・事業主・農業	44	34.1	40.9	6.8	9.1	6.8	2.3	18.2	0.0	0.0	4.5	0.0	9.1	2.3
勤め人(会社や公的機関等)	118	29.7	31.4	45.8	9.3	1.7	4.2	8.5	0.8	2.5	3.4	0.8	3.4	0.0
パート・アルバイト等	107	30.8	30.8	39.3	18.7	2.8	5.6	2.8	4.7	0.9	0.9	0.9	4.7	1.9
専業主婦・主夫	155	41.9	34.2	21.9	19.4	11.0	10.3	5.8	9.0	1.3	2.6	1.3	3.9	1.3
学生	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無職	120	41.7	34.2	0.0	23.3	15.0	10.0	7.5	0.0	7.5	3.3	3.3	5.0	2.5
その他	11	72.7	45.5	18.2	27.3	0.0	18.2	18.2	9.1	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0

<経年比較>

平成 27 年は「スポーツ・レクリエーション活動」が 19.6%で最も多くなっており、平成 22 年から調査毎に徐々に多くなっている。

次いで、平成 27 年では「自治会・町内会など」(17.8%)が、平成 24 年と比べて 1.0 ポイント多く、「PTA・父母会など」(12.7%)が平成 24 年と比べて 2.0 ポイント多くなっている。



■今後、参加したい地域活動

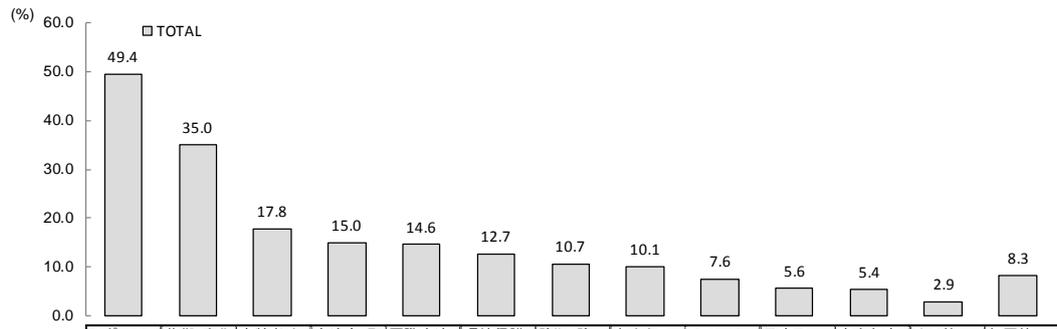
「現在参加しており、今後も続けたい」「現在参加していないが、今後は参加したい」と答えた方(999人)のうち、今後、参加したい地域活動の内容は、「スポーツ・レクリエーション活動」が49.4%で最も多く、次いで「芸術・文化活動」が35.0%となっている。

性別で見ると、『女性』は上位3項目が『男性』と比べて多く、特に「芸術・文化活動」が38.9%となっており、『男性』の27.2%に比べて11.7ポイント多くなっている。一方、『男性』は『女性』と比べて、「自治会・町内会など」(19.8%)が6.8ポイント、「防犯・防災・交通安全・消防団など」(17.8%)が11.3ポイント多くなっている。

年代別に見ると、『40歳代』『50歳代』では「スポーツ・レクリエーション活動」が他の年代と比べて多くなっている(40歳代57.6%、50歳代57.8%)。『30歳代』では「PTA・父母会など」(20.2%)、「子育てサークル」(23.7%)、『60歳代』では「芸術・文化活動」(41.3%)、「高齢者や障害者のためのボランティア活動」(23.0%)、「自治会・町内会など」(19.6%)が他の年代よりも多くなっている。『70歳以上』では「老人クラブ」(22.9%)が他の年代よりも多く、「スポーツ・レクリエーション活動」(34.8%)は少なくなっている。

職業別に見ると、『勤め人(会社や公的機関等)』で「スポーツ・レクリエーション活動」が59.7%と他の職業と比べて多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



	サンプル数	スポーツ・レクリエーション活動	芸術・文化活動	高齢者や障害者のためのボランティア活動	自治会・町内会など	国際交流活動	環境保護・清掃美化運動など	防犯・防災・交通安全・消防団など	老人クラブ	PTA・父母会など	子育てサークル	青少年育成活動	その他	無回答
TOTAL	999	49.4	35.0	17.8	15.0	14.6	12.7	10.7	10.1	7.6	5.6	5.4	2.9	8.3

性別 男性	349	50.7	27.2	13.2	19.8	15.8	16.0	17.8	8.3	6.0	4.3	6.3	2.9	6.3
女性	509	52.7	38.9	21.4	13.0	15.1	10.6	6.5	7.7	10.6	7.3	4.7	2.8	7.3

年代 30歳未満	46	52.2	39.1	26.1	2.2	32.6	23.9	8.7	4.3	2.2	13.0	6.5	2.2	0.0
30歳代	114	57.0	24.6	14.9	13.2	16.7	7.9	8.8	2.6	20.2	23.7	4.4	3.5	6.1
40歳代	184	57.6	31.0	13.0	12.5	17.9	9.2	13.0	1.1	24.5	7.1	6.0	2.2	3.3
50歳代	166	57.8	43.4	21.7	12.7	16.3	18.7	13.3	3.6	2.4	3.0	7.2	1.2	4.2
60歳代	230	49.1	41.3	23.0	19.6	13.5	15.2	11.3	12.6	0.4	0.9	7.4	3.9	6.1
70歳以上	253	34.8	30.4	13.8	17.4	7.5	9.5	7.9	22.9	0.8	1.2	2.4	3.6	19.0

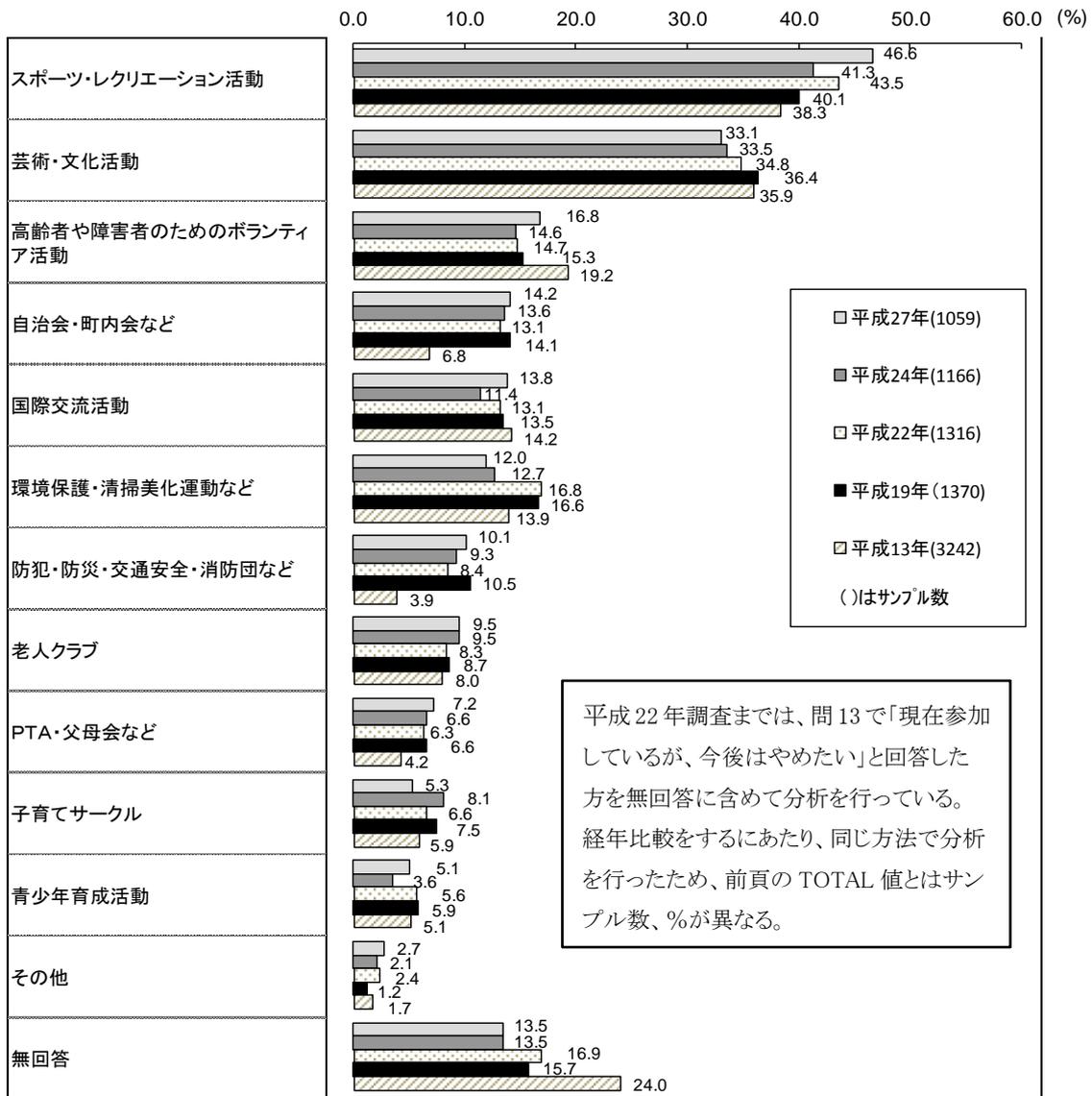
居住年数 5年未満	133	48.1	34.6	15.8	15.0	21.8	8.3	7.5	5.3	12.8	21.1	7.5	2.3	6.0
5年以上10年未満	105	56.2	29.5	16.2	12.4	15.2	10.5	9.5	9.5	21.0	10.5	2.9	1.9	1.9
10年以上	756	48.8	35.8	18.5	15.2	13.1	13.9	11.5	11.0	4.9	2.2	5.4	3.2	9.7

職業 自営業・事業主・農業	92	44.6	31.5	14.1	19.6	17.4	14.1	13.0	9.8	3.3	3.3	4.3	5.4	12.0
勤め人(会社や公的機関等)	298	59.7	35.2	17.8	14.8	17.1	16.8	17.1	4.7	10.7	8.4	6.4	2.0	4.4
パート・アルバイト等	154	54.5	35.7	20.8	14.9	16.2	9.7	5.8	5.8	9.7	5.2	5.2	2.6	3.9
専業主婦・主夫	209	43.1	36.8	12.4	11.5	7.2	5.3	3.3	13.9	11.0	5.7	3.8	2.9	12.9
学生	21	38.1	42.9	42.9	4.8	42.9	28.6	4.8	4.8	4.8	4.8	0.0	4.8	0.0
無職	195	39.5	31.3	18.5	17.4	12.8	15.4	12.3	17.9	0.0	1.0	5.6	2.6	12.8
その他	20	50.0	50.0	40.0	25.0	15.0	10.0	10.0	10.0	10.0	25.0	20.0	5.0	5.0

<経年比較>

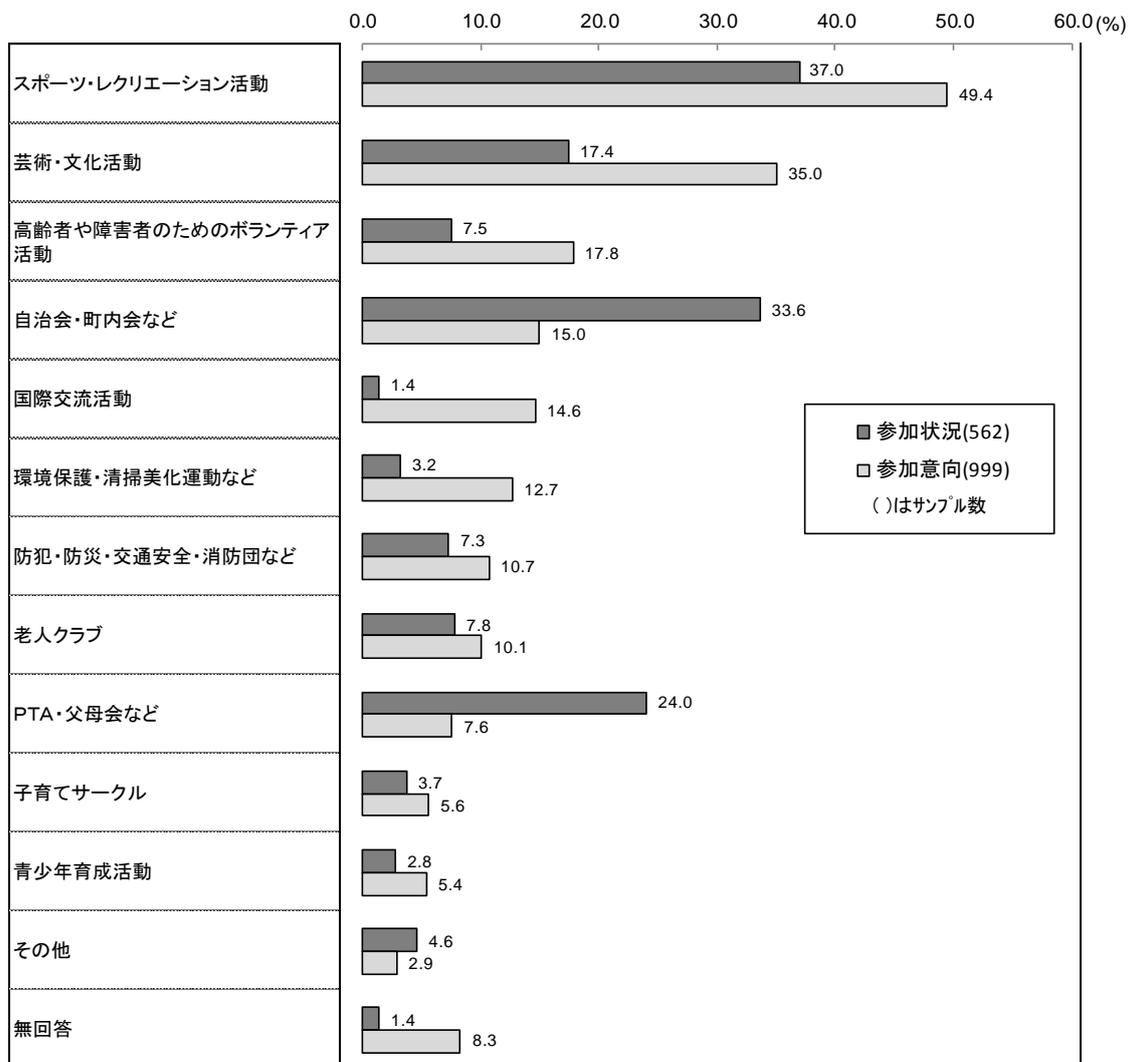
平成27年は「スポーツ・レクリエーション活動」が46.6%で、平成24年と比べて5.3ポイント多くなっている。また、平成27年は「高齢者や障害者のためのボランティア活動」が16.8%で、平成24年と比べて2.2ポイント多くなっている。

一方、「芸術・文化活動」は33.1%で、平成19年から調査毎に徐々に少なくなっている。「子育てサークル」は5.3%で、平成24年と比べて2.8ポイント少なくなっている。



■現在参加している地域活動と今後参加したい地域活動の差

参加意向は多いものの、現在参加できていない活動を見ると、「スポーツ・レクリエーション活動」(-12.4ポイント)、「芸術・文化活動」(-17.6ポイント)、「高齢者や障害者のためのボランティア活動」(-10.3ポイント)、「国際交流活動」(-13.2ポイント)で、その差が10ポイント以上と大きくなっている。一方、「自治会・町内会など」(+18.6ポイント)や「PTA・父母会など」(+16.4ポイント)は現在の参加状況と比べて、今後の参加意向が10ポイント以上少なくなっている。



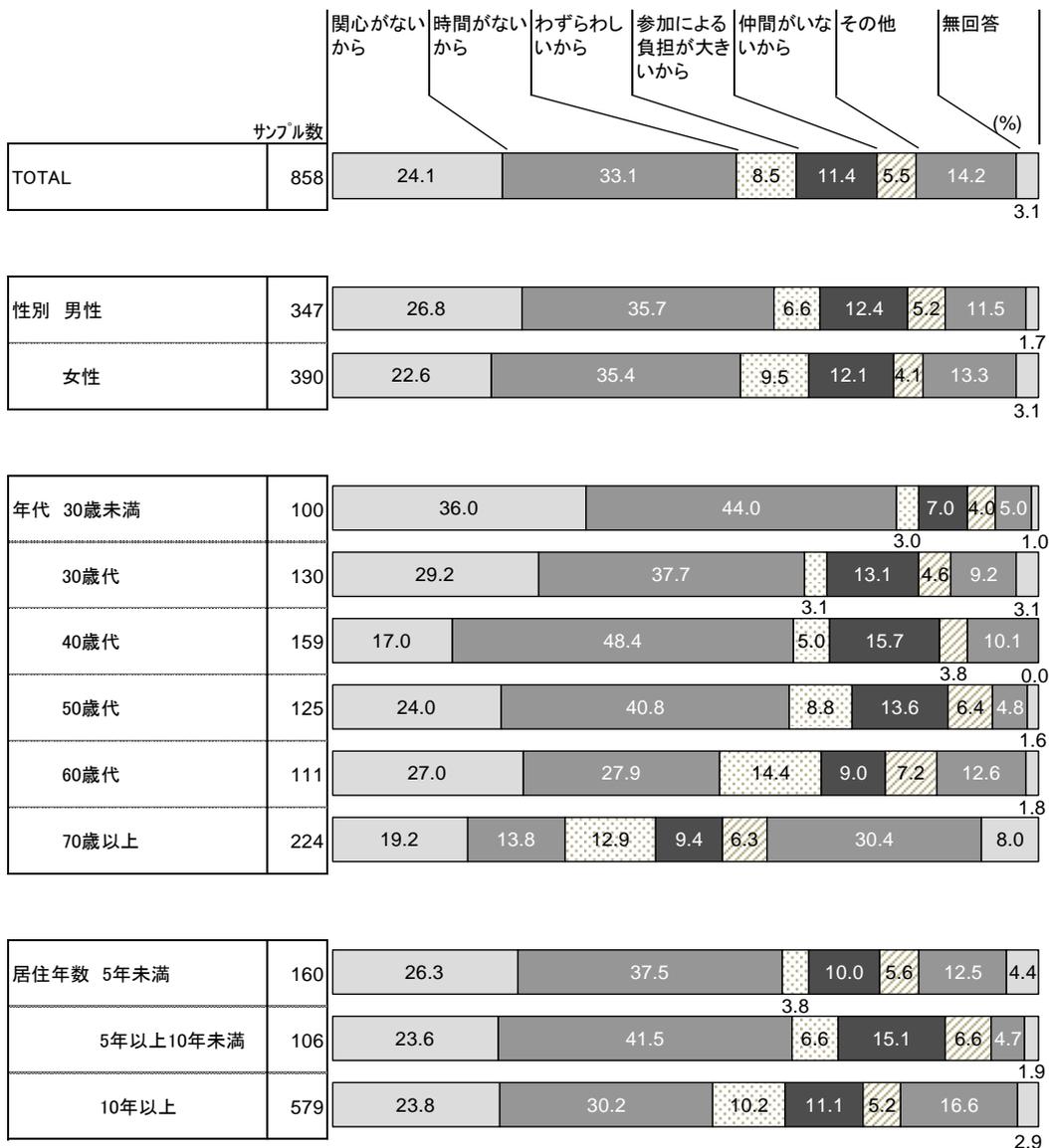
【問15】 問13で「2. 現在参加しているが、今後はやめたい」「4. 現在参加しておらず、今後も参加しない」とお答えした方にお聞きします。地域活動に参加したくない（やめたい）主な理由は何ですか。（○は1つだけ）

問13で「現在参加しているが、今後はやめたい」「現在参加しておらず、今後も参加しない」と答えた方は、858人となっている。参加したくない（やめたい）の理由としては、「時間がないから」が33.1%で最も多く、次いで「関心がないから」が24.1%となっている。

性別で見ると、『男性』では「関心がないから」が26.8%と『女性』に比べて4.2ポイント多くなっている。一方、『女性』では、「わずらわしいから」が9.5%となっており、『男性』（6.6%）に比べて、2.9ポイント多くなっている。

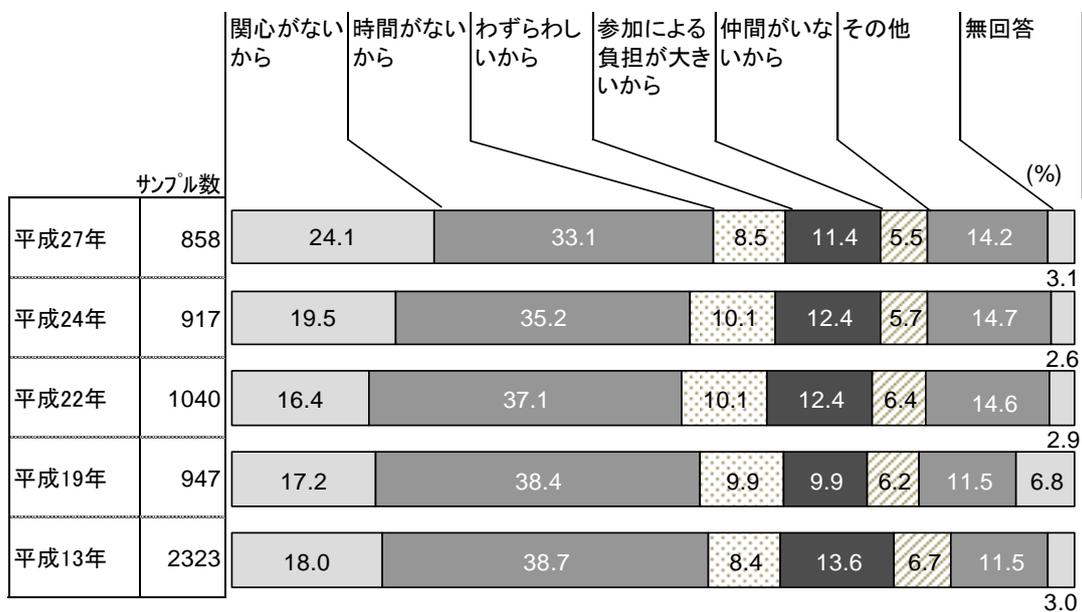
年代別に見ると、『30歳未満』では「関心がないから」（36.0%）、「時間がないから」（44.0%）、『40歳代』では「時間がないから」（48.4%）、『60歳代』『70歳以上』では「わずらわしいから」（60歳代14.4%、70歳以上12.9%）が、他の年代に比べて多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



<経年比較>

平成27年は「時間がないから」が33.1%で最も多くなっているが、平成24年と比べて2.1ポイント少なくなっている。次いで、「関心がないから」が24.1%で、平成24年と比べて4.6ポイント多くなっている。「わずらわしいから」は8.5%で、平成24年と比べて1.6ポイント少なく、同様に「参加による負担が大きいから」は11.4%で、平成24年と比べて1.0ポイント少なくなっている。



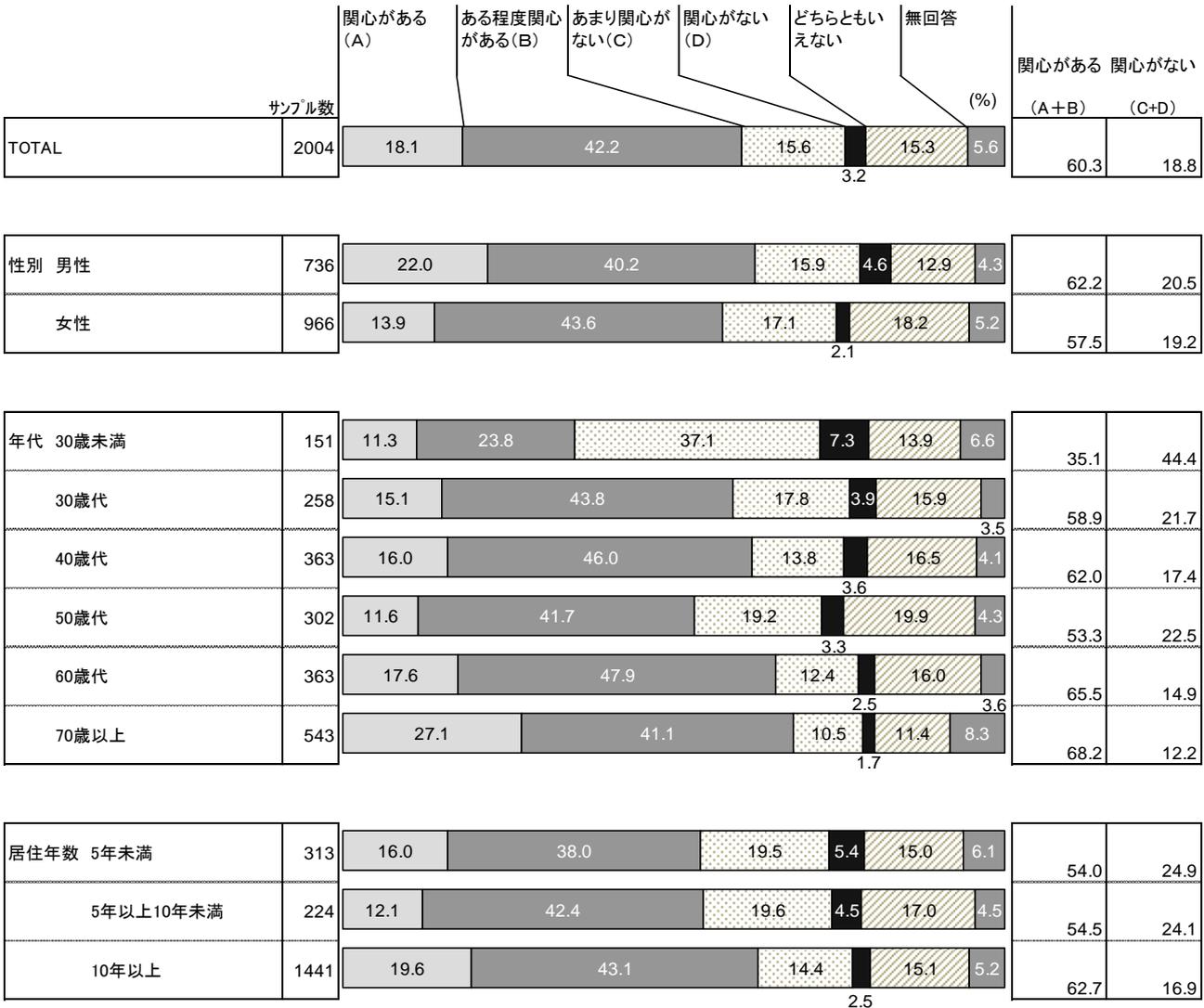
【問 16】 すべての方にお聞きします。あなたは市政にどの程度関心をお持ちになっていますか。(〇は1つだけ)

市政への関心については、「ある程度関心がある」が42.2%で最も多く、次いで「関心がある」が18.1%となっている。「関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた関心がある合計は、「関心がない」「あまり関心がない」を合わせた関心がない合計(18.8%)より多く、約3倍の60.3%となっている。

性別に見ると、『男性』の関心がある合計は62.2%で、『女性』と比べて4.7ポイント多くなっている。

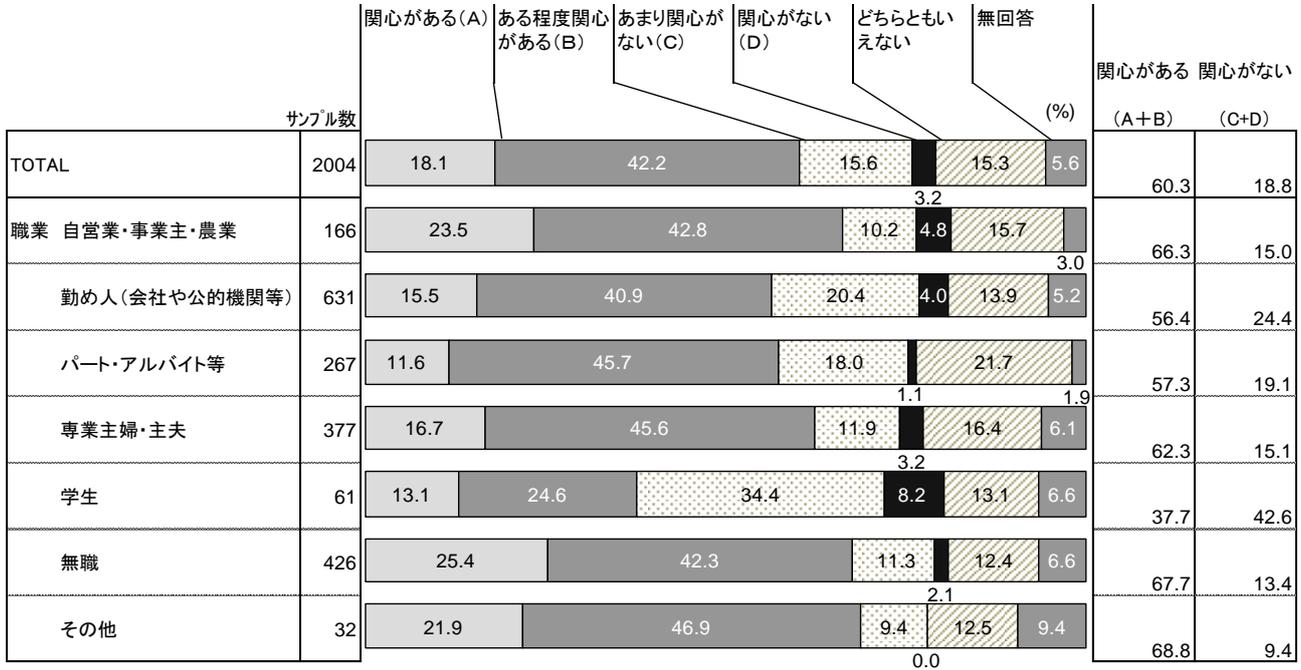
年代別に見ると、『50歳代』から『70歳以上』で年代が上がるにつれて関心がある合計が多くなっている。『30歳未満』では関心がある合計が35.1%となっており、他の年代に比べて少なくなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



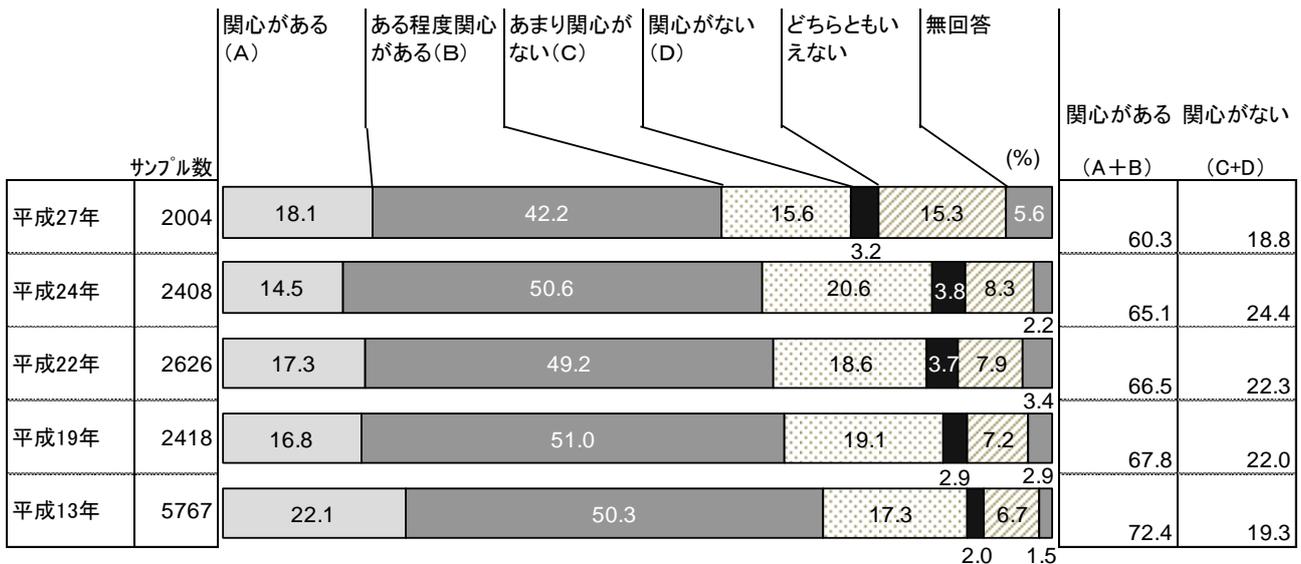
<職業別>

職業別に見ると、『自営業・事業主・農業』と『無職』で「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた関心がある合計が多くなっている（自営業・事業主・農業 66.3%、無職 67.7%）。一方、『学生』では関心がある合計が 37.7%と、他の職業に比べて少なくなっている。



<経年比較>

平成 27 年は「関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた関心がある合計は 60.3%となっており、平成 24 年と比べる 4.8 ポイント少なくなっている。一方、平成 27 年では「どちらともいえない」が 15.3%と、平成 24 年と比べて 7.0 ポイント多くなっている。



【問 17】 あなたは市政に関する情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)

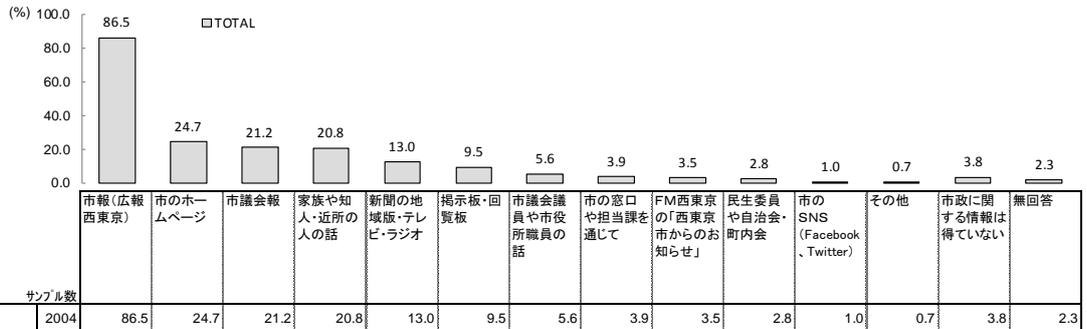
市政の情報源では、「市報（広報西東京）」が86.5%で最も多くなっている。次いで「市のホームページ」が24.7%、「市議会報」が21.2%、「家族や知人・近所の人の話」が20.8%となっている。

年代別に見ると、『30歳代』『40歳代』で「市のホームページ」が他の年代と比べて多くなっている（30歳代39.9%、40歳代39.1%）。また、『30歳未満』では、他の年代と比べて「市報（広報西東京）」が52.3%と少ない一方で、「家族や知人・近所の人の話」が37.7%、「市のSNS（Facebook、Twitter）」が5.3%と多くなっている。

職業別に見ると、「市報（広報西東京）」は『専業主婦・主夫』（94.7%）や『無職』（90.1%）が多くなっている。「市のホームページ」は『勤め人（会社や公的機関等）』（37.6%）が多くなっている。

世帯構成別に見ると、いずれの世帯も「市報（広報西東京）」が最も多くなっているが、『二世帯世帯（親と子）』では「市のホームページ」（30.1%）、『三世帯世帯（親と子と孫）』では「市議会報」（29.9%）、「家族や知人・近所の人の話」（29.9%）が他の世帯構成に比べて多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別・世帯構成別>



性別	サンプル数	市報(広報西東京)	市のホームページ	市議会報	家族や知人・近所の人の話	新聞の地域版・テレビ・ラジオ	掲示板・回覧板	市議会議員や市役所職員の話	市の窓口や担当課を通じて	FM西東京の「西東京市からのお知らせ」	民生委員や自治会・町内会	市のSNS (Facebook, Twitter)	その他	市政に関する情報は得ていない	無回答
男性	736	83.4	30.2	22.6	16.7	12.6	7.9	7.6	3.8	4.2	2.3	1.5	1.0	5.6	1.6
女性	966	89.8	25.1	19.7	24.8	11.1	10.0	4.8	4.1	2.3	3.0	0.9	0.7	2.9	1.9

年代	サンプル数	市報(広報西東京)	市のホームページ	市議会報	家族や知人・近所の人の話	新聞の地域版・テレビ・ラジオ	掲示板・回覧板	市議会議員や市役所職員の話	市の窓口や担当課を通じて	FM西東京の「西東京市からのお知らせ」	民生委員や自治会・町内会	市のSNS (Facebook, Twitter)	その他	市政に関する情報は得ていない	無回答
30歳未満	151	52.3	29.8	6.0	37.7	6.0	5.3	2.0	2.6	0.7	0.0	5.3	0.7	17.2	2.0
30歳代	258	82.6	39.9	11.6	19.0	5.0	7.8	3.5	2.7	0.8	1.9	2.3	0.8	5.4	1.2
40歳代	363	90.1	39.1	21.8	24.2	6.9	6.1	6.3	3.0	1.4	1.1	1.1	0.8	2.5	0.3
50歳代	302	90.4	29.1	18.9	15.2	8.6	8.3	5.3	2.6	4.3	0.7	0.7	0.3	4.0	1.3
60歳代	363	93.1	19.6	27.3	20.9	19.3	13.8	7.4	2.8	3.3	2.8	0.0	0.6	1.9	1.1
70歳以上	543	89.9	7.7	27.3	17.9	21.4	12.0	6.3	7.2	6.4	6.3	0.0	0.9	1.1	4.4

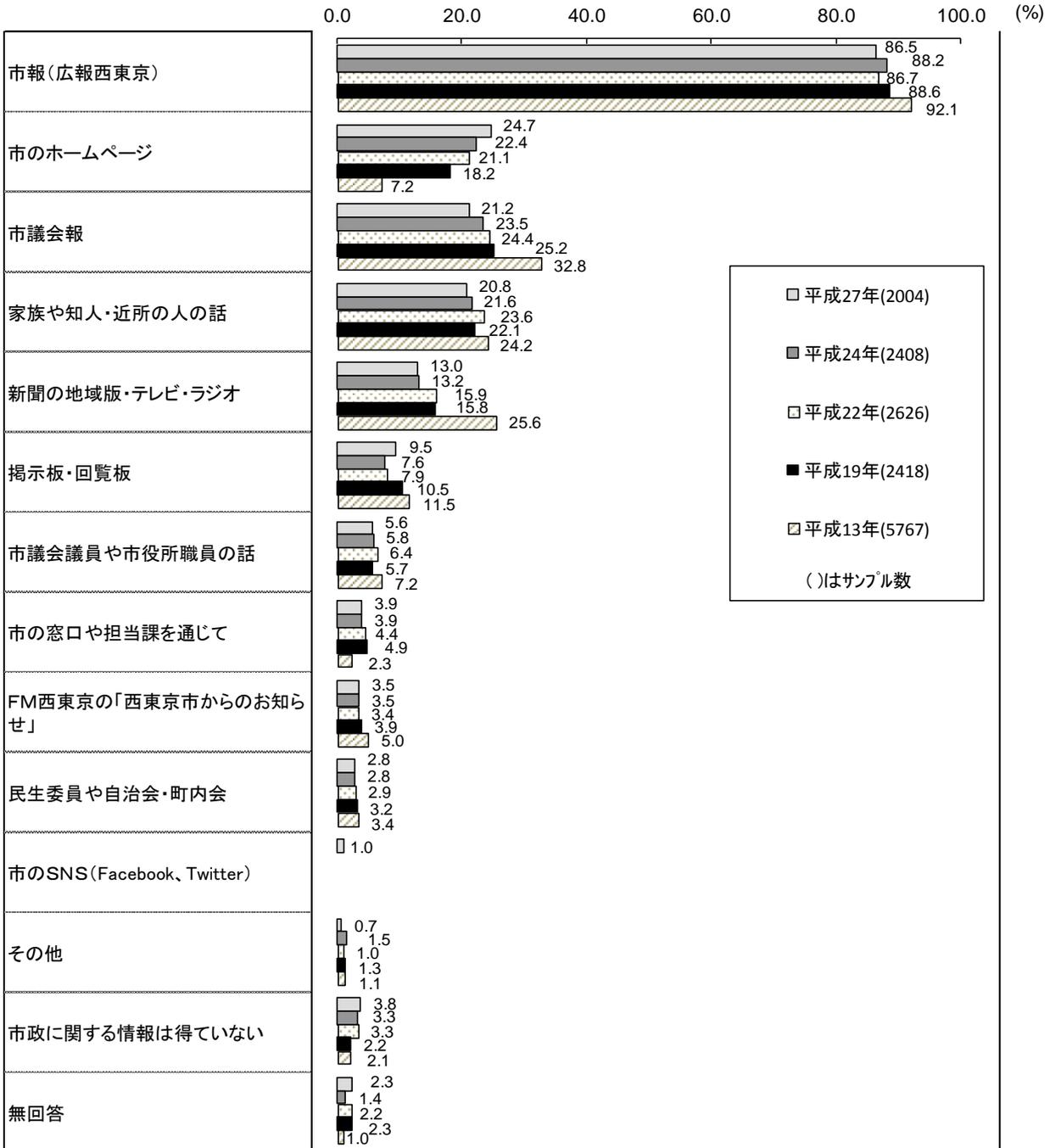
居住年数	サンプル数	市報(広報西東京)	市のホームページ	市議会報	家族や知人・近所の人の話	新聞の地域版・テレビ・ラジオ	掲示板・回覧板	市議会議員や市役所職員の話	市の窓口や担当課を通じて	FM西東京の「西東京市からのお知らせ」	民生委員や自治会・町内会	市のSNS (Facebook, Twitter)	その他	市政に関する情報は得ていない	無回答
5年未満	313	80.5	30.7	11.8	14.4	6.7	8.0	1.9	3.2	3.5	0.6	1.6	0.3	5.4	2.6
5年以上10年未満	224	82.6	31.7	17.0	17.0	7.1	11.6	2.7	1.3	0.9	1.3	0.9	0.0	5.4	1.8
10年以上	1441	88.9	22.5	24.0	22.9	15.4	9.6	6.9	4.6	3.9	3.5	0.8	0.9	3.1	1.8

職業	サンプル数	市報(広報西東京)	市のホームページ	市議会報	家族や知人・近所の人の話	新聞の地域版・テレビ・ラジオ	掲示板・回覧板	市議会議員や市役所職員の話	市の窓口や担当課を通じて	FM西東京の「西東京市からのお知らせ」	民生委員や自治会・町内会	市のSNS (Facebook, Twitter)	その他	市政に関する情報は得ていない	無回答
自営業・事業主・農業	166	88.6	18.1	25.9	17.5	12.7	9.0	10.8	3.0	6.0	1.2	0.6	0.0	4.8	2.4
勤め人(会社や公的機関等)	631	83.7	37.6	15.7	18.1	7.8	5.5	4.8	2.7	2.2	0.6	1.3	1.0	4.9	0.8
パート・アルバイト等	267	89.9	25.8	20.2	22.8	11.2	10.5	6.4	3.0	1.9	3.0	1.9	0.4	3.4	1.5
専業主婦・主夫	377	94.7	17.2	22.5	22.8	16.2	14.9	3.4	3.7	4.0	4.0	0.5	0.3	1.1	1.3
学生	61	39.3	24.6	3.3	49.2	4.9	6.6	3.3	0.0	1.6	0.0	4.9	1.6	26.2	1.6
無職	426	90.1	16.0	29.1	19.7	20.0	10.3	6.3	7.3	4.9	4.9	0.2	0.5	0.7	3.5
その他	32	78.1	21.9	34.4	21.9	12.5	15.6	9.4	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	3.1	9.4

世帯構成	サンプル数	市報(広報西東京)	市のホームページ	市議会報	家族や知人・近所の人の話	新聞の地域版・テレビ・ラジオ	掲示板・回覧板	市議会議員や市役所職員の話	市の窓口や担当課を通じて	FM西東京の「西東京市からのお知らせ」	民生委員や自治会・町内会	市のSNS (Facebook, Twitter)	その他	市政に関する情報は得ていない	無回答
単身世帯(一人で住んでいる)	210	81.4	19.5	14.3	11.4	9.0	5.2	2.9	2.4	4.8	3.8	1.4	1.9	5.7	2.9
夫婦で住んでいる	585	89.1	17.4	24.6	18.5	17.9	11.5	4.3	4.1	4.3	3.2	0.5	0.5	2.2	2.7
二世帯世帯(親と子)	1035	87.4	30.1	20.2	23.6	10.8	9.2	6.2	3.9	2.9	2.2	1.2	0.7	4.0	1.4
三世帯世帯(親と子と孫)	107	85.0	25.2	29.9	29.9	11.2	13.1	14.0	6.5	2.8	2.8	0.9	0.0	4.7	0.9
その他	36	75.0	22.2	16.7	8.3	22.2	2.8	5.6	8.3	0.0	5.6	0.0	0.0	8.3	2.8

<経年比較>

平成 27 年は「市報（広報西東京）」が 86.5%であり、平成 24 年と比べて 1.7 ポイント少なくなっている。また、平成 27 年は「市のホームページ」が 24.7%となっており、平成 24 年と比べて 2.3 ポイント多くなっている。



※ 「市の SNS (Facebook、Twitter)」は平成 27 年調査で新設。

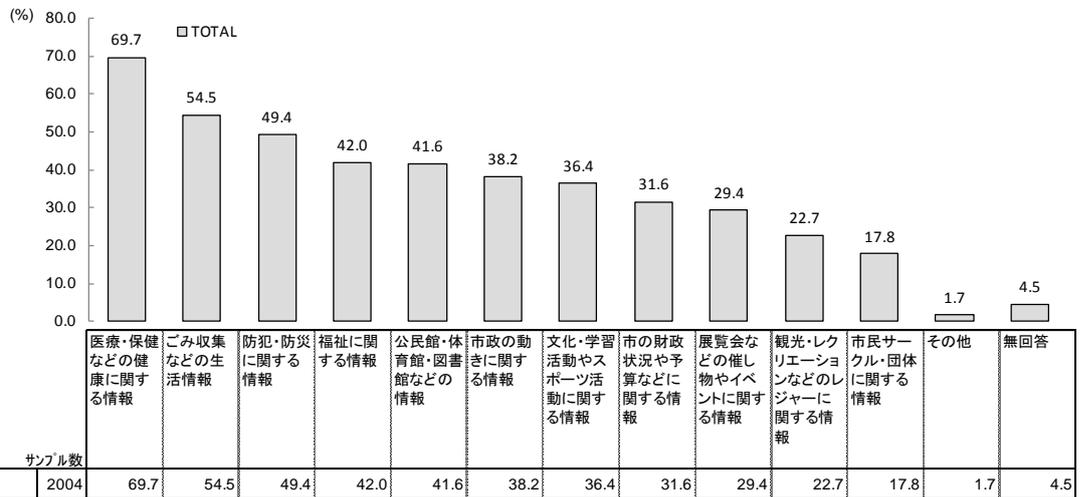
【問 18】 あなたは、市からどのような情報を得たいですか。(〇はいくつでも)

市から得たい情報では、「医療・保健などの健康に関する情報」が69.7%で最も多く、次いで「ごみ収集などの生活情報」(54.5%)、「防犯・防災に関する情報」(49.4%)となっている。

性別で見ると、上位5項目等で『男性』より『女性』の割合が多くなっており、特に「公民館・体育館・図書館などの情報」は、『男性』(36.7%)に比べて『女性』(48.9%)が12.2ポイント多くなっている。また、「展覧会などの催し物やイベントに関する情報」も『女性』が14.0ポイント多くなっている。一方、『男性』では、「市政の動きに関する情報」(43.8%)、「市の財政状況や予算などに関する情報」(39.0%)が『女性』と比べて多くなっている。

職業別に見ると、「医療・保健などの健康に関する情報」は、『パート・アルバイト等』(76.0%)や『無職』(75.4%)で多くなっており、「ごみ収集などの生活情報」は『パート・アルバイト等』と『専業主婦・主夫』でそれぞれ61.8%と多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



性別	サンプル数	医療・保健	ごみ収集	防犯・防災	福祉	公民館・体育館・図書館	市政の動き	文化・学習	市の財政	展覧会	観光・レクリエーション	市民サークル・団体	その他	無回答
男性	736	66.7	51.0	48.2	37.1	36.7	43.8	34.4	39.0	21.5	20.9	14.8	1.8	3.9
女性	966	73.4	59.9	52.6	44.5	48.9	35.4	41.6	27.6	35.5	25.6	21.2	1.7	4.0

年代	サンプル数	医療・保健	ごみ収集	防犯・防災	福祉	公民館・体育館・図書館	市政の動き	文化・学習	市の財政	展覧会	観光・レクリエーション	市民サークル・団体	その他	無回答
30歳未満	151	57.6	51.7	41.1	27.8	42.4	35.1	28.5	29.8	25.2	24.5	8.6	1.3	6.0
30歳代	258	65.1	57.8	48.8	31.8	50.8	32.6	41.5	31.0	30.2	29.5	17.1	3.1	2.7
40歳代	363	70.2	60.9	63.1	38.0	50.1	41.0	46.0	36.6	31.4	30.6	18.7	1.1	0.3
50歳代	302	74.8	63.6	52.6	47.0	40.4	36.1	40.7	28.5	31.8	22.5	20.5	2.3	4.3
60歳代	363	72.7	54.3	46.6	46.8	39.7	43.3	38.8	34.2	29.8	20.4	24.0	1.1	3.3
70歳以上	543	71.1	46.0	43.3	48.1	34.1	38.1	26.5	29.3	28.2	15.3	14.5	1.8	7.6

居住年数	サンプル数	医療・保健	ごみ収集	防犯・防災	福祉	公民館・体育館・図書館	市政の動き	文化・学習	市の財政	展覧会	観光・レクリエーション	市民サークル・団体	その他	無回答
5年未満	313	62.9	51.1	43.8	29.7	48.6	31.6	34.8	27.5	31.3	27.8	15.3	2.6	5.1
5年以上10年未満	224	69.6	54.9	53.1	37.5	43.8	35.7	39.7	30.8	27.7	25.0	15.6	1.8	3.1
10年以上	1441	71.5	55.6	50.5	45.4	40.2	40.2	36.7	32.8	29.6	21.4	18.7	1.5	4.2

職業	サンプル数	医療・保健	ごみ収集	防犯・防災	福祉	公民館・体育館・図書館	市政の動き	文化・学習	市の財政	展覧会	観光・レクリエーション	市民サークル・団体	その他	無回答
自営業・事業主・農業	166	63.3	48.8	53.0	39.8	31.3	45.2	30.7	33.7	20.5	20.5	15.1	0.6	3.6
勤め人(会社や公的機関等)	631	66.2	54.5	50.6	37.2	42.9	39.1	39.0	35.8	25.4	25.8	15.4	2.2	2.4
パート・アルバイト等	267	76.0	61.8	50.9	41.2	46.4	33.3	43.8	25.5	34.5	25.8	22.5	1.5	2.6
専業主婦・主夫	377	72.1	61.8	50.1	43.0	44.8	31.8	39.3	24.7	39.8	23.9	21.5	2.1	5.6
学生	61	50.8	42.6	39.3	24.6	49.2	45.9	37.7	31.1	26.2	24.6	8.2	1.6	8.2
無職	426	75.4	50.2	48.6	52.3	38.0	42.5	29.1	35.4	28.4	16.7	17.8	1.4	5.2
その他	32	71.9	46.9	40.6	50.0	53.1	46.9	46.9	34.4	31.3	21.9	21.9	0.0	9.4

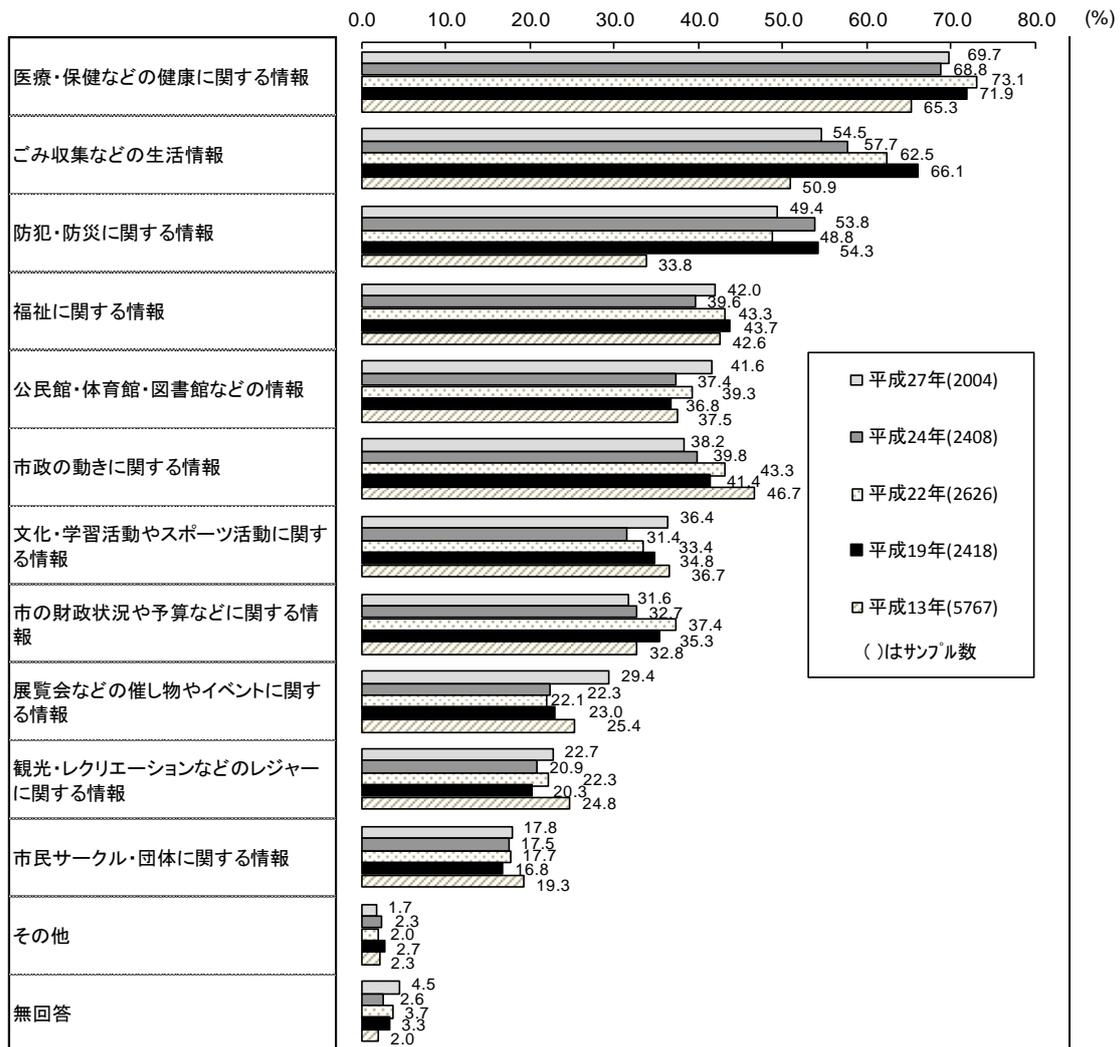
<世帯構成別>

世帯構成別に見ると、『二世帯世帯（親と子）』では、上位項目の「ごみ収集などの生活情報」（56.8%）、「防犯・防災に関する情報」（53.5%）、「公民館・体育館・図書館などの情報」（47.0%）等が他の世帯に比べて多くなっている。一方、『単身世帯（一人で住んでいる）』では、11項目全てにおいて『TOTAL（全体）』に比べて少なくなっている。

	サンプル数	医療・保健などの健康に関する情報	ごみ収集などの生活情報	防犯・防災に関する情報	福祉に関する情報	公民館・体育館・図書館などの情報	市政の動きに関する情報	文化・学習活動やスポーツ活動に関する情報	市の財政状況や予算などに関する情報	展覧会などの催し物やイベントに関する情報	観光・レクリエーションなどのレジャーに関する情報	市民サークル・団体に関する情報	その他	無回答
TOTAL	2004	69.7	54.5	49.4	42.0	41.6	38.2	36.4	31.6	29.4	22.7	17.8	1.7	4.5
世帯構成 単身世帯(一人で住んでいる)	210	67.6	51.4	41.4	36.7	30.5	30.0	24.8	25.2	27.6	17.1	14.8	1.9	5.7
夫婦で住んでいる	585	70.9	53.5	47.5	42.1	37.4	40.2	34.9	32.0	27.9	18.5	16.2	0.7	5.0
二世帯世帯(親と子)	1035	70.6	56.8	53.5	43.4	47.0	39.1	40.4	32.6	31.4	26.4	19.6	2.4	3.4
三世帯世帯(親と子と孫)	107	70.1	55.1	50.5	44.9	44.9	39.3	36.4	32.7	29.9	20.6	20.6	0.0	2.8
その他	36	52.8	47.2	22.2	36.1	27.8	36.1	30.6	41.7	19.4	22.2	5.6	5.6	8.3

<経年比較>

全体的に大きな変化は見られないが、平成27年は「ごみ収集などの生活情報」（54.5%）が平成24年と比べて3.2ポイント少なくなるとともに、平成19年から調査毎に徐々に少なくなっている。同様に「市政の動きに関する情報」「市の財政状況や予算などに関する情報」も平成22年から調査毎に少なくなる傾向を示している。



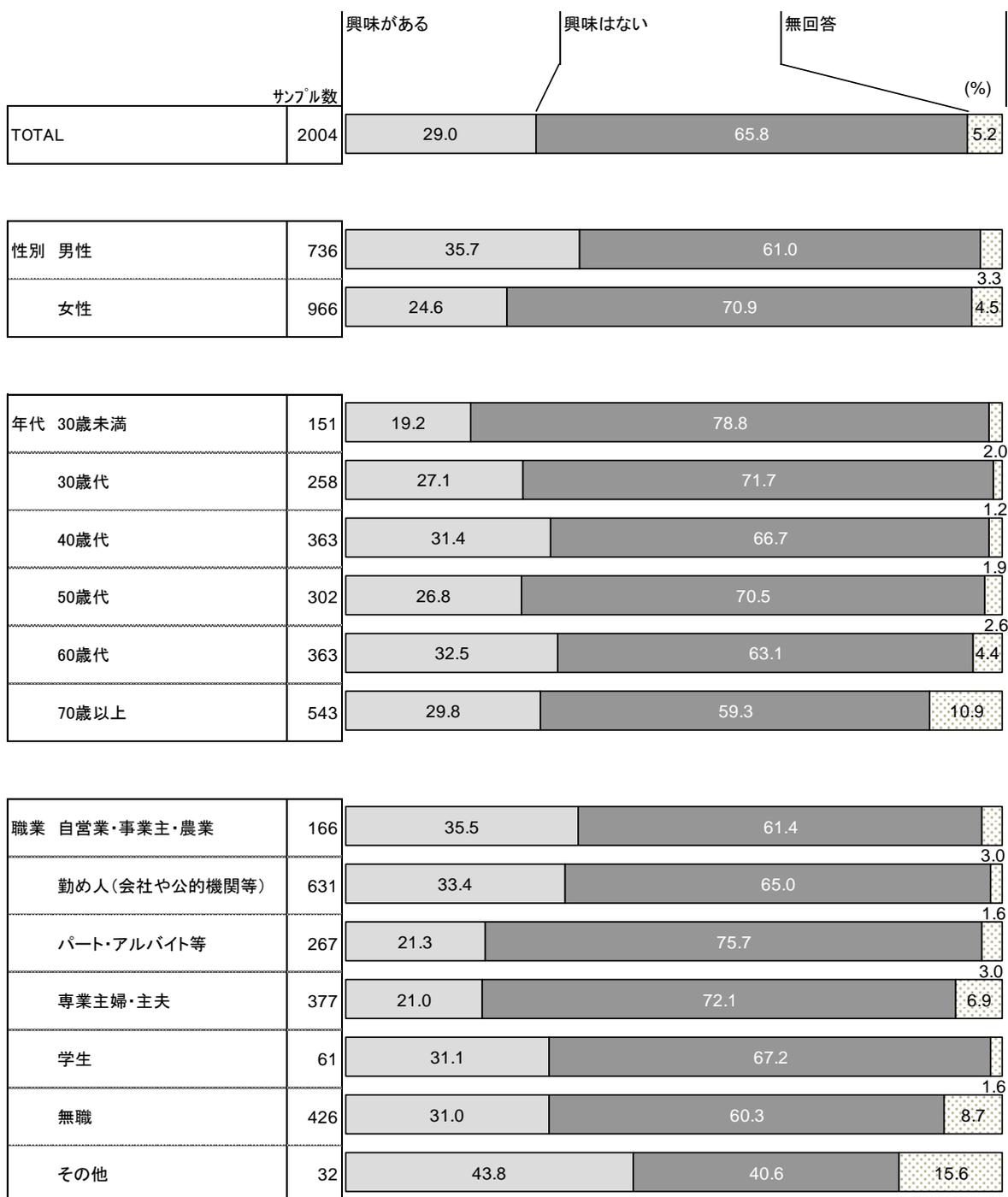
【問 19】 あなたは、市民参加条例に基づく市政への参加（市民説明会、パブリックコメント、懇談会、審議会等）について興味がありますか。（○は1つだけ）

市政参加への興味では、「興味がある」が29.0%に対して、「興味はない」が65.8%と2倍以上になっている。

年代別に見ると、「興味がある」は『60歳代』（32.5%）、『40歳代』（31.4%）が多くなっている。また、反対に「興味はない」は『30歳未満』では78.8%とほぼ8割と多くなっている。

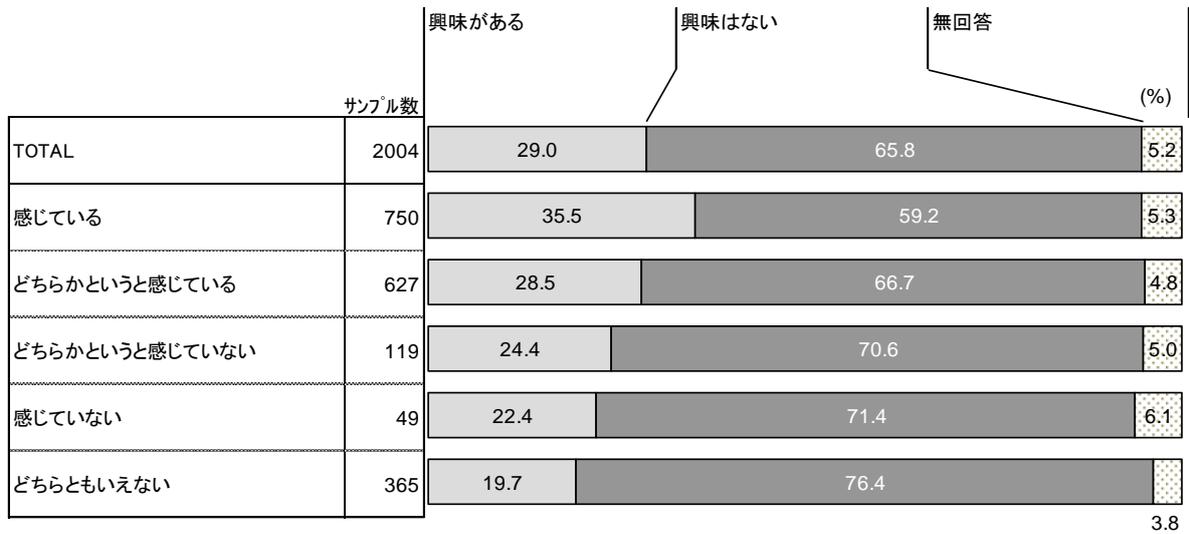
職業別に見ると、「興味がある」は『自営業・事業主・農業』（35.5%）や『勤め人（会社や公的機関等）』（33.4%）が多くなっている。

<性別・年代別・職業別>



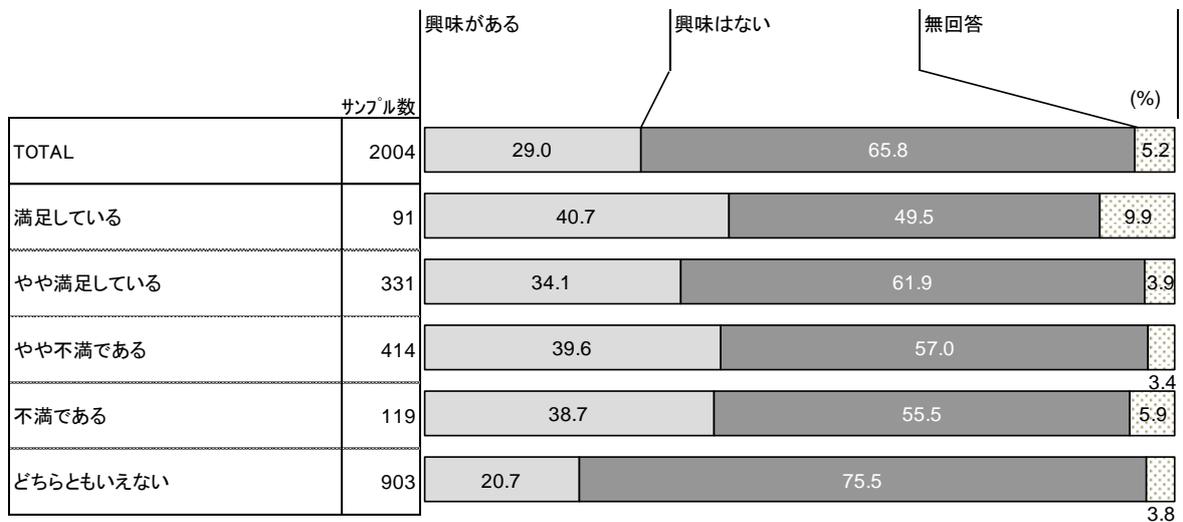
<愛着度別>

愛着度別に見ると、愛着を『感じている』人は「興味がある」が多く、35.5%となっている。



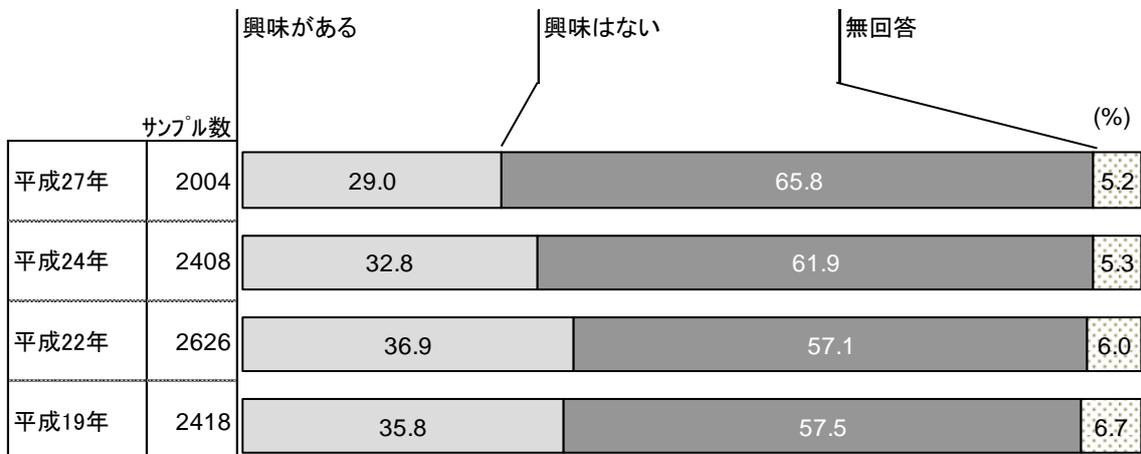
<市政満足度別>

市政満足度別に見ると、「興味がある」が最も多いのは『満足している』人で、40.7%となっている。さらに、『やや不満である』『不満である』人も、『TOTAL（全体）』よりも「興味がある」が多くなっている。（やや不満である 39.6%、不満である 38.7%）



<経年比較>

平成27年は「興味がある」が29.0%となっており、平成24年と比べて3.8ポイント少なくなっている。また、「興味はない」が65.8%で、平成24年と比べて3.9ポイント多くなっている。



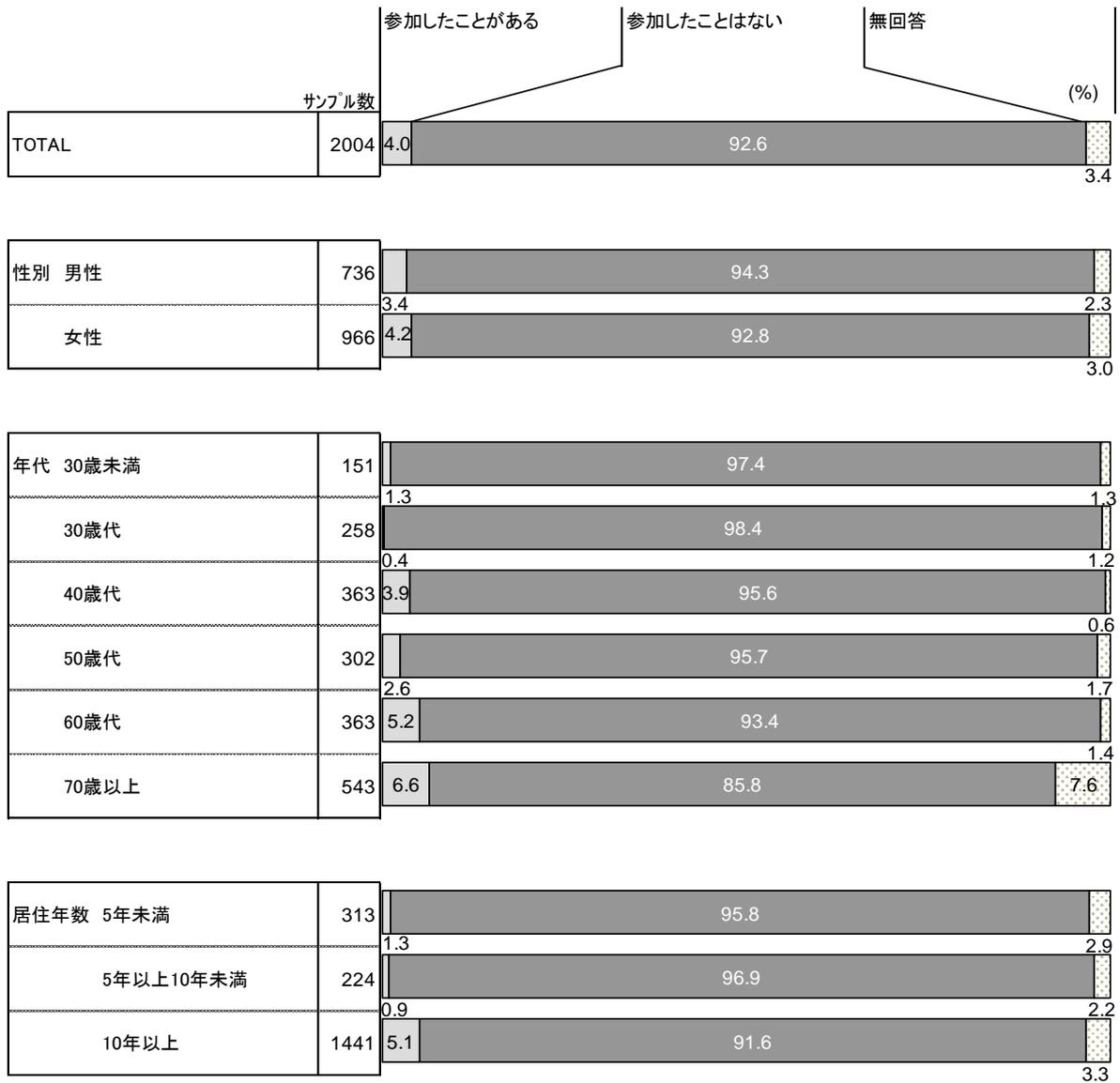
【問 20】 あなたは、市民参加条例に基づき、市政へ参加したことがありますか。(○は1つだけ)

市政への参加状況では、「参加したことがある」が4.0%と少なく、「参加したことはない」は92.6%と大多数となっている。

性別で見ると、「参加したことがある」が『男性』で3.4%、『女性』で4.2%となっている。

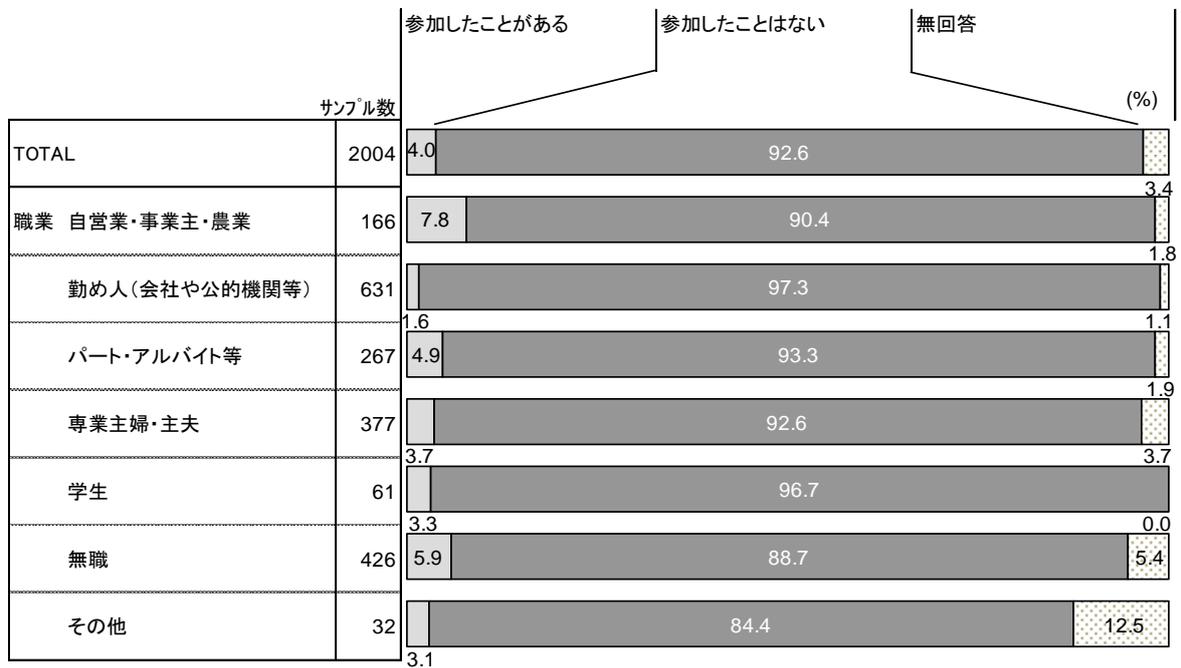
年代別に見ると、「参加したことがある」は『70歳以上』で最も多く、6.6%となっている。

<性別・年代別・居住年数別>



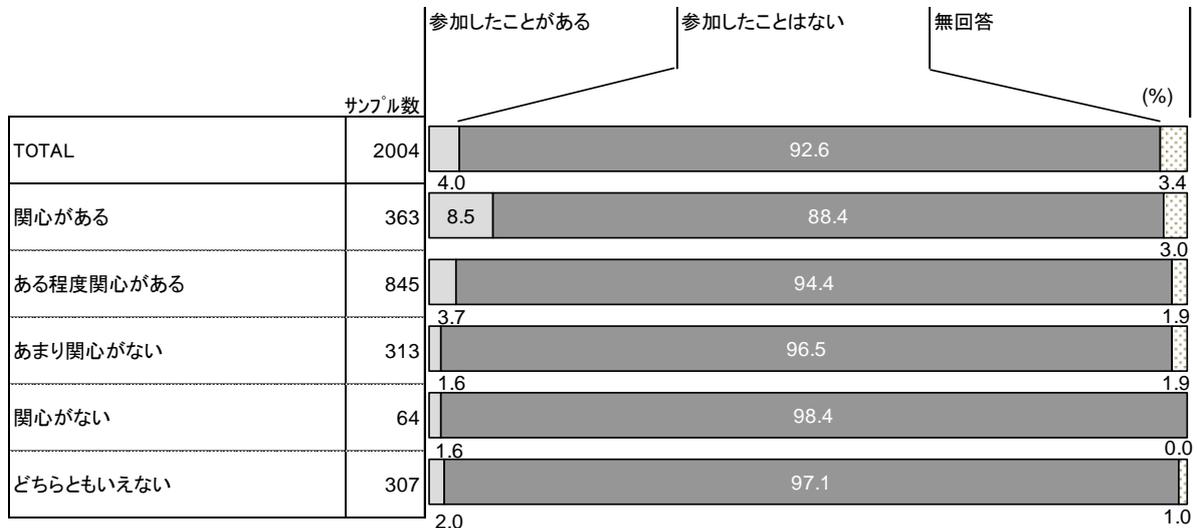
<職業別>

職業別に見ると、「参加したことがある」は『自営業・事業主・農業』で最も多く、7.8%となっている。



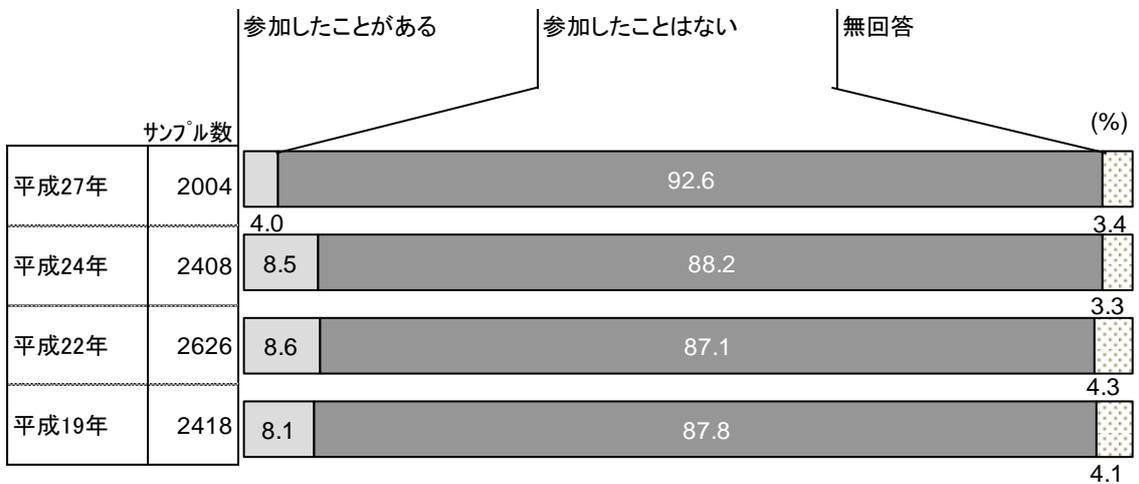
<市政関心度別>

市政関心度別に見ると、「参加したことがある」は『関心がある』人で最も多く、8.5%となっている。



<経年比較>

平成27年は「参加したことがある」が4.0%となっており、平成24年と比べて、4.5ポイント少なくなっている。一方、平成27年は「参加したことはない」が92.6%で、平成24年と比べて4.4ポイント多くなっている。



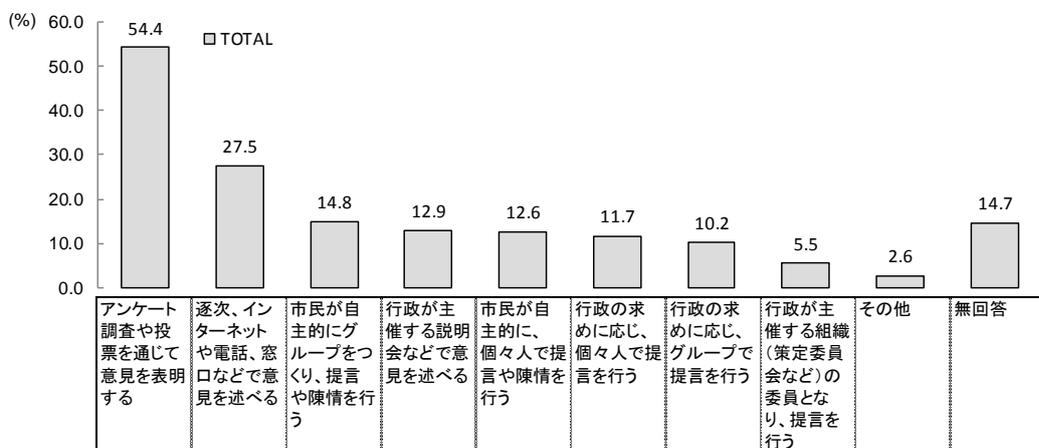
【問 21】 市政への参加方法として、あなたご自身に望ましい方法は何か。(〇はいくつでも)

市政への参加方法では、「アンケート調査や投票を通じて意見を表明する」が54.4%で最も多く、次いで「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」が27.5%となっている。

年代別に見ると、『30歳代』『40歳代』『50歳代』で「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」が、他の年代に比べて多くなっている。また、『30歳未満』『40歳代』で「アンケート調査や投票を通じて意見を表明する」が、他の年代に比べて多くなっている。一方、『70歳以上』では、「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」が10.3%と少なくなっている。

職業別に見ると、『勤め人(会社や公的機関等)』で「アンケート調査や投票を通じて意見を表明する」(58.3%)と「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」(39.9%)が、他の職業に比べて多くなっている。

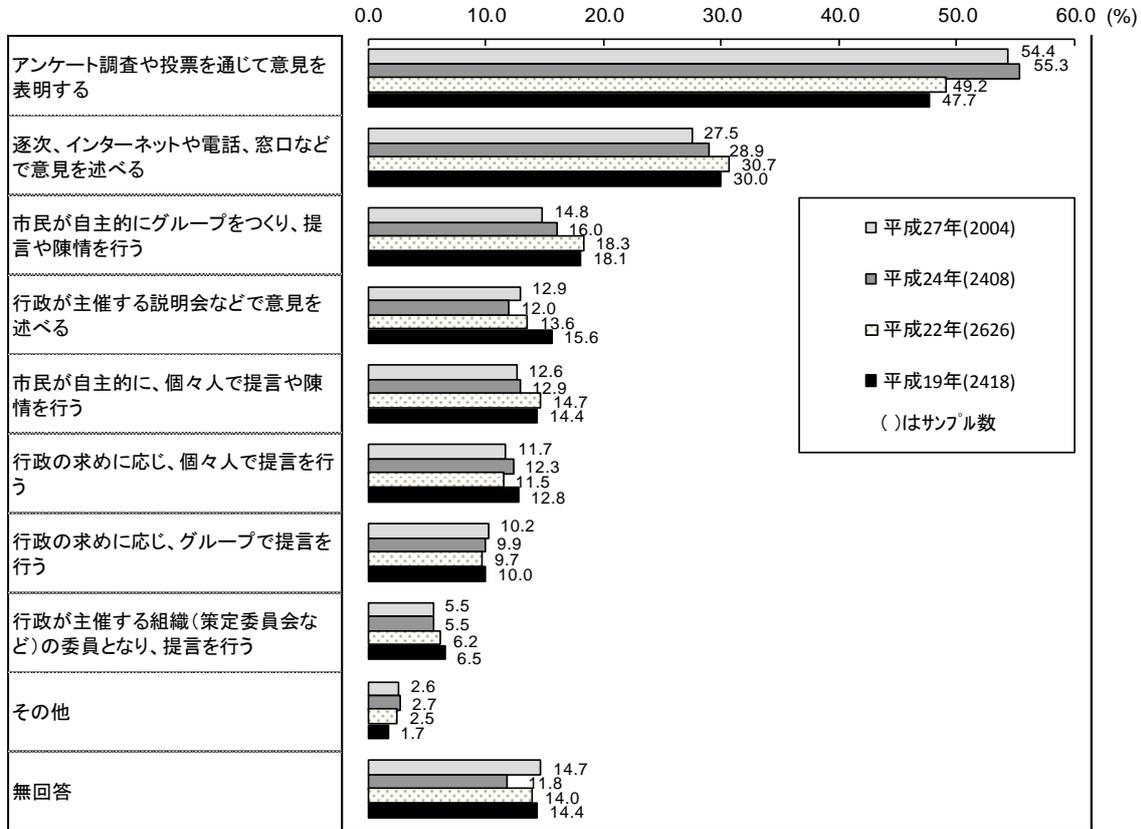
<性別・年代別・居住年数別・職業別>



サンプル数		アンケート調査や投票を通じて意見を表明する	逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる	市民が自主的にグループをつくり、提言や陳情を行う	行政が主催する説明会などで意見を述べる	市民が自主的に、個々人で提言や陳情を行う	行政の求めに応じ、個々人で提言を行う	行政の求めに応じ、グループで提言を行う	行政が主催する組織(策定委員会など)の委員となり、提言を行う	その他	無回答	
TOTAL	2004	54.4	27.5	14.8	12.9	12.6	11.7	10.2	5.5	2.6	14.7	
性別	男性	736	52.9	33.7	17.8	12.2	13.9	16.0	11.8	8.2	2.9	9.8
	女性	966	58.1	27.0	13.0	14.2	11.5	9.1	8.8	4.1	2.4	14.6
年代	30歳未満	151	64.9	33.8	15.2	10.6	7.9	10.6	9.3	4.0	1.3	4.6
	30歳代	258	60.1	42.6	14.0	10.5	10.9	13.2	11.6	6.2	1.2	5.0
	40歳代	363	63.4	43.3	16.0	14.6	13.2	8.8	10.5	6.9	2.8	3.9
	50歳代	302	55.3	32.5	14.9	16.2	14.2	12.9	11.6	6.0	1.0	9.9
	60歳代	363	53.2	20.7	17.6	17.1	12.7	12.9	11.8	8.0	3.3	11.8
	70歳以上	543	44.0	10.3	12.7	9.4	13.3	11.6	8.1	2.9	3.9	33.0
居住年数	5年未満	313	56.9	30.7	12.1	10.2	11.5	11.2	10.5	4.5	1.6	12.1
	5年以上10年未満	224	60.7	34.4	15.6	11.2	8.9	8.5	9.8	6.3	2.7	8.0
	10年以上	1441	53.6	26.0	15.4	13.9	13.4	12.3	10.3	5.7	2.7	15.7
職業	自営業・事業主・農業	166	47.0	28.9	20.5	12.0	13.9	9.0	12.0	9.6	1.2	12.0
	勤め人(会社や公的機関等)	631	58.3	39.9	14.4	12.4	12.4	14.4	11.1	6.7	1.9	5.7
	パート・アルバイト等	267	57.3	28.5	16.5	18.0	10.1	9.7	12.0	3.7	2.2	10.9
	専業主婦・主夫	377	55.4	21.0	10.9	9.8	12.2	5.8	6.6	3.4	2.7	21.5
	学生	61	63.9	32.8	18.0	16.4	11.5	9.8	9.8	8.2	1.6	3.3
	無職	426	50.7	16.0	15.3	13.8	14.3	15.0	10.3	5.2	4.0	24.4
	その他	32	43.8	18.8	18.8	15.6	21.9	15.6	12.5	6.3	6.3	15.6

<経年比較>

平成 27 年は「アンケート調査や投票を通じて意見を表明する」が 54.4%となっており、平成 24 年と比べて 0.9 ポイント少なくなっている。また、「逐次、インターネットや電話、窓口などで意見を述べる」と「市民が自主的にグループをつくり、提言や陳情を行う」は平成 22 年から調査毎に少なくなっている。



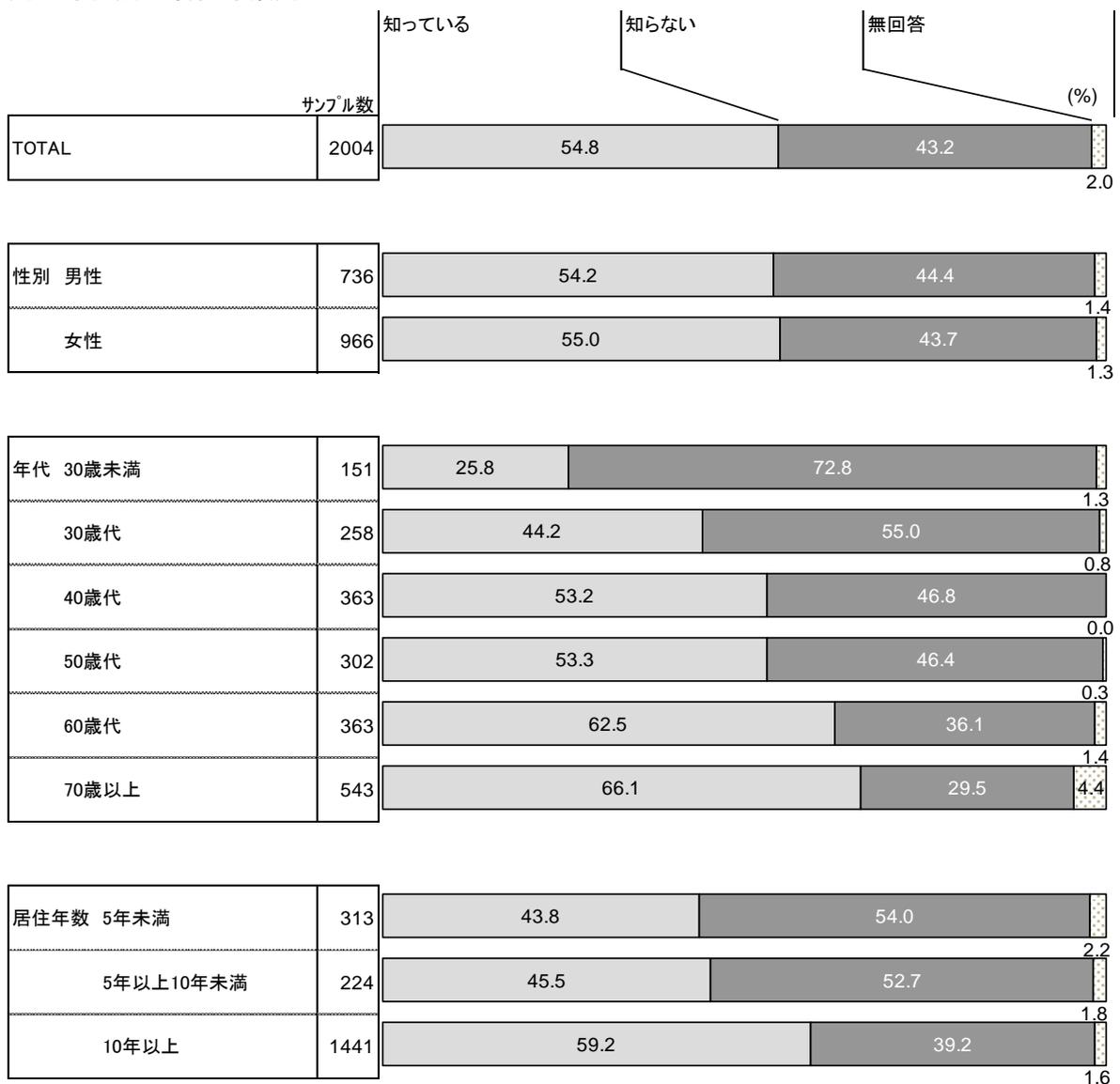
5. 本庁舎の統合整備について

【問 22】 あなたは、現在、市が本庁舎の統合整備の検討を行っていることをご存知ですか。（〇は1つだけ）

本庁舎統合整備の検討についての認知では、「知っている」が54.8%、「知らない」が43.2%となっている。年代別に見ると、年齢が高くなるにつれて「知っている」が多くなり、『60歳代』以上になると60%を超えている。

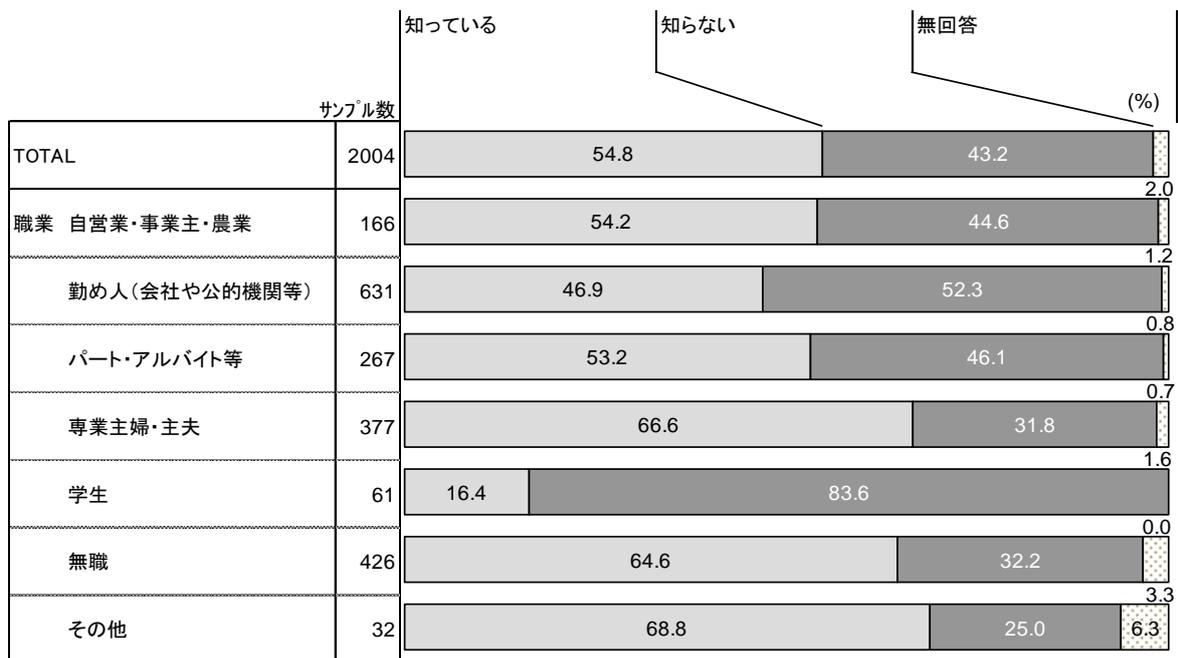
居住年数別に見ると、居住年数が長くなるにつれて「知っている」が多くなり、『10年以上』では「知っている」が59.2%にのぼる。

<性別・年代別・居住年数別>



<職業別>

職業別に見ると、『学生』では「知らない」が83.6%と他の職業に比べて多くなっている。



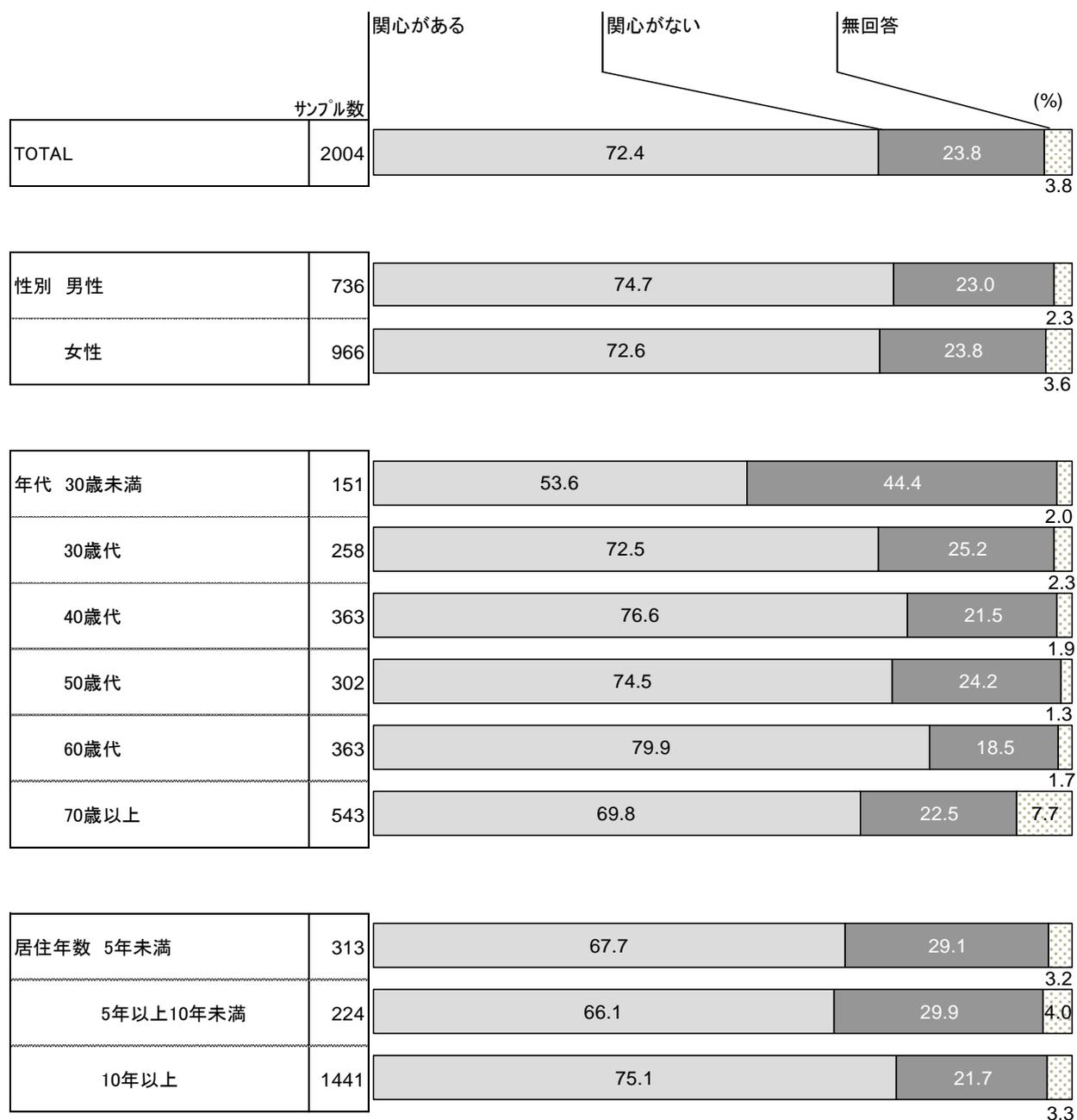
【問 23】 あなたは、本庁舎の統合整備について関心がありますか。(〇は1つだけ)

本庁舎統合整備への関心では、「関心がある」が72.4%と多く、「関心がない」は23.8%となっている。

年代別に見ると、『30歳代』以降は「関心がある」が概ね70%を超えて多くっており、『30歳未満』も53.6%と半数を超えている。

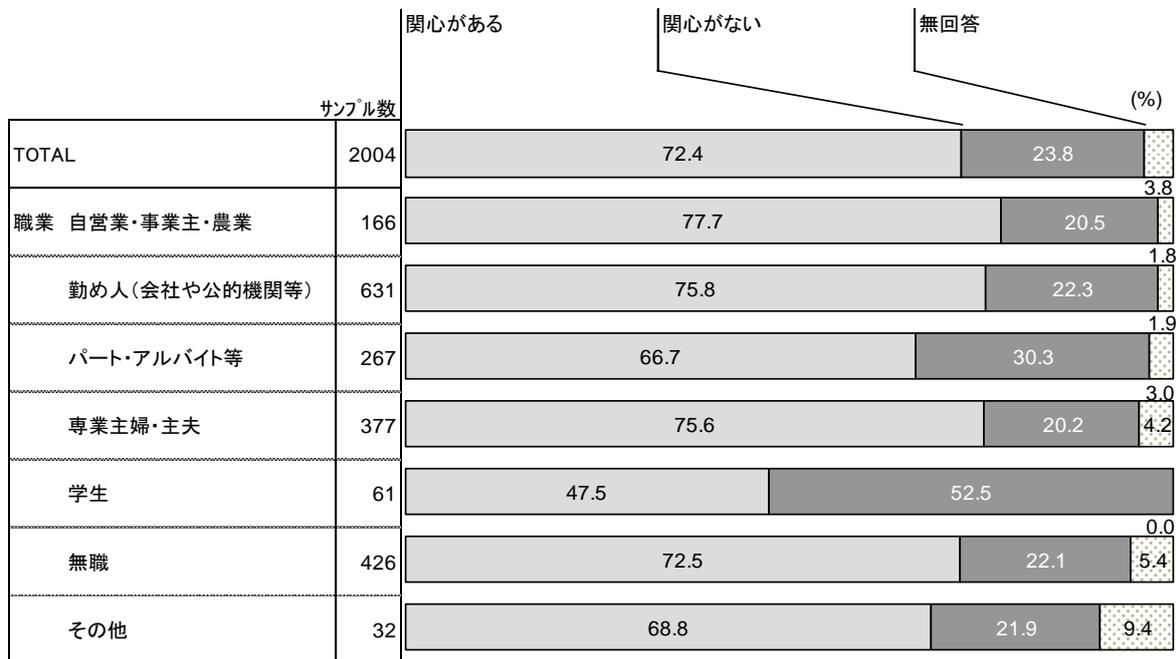
居住年数別に見ると、居住年数が長い『10年以上』で「関心がある」が75.1%と多くとなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



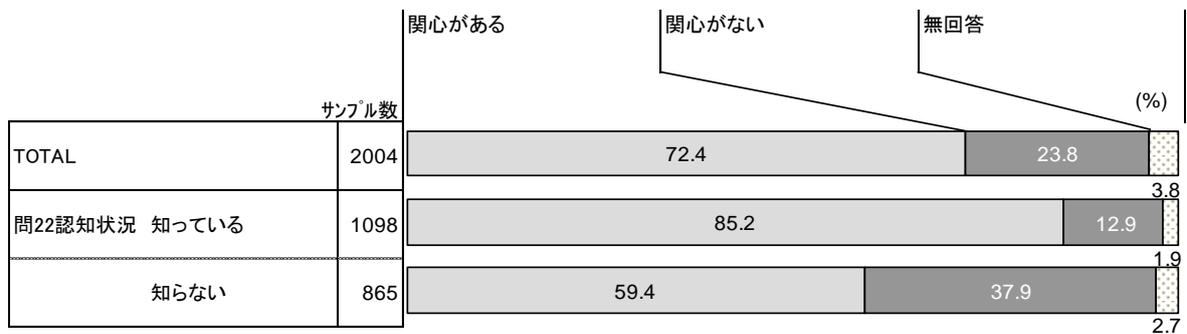
<職業別>

職業別に見ると、『学生』を除く他の全ての職業では、「関心がある」が65%を超えている一方で、『学生』は「関心がない」が52.5%で、「関心がある」(47.5%)より多くなっている。



<問 22 本庁舎統合整備の認知状況別>

本庁舎統合整備の認知状況別に見ると、『知らない』人より『知っている』人で「関心がある」が多く、85.2%となっている。『知らない』人でも「関心がある」は59.4%にのぼる。



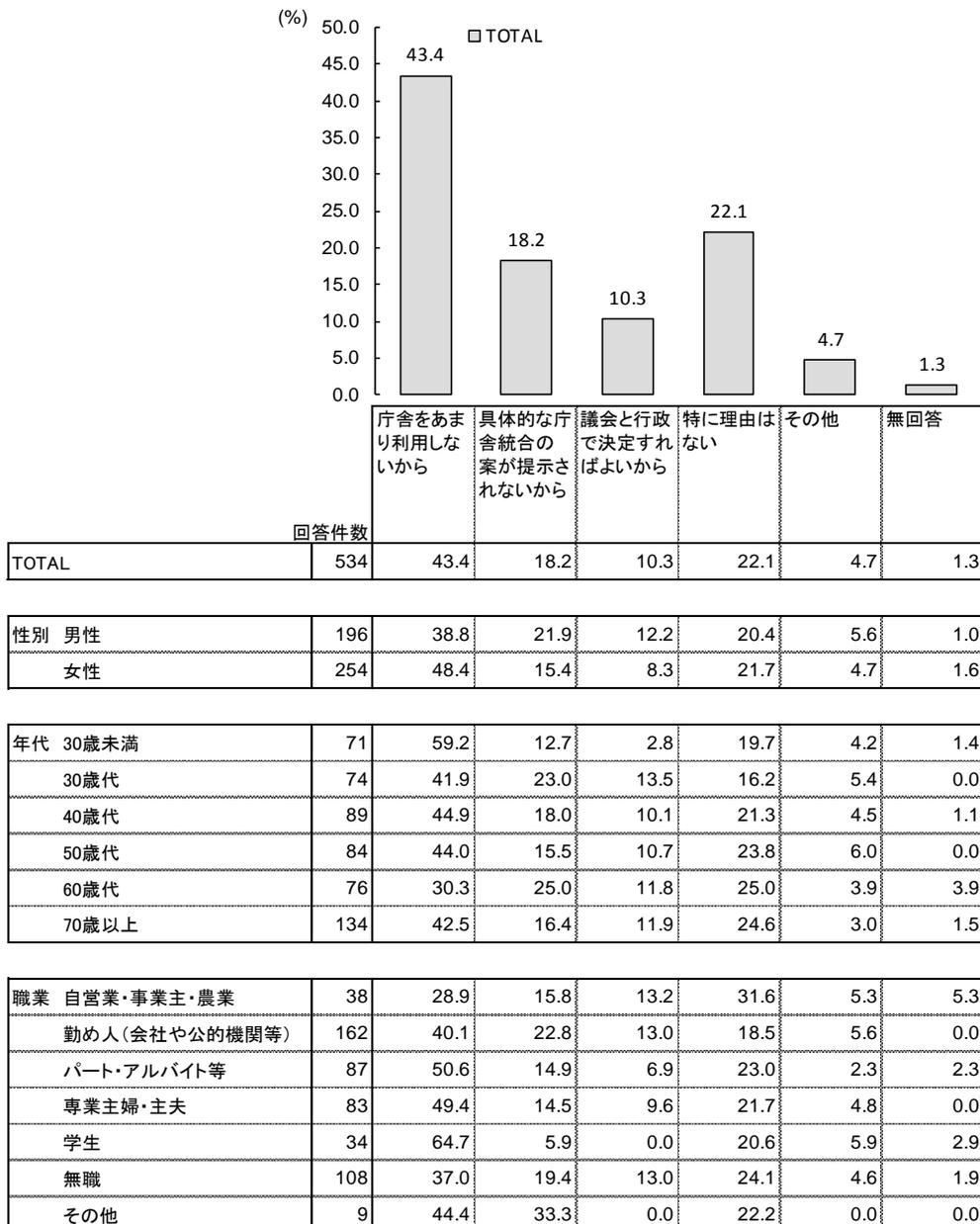
【問 24】 問 23 で「2. 関心がない」とお答えの方にお聞きします。あなたが本庁舎の統合整備に関心がない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

問 23 で「関心がない」と答えた方は、477 人となっている。関心がない理由（複数回答、全回答 534 件を母数）としては、「庁舎をあまり利用しないから」が 43.4%で最も多くなっている。一方で、「特に理由はない」は 22.1%となっている。

年代別に見ると、「庁舎をあまり利用しないから」は『30 歳未満』が最も多く、59.2%となっている。『60 歳代』では、「庁舎をあまり利用しないから」は 30.3%にとどまり、「具体的な庁舎統合の案が提示されないから」（25.0%）が他の年代と比べて多くなっている。

職業別に見ると、他の職業と比べて『パート・アルバイト等』と『専業主婦・主夫』で「庁舎をあまり利用しないから」が多く、それぞれ約半数となっている（パート・アルバイト等 50.6%、専業主婦・主夫 49.4%）（『学生』はサンプル数 34 で参考値）。

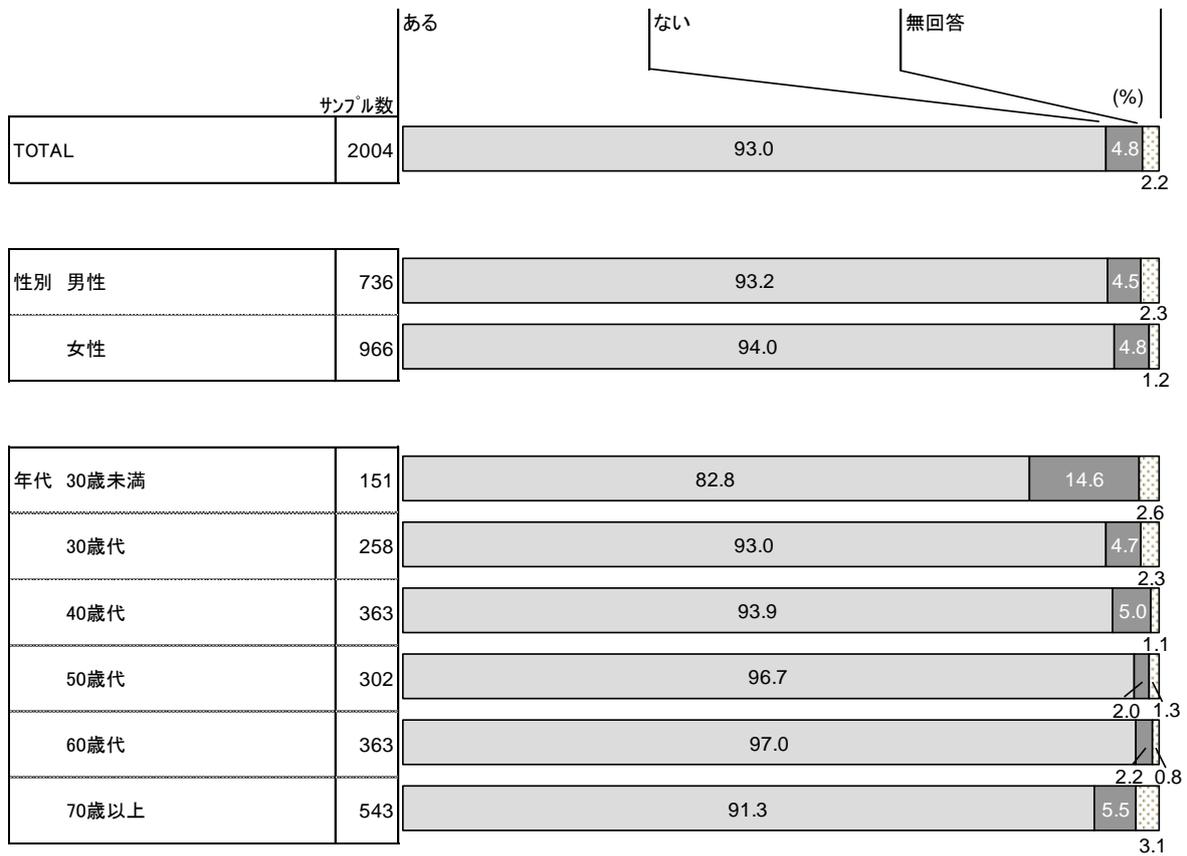
<性別・年代別・職業別> ※全回答件数 534 件を母数とする（回答者 477 人）



【問 25】 すべての方にお聞きします。あなたは、本庁舎（田無庁舎または保谷庁舎）を訪れたことはありますか。（〇は1つだけ）

本庁舎訪問の有無では、「訪れたことがある」が93.0%、「訪れたことがない」が4.8%となっている。
年代別に見ると、『30歳未満』を除く全ての年代では「訪れたことがある」が90%を超えている。

<性別・年代別>



【問 26】 問 25 で「1. ある」とお答えの方にお聞きします。あなたは、この1年間に何回ほど本庁舎（田無庁舎または保谷庁舎）を訪れましたか。（〇は1つだけ）

本庁舎訪問頻度では、「1～2回」が40.2%で最も多く、次いで「3～5回」が32.6%となっている。「0回」から「3～5回」を合わせた5回以下の訪問頻度は、84.9%と大半を占めている。

性別に見ると、『男性』は『女性』より訪問頻度が多く、「3～5回」が36.0%と『女性』より5.9ポイント多くなっている。一方、『女性』は『男性』より訪問頻度がやや少なく、「0回」が14.2%と『男性』より3.3ポイント多くなっている。

年代別に見ると、『30歳未満』は「0回」（19.2%）、「1～2回」（56.0%）を合わせると75.2%で、他の年代よりも訪問頻度は少なくなっている。

<性別・年代別・職業別>



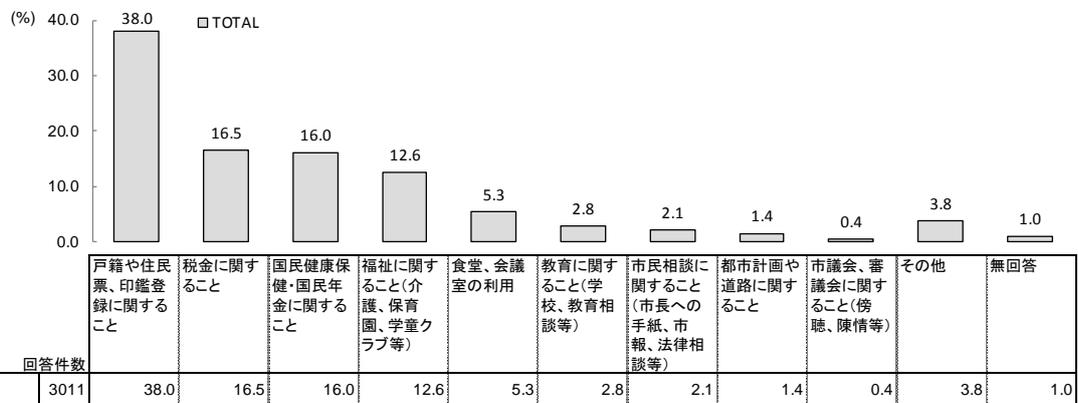
【問 27】 問 26 で「2. 1～2回」「3. 3～5回」「4. 6～9回」「5. 10回以上」とお答えの方にお聞きします。あなたは、この1年間にどのようなご用件で本庁舎（田無庁舎または保谷庁舎）を訪れましたか。（○はいくつでも）

問 26 で「1～2回」「3～5回」「6～9回」「10回以上」と答えた方は、1,624 人となっている。訪問理由（複数回答、全回答 3,011 件を母数）としては、「戸籍や住民票、印鑑登録に関する事」が 38.0%で最も多く、次いで「税金に関する事」が 16.5%、「国民健康保険・国民年金に関する事」が 16.0%、「福祉に関する事（介護、保育園、学童クラブ等）」が 12.6%となっている。

性別に見ると、『男性』は「戸籍や住民票、印鑑登録に関する事」が 40.1%となっており、『女性』の 37.6%に比べて 2.5 ポイント多くなっている。

年代別に見ると、「戸籍や住民票、印鑑登録に関する事」は『50 歳代』と『30 歳未満』が多くなっている（50 歳代 44.9%、30 歳未満 44.8%）。

<性別・年代別> ※全回答件数 3,011 件を母数とする（回答者 1,624 人）



性別	回答件数	戸籍や住民票、印鑑登録に関する事	税金に関する事	国民健康保険・国民年金に関する事	福祉に関する事（介護、保育園、学童クラブ等）	食堂、会議室の利用	教育に関する事（学校、教育相談等）	市民相談に関する事（市長への手紙、市報、法律相談等）	都市計画や道路に関する事	市議会、審議会に関する事（傍聴、陳情等）	その他	無回答
男性	1140	40.1	16.8	16.6	9.9	4.9	2.3	2.1	2.0	0.8	3.9	0.5
女性	1422	37.6	15.5	15.1	14.6	5.3	4.0	2.1	0.7	0.2	3.9	0.8

年代	回答件数	戸籍や住民票、印鑑登録に関する事	税金に関する事	国民健康保険・国民年金に関する事	福祉に関する事（介護、保育園、学童クラブ等）	食堂、会議室の利用	教育に関する事（学校、教育相談等）	市民相談に関する事（市長への手紙、市報、法律相談等）	都市計画や道路に関する事	市議会、審議会に関する事（傍聴、陳情等）	その他	無回答
30歳未満	154	44.8	10.4	26.0	11.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	4.5	0.6
30歳代	374	40.4	12.8	11.5	22.7	2.9	4.3	0.5	0.3	0.0	4.3	0.3
40歳代	528	41.3	12.9	8.1	14.6	4.7	8.9	0.9	1.5	0.4	6.1	0.6
50歳代	419	44.9	19.3	15.8	6.7	3.3	1.7	2.1	0.7	0.2	5.3	0.0
60歳代	638	37.6	17.7	20.2	9.2	6.3	0.9	2.4	1.6	0.5	2.5	1.1
70歳以上	874	30.8	18.6	18.3	12.5	7.8	0.7	3.8	2.4	0.8	2.3	2.1

<問 26 1年間の本庁舎への訪問頻度別> ※全回答件数 3,011 件を母数とする（回答者 1,624 人）

1年間の本庁舎への訪問頻度別に見ると、訪問頻度に限らず「戸籍や住民票、印鑑登録に関する事」が最も多くなっているが、訪問頻度が高いほどその割合は低くなっている。一方、「福祉に関する事（介護、保育園、学童クラブ等）」と「食堂、会議室の利用」は訪問頻度が高いほど割合が多くなっている。

訪問頻度	回答件数	戸籍や住民票、印鑑登録に関する事	税金に関する事	国民健康保険・国民年金に関する事	福祉に関する事（介護、保育園、学童クラブ等）	食堂、会議室の利用	教育に関する事（学校、教育相談等）	市民相談に関する事（市長への手紙、市報、法律相談等）	都市計画や道路に関する事	市議会、審議会に関する事（傍聴、陳情等）	その他	無回答
TOTAL	3011	38.0	16.5	16.0	12.6	5.3	2.8	2.1	1.4	0.4	3.8	1.0
問26訪問頻度 1～2回	1049	46.6	15.3	14.4	9.6	4.0	1.7	1.1	0.8	0.0	4.5	2.0
3～5回	1253	36.4	18.2	17.5	13.0	4.2	2.9	1.9	1.8	0.2	3.2	0.6
6～9回	404	30.9	15.3	18.1	15.8	6.9	4.7	3.5	1.5	0.7	2.5	0.0
10回以上	305	23.9	15.4	13.1	16.4	12.5	3.9	4.6	2.0	2.3	5.2	0.7

【問28】 すべての方にお聞きします。

市では、平成27年3月に作成した「庁舎統合方針（案）」において、老朽化した保谷庁舎は取り壊すこととし、田無・保谷両庁舎敷地周辺の公共施設を有効活用することにより、庁舎機能を再配置する「暫定的な対応方策」を示しました。今後、田無庁舎の耐用年数を考慮すると利用の目安である平成45年度までに、市中心エリアでの統合を視野に検討を進めることとしています。

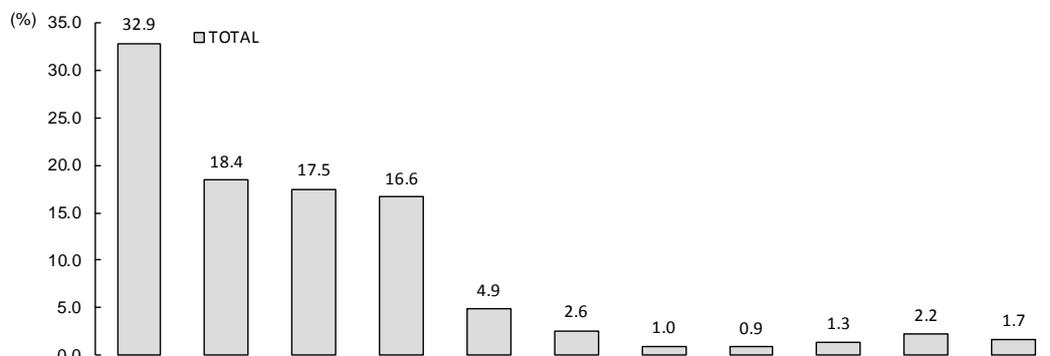
本庁舎の統合整備の取組を進めるにあたり、あなたが重視することは何ですか。（○は2つまで。ただし、「8. 特にない」「9. わからない」「10. 本庁舎の統合整備は必要ない（二庁舎体制を維持すればよい）」を選択する場合は○は1つだけ）

本庁舎統合整備にあたり重視すること（複数回答、全回答 3,733 件を母数）としては、「交通利便性がよい場所であること」が 32.9%で最も多く、次いで「基礎的窓口サービスが身近な場所で受けられること」が 18.4%、「建設費・維持管理費が安いこと」が 17.5%、「1つの窓口ですべての用事を済ませることができること」が 16.6%となっている。

性別で見ると、『男性』では「建設費・維持管理費が安いこと」が 20.5%となっており、『女性』の 15.5%に比べて 5.0 ポイント多くなっている。また、『女性』では「基礎的窓口サービスが身近な場所で受けられること」が 21.1%となっており、『男性』の 15.8%に比べて 5.3 ポイント多くなっている。

年代別で見ると、各年代とも「交通利便性がよい場所であること」が多くなっている。また、『30歳代』では「基礎的窓口サービスが身近な場所で受けられること」（20.1%）、『60歳代』では「建設費・維持管理費が安いこと」（20.6%）が、他の年代と比べて多くなっている。

<性別・年代別> ※全回答件数 3,733 件を母数とする（回答者 2,004 人）



回答件数	32.9	18.4	17.5	16.6	4.9	2.6	1.0	0.9	1.3	2.2	1.7	
TOTAL	3733	32.9	18.4	17.5	16.6	4.9	2.6	1.0	0.9	1.3	2.2	1.7

性別	回答件数	30.7	15.8	20.5	18.2	6.0	2.8	0.8	0.9	1.4	2.1	0.9
男性	1393	30.7	15.8	20.5	18.2	6.0	2.8	0.8	0.9	1.4	2.1	0.9
女性	1821	34.5	21.1	15.5	16.0	3.9	2.4	1.2	0.7	1.0	2.4	1.2

年代	回答件数	36.4	15.2	12.7	18.4	7.8	3.2	1.4	0.7	2.5	1.1	0.7
30歳未満	283	36.4	15.2	12.7	18.4	7.8	3.2	1.4	0.7	2.5	1.1	0.7
30歳代	513	33.9	20.1	17.9	16.4	4.5	2.7	0.6	0.4	0.8	2.1	0.6
40歳代	709	31.0	19.5	18.9	19.3	3.2	2.3	2.1	0.4	0.7	2.1	0.4
50歳代	561	34.0	19.6	17.8	14.4	6.2	3.0	0.9	0.5	1.1	1.8	0.5
60歳代	694	31.4	19.6	20.6	15.4	3.5	3.5	0.4	1.0	1.0	2.3	1.3
70歳以上	935	33.4	16.1	15.3	16.4	5.9	1.7	0.6	1.8	2.2	2.8	3.7

6. あなたの暮らしの希望について

【問 29】 あなたは、結婚していますか。(〇は1つだけ)【18~39 歳のみ】

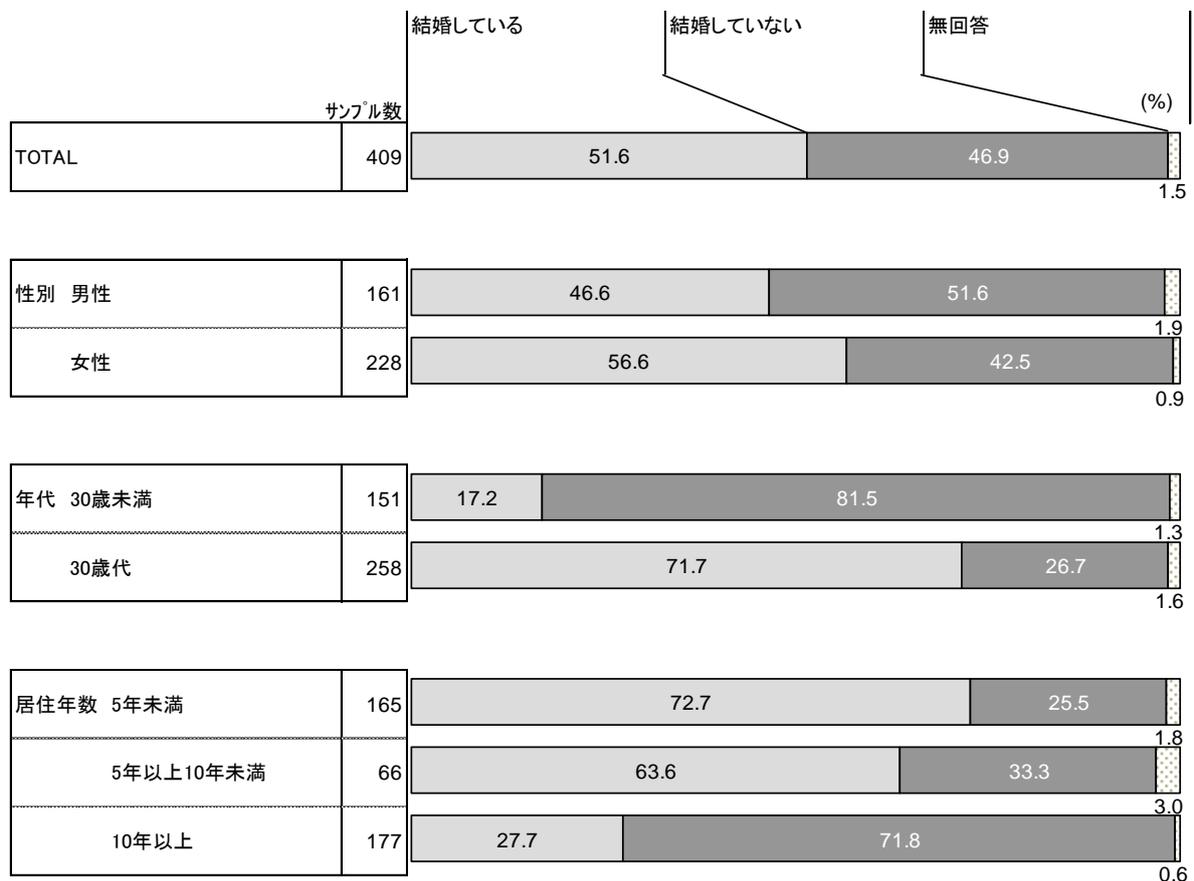
18 歳から 39 歳までの 409 人の未婚状況では、「結婚している」が 51.6%、「結婚していない」が 46.9% となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて「結婚していない」人が多く、51.6%となっている。『女性』は『男性』と比べて「結婚している」人が多く、56.6%となっている。

年代別に見ると、『30 歳未満』の「結婚している」人は 17.2%に対し、『30 歳代』の「結婚している」人は 71.7%となっている。

居住年数別に見ると、居住年数が短い人ほど「結婚している」人が多く、『5 年未満』の「結婚している」人は、72.7%と最も多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>

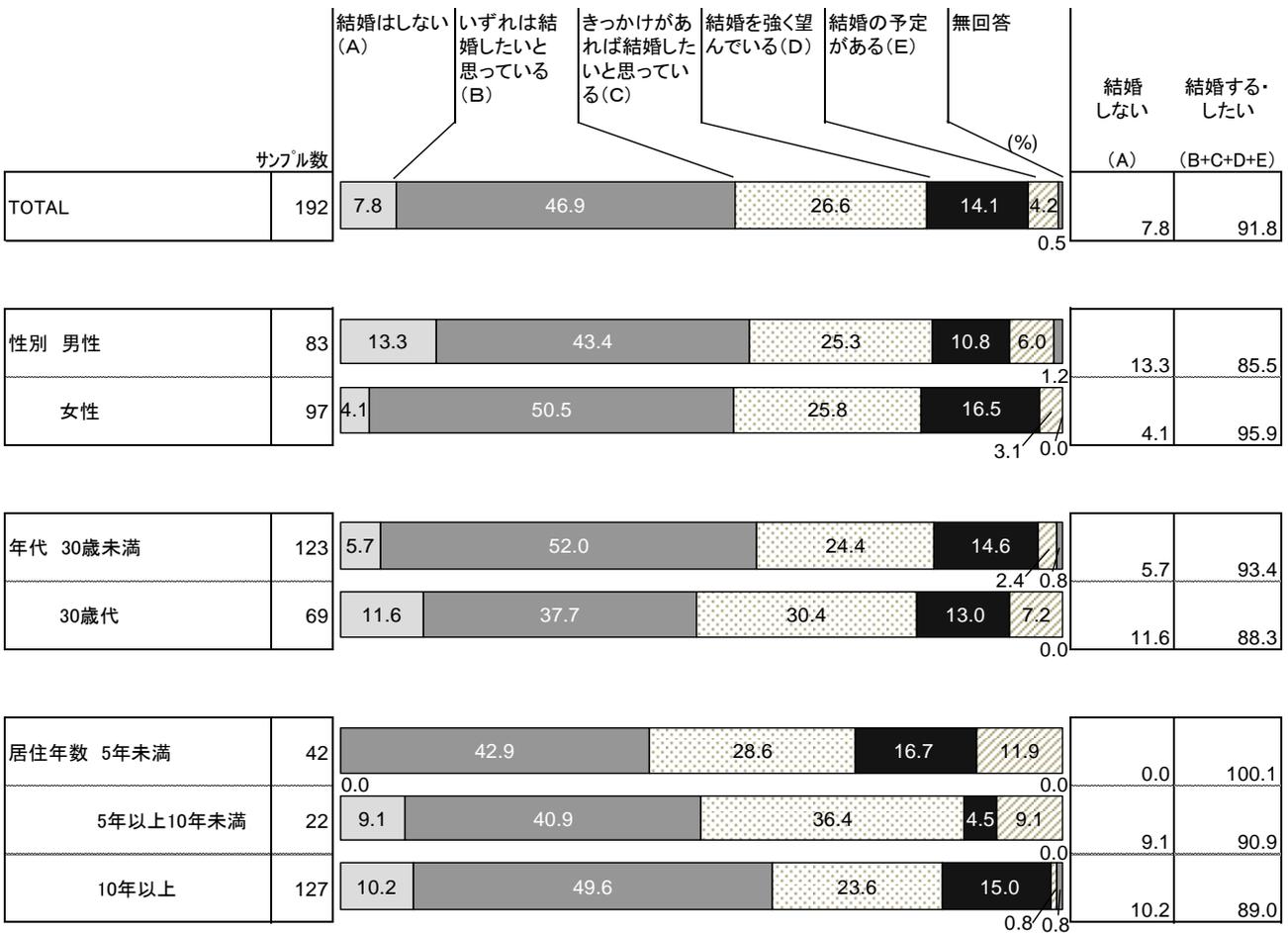


【問30】 問29で「2. 結婚していない」とお答えの方にお聞きします。自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは次のうちのどちらですか。(〇は1つだけ)【18~39歳のみ】

問29で「結婚していない」と答えた18~39歳の方は、192人となっている。「いずれは結婚したいと思っている」が46.9%と最も多く、次いで「きっかけがあれば結婚したいと思っている」が26.6%となっている。「いずれは結婚したいと思っている」「きっかけがあれば結婚したいと思っている」、「結婚を強く望んでいる」、「結婚の予定がある」を合わせた結婚意向・結婚予定がある割合は、91.8%と大多数を占める。

性別に見ると、『女性』は結婚意向・結婚予定がある割合は95.9%となっており、『男性』と比べて10.4ポイント多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別>



【問 31】 すべての方にお聞きします。現在、あなたの子どもは何人ですか（別居している子どもも含む）。（〇は1つだけ）【18～39歳のみ】

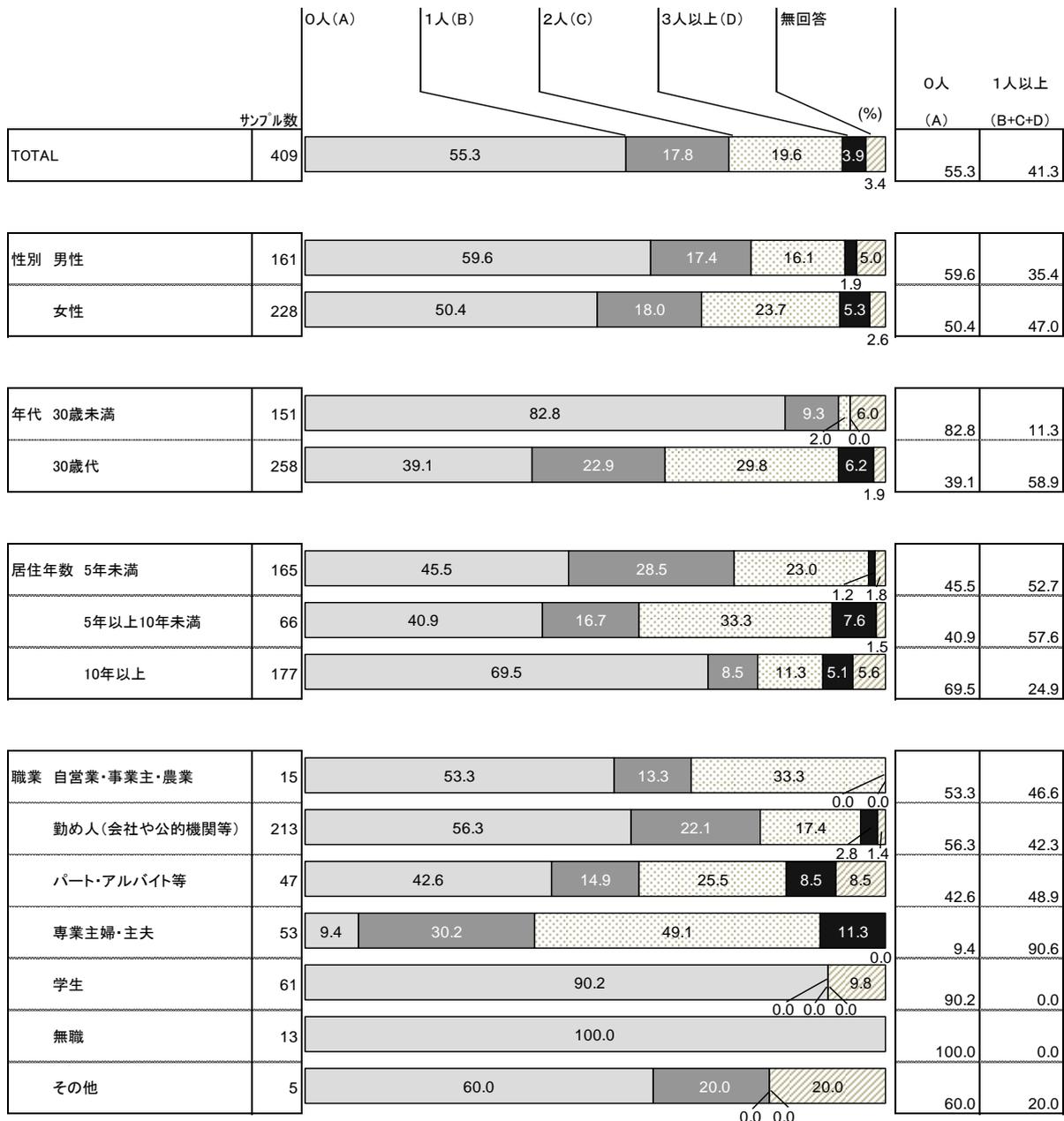
18～39歳の409人における現在の子どもの人数では、「0人」が55.3%で最も多く、半数を超えている。次いで「2人」が19.6%となっている。1人以上の子どもがいる人は、合わせて41.3%となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて「0人」が多く、59.6%となっている。『女性』は『男性』と比べて「2人」(23.7%)が多くなっている。1人以上の子どもがいる『女性』は47.0%と、女性の約半数である。

年代別に見ると、『30歳未満』で「0人」は82.8%に対し、『30歳代』では39.1%と約半分の割合となっている。『30歳代』は「2人」(29.8%)、「1人」(22.9%)の割合が『30歳未満』より多くなっている。

居住年数別に見ると、『5年以上10年未満』の人が子どもの人数が多く、「2人」は33.3%となっている。職業別に見ると、『学生』や『勤め人(会社や公的機関等)』に「0人」が多くなっている(学生90.2%、勤め人(会社や公的機関等)56.3%)。一方、『専業主婦・主夫』は「2人」が49.1%と、他の職業と比べて最も多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



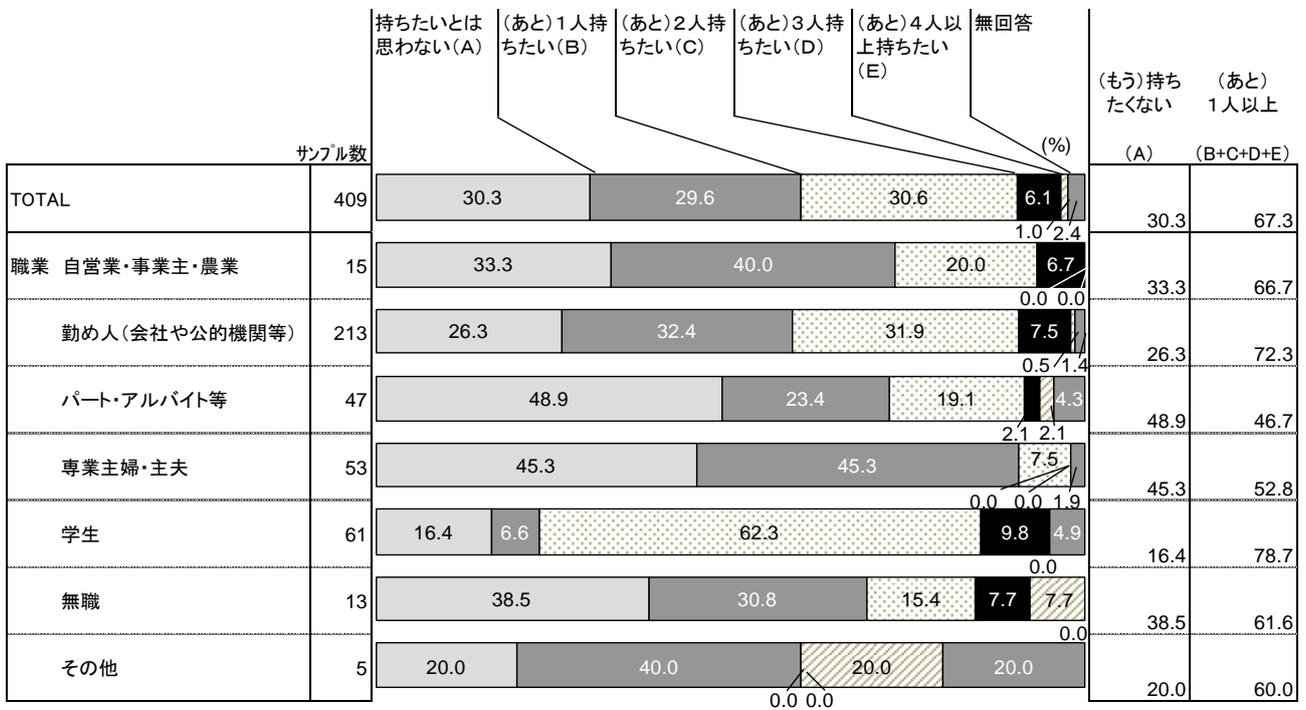
【問 32】 すべての方にお聞きします。あなたは、今後、子どもを持ちたいと思いますか。(〇は1つだけ) 【18～39 歳のみ】

18～39 歳の 409 人における今後の子どもの希望人数では、「(あと) 2人持ちたい」が 30.6%で最も多く、次いで「持ちたいとは思わない」が 30.3%、「(あと) 1人持ちたい」が 29.6%となっている。「(あと) 1人持ちたい」「(あと) 2人持ちたい」「(あと) 3人持ちたい」「(あと) 4人以上持ちたい」を合わせた子どもをあと 1人以上持ちたいとの意向は、67.3%となっている。

年代別に見ると、『30 歳未満』で「(あと) 2人持ちたい」と思っている人が多く、半数の 50.3%となっている。一方、『30 歳代』では「持ちたいとは思わない」人が多く、39.5%となっている。1人以上持ちたいとの希望は、『30 歳未満』では 81.5%、『30 歳代』では 59.0%にのぼる。

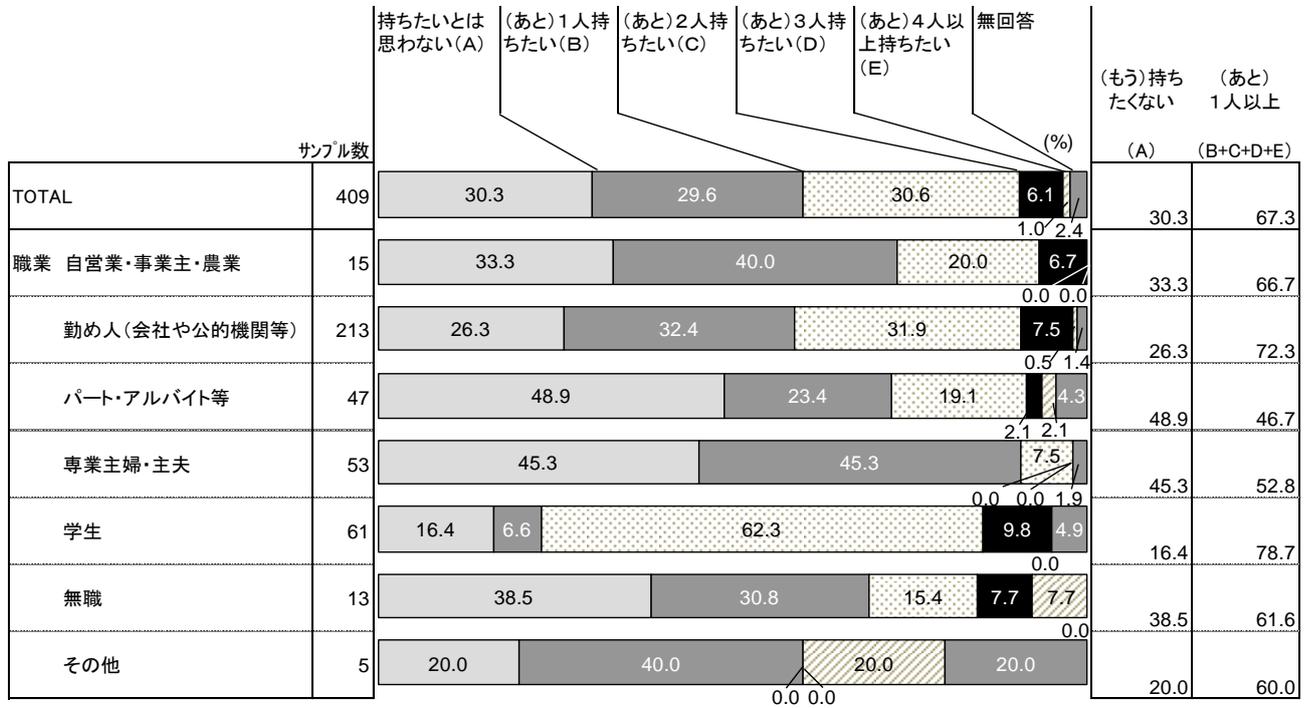
居住年数別に見ると、『10年以上』の人で「(あと) 2人持ちたい」と思っている人が多く、37.9%となっている。「(あと) 3人持ちたい」人も多く、10.7%となっている。

<性別・年代別・居住年数別>



<職業別>

職業別に見ると、『学生』は「(あと) 2人持ちたい」人が多く、62.3%となっている。子どもをあと1人以上持ちたいとの意向は、『学生』が78.7%で最も多く、次いで『勤め人(会社や公的機関等)』(72.3%)となっている。『専業主婦・主夫』は、「持ちたいとは思わない」が45.3%と他の職業と比べて多くなっている(『パート・アルバイト等』はサンプル数47で参考値)。



【問 33】 問 32 で今後、子どもを 1 人以上ほしいとお答えいただいた方にお聞きします。今後、あなたが子どもを 1 人以上持つにはどのようなことが必要ですか。(〇は 3 つまで) 【18～39 歳のみ】

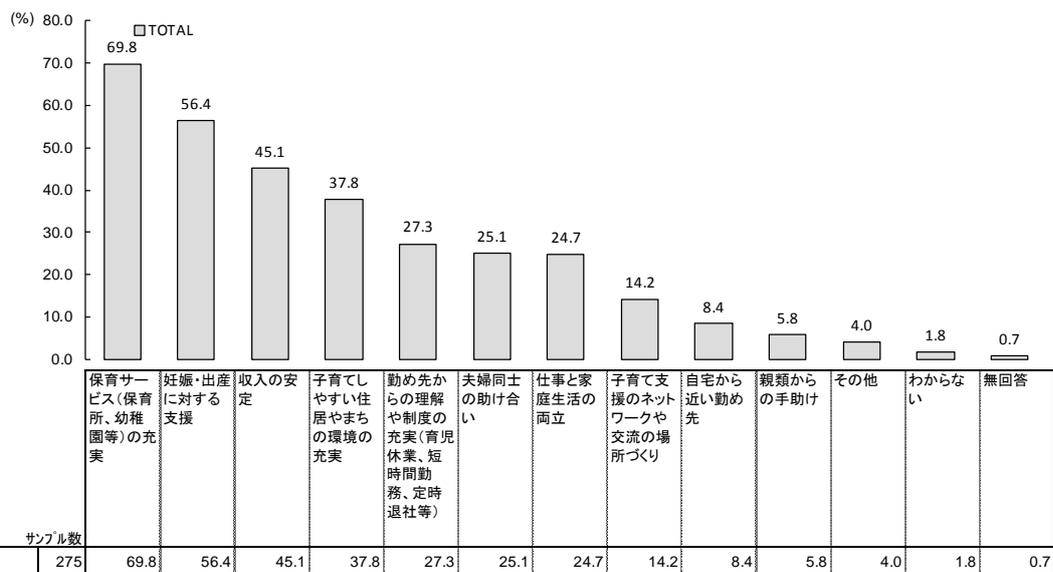
問 32 で「子どもをあと 1 人以上ほしい」と答えた 18～39 歳の方は、275 人となっている。子どもを 1 人以上持つために必要なこととしては、「保育サービス（保育所、幼稚園等）の充実」が 69.8%で最も多く、次いで「妊娠・出産に対する支援」が 56.4%、「収入の安定」が 45.1%となっている。

性別に見ると、「保育サービス（保育所、幼稚園等）の充実」を求めるのは、『男性』（65.4%）と比べて『女性』（74.4%）が多く、その差は 9.0 ポイントとなっている。また、『女性』は「勤め先からの理解や制度の充実（育児休業、短時間勤務、定時退社等）」（35.3%）が多く、『男性』（15.4%）との差は 19.9 ポイントとなっている。一方、『女性』と比べて『男性』は「収入の安定」（55.8%）が多く、『女性』（37.2%）との差は 18.6 ポイントとなっている。

居住年数別に見ると、年数が短い『5 年未満』の人は、年数が長い人に比べて「子育てしやすい住居やまわりの環境の充実」（45.1%）が多くなっている。

職業別に見ると、「保育サービス（保育所、幼稚園等）の充実」が最も多いのは『勤め人（会社や公的機関等）』で、76.0%となっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別・世帯構成別>



サンプル数	割合 (%)													
TOTAL	275	69.8	56.4	45.1	37.8	27.3	25.1	24.7	14.2	8.4	5.8	4.0	1.8	0.7

性別 男性	104	65.4	51.9	55.8	38.5	15.4	22.1	27.9	15.4	7.7	2.9	3.8	2.9	1.0
女性	156	74.4	59.0	37.2	37.8	35.3	25.6	21.8	13.5	8.3	7.1	3.8	1.3	0.0

年代 30歳未満	123	67.5	55.3	45.5	31.7	27.6	26.8	30.1	10.6	8.1	4.9	3.3	3.3	0.8
30歳代	152	71.7	57.2	44.7	42.8	27.0	23.7	20.4	17.1	8.6	6.6	4.6	0.7	0.7

居住年数 5年未満	113	76.1	59.3	44.2	45.1	23.0	27.4	25.7	18.6	11.5	8.8	0.9	0.9	0.0
5年以上10年未満	41	75.6	51.2	46.3	31.7	24.4	24.4	22.0	9.8	7.3	2.4	7.3	4.9	0.0
10年以上	120	61.7	55.8	45.8	33.3	32.5	23.3	25.0	11.7	5.8	4.2	5.8	1.7	1.7

職業 自営業・事業主・農業	10	60.0	60.0	30.0	50.0	30.0	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
勤め人(会社や公的機関等)	154	76.0	57.8	45.5	42.9	29.2	25.3	24.0	13.6	7.8	5.2	3.9	0.6	1.3
パート・アルバイト等	22	59.1	63.6	50.0	31.8	4.5	31.8	22.7	18.2	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0
専業主婦・主夫	28	71.4	71.4	50.0	46.4	25.0	25.0	10.7	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0
学生	48	62.5	43.8	41.7	18.8	33.3	20.8	33.3	12.5	12.5	4.2	4.2	6.3	0.0
無職	8	50.0	50.0	50.0	25.0	37.5	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0
その他	3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

世帯構成 単身世帯(一人で住んでいる)	21	57.1	42.9	61.9	28.6	19.0	19.0	19.0	14.3	9.5	4.8	4.8	0.0	4.8
夫婦で住んでいる	46	73.9	65.2	39.1	58.7	21.7	28.3	26.1	26.1	17.4	10.9	2.2	0.0	0.0
二世帯世帯(親と子)	183	69.4	53.6	44.3	35.5	29.5	25.7	24.0	11.5	6.0	4.4	3.8	2.7	0.5
三世帯世帯(親と子と孫)	16	75.0	75.0	43.8	12.5	18.8	6.3	31.3	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
その他	7	85.7	71.4	57.1	57.1	42.9	57.1	42.9	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0

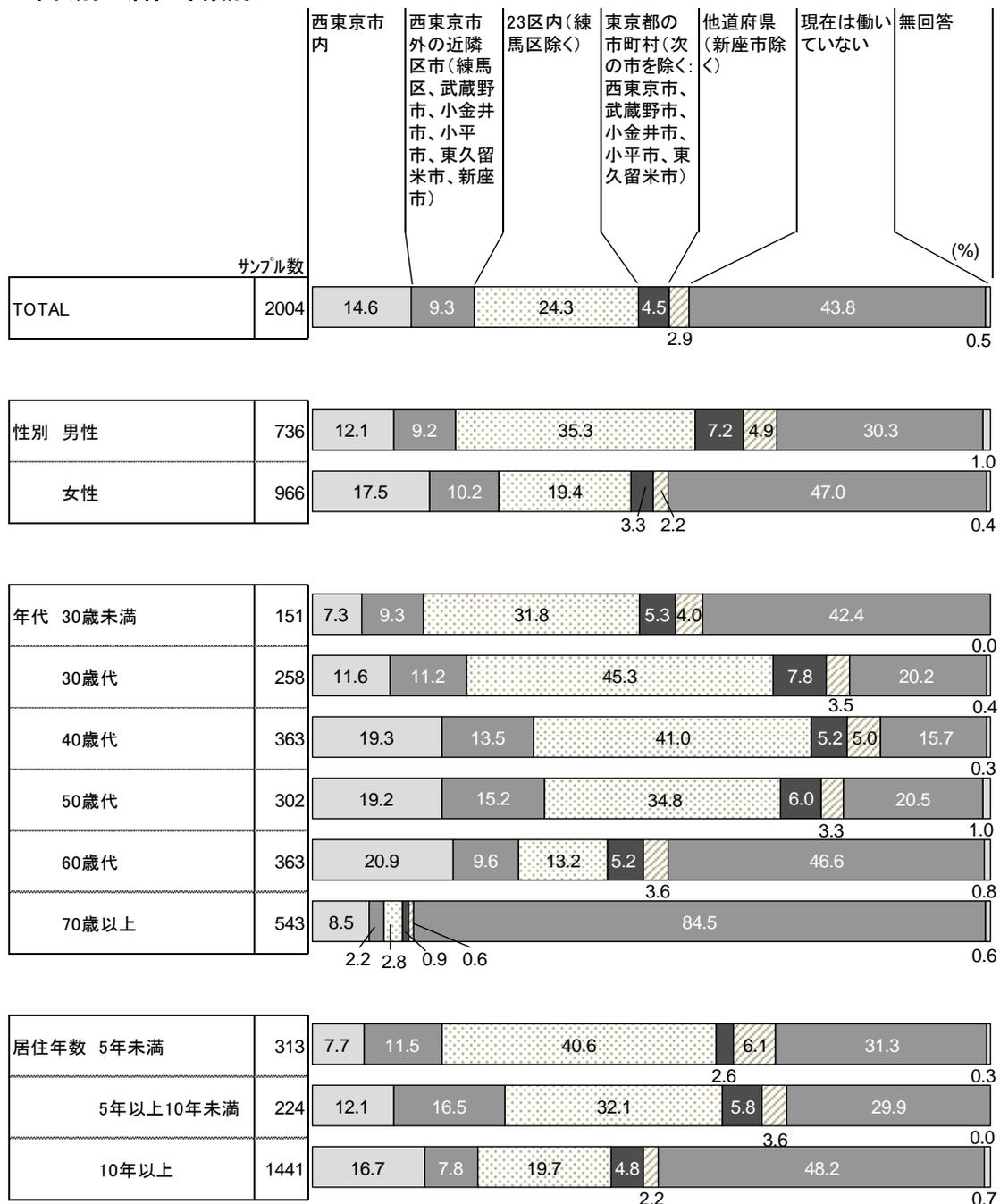
【問 34】 すべての方にお聞きます。あなたの現在の主なお勤め先（働いている場所）はどちらになりますか。（〇は1つだけ）

現在の勤め先では、「現在は働いていない」が43.8%で最も多く、次いで「23区内（練馬区除く）」が24.3%となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて、「23区（練馬区除く）」（35.3%）、「東京都の市町村（次の市を除く：西東京市、武蔵野市、小金井市、小平市、東久留米市）」（7.2%）、「他都道府県（新座市除く）」（4.9%）の勤め先が多くなっている。また、『男性』と比べて『女性』は、「西東京市内」（17.5%）、「現在は働いていない」（47.0%）が多くなっている。

年齢別に見ると、『30歳代』『40歳代』の働き世代は西東京市外の勤め先が60%以上で、他の年代と比べて多くなっている。また、『40歳代』『50歳代』『60歳代』は、約5人に1人が「西東京市内」に勤めている。

<性別・年代別・居住年数別>



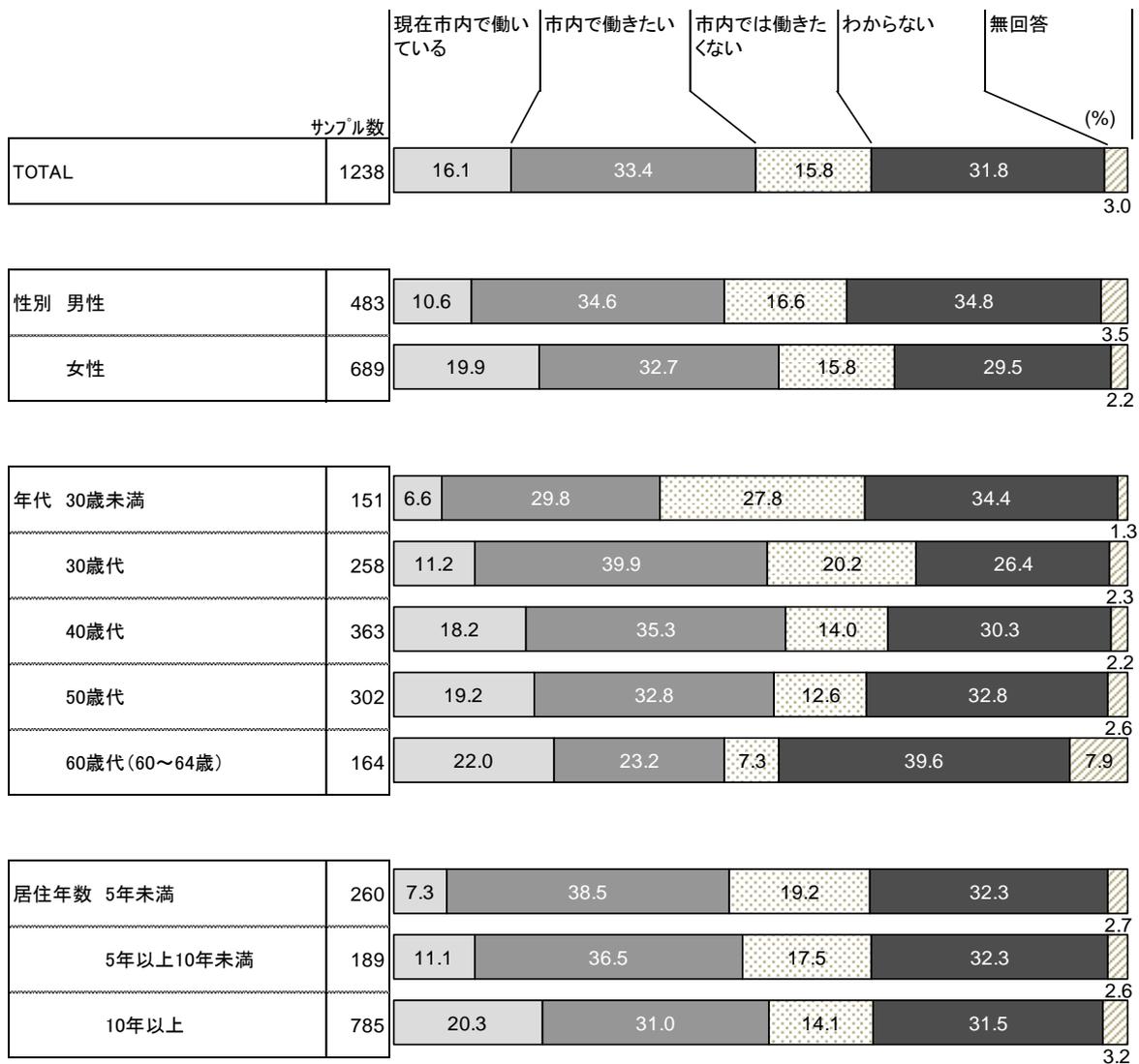
【問 35】 あなたは、働き先が西東京市内にあれば、市内で働きたいと思いますか。(○は1つだけ)【18～64 歳のみ】

18～64 歳における市内での就労希望では、「市内で働きたい」が 33.4%で最も多く、次いで「現在市内で働いている」が 16.1%となっている。

性別に見ると、「わからない」を除き、男女ともに「市内で働きたい」と思う人が最も多くなっている（男性 34.6%、女性 32.7%）。また、『女性』は「現在市内で働いている」人が 19.9%で、『男性』（10.6%）と比べて 9.3 ポイント多くなっている。

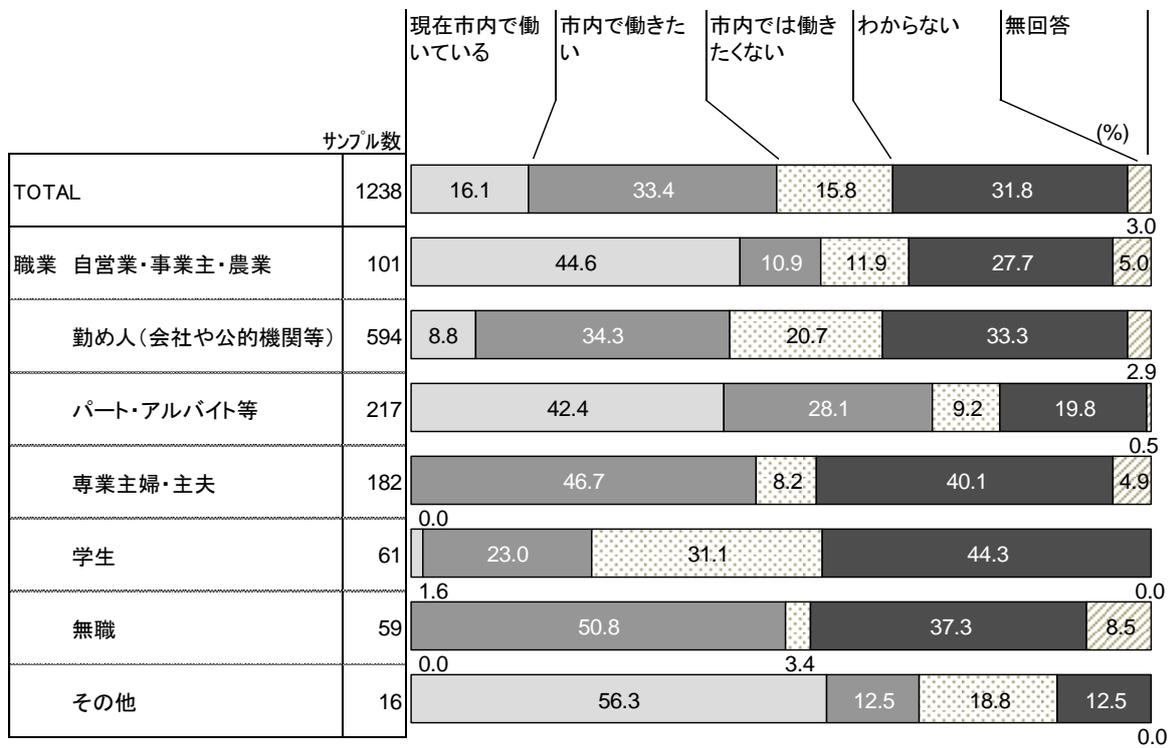
年代別に見ると、年齢が高くなるにつれて、「現在市内で働いている」人が多くなる傾向となっている。また、「市内で働きたい」人は他の年代と比べて『30 歳代』で多く、39.9%となっている。

<性別・年代別・居住年数別>



<職業別>

職業別に見ると、「市内で働きたい」人は、『専業主婦・主夫』と『無職』が多くなっている（専業主婦・主夫 46.7%、無職 50.8%）。



【問 36】 問 35 で「2. 市内で働きたい」とお答えの方にお聞きします。あなたが、「働き先が市内にあれば、市内で働きたい」と思われた理由を具体的にお答えください。【18～64 歳のみ】

18～64 歳のうち、市内で働きたい理由を自由記述欄に記入した人は 400 人、記入率は 96.8%となっている。

記述内容として最も多かったのが「通勤時間の軽減」であり、253 件の回答があがった。次いで、「子育てのため」(51 件)、「家庭・家事の両立のため」(26 件)となっている。

年代別では「通勤時間の軽減」は、『40 歳代』と『50 歳代』が多く (40 歳代 76 件、50 歳代 72 件)。「子育てのため」は、『30 歳代』(29 件)が多くなっている。

年代	総計	通勤時間の軽減	(件)									
			子育てのため	家庭・家事の両立のため	地元への貢献のため	非常時・災害時の対応のため	高齢や病気のため	魅力のあるまちだから	介護のため	自分の時間が持てるため	満員電車・ラッシュがづらい	その他
総計	400	253	51	26	13	12	11	7	5	3	2	17
18・19歳	8	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
20歳代	35	20	4	2	3	-	-	3	-	-	1	2
30歳代	102	54	29	7	3	3	1	-	1	1	-	3
40歳代	122	76	18	9	3	7	4	1	1	-	1	2
50歳代	94	72	-	5	-	2	2	2	2	2	-	7
60～64歳	39	24	-	3	4	-	4	-	1	-	-	3

**【問 37】 問 35 で「1. 現在市内で働いている」「2. 市内で働きたい」とお答えの方にお聞きします。
あなたは、次にあげる中でどのような仕事に興味がありますか。(〇はいくつでも)【18～64 歳のみ】**

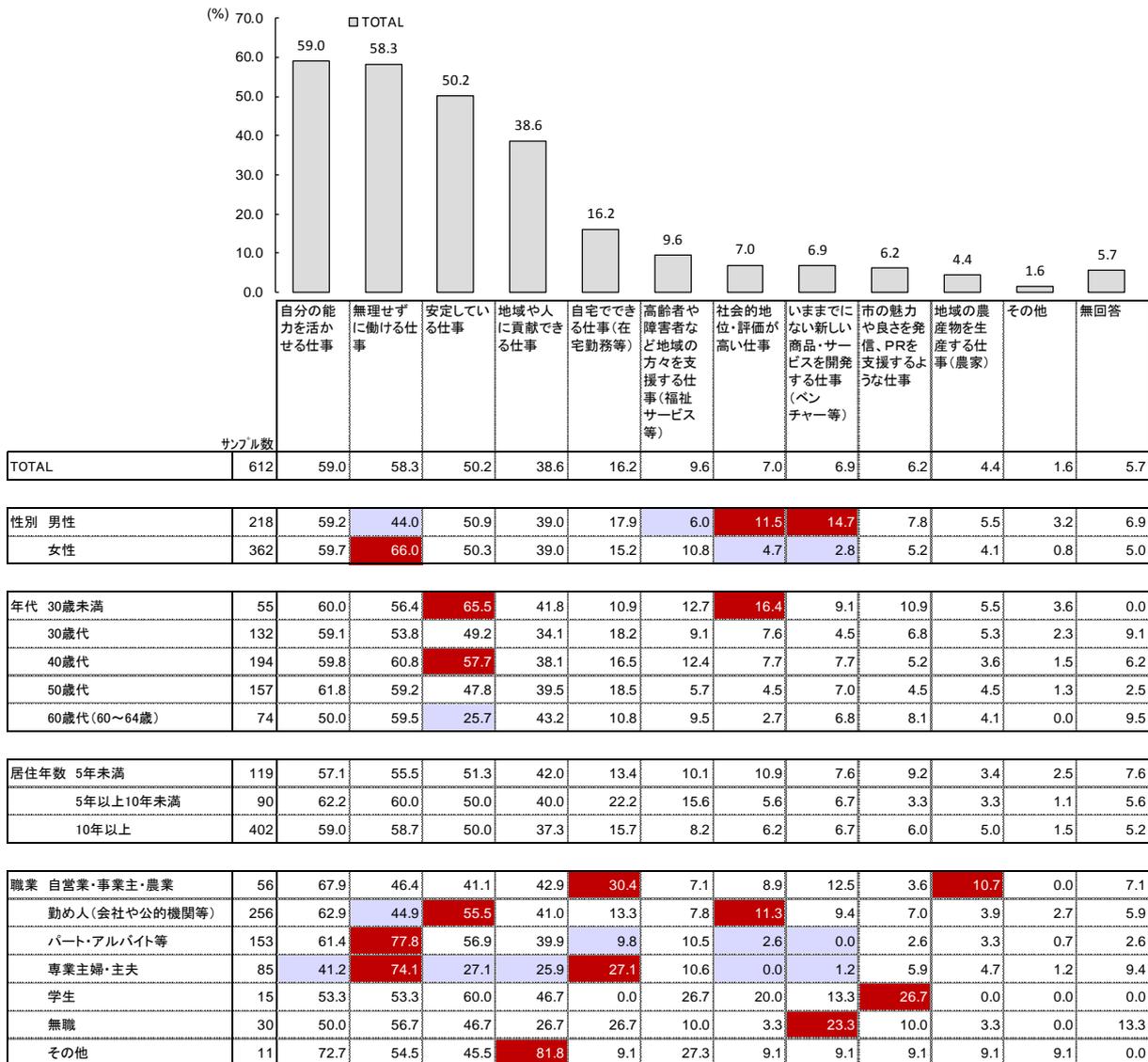
問 35 で「現在市内で働いている」「市内で働きたい」と答えた方で 18～64 歳の方は、612 人となっている。興味のある仕事の内容としては、「自分の能力を活かせる仕事」が 59.0%で最も多く、次いで「無理せずに働ける仕事」が 58.3%、「安定している仕事」が 50.2%となっている。

性別に見ると、『女性』は『男性』と比べて「無理せずに働ける仕事」に興味がある人が多く (66.0%)、『男性』と比べて 22.0 ポイント多くなっている。

年代別に見ると、『30 歳未満』は他の年代と比べて「安定している仕事」(65.5%)、「社会的に地位・評価が高い仕事」(16.4%)に興味がある人が多くなっている。

職業別に見ると、『パート・アルバイト』と『専業主婦・主夫』は「無理せずに働ける仕事」が多くなっている (パート・アルバイト 77.8%、専業主婦・主夫 74.1%)。また、『自営業・事業主・農業』と『専業主婦・主夫』で、「自宅でできる仕事 (在宅勤務等)」に興味を持っている人が多い (自営業・事業主・農業 30.4%、専業主婦・主夫 27.1%)。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



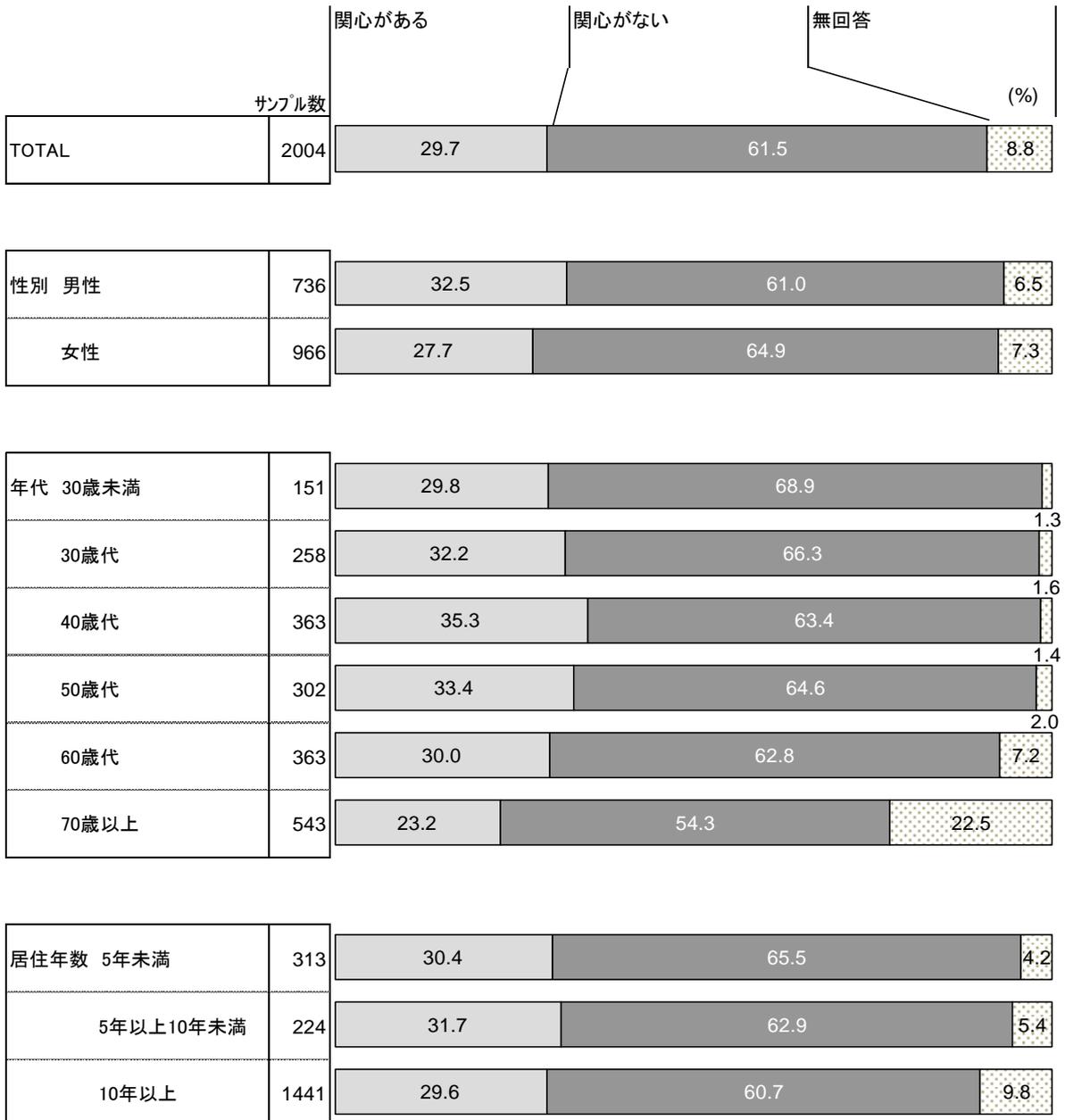
【問 38】 すべての方にお聞きします。あなたは、市内での新しい事業やサービスの創出、起業について、関心がありますか。(〇は1つだけ)

起業への関心では、「関心がある」が29.7%、「関心がない」が61.5%となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて「関心がある」人が多く（男性32.5%、女性27.7%）、その差は4.8ポイントとなっている。

年代別に見ると、他の年代と比べて『40歳代』で「関心がある」人が最も多く、35.3%となっている。

<性別・年代別・居住年数別>



【問 39】 問 38 で「1. 関心がある」とお答えの方にお聞きします。あなたが市内での新しい事業やサービスの創出、起業等を検討しようとする際に、行政からどのような支援があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

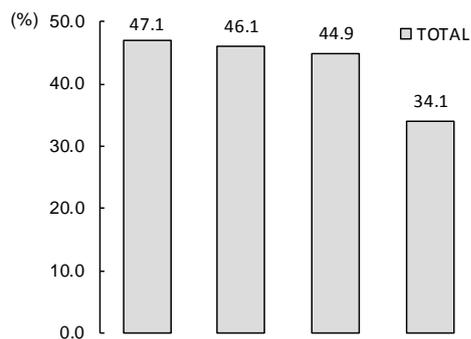
問 38 で「関心がある」と答えた方は、595 人となっている。起業するために必要な支援としては、「地域の課題・ニーズに関する情報提供」が 47.1%で最も多く、次いで「資金調達（融資制度）に関する情報提供」が 46.1%、「補助金に関する情報提供」が 44.9%となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて「資金調達（融資制度）に関する情報提供」（51.5%）が 8.2 ポイント多くなっている。一方、『女性』は『男性』と比べて「ワーキングスペース、シェアスペース、インキュベーションスペース等の提供」（36.6%）が 4.8 ポイント多くなっている。

年代別に見ると、『30 歳代』は他の年代と比べて「資金調達（融資制度）に関する情報提供」（57.8%）、「起業・創業に関する、入門実務セミナーの実施」（50.6%）、「ワーキングスペース、シェアスペース、インキュベーションスペース等の提供」（42.2%）、『40 歳代』は「ワーキングスペース、シェアスペース、インキュベーションスペース等の提供」（43.0%）、『50 歳代』は「補助金に関する情報提供」（59.4%）、「資金調達（融資制度）に関する情報提供」（56.4%）、『60 歳代』は「地域の課題・ニーズに関する情報提供」（60.6%）が多くなっている。

職業別に見ると、『勤め人（会社や公的機関等）』は、他の職業に比べて多くの項目で多くなっており、「資金調達（融資制度）に関する情報提供」（52.5%）、「起業・創業に関する、入門実務セミナーの実施」（44.1%）、「起業・創業に関する相談窓口の紹介」（36.3%）、「創業・起業者と検討者の交流の場の設定」（26.0%）となっている。

<性別・年代別・居住年数別・職業別>



	サンプル数	地域の課題・ニーズに関する情報提供	資金調達(融資制度)に関する情報提供	補助金に関する情報提供	創業・起業に関する、入門・実務セミナーの実施	ワーキングスペース、シェアスペース、インキュベーションスペース等の提供	創業・起業に関する相談窓口の紹介	創業・起業者と検討者の交流の場の設定	その他	わからない	無回答
TOTAL	595	47.1	46.1	44.9	34.1	31.9	30.6	20.8	1.5	8.4	2.0
性別 男性	239	47.7	51.5	46.4	37.2	31.8	31.0	18.4	1.3	3.8	1.3
女性	268	47.4	43.3	47.8	34.0	36.6	30.2	21.6	1.9	9.3	1.9
年代 30歳未満	45	42.2	51.1	40.0	31.1	28.9	26.7	11.1	0.0	11.1	2.2
30歳代	83	44.6	57.8	53.0	50.6	42.2	33.7	22.9	1.2	3.6	0.0
40歳代	128	39.1	49.2	50.0	39.8	43.0	31.3	26.6	2.3	3.9	1.6
50歳代	101	43.6	56.4	59.4	37.6	39.6	36.6	24.8	1.0	5.0	0.0
60歳代	109	60.6	40.4	43.1	27.5	28.4	29.4	16.5	2.8	7.3	0.0
70歳以上	126	49.2	29.4	25.4	20.6	11.1	24.6	16.7	0.8	18.3	7.1
居住年数 5年未満	95	46.3	45.3	41.1	45.3	35.8	33.7	23.2	1.1	6.3	0.0
5年以上10年未満	71	52.1	49.3	49.3	40.8	32.4	35.2	21.1	1.4	2.8	2.8
10年以上	426	46.2	45.5	44.8	30.3	30.8	28.9	20.0	1.6	9.6	2.3
職業 自営業・事業主・農業	82	34.1	56.1	51.2	24.4	26.8	26.8	18.3	0.0	7.3	2.4
勤め人(会社や公的機関等)	204	48.5	52.5	47.5	44.1	37.3	36.3	26.0	1.5	2.9	1.0
パート・アルバイト等	81	44.4	43.2	51.9	38.3	43.2	23.5	17.3	3.7	4.9	0.0
専業主婦・主夫	73	43.8	35.6	46.6	28.8	27.4	23.3	20.5	1.4	17.8	2.7
学生	20	50.0	55.0	40.0	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0	15.0	0.0
無職	113	54.9	34.5	30.1	30.1	18.6	32.7	17.7	0.0	13.3	5.3
その他	13	61.5	46.2	53.8	23.1	38.5	38.5	15.4	7.7	7.7	0.0

【問 40】 すべての方にお聞きします。あなたが思う「西東京市のイメージ」と、あなたが将来的に「暮らしたいまちのイメージ」をそれぞれお答えください。

■ 西東京市のイメージ

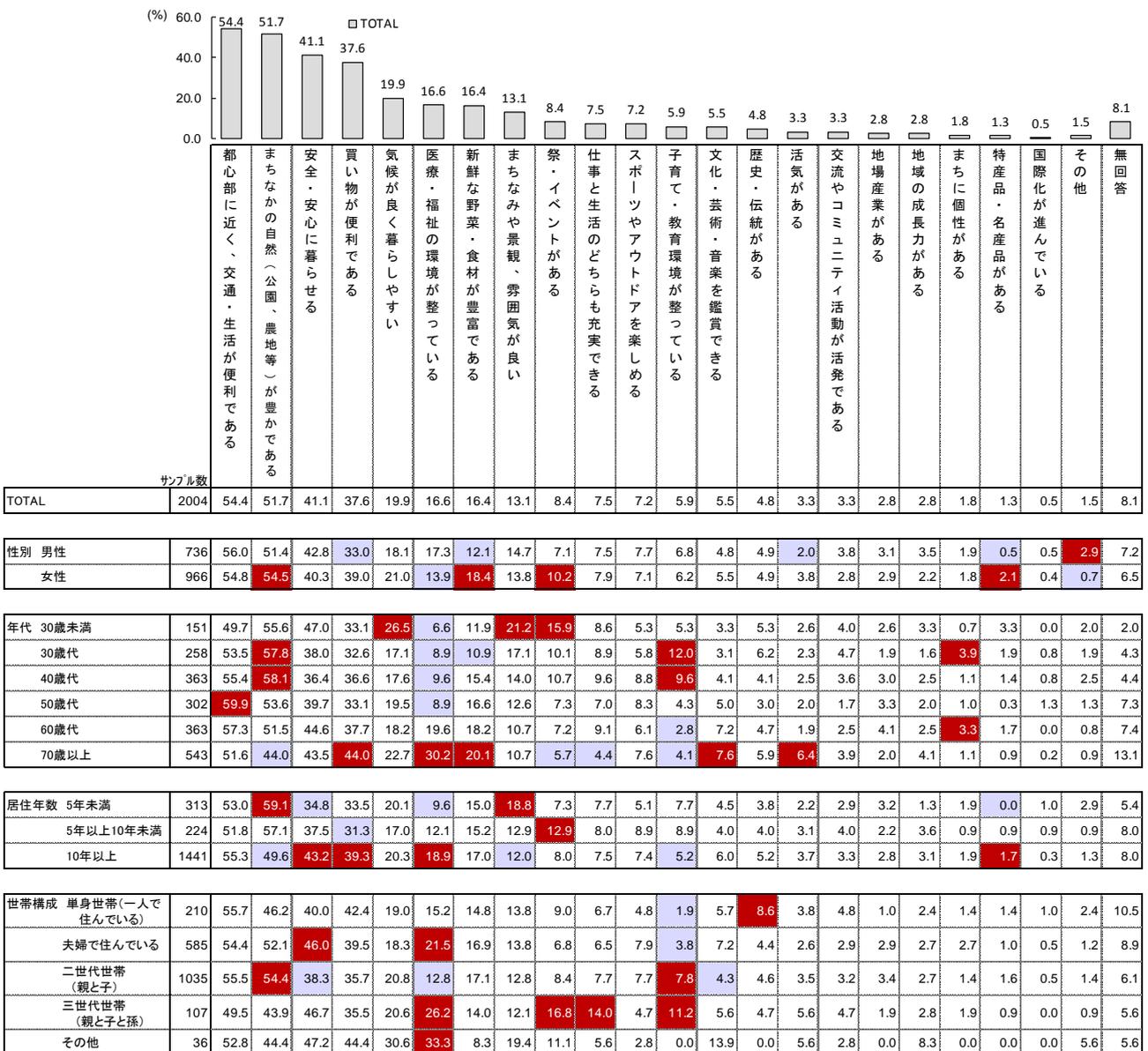
西東京市のイメージでは、「都心部に近く、交通・生活が便利である」が 54.4%で最も多く、次いで「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」が 51.7%となっている。

性別に見ると、『女性』は『男性』と比べて、「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」（54.5%）が 3.1 ポイント、「新鮮な野菜・食材が豊富である」（18.4%）が 6.1 ポイント多くなっている。

年代別に見ると、他の年代と比べて『50 歳代』は「都心部に近く、交通・生活が便利である」（59.9%）、『30 歳代』『40 歳代』は「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」（30 歳代 57.8%、40 歳代 58.1%）や「子育て・教育環境が整っている」（30 歳代 12.0%、40 歳代 9.6%）が多くなっている。

居住年数別に見ると、年数が短い『5 年未満』の人は、年数が長い人に比べて「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」（59.1%）や「まちなみや景観、雰囲気が良い」（18.8%）が多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・世帯構成別>



■ 将来暮らしたいまちのイメージ

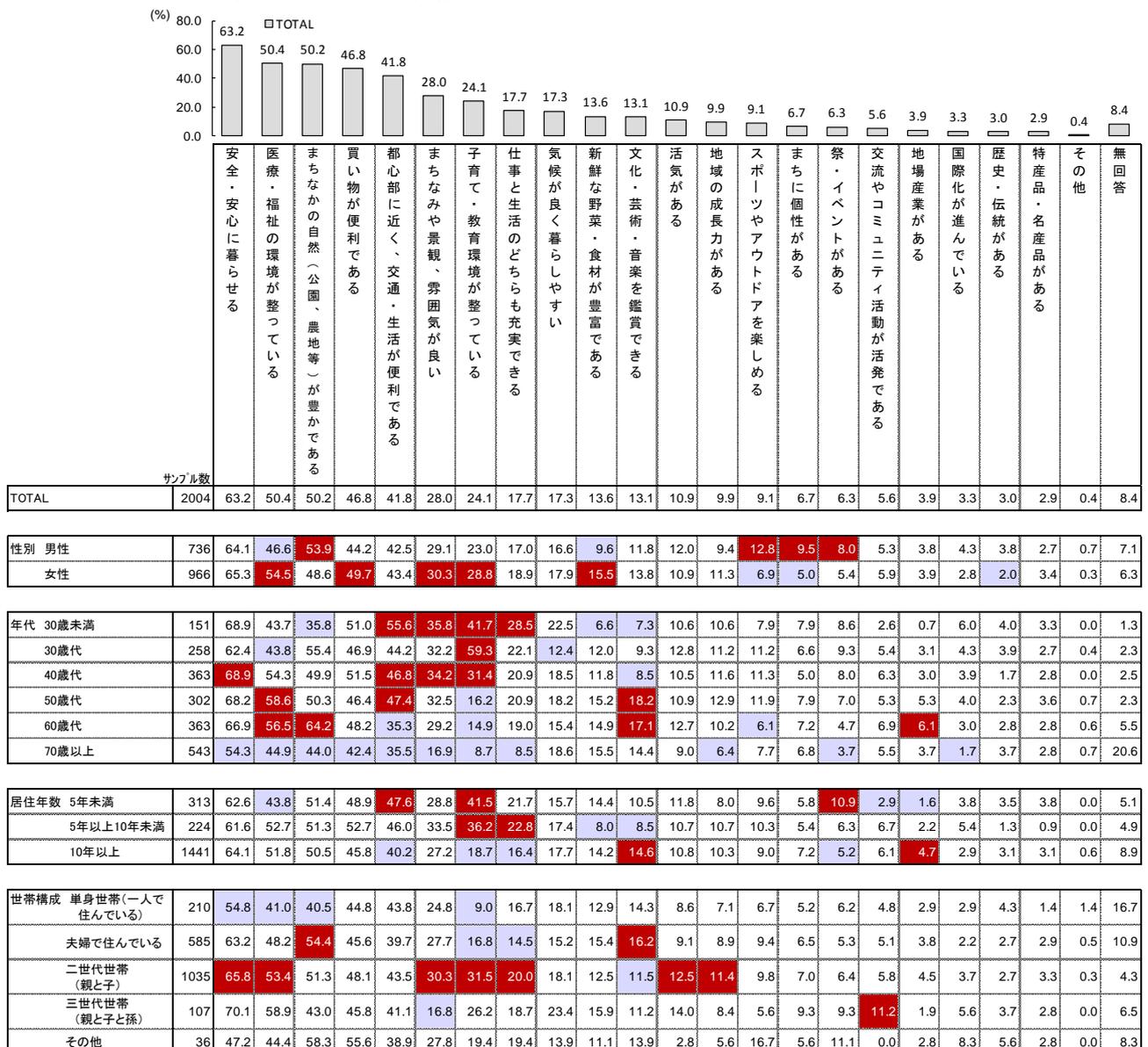
将来暮らしたいまちのイメージでは、「安全・安心に暮らせる」が63.2%で最も多く、次いで「医療・福祉の環境が整っている」が50.4%、「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」が50.2%となっている。

性別に見ると、『男性』は『女性』と比べて「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」（53.9%）が5.3ポイント多くなっている。『女性』は『男性』と比べて「医療・福祉の環境が整っている」（54.5%）が7.9ポイント、「買い物が便利である」（49.7%）が5.5ポイント多くなっている。

年代別に見ると、他の年代と比べて『30歳未満』は「都心部に近く、交通・生活が便利である」（55.6%）、『30歳代』は「子育て・教育環境が整っている」（59.3%）、『40歳代』は「安全・安心に暮らせる」（68.9%）や「都心部に近く、交通・生活が便利である」（46.8%）、『50歳代』は「医療・福祉の環境が整っている」（58.6%）や「都心部に近く、交通・生活が便利である」（47.4%）、『60歳代』は「まちなかの自然（公園、農地等）が豊かである」（64.2%）や「医療・福祉の環境が整っている」（56.5%）が多くなっている。

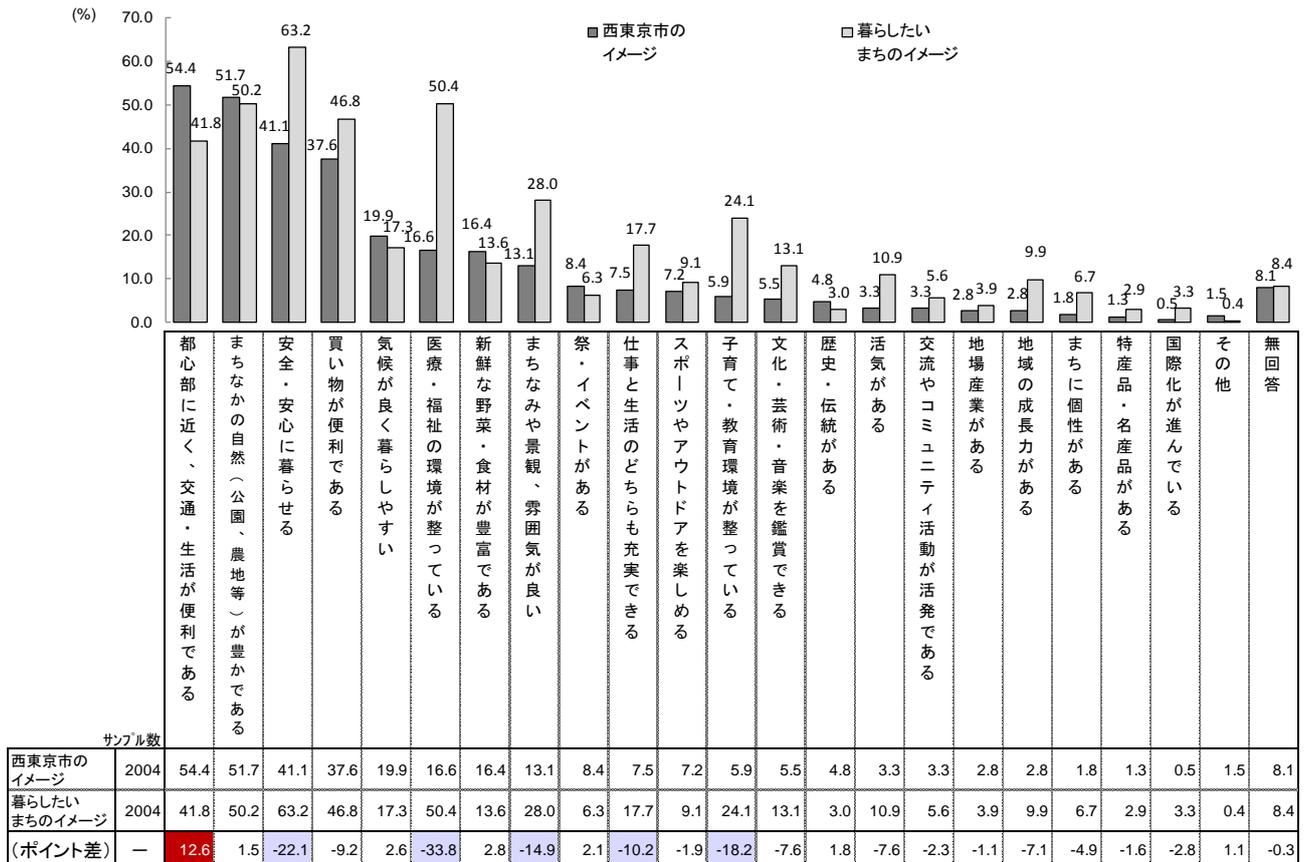
居住年数別に見ると、年数が短い『5年未満』の人は、年数が長い人に比べて「都心部に近く、交通・生活が便利である」（47.6%）が多くなっている。

<性別・年代別・居住年数別・世帯構成別>



■ 西東京市のイメージと将来暮らしたいまちのイメージのギャップ

なお、西東京市のイメージと将来暮らしたいまちのイメージを比較すると、「都心に近く、交通・生活が便利である」は、『将来暮らしたいまちのイメージ』と比べて『西東京市のイメージ』が多くなっており、+12.6ポイントとなっている。一方で、『西東京市のイメージ』と比べて『暮らしたいまちのイメージ』が多くなっている（≒市民の望みとのギャップがある）のは、「医療・福祉の環境が整っている」（-33.8ポイント）、「安全・安心に暮らせる」（-22.1ポイント）、「子育て・教育環境が整っている」（-18.2ポイント）、「まちなみや景観、雰囲気が良い」（-14.9ポイント）、「仕事と生活のどちらも充実できる」（-10.2ポイント）となっている。



※ ■ 西東京市のイメージが+10ポイント以上、■ 西東京市のイメージが-10ポイント以上

【問 41】 18 歳～39 歳の方にお聞きします。あなたが次の状況になったとき、具体的にどこに住みたいと思いますか。(〇は1つずつ)【18～39 歳のみ】

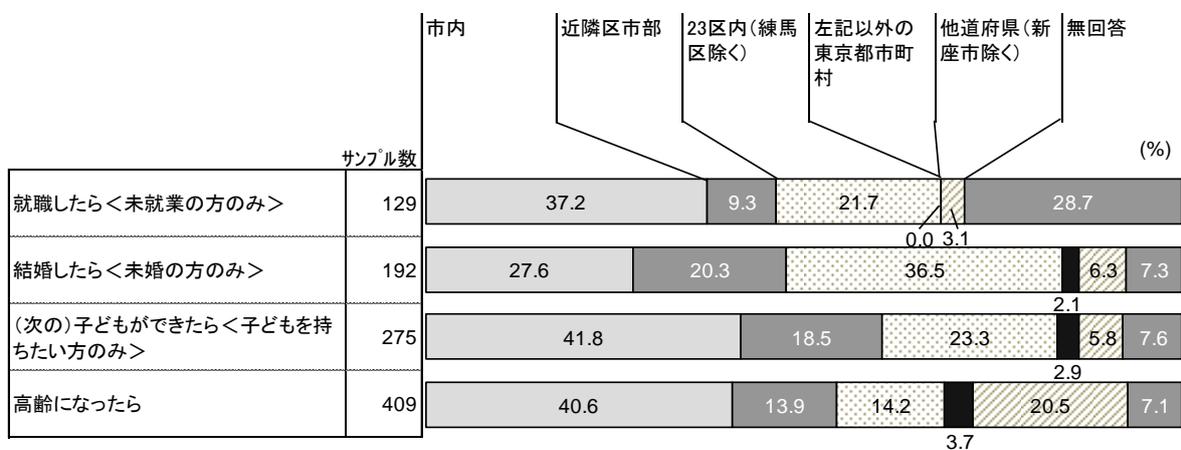
18 歳～39 歳の方 409 人のライフステージ別の住みたいまちを確認している。

未婚の方 129 人が就職したら住みたいまちとしては、「市内」が 37.2%で最も多く、次いで「23 区内（練馬区除く）」が 21.7%となっている。

未婚の方 192 人が結婚したら住みたいまちとしては、「23 区内（練馬区除く）」が 36.5%で最も多く、次いで「市内」が 27.6%となっている。

子どもを持ちたい方 275 人が（次の）子どもができたなら住みたいまちとしては、「市内」が 41.8%で最も多く、次いで「23 区内（練馬区除く）」が 23.3%となっている。

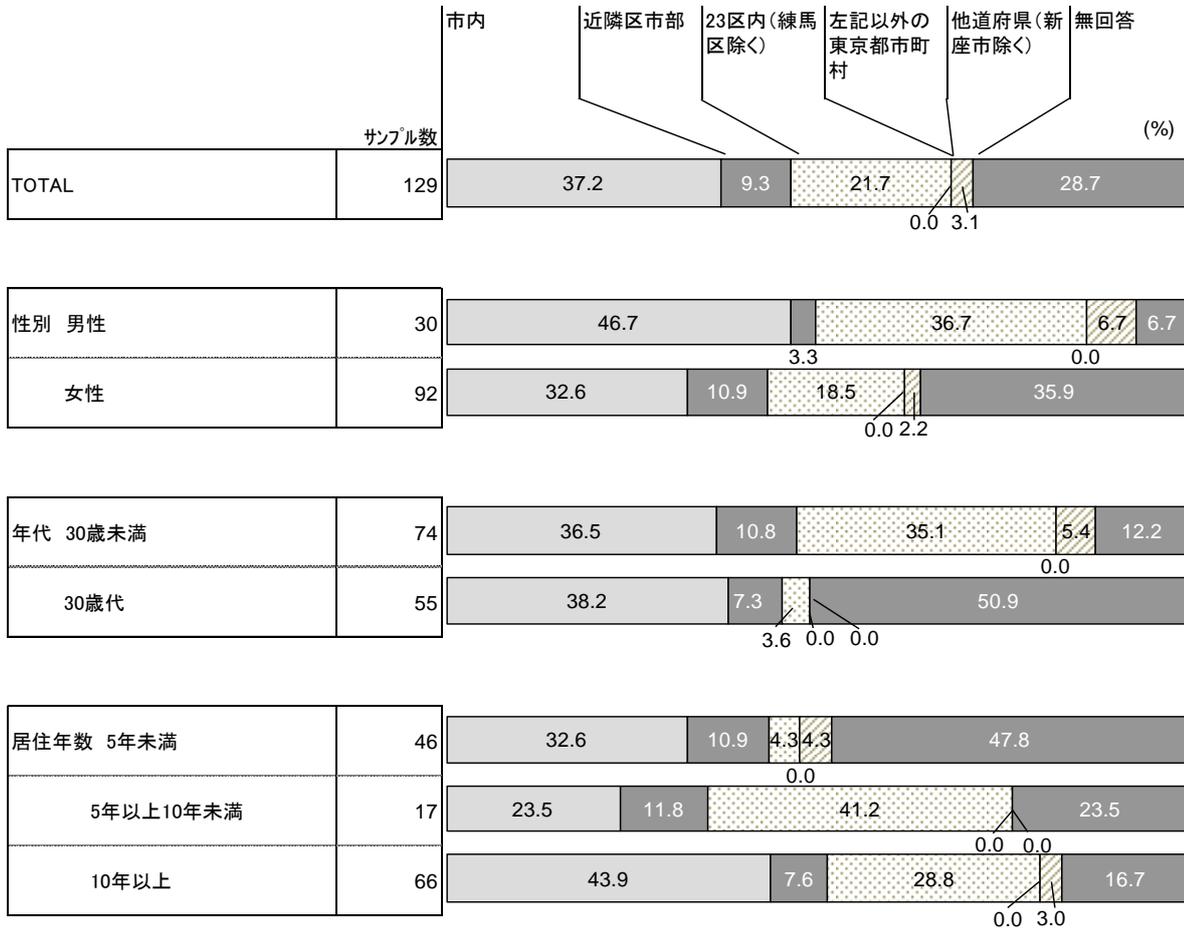
高齢になったら住みたいまちとしては、「市内」が 40.6%で最も多く、次いで「他道府県（新座市除く）」が 20.5%となっている。



■ 就職したら住みたいまち（未就業の方のみ）

年代別に見ると、『30歳未満』は「市内」(36.5%)や「23区内(練馬区除く)」(35.1%)が多く、『30歳代』は、無回答の50.9%を除くと、「市内」が38.2%で最も多く、「23区内(練馬区除く)」(3.6%)は少ない。

<性別・年代別・居住年数別>

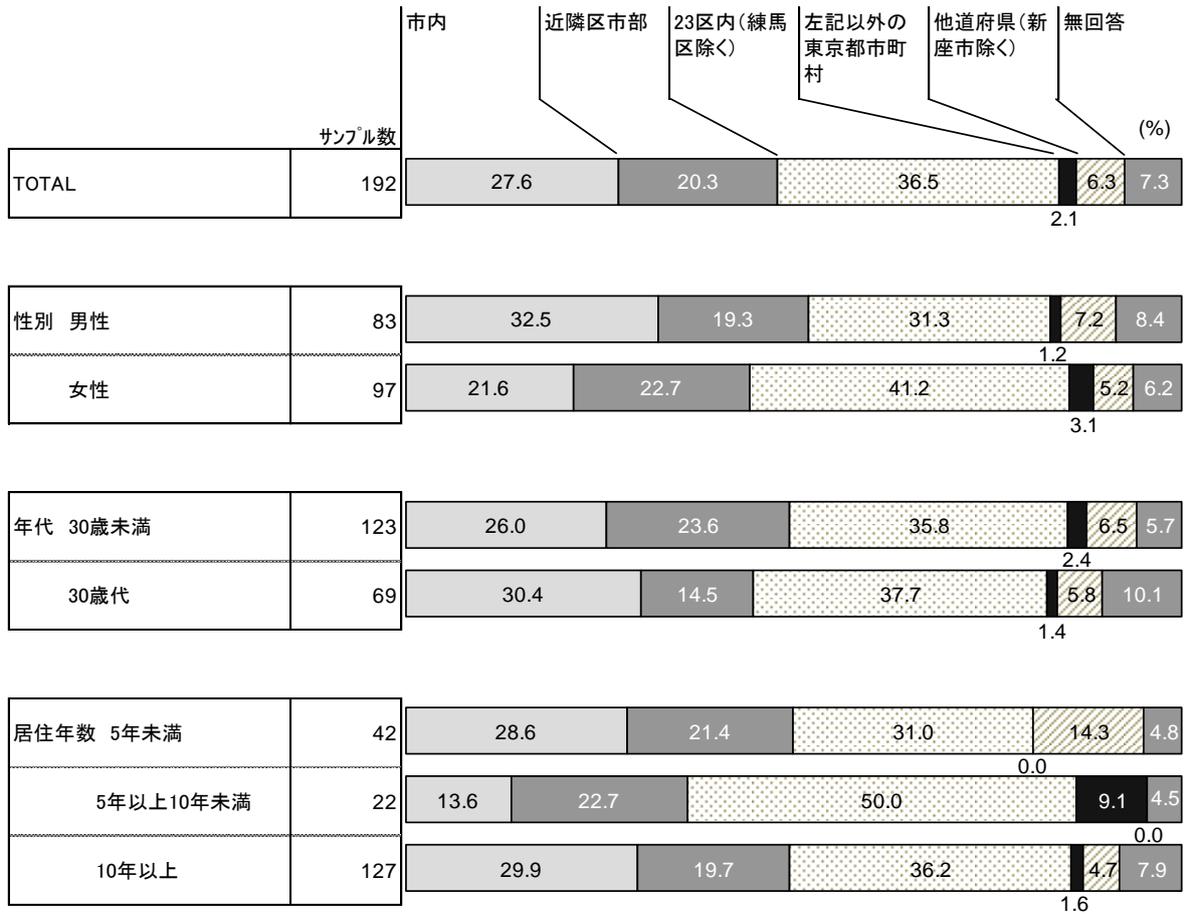


■ 結婚したら住みたいまち（未婚の方のみ）

性別に見ると、『男性』は「市内」が32.5%で最も多く、次いで「23区内（練馬区除く）」が31.3%となっている。『女性』は「23区内（練馬区除く）」が41.2%で最も多く、次いで「近隣区市部」が22.7%、「市内」が21.6%となっている。

年代別に見ると、『30歳未満』『30歳代』ともに「23区外（練馬区除く）」が最も多くなっている（30歳未満35.8%、30歳代37.7%）。次いで「市内」が多く、『30歳代』（30.4%）は『30歳未満』（26.0%）と比べて4.4ポイント多い。

<性別・年代別・居住年数別>

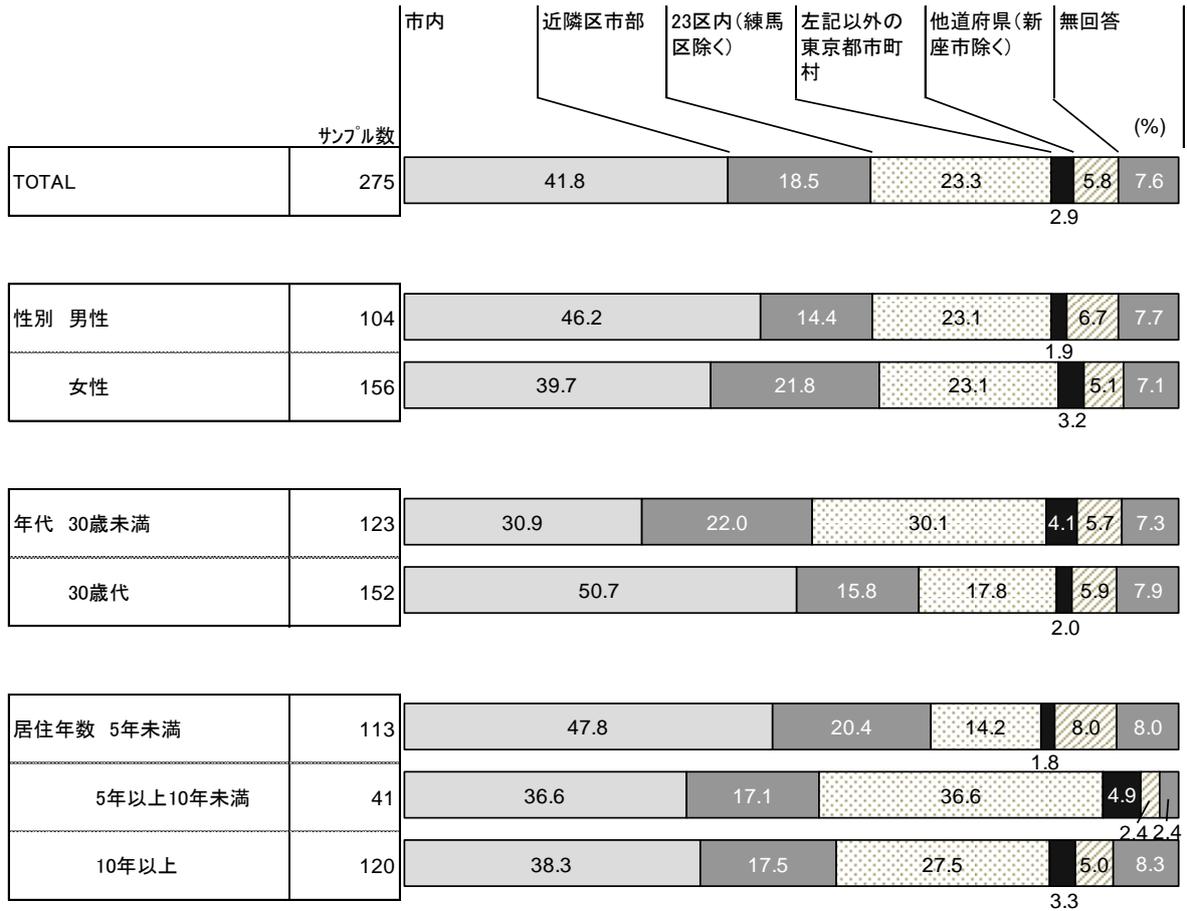


■ (次の) 子どもができれば住みたいまち (子どもを持ちたい方のみ)

性別に見ると、男女ともに「市内」が最も多く(男性 46.2%、女性 39.7%)、次いで「23区内(練馬区除く)」(男性 23.1%、女性 23.1%)となっている。

年代別に見ると、『30歳未満』は「市内」と「23区内(練馬区除く)」が約30%で多くなっている(市内 30.9%、23区内(練馬区除く) 30.1%)。一方、『30歳代』は「市内」が50.7%と約半数で多く、次いで「23区内(練馬区除く)」(17.8%)となっている。

<性別・年代別・居住年数別>



■ 高齢になったら住みたいまち

性別に見ると、男女ともに「市内」が最も多く（男性 39.1%、女性 40.8%）、次いで「他都道府県（新座市除く）」（男性 23.6%、女性 19.3%）となっている。

年代別に見ると、『30歳未満』『30歳代』ともに「市内」が最も多く（30歳未満 35.8%、30歳代 43.4%）、次いで「他都道府県（新座市除く）」（30歳未満 19.2%、30歳代 21.3%）となっている。

<性別・年代別・居住年数別>

